礼拝の書

筆者：
ハサン・ヤヴァシュ

礼拝の書

筆者：
ハサン・ヤヴァシュ

ビスミッラーヒラフマーニラヒーム

人間には 3 つの種類の生があります。現世、墓、来世での生です。現世では肉体は魂と共にあります。人に生命と活力を与えるのは魂です。魂が肉体から離れると、人は死にます。肉体が墓で腐り、土に還っても、あるいは焼かれて灰になったとしても、もしくは猛獣が食べてなくなってしまったとしても、魂はなくなりません。墓場での生が始まります。墓場での生では感覚があり、動きはありません。最後の審判では一つの肉体が創造され、魂と共に天国もしくは地獄で永遠に生きるのです。

人が現世と来世で幸福である為には、ムスリムとなることが必要なのです。現世で幸福であることとは、快適に生きることです。来世で幸福であることとは、天国に行くことです。アッラーはしもべを深く慈しまれ、幸福である為の道を預言者たちを通してしもべに教えられました。なぜなら人は、この幸せの道を自分の理性で見つけることができないからです。どの預言者も、決して自分の考えで何かを語ったりはしませんでした。預言者たちが語った幸福への道をディーン（イスラーム、宗教）と呼びます。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）が示されたものをイスラームと呼びます。預言者アーダム以来、何千人もの預言者が遣わされてきました。最後の預言者が私たちの預言者ムハンマドです。他の預言者たちが伝えた教えは、時の経過と共に損なわれてきました。今では、幸福に至る為にはイスラームを学ぶ以外の手段はないのです。イスラームは心から信じるべき「イーマーン」（信仰）の知識と、肉体によってなされるべき「イスラームの規定」の知識です。信仰と規定に関する知識は、スンナに従う学者たちの書物から学びます。無知な人々、逸脱した人々の誤った書物から学ぶべきではありません。イスラーム暦 1000 年以前には、イスラーム諸国には多くの、スンナに従う学者たちがいました。しかし今ではもはや存在しなくなってしまいました。この学者たちが書いたアラビア語、ペルシア語の本、そしてそれらの翻訳は世界各地に、図書館などに存在します。ハキーカトゥ出版の全ての書籍は、これらの文献をもとにしたものです。幸福に至る為に、ハキーカトゥ出版の本を読んでください。

忠言：宣教師はキリスト教を広めようと努力し、ユダヤ教徒は律法を広めようと、イスタンブールのハキーカトゥ出版はイスラームを広めようと、フリーメーソンは宗教を消失させようと努めます。知性、理性と良心を備えた人は、これらの中の正しいものを認識し、理解します。それを広める為の助けとなり、全ての人々が現世と来世で幸福となる為の要因となるのです。人々の為のこれ以上に尊く、効果的な奉仕はあり得ません。今日、キリスト教徒やユダヤ教徒が手にする「律法」「新約聖書」という名の教えの本は、人間によって書かれたものであることを彼ら自身も語っています。クルアーンは、アッラーによって遣わされたままの状態を維持しています。全ての牧師や司祭たちはハキーカトゥ出版の出版している書物を注意深く、良心を持って読み、理解するべく努力するべきなのです。

印刷：イフラース新聞社
イスタンブール、イェニボスナ、29 エキム通り 23 号
電話：0212－454－3000

ISBN:975-92119-3-9

そう、これこそが永遠の宝庫の鍵である

بسم الله الرحمن الرحيم

序文

礼拝の書の執筆を、バスマラを唱えることによって始めます。アッラーに感謝いたします。アッラーが選ばれ愛されたしもべたち、そしてその中で最も崇高な存在であられるムハンマドに祝福と平安あれ。崇高なる預言者ムハンマドの清らかな家族と公正で誠実なその友たち皆の為に良いドゥアーを。

現世では、良い　こと、価値のあることと悪いこと、有害なことなどが　混ざり合っています。幸福、安楽、そして安らぎに至る為には、常に良い　こと、意義のあることを行うことが必要です。アッラーは非常に慈悲深いお方であられる為に、良い　ことを悪いことから区別する一つの力を創造されました。この力を理性と呼ぶのです。清らかでしっかりした理性はこの役割を立派に果たし、決して誤ることはありません。罪を犯すこと、我欲に従うことは理性と心を病ませます。善を悪から識別できなくなるのです。アッラーは憐れみを以てこのことをご自身で行われ、また預言者たちを仲介　して教えられ、またこれを行うことを命じられています。この命令と禁止を「ディーン」（教え、宗教）と呼びます。預言者ムハンマドが教えられた「ディーン」をイスラームと呼びます。今日、地上には変化していない、損なわれていない教えが一つだけあります。それがイスラームです。幸福になる為にはイスラームに従うこと、つまりムスリムになることが必要です。ムスリムになる為には、形式的なものもイマームも宗務担当者も不要です。まず人は心で信仰し、それからイスラームの命令と禁止事項を学び、実践するのです。

信仰を持つ為には信仰告白を唱え、その意味を知ることが必要です。この言葉の意味を正しく信じる為には、スンナの道に従う学者たちの書いた書物を、そのままの形で信じることが必要です。スンナの道に従う学者たちの書いたもの、真の宗教書に従う

人には 100 回殉教しただけの善行が与えられます。イスラームの 4 つの学派（マズハブ）のいずれかに所属する学者を「スンナの道に従う（アフル・アル＝スンナ）学者」と呼びます。信仰の条件は『　皆が必要とする信仰』　の本で詳しく説かれています。この本を読まれることをお勧めいたします。

今日、全世界のムスリムは 3 つに分類されます。一つめはサハーバたちの道を行く、真のムスリムたちです。彼らは「スンナの民」もしくは「スンニ」もしくは「救われた民」と呼ばれます。2 つめはサハーバたちに敵対する人々です。彼らは「シーア」「逸脱者」と呼ばれます。3 つめはスンニ派にもシーア派にも敵対する人々です。彼らは「ワッハーブ」「ナジュド派　　」と呼ばれます。なぜなら最初、アラビアのナジュド地方で生じたものであるからです。また彼らは「呪われた民」とも呼ばれます。この人々がムスリムを「偽信者」と呼んでいることが『最後の審判と来世』、『永遠の幸福』という私たちの書物にも書かれています。ムスリムを「不信仰者」と呼ぶ人々を、預言者ムハンマドは呪われました。ムスリムをこの 3 つに分類させたのはユダヤ教徒であり、イギリスなのです。

どのグループ　に属していようと、自らの我欲に従い、心が損なわれている人は地獄へ行きます。ムスリムは皆、我欲を清めるため、すなわち自我に本質的に存在する不信仰や罪を清める為に、いつでも「ラーイラーハイッラッラー」と唱え、そして心を清める為、すなわち我欲やシャイターン、悪い友人、そして有害な誤った書物からもたらされる憎悪や罪から救われる為に、「アスタグフィルッラー」と唱える必要があります。イスラームに従う人のドゥアーは必ず受け入れられます。礼拝を行わない人、身を覆っていない女性や秘められるべき部分を見る人、ハラームであるものを飲み食いする人はイスラームに従っていないことが理解されます。このような人々のドゥアーは受け入れられません。

信仰を持った後、最も重要な命令は礼拝です。日に 5 回の礼拝を行うことは、全てのムスリムにとってファルド・アイン（イスラム教徒すべての個人的義務）です。礼拝を行わないことは大きな罪です。ハンバリー派においては不信仰とされます。『　　ガーヤトゥッタフキーク　　』という書物を参考にしてください。

礼拝を完全に、正しく行う為には、まず礼拝についての知識を学ぶことが必要です。この本では、イスラームで教えられている礼拝についての知識を、簡潔に説くことが効果的であると考えました。多くのイスラーム学者たちの書物を活用して、私たちの用意したこの礼拝に関する知識を全てのムスリムが学び、また子供たちにも教えるべきなのです。

礼拝を正しく行う為には、礼拝で唱えられるクルアーンの言葉やドゥアーを暗記する必要があります。少なくとも、礼拝ができるだけの章句やドゥアーを、それらの詠み方を熟知し、完全に発音できる先生や友人から学ぶべきです。

クルアーンを正しく読む為には、クルアーン教室に通う必要があります。クルアーンを正しく読むことを学び、子供たちにも教えるべきです。

クルアーンは、ローマ字で記すことは不可能です。だから原文を読むべきなのです。これを読むことはとても容易です。預言者ムハンマドはあるハディースで「子供たちにクルアーンを教え、もしくはクルアーンを教える師のもとに送る人に、教えられたクルアーンの一文字一文字ごとに、10回カーバを訪問しただけの報償が与えられる。審判の日には国家の長という王冠が与えられる。全ての人々がそれを見てうらやむ」と語られています。

アッラーが私たち皆を、正しく信仰を持った後で礼拝を正しく学び、行い、善行を行うしもべとして下さいますように。

西暦2001年　ヒジュラ歴（太陽暦）1380年　ヒジュラ歴（太陰暦）1422年

礼拝は偉大な神命である

預言者アーダム以来、　啓示が下されるたび、一回の礼拝が課されていった。。それぞれが行っていた礼拝をまとめたものが、預言者ムハンマドを信じる人々に義務とされました。礼拝を行うことは、信仰の条件ではありません。しかし礼拝が義務であることを信じることは、信仰の条件です。

礼拝はイスラームの柱です。礼拝を継続的に、正しく、完全に行う人は、教えを確立させ、イスラームという建物を維持することになります。礼拝を行わない人は、教えと、イスラームの建物を崩したことになります。預言者ムハンマドは、「イスラームの頭は、礼拝である」と言われました。頭のない人はいないように、礼拝のないイスラームもあり得ないのです。

礼拝はイスラームの教えにおいて、信仰に次いで最初にファルド（義務）とされた命令です。アッラーはしもべたちが、ただご自身に崇拝行為を行うようにと礼拝を義務にされました。クルアーンでは 100 か所以上で「礼拝を行いなさい」と命じられています。ハディースでも、「アッラーは毎日 5 回の礼拝を行うことを義務とされた。それを大事にし、条件に従い、毎日 5 回の礼拝を行う人を天国に入れられることをアッラーは約束されている」とされています。

礼拝は、イスラームにおいて実行が命じられている全てのイバーダのうち、最も尊いものです。あるハディースでは「礼拝を行わない者は、イスラームから得るものがない」とされています。また別のハディースでは「信者と不信仰者を区別するものは礼拝である」とされています。つまりムスリムは礼拝を行い、不信仰者は行わないのです。偽信者は時には行い、時には行いません。偽信者は地獄で痛ましい罰をうけます。預言者ムハンマドは「礼拝を行わない者は、最後の審判の日、アッラーを立腹された状態で見るだろう」といわれています。

礼拝を行うことは、アッラーの偉大さを考え、その前で自らの小ささを理解することです。これを理解した人は常に良い　ことを行い、悪いことを行いません。毎日 5 回、アッラーの御前にいることを意識する人の心は純粋な信仰で満たされます。礼拝で行

うことが命じられている全ての動きは、心と体に効果のあるものです。

モスクで集団礼拝を行うことは、ムスリムの心を互いに結びつけます。彼らの間に愛情をもたらします。互いが兄弟であることを理解します。年長者は年少者に慈悲を持ってふるまいます。豊かな人は貧しい人を、強い人は弱い人を助けます。健康な人々は病気の人がモスクにいないことに気が付くと家を訪問します。「イスラームの兄弟たちの援助に駆けつける人を、アッラーが助けられる」というハディースにおける吉報の対象となるべく競い合うのです。

礼拝は人を、悪事、醜い行い、あるいは禁じられた行いから遠ざけます。罪への償いとなるのです　。ハディースでは「日に5回の礼拝は、あなた方の誰かの家の前を流れる川のようである。誰かが日に 5 回この川に入って体を洗えば、その体には汚れが残らないように、日に5回の礼拝を行う人は小さな罪を許される」

礼拝はアッラーと預言者への信仰に次いで、全ての行い、イバーダよりもさらに尊いイバーダです。その為、礼拝はそのファルド、ワージブ（義務）、スンナ、ムスタハッブ（推奨行為）を尊重しつつ行わなければなりません。預言者ムハンマドはあるハディースで次のように仰せられました。「わがウンマ、わが友たちよ。その実践において完全に尊重がなされている礼拝は、アッラーが好まれる全ての善行の中でも最も崇高なものである。預言者たちのスンナである。天使たちの愛するものである。マアリファ（アッラーに関する智）と、地と天の光である。肉体の力である。糧の恵みである。ドゥアーが受け入れられる媒介である。死の天使へのとりなしである。墓での光であり、ムンカルとナキールへの答えである。審判の日に人を覆う影となる。地獄の炎と日との間の遮断壁である。スラート橋を稲妻のように通り抜けさせる。天国の鍵である。天国で王冠となる。アッラーは信者に、礼拝よりも重要なものは与えられなかった。もし礼拝よりも崇高なイバーダがあったならば、まずそれを信者に与えられただろう。なぜなら天使たちの一部は常にキヤーム（直立）を、一部はルクウ（立礼）を、一部はサジダ（跪拝）を、一部はタシャッフドを行っている。これらの全てを 1 ラカートの礼拝にまとめ、信者に

贈られたのである。なぜなら礼拝は信仰の頭であり、教えの柱であり、イスラームの言葉であり、信者にとってのミウラージュだからである。天の光であり、地獄から救うものである」
　ある時、アリーがアスルの礼拝を過ごしてしまったことがありました。彼はその悲しみにより、自らを丘から下へと叩きつけ、声をあげて泣いていました。預言者ムハンマドは彼のこの状態を知り、アリーのそばに来られました。彼のその状態をご覧になって諸世界の王である預言者ムハンマドも泣きはじめられました。そしてドゥアーを行われました。太陽が再び上がり、預言者ムハンマドは「アリーよ、頭を上げなさい。まだ太陽がある」　と言われました。アリーはとても喜び、礼拝を行ったのでした。
　アブー・バクルはある晩、多くのイバーダを行った為に夜遅くに寝入ってしまい、ウィトルの礼拝ができませんでした。朝の礼拝に預言者ムハンマドの後を追い、モスクの入り口で預言者ムハンマドに会い、泣いて訴えました。「アッラーの使徒よ！私を助けてください、ウィトルの礼拝ができませんでした」と泣き、懇願しました。預言者ムハンマドも泣き始められました。そこに天使ジブラーイールが現れ、「アッラーの使徒よ、スッドゥーク（誠実な者）に伝えなさい。アッラーは彼を許された」と告げました。
　アッラーの友（ワリー）であるお方バヤジード・ビスターミ師はある晩、深い眠りに襲われ、朝の礼拝に起きることができませんでした。彼が余りにも泣き、嘆いた為、次のような声を聴いたのでした。「バヤジードよ、私はこの過ちを許した。あなたが泣いたことへの恵みとして、あなたにさらに 7 万の礼拝のサワーブ（功徳）を与えた。」数か月後、また深い眠りに襲われた時、シャイターンが来てその神聖な足をつかんで彼を起こしました。「起きなさい、礼拝の時間が過ぎてしまう。」バヤジード・ビスターミ師は「シャイターンよ、おまえがこのようなことをするとは。おまえは皆が礼拝を逃し、時間が過ぎてしまうことを望む。なぜ私を起こしたのだ？」シャイターンは答えて言いました。「朝の礼拝を逃した時、あなたは泣いて 7 万の礼拝のサワーブを得た。今日はそれを考えてあなたを起こしたのだ。1 回分の礼拝のサワーブしか得られないように。7 万回の礼拝のサワーブを得ないようにと。」

偉大なるワリーであるジュナイド・バグダディ師は言われています。「現世での 1 時間は、審判の日の千年間よりもより尊い。なぜならこの 1 時間で誠実な、受け入れられる善行を実施することができるし、もう一方の千年間では何も行うことができないためである。」預言者ムハンマドは言われました。「礼拝を、わざと次の礼拝と一緒にするのであれば、地獄で 80 フクバ焼かれるだろう。」1 フクバは来世における 80 年であり、来世における 1 日は現世における千年に当たります。

だから、イスラームの兄弟たちよ！あなたの時間を、無駄な、無益なものに費やしてはいけないのです。あなたの時間の価値を知ってください。あなたの時間を良い　ことの為に使ってください。預言者ムハンマドは「災いのうち最たるものは、時間を無益なものに費やすことである」と言われました。礼拝を時間通りに行ってください。審判の日に後悔せず、また大きな善行を得ることができるでしょう。ハディースでは次のよう言われています。「礼拝を既定の時間に行わず、カダーに残し、それを実践することなく亡くなった人の墓では、地獄の 70 の窓が開かれ、審判の日まで罰を受ける。」

礼拝を、規定の時間にあえて行わない人、すなわち礼拝の時間が過ぎてしまうことを悲しむこともない人は教えから逸脱し、もしくは信仰を持たない人として死ぬのです。礼拝を思い起こしもしない人、礼拝を行うべきと認めていない人はどうなるでしょうか。礼拝を大切にせず、自分がやるべきこととも思っていない人は「ムルタド」すなわち棄教者となる、ということを、4 つの学派の全ての学者が意見を一致させて教えています。礼拝をわざと行わず、それを後でカダーとして行うことすら考えない人も「ムルタド」すなわち棄教者になることが、アブドゥルガーニ・ナブルシー師の『　ハディカートゥン・ナディヤ』　という書物の「舌の災い」という部分でも書かれています。

イマーム・ラッバーニ師の『　書簡集』　という本の第 1 巻、275 番目の書簡では次のように書かれています。

- あなた方がこの恵みを得たことは、イスラームの知識を教えたこと、そしてイスラーム法の規定を伝えたことによる。その地では無知が根付き、迷信が広められていた。アッラーは愛される

お方の愛情をあなた方に与えられた。だからイスラームの知識を教え、法の規定を伝える為にできる限りのことをしてほしい。この 2 つは全ての幸福の始まりであり、上昇への媒介であり、救いの要因である。十分に努力してほしい。宗教者として尽力してほしい。その地において命じられたことを伝え、禁じられたことを避けさせ、正しい道を示してほしい。衣を纏う者章第 19 節では「本当にこれは訓戒である。それで望む者に、主への道を取らせなさい」と命じられている。

来なさい、礼拝を行おう、心の汚れを拭き去ろう
アッラーに近づくことはできない　礼拝をしない限りは
どこで礼拝を行おうと、罪は全て零れ落ちる
人は完全となることはできない　礼拝をしない限りは
クルアーンでアッラーは礼拝を賞賛された
礼拝しない限り、その者を愛さないと仰せられた
ハディースでは言われている
信仰のしるしは、人において明らかにはならない
彼が礼拝をしない限りは
礼拝を一つ損なうことは大きな罪である
悔悟しても許されない
カダーの礼拝をしない限りは
礼拝を軽視する者は
信仰から去ることになる
彼はムスリムとはなり得ない
礼拝をしない限りは
礼拝は心を清め、悪を遠ざける
清められることはない
礼拝をしない限りは

第１部
信仰と礼拝

まず礼拝をすべきである

アッラーは、人がこの世界で快適に安らいで生きることができること、来世でも無限の国に至ることができることを願っておられます。そのために、　幸福の要因となる　有益なことを行うように命じられました。災いの要因となる有害なことは禁じられました。アッラーの第一の命令は、信仰することです。信仰することは全ての人に必要なことです。皆にとって信仰は必須なのです。

信仰（イーマーン）は辞書においては誰かが完全に正しいことを語ると認識すること、その人を信仰することを意味します。預言者ムハンマドがアッラーの預言者であること、アッラーによって選ばれた使者であることを事実と見なし、信じてそれを口に出すこと、アッラーがシンプルな形で教えられていることはシンプルな形で、包括的な形で教えられていることは包括的な形で信じること、できるのであれば信仰告白を口に出して唱えることです。強い信仰とは、火が焼くこと、ヘビが噛んで毒をもたらし人を死なせることがあることを経験として信じ、それらから逃れるように、心から完全にアッラーとその特性を偉大であると認識し、神のご満悦や美を求めて努力すること、その罰や威厳から逃れること、そしてその信仰を大理石に書かれた文字のようにしっかりした形で心に定着させることです。

信仰とは、預言者ムハンマドが語られた全てのことに喜び、心で受け入れる、すなわち信じることです。このように信じる人を信者（ムーミン)、そしてムスリムと呼びます。全てのムスリムは預言者ムハンマドに従い、彼が示された道を進むことが必要です。そのお方に従う為に、まず信仰し、それからイスラームを十分に学ぶこと、そしてファルドであることを実行し、禁じられたものを避け、その後スンナを実行し、マクルーフであるものを避けることが必要なのです。その後にムバーフ（許容行為）であることについてもそのお方に従うよう努力するべきなのです。

イスラームの基本は信仰です。信仰を持たない人のイバーダや

善行を決してアッラーは好まれず、受け入れられることもありません。ムスリムとなることを望む人はまず信仰し、それからグスル（大浄・沐浴)、ウドゥー（小浄)、礼拝、そして必要となるその他のファルドや禁じられた事柄を学ぶべきなのです。

信仰は　正しくあるべきである

感覚器官や知性が把握した知識は、信仰に至る為の助けとなります。科学の知識は、世界における均衡や秩序が偶然の産物ではないこと、創造主がいることを理解し、知り、信仰に至ることへの要因となります。信仰とは、最後の預言者である預言者ムハンマドがもたらされた知識を学び、信じるということです。信じるべき事柄について、「もし納得できるなら信じよう」と言うことは、預言者たちを信じていないことを意味します。イスラームの知識は、理性を持つ人々が見出したものではないのです。預言者ムハンマドが教えられた事柄を、スンナの道に従う学者たちから学び、そのまま信じるべきなのです。正しく、認められる信仰を持つ為には、以下の条件にも従うことが必要です。
信仰は継続的で定着したものであるべきです。一瞬であれそこから離れることを考えてはいけないのです。3 年後にはムスリムをやめる、などと言う人はその瞬間に信仰を失い、イスラームから去ることになります。

信者の信仰は、恐れと希望の間にあるべきです。アッラーの罰を恐れ、しかしその慈悲に一瞬たりとも絶望してはいけないのです。罪を行うことを避け、罪によって信仰が失われることを恐れなければなりません。そして全ての罪を犯したとしても、アッラーのお許しに対し希望を失ってはいけないのです。罪について悔悟を行うべきです。なぜなら悔悟を行った人は、罪を犯さなかったかのようになるからです。

命が尽きる瞬間に至る前に信仰を持つことが必要です。死が迫った時には、来世のあり方が示されます。その時には、全ての不信仰者は信仰を持つことを望むでしょう。しかし信仰は、目に見えないものに対して行う　べきなのです。目で見ることなく信じなければいけないのです。目で見てしまえ　ば信仰したことには

ならないのです。しかしこの瞬間にも、信者の悔悟は受け入れられます。
　太陽が西から登る前に信仰しなければいけません。世界の終わりの大きなしるしの一つが、太陽が西から昇　ることです。それを見た　皆が　信仰を持つでしょう。しかしその信仰は認められません。もはや悔悟の扉は閉じられているのです。
　アッラー以外の何ものも、幽玄界の事象、秘められた事象を知らないということを信じるべきです。つまり、幽玄界はただアッラーがご存じであり、そしてアッラーが教えられたもののみがそれを知るのです。天使、ジン、シャイターン、さらには預言者たちもそれを知ることはありません。しかし預言者たちや誠実なしもべたちには、幽玄界から知識が与えられることがあります。
　イスラームの　信仰やイバーダについての規定は　、強制されない限り　意図的に否定してはいけません。イスラームの規定（　すなわちイスラームの命じていること）や禁止事項　の一つでも　軽視すること、クルアーンや天使、預言者たちのうちいずれか一つでも侮辱すること、そしてこれらやその伝えた事柄について、強制がない限り、言葉で否定を行うことは　信仰を持たないこととなります。アッラーの存在、天使たち、グスルや礼拝が義務であることを、殺害すると脅されているようなやむを得ない状態で否定すると口にした人は、不信仰者とはなりません。
　イスラームが明白に教えている必須事項について、疑いや不安を抱いてはいけません。礼拝　が義務であること、ワインやその他のアルコール飲料を口にすることや、賭博　、利子やわいろがハラーム（禁じられたもの）であることについて疑いを抱くことは、信仰からの逸脱の要因となります。　あるいはハラールであるものをハラームと述べ立てること、ハラームであるものをハラールであると訴えることについても同様です。
　信仰は、イスラームが教えている形であるべきです。自分の理性で把握できた形で、あるいは哲学者や科学者たちが教える形で信じることは、信仰とはなりません。預言者ムハンマドが教えられた形で信仰することが必要なのです。
信仰する人は、ただアッラーの為に愛し、ただアッラーの為に敵対するべきです。アッラーの友であるムスリムたちを愛し、イス

ラームに対し手やペンによって敵対する人々は愛してはいけないのです。この敵意は心に存在するものです。(ムスリムではない人々、ムスリムではないトルコ人、そして観光客などにも、笑顔と優しい言葉で接するべきです。良い　徳によって私たちの教えを彼らに愛してもらうのです。)

預言者ムハンマドとその教友たちが示した正しい道から離れることのない真のムスリムたちが信じたように、信仰を持つべきです。正しく信じる為には、スンナの道を行く人々の信仰にふさわしい形で信仰するべきなのです。スンナの道を行く学者たちの書いた真の宗教書に従う人々には、100回分の殉教に値する　善行が与えられます。4つの学派のいずれかに属する学者を、「スンナに従う学者」と呼びます。スンナに従う学者たちの長は、イマーム・アーザム・アブー・ハニーファです。この学者たちは、教友たちから学んだことを記しているのです。教友たちも学者たちに、預言者ムハンマドから聞いたことを伝えたのでした。

スンナに従った信条

ムスリムであることの最初の条件は、信仰することです。正しい信仰は、スンナに従った信条に基づいて信じることで可能となります。知性を持ち、思春期を終えた　男女の最初の義務は、スンナに従う学者たちが　書物に　書いている信仰についての知識を学び、それらに従った形で信仰することです。最後の審判の日に地獄での罰から逃れることは、彼らが教えた事を信じることで可能となるのです。地獄から救われる人々は、ただ、彼らの道を進む人々なのです。彼らの道を行く人々を「スンニ」もしくは「スンナ派」と呼びます。『　イスラームの徳』　という書物の553ページ、第46の書簡を参考にしてください。

あるハディースでは「私のウンマは 73 の派に分かれる。このうち一つの派のみが地獄の罰から救われる。他のものは滅び、地獄に行くことになる」といわれています。この 73 の派のそれぞれが、イスラームに従っていることを主張しており、地獄から救われるとされている派が自分たちであることを訴えています。信

者たち（アル＝ムウミヌーン）章第 54 節及びビザンチン（アッ＝ローム）章第 32 節では「それなのにかれらは諸宗派に分裂した。しかも各派は自分たちが素晴らしいと言っている」「それは宗教を分裂させて、分派を作り、それぞれ自分の持っているものに喜び、満足している者」とされています。しかしこの様々な派の中で救われるであろう唯一のもののしるしとして、預言者ムハンマドは次のように告げられています。「この派に属する者とは、私やわが教友たちの道を行く人々である。」教友のうち誰か一人でも愛さないのであれば、スンナの道を行く人であることから逸脱するのです。スンナに従う人々の信条を持たない人は、不信仰者もしくは逸脱者となります。

スンナに則した信条を持つことの証

アッラーは、スンナに従う　形で信仰を持つ　ムスリムたちに満足　されます。　多くの条件を満たすことで初めてスンナに従った信仰をしていると言えます。　スンナに従う学者たちはこの条件　を次のように説明しています。

信仰の 6 つの条件、すなわちアッラーへの信仰とその唯一性（　それに類する存在がないこと）を信じること、天使、啓典、預言者たち、来世での生、定命（良い　ことも悪いこともアッラーによって創造されたものであること）を信仰することです。これらは「アーマントゥ」で示されています。

アッラーの最後の啓典であるクルアーンが、アッラーの言葉であることを信じることです。

信者は、自分の信仰について疑いを抱いてはいけません。

預言者ムハンマドを信じ、生前にそのお方を目にする誉れを与えられた教友たちの全てを深く愛するべきです。4 代のカリフ、そして預言者ムハンマドの家族、妻たちのうち、誰についても否定的なことを口にするべきではありません。

イバーダを、信仰の一部と見なすべきです。アッラーのご命令と禁じられた事柄を信じつつ、それを面倒がって行わないのであれば不信仰者となると認識するべきです。ハラームに重きを置かず、軽視する人、イスラームをからかう人の信仰は消え去っていくでしょう。

礼拝をし、アッラーと預言者ムハンマドを信じているという一方で、誤った信仰を持つ人を否定したり、彼らが不信仰者であると主張したりしてはいけません。
罪を犯したことが明らかに分　かっている人以外、どの信者の背後でも礼拝を行うべきです。この法規は、金曜礼拝、イード（大祭）の礼拝を先導する統治者や首長についても同様です。
ムスリムは、自分たちの統治者、支配者に反抗するべきではありません。反抗することは騒乱をもたらすこととなり、様々な災いの要因となります。彼らが善行を施すようドゥアーし、罪である事柄を放棄するよう穏やかな言葉で忠告するべきです。
ウドゥーを行う際、足を洗う代わりに、特に何の支障や必要性がなかったとしても、濡れた手で一度革製の靴下の上から湿らせることが、男性にも女性にも許されています。裸足、もしくは靴下をはいた足にはこれは適用されません。
預言者ムハンマドのミーラージュ（昇天）が、魂と肉体と共に行われたことであることを信じなければいけません。「ミーラージュは夢の中で起こったことである」という人は、スンナの道から離れたことになります。

信者たちは、天国でアッラーにまみえます。最後の審判の日、預言者たちと誠実なしもべたち、善人たち　によってとりなしが　行われ　ます。それから墓での尋問があり、そこ　での罰は　魂と肉体の双方に対して与えられます。アウリヤー（聖人、アッラーの友）たちの奇蹟は真実です。奇蹟とは、アッラーが愛されるしもべにおいて顕れる奇蹟的な状態であり、アッラーの規定の範疇外、すなわち物理や科学、生物の法則に反する形で与えられるものです。これらは実に数多く存在し、とても全てを否定することは不可能です。　墓にいる魂は、生者　が行っていること、話していることを聞いています。クルアーンを読むこと、サダカを支払うこと、さらには全てのイバーダの善行を死者の魂に贈ることは彼らにとって効果があり、罰が軽減される　、もしくは取り除かれる　理由となります。これら全てを信じることが、スンナに従う信仰を持つ人であることのしるしなのです。

信仰の条件

信仰の条件は6つあり、　これらは「アーマントゥ」で明らかにされています。預言者ムハンマドは、信仰とは　定められた6つの事柄を信じることであると　教えられています。この為、ムスリムであるならば　　　　　子供に何よりも前に「アーマントゥ」を暗記させ、その意味を十分に教えるべきです。

アーマントゥ：　アーマントゥ ビッラーヒ ワマラーイカティヒー ワクトゥビヒー　ワルスリヒー. ワルヤウミル アーヒ リ ワルカダリ ハ イリヒー ワシャッリヒー.
ミナッラーヒ タアーラー ワルバアスィ バアダル マウティ　ハックン、アシュハド　アン　ラー　イラーハ　イッラッラー、ワ　アシュハド　アンナ　ムハンマダン　アブドゥフ＿　ワラスールフ

第一の条件
アッラーを信じること

「アーマントゥ　ビッラーヒ」と述べることは、アッラーの存在と唯一性を信じ、心で認め、言葉にした、という意味です。アッラーは存在し、唯一であられます。一つ、という言葉には辞書的には2種類の意味があります。一つめは数の観点から2の半分であり、数のうち最初のものです。もう一つは、並び得るもの、類似したものが存在しないという観点からの「一」です、アッラーは数の観点からではなく、並び得るもの、類似したものが存在しないという観点から「唯一」であられます。つまりその特性・属性においてどのような形であれアッラーに配される存在はないのです。全ての被造物の特性・　属性は、それを創造した存在の特性、属性とは類似しないものであると同様に、創造主の特性・属性も、その創造されたものの特性や属性とは類似しないものなのです。

全ての被造物のあらゆる器官・　細胞の創造主、無から存在させられたお方はただアッラーのみです。アッラーの特性の真実を知ることは誰にもできません。人が考え、思いつくようなものか

ら、はるかにかけ離れているのです。その特性について思いを巡らせ、考えることは適切ではありません。私たちはただ、クルアーンで述べられている特性や美名を覚え、その神性をこれらによって認め、口にするべきなのです。全ての特性と美名は、始まりもなく終わりもないものです。その特性は決してとどまることのないものであり、認識されている 6 つの形からもかけ離れたものです。すなわち前、後ろ、右、左、上、下というものはありません。ただ「あらゆる場所に存在され、あらゆる場所に向いておられる」と表現することができるのです。

アッラーの特性は 14 あり、　　そのうちの 6 つはザートの特性、8 つはスブートの特性と呼ばれます。これらの意味を知り、覚えることはとても重要です。

ザートの特性

ヴジュード:アッラーは存在し、その存在は無限です。そして「ワージブル・ヴジュード」、すなわちその存在は必須であるのです。

キダム：アッラーの存在に始まりはありません。

バカー:アッラーの存在には終わりはありません。決して消失されることはありません。類似するものの存在が不可能であるように、その特性や属性において無となることは不可能なのです。

ワフダーニーヤ：アッラーの特性、属性、そしてそのみわざにおいては、共同作業者も類似する存在もありません。

ムハーラファトゥン・リルハワーディス：アッラーはその特性、属性において、どの被造物の特性や属性に類似してはおられません。

キヤーム・ビナフシヒ：アッラーはその特性と共にひとりでに生きられ　　　ます。場所を必要とはされません。物質や空間が存在しない時から、アッラーは存在されていました。なぜならアッラーはどのようなものであれ必要とはされないからです。この世界を無から存在へと至らされるより以前にどのような特性を持たれていたのであれ、永遠にそのようであられるのです。

スブートの特性

ハヤート：アッラーは生命を持たれるお方です。その生命は被造物の生命とは類似しないものであり、その特性にふさわしく、ま

た固有の生命であり、始まりも終わりもありません。
イルム：アッラーは全てをご存じであられます。アッラーの知は被造物の知とは異なります　。闇夜に、アリーが黒い石の上を歩くのをご覧になられ、それをお知りになります。人の心に浮かぶ考えや意志をもご存じです。その知には変化はなく、始まりも終わりもないものです。
サミイ：アッラーは聞いておられます。媒介なく、道具なく、聞いておられるのです。アッラーの聞かれ方は、しもべの聞き方には類似しないものです。この特性も、全ての特性と同様に始まりも終わりもないものです。
バサル：アッラーはご覧になっておられます。道具や条件なしにご覧になられます。目によってご覧になるのではありません。
イラーダ：アッラーは望まれます。望まれたものを創造されます。全ては、アッラーが望まれたことによって存在します。そのお望みの妨げとなるような力は一切存在しません。
クドゥラ：アッラーは全てにおいてその力が十分であられます。どんなことであれ、アッラーにとって困難ではなのです。
カラーム：アッラーは語られるお方です。それは道具、文字、声や舌によるものではありません。
タクウィーン：アッラーは創造者であられます。アッラー以外に創造者は存在しません。全てをアッラーが創造されます。アッラー以外のものについて創造者というべきではありません。

アッラーの特性の真実を理解することは不可能です。誰も、そしてどんなものも、アッラーの特性を分かち合うこともそれに似せることもできません。

第２の条件
天使たちを信じること

「ワ　マラーイカトゥ」：私はアッラーの天使たちを信じました、ということです。天使たちはアッラーのしもべです。全ての天使は　アッラーの命令に従い、　罪を犯しません。男女の差はなく、結婚しません。彼らには　生命があり　ます。食べる

こと、飲むこと、眠ることはありません。光でできており、知性を持ちます。そのうち最も崇高な存在が 4 大天使です。
ジブラーイール（彼の上に平安あれ）: その役割は預言者たちに啓示をもたらすこと、命令や禁止事項を教えることです。
イスラーフィール（彼の上に平安あれ）: スールを吹き鳴らすことがその役割です。1 回目にそれを吹いた時に出る音を聞いた生物は、アッラーを除いて全て死に絶えます。2 回目に吹いた時には全てが再び蘇ります。
ミーカーイール（彼の上に平安あれ）: 糧を送ること、安くなること、豊かであること、飢饉となること、高くなること、そしてあらゆる物質を動かす役割を負っています。
アズラーイール（彼の上に平安あれ）: 人々の魂を取ることがその役割です。

彼らに続いて 4 つの階級の天使たちがいます。「ハメレ-イ-アルシュ」と呼ばれる天使は 4 人います。アッラーの御前に存在する天使を「ムカッラビーン」と呼びます。罰を与える天使たちのうち大きなものを「カルービヤーン」、慈悲の天使たちを「ルーハーニーヤーン」と呼びます。天国の天使たちのうち偉大なものの名はルドゥヴァーン、地獄の天使たちのうち偉大なものの名は「マーリク」です。地獄の天使たちを「ザバーニー」と呼びます。 最も数の多い被造物は天使です。天においては天使たちがイバーダを行っていない 場所は存在しません。

第 3 の条件
啓典を信じること

「ワ クトゥビヒー」アッラーが下された啓典を信じました、という意味です。アッラーはこれらの啓典の一部を預言者たちへジブラーイールという名の天使に読ませられることで、また一部を銘板の上に記された形で、また一部は天使を媒介とせずに直接伝えられるという形で、下されました。全てがアッラーの言葉です。これらは始まりもなく、終わりもありません。これらは創られたものではありません。全てが真実です。アッラーによって下された啓典のうち、私たちに知らされているものは 104 ページあ

ります　。これらのうち10ページは預言者アーダムに、50ページは預言者シトに、30 ページは預言者イドリースに、10 ページは預言者イブラーヒームに、律法が預言者ムーサーに、詩篇が預言者ダーウードに、新約聖書が預言者イーサーに、クルアーンが預言者ムハンマドに下されたのです。

アッラーは、人々が現世で安らいで暮らし、来世でも永遠の幸福に至ることができるよう、最初の人間、そして最初の預言者であるアーダム（彼の上に平安あれ）から最後の預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）まで、多くの預言者を媒介として啓典を下されました。これらの啓典で、信仰とイバーダの基本が説かれ、人々が必要とする全ての事柄についての知識が与えられています。

これらのうちクルアーンは、アッラーが下された最後の啓典です。クルアーンが啓示された後、それ以外の全ての啓典は無効とされました。天使ジブラーイールはクルアーンを、預言者ムハンマドに 23 年かけてもたらしました。クルアーンは 14 の章、6236 の節からなります。　　一部の本ではこの数が異なっていますが　　、長い一節をいくつかに区切っていることによります。なぜならクルアーンは啓示されて以来、一切の変化が加えられていないからです。そして今後も変化することはありません。クルアーンはアッラーのお言葉です。このような書物が人間によって作られることは不可能です。一つの節ですら作ることは不可能なのです。

預言者ムハンマドが来世へと移られた後、最初のカリフとなったのはアブー・バクル・スッドゥークでした。彼はクルアーンの節をまとめ、これによって「ムスハフ」ができました。教友の全ては、このムスハフがアッラーの言葉であることを一致して告げました。第 3 代のカリフであるウ　スマーンは、このムスハフをさらに 6 つ書かせ、いくつかの地方に送っています。

クルアーンは、本来の形に従って読むことが必要です。他の文字で書かれたものは、クルアーンとは呼ばれません。

A)　ムスハフを手による時には、ウドゥーのある状態でいなければいけません。キブラの方角を向いて座り、注意深く詠みます。

B)　重々しく、謙虚さを持って読みます。

C)　ムスハフを見ながら、それぞれの節一つ一つを正しく読みます。

D)　タジュウィードの原則に従って読みます。
E)　読まれているものがアッラーの言葉であることを考えるべきです。
F)　クルアーンの命令や禁止に従います。

第４の条件
預言者たちを信じること

「ワ　ルスーリヒ」：アッラーの預言者たちを信じました、という意味です。預言者たちは、アッラーが喜ばれる道へ人々を至らせ、正しい道を示す為に選ばれました。全ての預言者たちは皆、同じ信仰を語っています。預言者たちには 7 つの特性があることを信じる事が必要です。
イスマ：罪を犯さないこと。預言者たちはいずれかの教えで禁じられている、もしくは禁じられることになる大小の罪を決して行いません。
アマーナ：預言者たちはあらゆる観点から信頼できる人々です。決してその信頼を裏切ることはありません。
スッドゥーク：預言者たちはその言葉、行い、そしてあらゆるふるまいにおいて正しく、誠実な人々です。決して嘘をつくことはありません。
ファターナ：預言者たちは非常に知的で、理解力のある人々です。目や耳が不自由である人、女性からは預言者は現れていません。
タブリーグ：預言者たちは、人々に教示した　事柄を、全てアッラーからもたらされた啓示によって学びました。彼らが教えた命令や禁止事項のどれ一つとして　、彼ら自身の考えのもの　はありません。預言者たち　はアッラーから命じられたことの全てを人々に教えました。
アダーラ：預言者たちは決して迫害や不正を行いません。誰かの為に公正さを放棄することもありません。
アムヌル・アズル：預言者たちは、預言者としての任務から解かれることはありません。現世でも来世でも常に預言者なのです。

新たな教えと規定をもたらす預言者をラスールと呼びます。新しい教えはもたらさず、既存の教えに人々を導く預言者はナビーと呼ばれます。預言者たちを信じるとは、彼らの間に差をつけることなく、　全員が、アッラーによって選ばれた誠実な、真実を語る預言者である事を信じることです。彼らのうちの一人でも信じないという人は、即ち誰も信じないことになるのです。

預言者という任務は、勤勉であること、イバーダを多く行うこと、空白や苦しみを味わうことなどによって得られるものではありません。ただアッラーの恵みと選択によるのです。その数は定かではありませんが、　12万4千よりも多いことが知られています。このうちの313人もしくは315人がラスールです。このうち 6 人がより崇高とされます。彼らを「ウル-ル-アズムの預言者」と呼びます。　ウル-ル-アズムの預言者とは、預言者アーダム、ヌーフ、イブラーヒーム、ムーサー、イーサー、そしてムハンマド・ムスタファ（彼の上にアッラーの祝福と平安がありますように）です。また、預言者たちのうちでは 30 人の名前がよく知られています。これらは、アーダム、イドリース、シト、ヌーフ、フード、サーリフ、イブラーヒーム、ルーツ、イスマーイール、イスハーク、ヤークブ、ユースフ、アイユーブ、シュアイブ、ムーサー、ハールーン、フドゥル、ユーシャ・ビン・ヌーン、イルヤス、エルヤサ、ズルキフル、シャムウン、イシュモイル、ユーヌス・ビン・マタ、ダーウード、スライマーン、ルクマーン、ザカリヤー、ヤフヤー、ウザイル、イーサー・ビン・マルヤム、ズルカルナイン、そしてムハンマド（彼の上に祝福と平安がありますように）です。

このうちの 28 人のみがクルアーンで紹介されています。ズルカルナイン、ルクマーン、ウザイル、そしてフドゥルについては、預言者であるかどうかについて意見の相違があります。ムハンマド・マースム師は、第 2 巻第 36 の書簡でフドゥルが預言者であることを告げる知らせがしっかりしたものであることを記しています。第 182 の手紙では、フドゥルが人間の形で姿を見せること、　そして物事を行うことは、彼が生きていることを示すものではないとしています。アッラーはフドゥル　の、そして多くの預言者、聖人たちの魂が人間の形で姿を見せることを許された

のです。彼らを見ることは、彼らが生きていることを示すことではないと説いているのです。

預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）

彼はアッラーの預言者であり、愛されるお方です。預言者たちのうち最も優れた存在であり、そして最後の預言者です。父はアブドゥッラーです。西暦 571 年の 4 月 20 日にあたる、ラビーウル・アウワル月の 12 日、月曜日の夜、夜明け近くにマッカで生まれました。父は彼の誕生以前に亡くなっていました。6 歳の時母を、8 歳の時に祖父を亡くしています。その後、アブー・ターリブに扶養されました。25歳の時、ハディージャ・トゥル・クブラーと結婚しました。彼女との間に 4 人の娘と 2 人の息子が生まれました。最初の息子の名はカーシムでした。その為、アブー・カースムとも呼ばれています。40 歳の時、全ての人間　　とジンの為の預言者であることが告げられました。3 年後には、皆を信仰へと呼びかけるようになりました。52歳の時に、ある晩マッカからエルサレムへ、そこから天に運ばれ、また戻されるという出来事がありました　。この旅をミーラージュと呼びます。ミーラージュでは、天国と地獄、そしてアッラーと会われたのでした　。日に 5 回の礼拝はこの夜に義務とされたのです　。歴史家によれば、西暦 622 年に　　アッラーのお許しを得てマッカからマディーナへと移住しました。この旅をヒジュラ（聖遷）と呼びます。マディーナの町のクバー村に到着した、ラビーウル・アッワル月の 8 日、月曜日にあたる西暦 10 月 20 日が、ムスリムのヒジュラ太陽暦の初日になります。ムスリムのヒジュラ太陰暦は、その土地のムハッラム月に始まります。天にある月が地球の周りを 12 回廻ることで 1 年となります。そしてヒジュラ歴 11 年（西暦 632 年）のラビーウル・アッワル月の 12 日、月曜日の午前に亡くなられました。火曜日から水曜日への夜に、亡くなった時の部屋に埋葬されました。亡くなった年齢　は、太陰暦によれば 63 歳、太陽暦によれば 61 歳でした。

預言者ムハンマドは色白で、　全ての人々の中で最も美しいお方でした。その美しさは皆に明らかにはされず、　その美しさを

一度目にした人、さらには夢で見た人の生涯は快適さと喜びのうちに過ぎました。預言者は、　あらゆる時代、　あらゆる場所に生まれた人々、そしてこれから生まれてくる全ての人々よりも、あらゆる観点で崇高な存在です。知性、思想、良い　気質　、全ての器官の力が、全ての人よりも優れていました。

預言者は、子供の頃に2度、貿易を行う人々と共にダマスカスに行き、ブスラと呼ばれる地点から戻りました。それ以外にはどこにも行ったことがありませんでした。彼は文盲でした。つまり、学校に行ったことは全くありませんでした。誰かに教えを受けたこともありませんでした。しかし彼は全てをご存じでした。すなわち、考えたこと、知ることを望んだことは全てアッラーが教えられていたのです。ジブラーイールという名の天使が来て、預言者の望むこと全てを　語っていました。その神聖な心臓は、太陽のように光を放っていました。預言者　の放つ　アッラーについての知識の光は、電波のように、地に、天に、そしてあらゆる場所へと至りました。今ではその墓地からも光が放たれており、　その　力は　一瞬ごとに強まっているのです。電磁波を受け取る為にはその受信装置が必要であるように、彼の光を受け取る為には、彼を信じ、愛し、彼が示した道を進むことで清められた心が必要です。このような心を持つ人はこの光を受け取り、それを周囲に放ち、広めます。このような偉大な人をワリー（アッラーの友）と呼びます。このワリーを知り、信じ、愛する人も、彼の前で礼儀正しく座る人も　、もしくは遠方で　彼を徳と愛情を持って思い起こす人も　、その心は　光や閃きを受け取り、清められ、成熟し始めます。アッラーは、私たちの肉体や組織を成長させる為に太陽エネルギーを　要因とされたように、心を完全させる為には、預言者ムハンマドの心と、そこから放たれる光を要因とされたのです。人を育て、その構造とエネルギーを維持する全ての栄養素が同化によって生み出されるように、心や魂の糧となるワリーたちの説話、言葉、文章もまた、全てが預言者ムハンマドの神聖な心から放たれた光によって生み出されたものなのです。

アッラーは、ジブラーイールという名の天使により、預言者ムハンマドにクルアーンを遣わされました。そうして人々に、現世

と来世で必要かつ　有益である事柄を命じられ、　同時に有害なものを禁じられました。これらの命令や禁止事項の全てを、「イスラーム教」もしくは「イスラーム」、もしくは「神の掟」というのです。

預言者ムハンマドの全ての言葉は正しく、尊く、有益なものです。それを信じる人々を「信者」もしくは「ムスリム」と呼びます。預言者ムハンマドの言葉のどれか一つであれ信じない、気に入らないという人は不信仰者と呼ばれます。アッラーは信者を愛されます。信者を　永遠に地獄で放置されることはありません。地獄には全く入れられないか、もしくは罪の為に入れられたとしても後に地獄から出されるのです。不信仰者である人は、天国に入ることはありません。直接地獄に入り、そこから決して出ることはありません。彼を信じること、預言者ムハンマドを愛することは、全ての幸福、安寧、善の始まりです。彼が預言者であることを信じないことは、あらゆる災い、苦しみ、悪事の始まりです。

預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）の知識、理性、理解力、知性、知能、気前のよさ、謙虚さ、温和さ、慈しみ、忍耐、努力、人間愛、誠実さ、信頼、勇敢さ、威厳、勇気、表現力、的確な話し　方、預言者特有の英知、美しさ、罪に対する注意深さ、高潔さ、寛大さ　、良心、恥を知る意識、禁欲主義、篤信は、他の全ての預言者たちよりも優れていました。親友や敵から受けた害は許されました。誰にも対抗するようなことはされませんでした。ウフドの戦いで不信仰者たちが預言者の　神聖な頬に血を流させて　歯を折った時も、これらを行った人々について「アッラーよ、彼らをお許しください。無知ゆえのことなのです」とドゥアーされたのでした。

預言者ムハンマドは非常に多くの良い気質　　　をお持ちでした。全てのムスリムがこれらを学び、そのような道徳を身に着けることが必要なのです。これによって現世と来世の災い、苦しみから救われ、2 つの世界の主であるお方（彼の上に祝福と平安あれ）の仲裁を受けることができるのです。なぜならハディースで「アッラーの徳によって道徳を身につけなさい」と命じられているからです。

教友（サハーバ）たち

預言者ムハンマドの神聖なお顔を目にし、その甘美な声を聴く誉れを得たムスリムたちを教友（サハーバ）と呼びます。預言者たちに次いで、これまで生まれてきた、そしてこれから生まれてくる全ての人の中で最も尊く崇高な人はアブー・バクル・スッドゥークです。最初のカリフがこの人でした。彼に次いで最も尊い人はウマル・ビン・ハッターブであり、その次に最も尊い人は預言者ムハンマドの 3 代目カリフであり、信仰と謙譲、知識の源であったウスマーン　・ビン・アッファーンです。彼に次いで最も尊いのは、4 代目のカリフであり驚くほどの優秀さを備えたアッラーの獅子、アリー・ビン・アブー・ターリブです。ハディースから理解されるところによると、ファーティマ、ハディージャ、アーイシャ、マル　ヤム、そしてアーイシャが世界の女性の中で最も崇高な存在です。ハディースでは「ファーティマは天国の女性の中で最も崇高である。ハサンとフサインは、天国の若者の中で最も崇高である」とされています。

彼らに次いで、教友たちの中で最も崇高なのは、天国に行くことが吉報で伝えられた 10 人です。これはアブー・バクル・スッドゥーク、ウマル・ウル・ファールク、オスマン・ビン・アッファーン、アリー・ビン・アブー・ターリブ、アブー・ウバイダ・ビン・ジャラフ、タルハー、ズバイル・ビン・アッワーム、サアド・ビン・アブー・ワッカース、サイド・ビン・ザイド、アブフゥルラフマーン・ビン・アウフです。彼らに次いで、バドルの戦い、次いでウフドの戦い、それから「ルドゥワンの誓い」に参加した人々です。

アッラーの使徒である預言者ムハンマドの為に生命や財産を捧げ、彼を助けた教友たち全ての名を、敬意と愛情を持って唱えることは私たちのワージブ（ファルドではないが実行すべきであること）です。反対に、彼らの偉大さにふさわしくない様な言葉を口にすることは決して許されないのです。彼らの名を失礼な形で語ることは逸脱にあたります。

預言者ムハンマドを愛する人は、その教友の全てをも愛するべきです。なぜならあるハディースでは「わが友を愛する人は、私を愛する故に愛するのだ。彼らを愛さない人は、私を愛さないゆ

えに愛さないということである。彼らを傷つける人は私をも傷つける。私を傷つける人はアッラーをも傷つけたことになる。アッラーを傷つける人は当然、罰を受けることになる」とされています。また別のハディースでは、「アッラーは私のウンマのうち誰かに善をなすことを望まれた時には、彼の心に教友たちへの愛情を与えられる。彼らの全てを自分の命のように愛するようになる」とされています。預言者ムハンマドが亡くなった日、マディーナの町には3万3千人の教友がいました。教友の合計は12万4千人を超えていました。

4大学派のイマームとその他の学者たち

信仰に関する知識において、正しい道は唯一です。これはスンナ　派です。この世界に存在する全てのムスリムに正しい道を示し、預言者ムハンマドの道を変化・改悪なしに私たちが学ぶことができる要因となっているのが、この偉大な4人です。その一人目がイマーム・アザーム・アブー・ハニーファ・ヌマン・ビン・サービトです。イスラーム学者のうち最も偉大な人の一人で、スンナ派の長です。2人目はイマーム・マーリク・ビン・アナス、3人目がイマーム・ムハンマド・ビン・イドリス・シャーフィイー、4人目がイマーム・アフマド・ビン・ハンバル（アッラーが彼ら皆に慈悲をおかけくださいますように）です。

今日、この4人のイマームの誰か一人にでも従わない人は、大きな危険の中にあります。正しい道から逸れてしまっているのです。私たちはこの本で、ハナフィー派に従った　礼拝についての事柄を、この学派の偉大な学者たちの書物から引用し、要約して紹介しています。

この4大イマームの弟子たちのうち2人は、神学　の知識を実に　　　高められていました。この為、神学　についての学派は2つあります。クルアーンとハディースに適った信仰とは、この2つの学派が示す信仰なのです。スンナに従った信仰の　知識を地上に広めたのはこの2人です。一人はアブー・マンスール・マートゥリディーであり、もう一人はアブー・ル・ハサン・アリー・アシュアリーです。

この2人のイマームは、同じ信仰を伝えています。彼らの間の

いくつかの差異は、重要なものではありません。真実においては同じなのです。イスラーム学者は、クルアーンやハディースで称賛されています。クルアーンのある章句では、「知っている者と知らない者が同じであろうか」とされています。また別の章句でも、「ムスリムよ、あなたが知らないことを知っている者に尋ねなさい」とされているのです。

ハディースでは次のように言われています。「アッラーと天使たち、そして全ての生物は、人に善を教えるムスリムたちの為にドゥアーする。」「最後の審判の日には、最初に預言者たち、それから学者たち、次いで殉教者たちがとりなしを行う。」「人々よ、知りなさい。学者たちの話を聞き、学ぶのです。」「学びなさい。学ぶことはイバーダである。教える人、学ぶ人には聖戦（ジハード）のサワーブが与えられる。」「学ぶことは、サダカを支払うことのようである。学者たちに学ぶことは、タハッ　ジュドの礼拝を行うことのようである」「学ぶことは、全てのナーフィラ（義務ではない）礼拝よりもより報償がある。なぜなら、彼自身にも、彼が教える人々にも有益であるからである。」「他者に教える為に学ぶ人は、スッドゥーク誠実な人々）としてのサワーブが与えられる。」「知識は、宝庫である。その鍵は、質問して学ぶことである。」「学びなさい、そして教えなさい。」「あらゆるものには源がある。篤信の源は知識を備えた人の心である。」「教えることは、罪の償いとなる。」

第５の条件
来世を信じること

「ワル　ヤウミル　アーヒリ」：最後の審判の日を信じます、という意味です。この時の始点は、人が死んだ日です。最後の審判の終わりまで続きます。最後の日といわれるのは、それに続く夜が来ない為です。あるいは、この世界の後に訪れるものだからです。最後の審判がいつ訪れるかは知らされていません。しかし預言者ムハンマドはそれに関する多くの　しるしを伝えておられます。例えば、マフディー（救世主）が現れ、　預言者イーサーが天からダマスカスに再降臨します。ダッジャール（偽の救世主）

が現れ、ゴグとマゴグと呼ばれる人々があらゆる場所を騒乱に陥れます。太陽が西から昇り、　大きな地震が起こります。イスラームの知識が忘れ去られ、　罪や悪事が多く行われるようになります。ハラームに当たる行為　があらゆる場所で行われます。イエメンから火が立ち昇ります。天と山が砕け、太陽と月が光を失います。

墓場では尋問が行われます。墓場でムンカルとナキールという天使たちに答える為には　次のことを覚えるべきであり、　そして子供たちにも覚えさせるのです。「私の主はアッラーです。私の預言者はムハンマドです。私の教えはイスラームです。私の聖典はクルアーンです。私のキブラはカーバです。私の学派はアブー・ハニーファの学派です。」

最後の審判の日には皆が蘇ります。マフシャルの場に集められます。誠実な人々の記録簿は右側から、悪　人の記録簿は後ろから、あるいは左側から与えられます。シルク（アッラーに何ものかを配すること）や不信仰以外の全ての罪は、アッラーが望まれれば許されます。望まれれば小さな罪の為に罰が与えられます。

行いを量る為の秤があります。スラート橋がアッラーの命令によって地獄の上に架けられます。預言者ムハンマドだけのカウサルの泉があります。

とりなしが行われます。悔悟を行うことなくして死んだ信者の大小の罪が許される為に、預言者たち、ワリーたち、誠実な信者たち、学者たち、天使たち、殉教者たち、そしてアッラーの　許された人達がとりなしを行い、それは受け入れられます。

天国と地獄は今でも存在します。天国は七　層の天の上にあります。地獄はあらゆるものの下にあります。天国には八　つの扉があります。地獄は七層になっています。一番目の層から七　番目の層へと、罰が重くなっていきます。

第６の条件
運命を信じること

「ワ　ビルカデリ　ハイリヒ　ワ　シャッリヒ　ミナッラーヒターラー」：運命と、良　いことも悪いこともアッラーからであ

ることを信じました、という意味です。人の身に起こる良い　こと、災い、有益なこと、有害なこと、利益や損失の全ては　、アッラーが定められたことなのです。
アッラーが何かの存在を望まれることを「カダル」問います。カダル、すなわち　望まれた事象が存在させられることを「カダー」と呼びます。カダーとカダルの言葉は、それぞれ互いの意味でも用いられます。
アッラーはしもべたちに意志を与えられ、この意志と彼らが望むことを、事象の創造の要因とされました。一人のしもべが何かを行うことを求め、アッラーもそれを望まれるのであれば、アッラーはその事象　を創造されます。しもべが求めなければアッラーも望まれず、それは創造されません。
ここまで簡単に紹介してきたスンナ派の教義についてより広く学びたい人は、ハキーカトゥ出版の発行している、重要なイスラーム学者であり偉大なワリーであるマヴラーナ・ハーリド・バグダディのペルシア語で書かれた『　信仰の書』　と、カマフル・フェイズラー師のなされた翻訳である『　皆が必要とする信仰』という本を読んでください。とても有益で素晴らしい作品であり、その恵みは現世と来世での幸福の為に必要十分なのです。
アッラーは皆にタワックル（信頼）を命じられました。信頼は信仰の条件であるというクルアーンの章句は、この命令の一つにあたります　。食卓章では「もし信仰があるなら、アッラーについて信頼しなさい」と、イムラーン家章では「当然アッラーは信頼する者を愛される」と、離婚章では「誰かがアッラーについて信頼するのなら、彼にはアッラーが十分であられる」と、集団章では「アッラーはそのしもべにとって十分ではないのか」とされ、また他にも多くの章句があります。
アッラーの使徒は次のようにおっしゃられました。「わがウンマの一部が、私に示された。山や砂漠を満たしていた。これほどにたくさんであることに私は驚き、喜んだ。あなたは喜んだのか、と問われた。私ははい、と答えた。彼らのうちわずかに七万人が罪を問われることなく天国に行く、と言われた。それは誰なのかを私は尋ねた。その行い　に魔術、まじない、占いを混入させず、アッラー以外のものについて信頼せず、信用もしない人々

であると仰せられた。」この話を聞いていた人のうちウカーシャ（彼の上に平安あれ）が立ち上がり、「アッラーの使徒よ、ドゥアーしてください。私たちもその一部となりましょう」と言った時、預言者ムハンマドは「主よ、彼をその一部としてください」と言われたのでした。別の人が立ち上がって同じドゥアーを求めた時には、「ウカーシャはあなたよりも素早く行動した」と応じられました。

タワックルとは、やるべきことを行い、その結果については思いわずらわないことです。

第２部
イバーダと礼拝

イバーダとは何か

イバーダ（崇拝行為）とは、私たちと全ての存在を無から創造され、あらゆる瞬間に存在を維持され、目に見える、あるいは見えない事故や災いから守られ、あらゆる瞬間に様々な恵みや　素晴らしいものを与えられ、育まれる存在であるアッラーによって与えられた、　命令と禁止事項を実践することです。また、アッラーの愛情を得られた預言者たち、ワリーたち、学者たちのようになろうとすること、従うことです。

自らに無数の恵みを与えられたアッラーに　力の限り感謝することは、人としての務めです。知性が命じるこの行いは、一つの借りです。しかし人は、自らの不完全な　知性や狭い考えによって、アッラーへの感謝や敬意となる事柄を見つけることはできません。感謝すること、敬意を示すことが可能となる行いがアッラーによって教えられない限りは、称賛のつもりで行ったことがけなすという意味になるかもしれないのです。

そう、人々がアッラーに対し、心、言葉、そして体で行う感謝の行為　、つまりしもべとしての務めというものは、アッラーによって教えられ、それが預言者ムハンマドによって示されたのです。アッラーが示され、命じられたしもべとしての務めを、イスラームと呼びます。アッラーへの感謝は、その使徒たちがもたらした道に従うことで可能となります。この道に従わず、これに適さない全ての感謝やイバーダを、アッラーは認められず、また好まれません。なぜなら人が　素晴らしいと思うものの中であっても、イスラームにおいてはそれが好まれず　　　、醜いものであると見なされ　るものは多くあるからです。

つまり、知性を持つ人がアッラーに感謝し、イバーダを行う為には、預言者ムハンマドに従うことが必要となるのです。

預言者ムハンマドに従う人はムスリムです。アッラーに感謝すること、つまり預言者ムハンマドに従うことを「イバーダを行う」と言います。

イスラームは２つに区分されます。

1. 心によって信じ、信仰するべき事柄

2．体や心によって行われるべきイバーダ

体によって行われるイバーダにうち最も尊いものが、礼拝です。ムカッラフ責任能力者である全てのムスリムが日に 5 回礼拝を行うことはファルド（義務）なのです。

ムカッラフとは誰のことか

知性を持ち、思春期に達している男女をムカッラフと呼びます。ムカッラフである人は、アッラーの命令と禁止事項に従う責任を持ちます。イスラームでは、ムカッラフである人に、まず信仰すること、それからイバーダを行うことが命じられています。さらに、行うことが禁じられているハラーム及びマクルーフの事柄を避けることも必要です。

知性は、理解する為の力です。益のあることを害のあることから区別する為に創造されたものです。知性は一つの計測機器のようです。2 つの良い　ものうちより良い　ものを、2 つの悪いもののうちより悪いものを識別します。知性を持つ人とは、ただ善と悪を区別するのではなく、良い　ものを見た時にそちらを選び、悪いものを見た時　はそれを放棄する人なのです。知性は目のようなものであり、　イスラームは光のようなものです。光がなければ目で　見ることができないのです。

思春期とは、成熟した年齢ということです。男の子が思春期に達するのは、12 歳を満了した時点で始まります。男の子が思春期に達したことを示す徴候があります。この徴候が見られない場合は、15 歳になった時点でイスラームにおいては思春期に達したと判断されます。

女の子が思春期に達することは、9 歳を満了した時点で始まりです。女の子か思春期に達した徴候が全く見られない場合は、15 歳を満了した時点で思春期に達したと判断されます。

ムカッラフの行い（イスラーム法）

イスラームの教えが教えている命令や禁止事項を「シャーリア法」もしくは「イスラーム法」と呼びます。これらを「ムカッラフの行い」とも呼びます。ムカッラフの行いは 8 つあります。ファルド、ワージブ、スンナ、ムスタハブ、ムバーフ　、ハラー

ム、マクルーフ、そしてムフシドです。
ファルド：アッラーが、それを行うことをクルアーンで明白に、絶対的に命じておられることをファルドと呼びます。ファルドを放棄することはハラームです。それを信じない人、その実践に重きを置かない人は不信仰者となります。ファルドには 2 種類あります。
ファルド・アイン（個人的義務）：ムカッラフであるムスリムが皆、それぞれに行うことが必要なファルドです。信仰すること、ウドゥーを行うこと、グスルを行うこと、日に 5 回の礼拝を行うこと、ラマダーン月に断食を行うこと、豊かであればザカートを支払うこと、巡礼に行くことなどはファルド・アインです。32 のファルド、54 のファルドが知られています。
ファルド・キファーヤ（社会的義務）：ムスリムのうち数人、もしくはたった一人であれそれを行うのであれば、他の人々はその義務から救われることになるファルドです。なされた挨拶に答えること、遺体を洗浄すること、葬儀の礼拝を行うこと、クルアーンを全て暗記してハーフィズになること、ジハード（聖戦）を行うこと、工業や貿易に必要となるもの以上に、宗教的、科学的な知識を学ぶことといったファルドがそれにあたります。

ワージブ：行うことがファルドのように確定的である命令をこう呼びます。この命令のクルアーンにおける根拠は、ファルドほどに明白ではありません。疑問の余地のある証拠によって確定されているものです。ウィトルの礼拝を行うこと、イードの礼拝を行うこと、豊かであれば犠牲の動物を屠ること、フィトラを支払うことはワージブです。ワージブの規定はファルドに近く、　ワージブを放棄することはハラームに近いマクルーフです。ワージブである事を信じない人は不信仰者となります。しかしそれを実行しなかったことで地獄の罰の対象となることはありません。

スンナ：アッラーが明白に示されてはおらず、ただ預言者ムハンマドがその実行を奨励され、あるいは継続的にご自身が行われ、あるいは他の人がそれを行っているのを見られてもそれを止められなかった事柄について「スンナ」と呼びます。スンナを気に入

らないとすることはイスラームの否定です。それを気に入り、かつ実践はしない場合、罰はありません。しかし理由なく継続的にそれを放棄する人は、災いや罰の対象、もしくはサワーブを減らされることの対象となります。例えば、アザーンを唱えること、イカーマを行うこと、集団で礼拝を行うこと、ウドゥーを行う時にミスワークを用いること、結婚した夜には食事をふるまうこと、子供に割礼を受けさせることなどです。

　スンナには 2 種類があります。

スンナ・ムアッカダ：預言者ムハンマドが継続的に行われ、行われなかったことのない強いスンナです。ファルドの礼拝のスンナ、ズフルの最初と最後のスンナ、マグリ　　ブのスンナ　　、イシャーの最後の 2 ラカートのスンナがそれにあたります。これらのスンナは、理由なくして放棄することはできません。これを気にらない人は不信仰者となります。

スンナ・ガイリ・ムアッカダ（ムアッカダではないスンナ）：預言者ムハンマドがイバーダとして時折行われたことです。アスルとイシャーの 4 ラカートの最初のスンナがこれにあたります。これらはしばしば放棄されたとしても何かを必要とすることはありません。理由なく完全に放棄することは、破滅や、とりなしを受けられないといったことの要因となります。

　5 人から 10 人の人が実行すれば、他のムスリムに対しては取り消されるスンナは「キファーヤのスンナ」と呼ばれます。挨拶を行うこと、お籠りを行うことなどです。ウドゥーを行う時、飲食や　　良い　　行いの初めにビスミッラーと唱えることはスンナです。

ムスタハブ：これはマンドゥーブ、アーダーブ（礼儀）とも呼ばれます。ムアッカダではないスンナに当てはまります。預言者ムハンマドがその生涯に一度か 2 度であれ行われ、愛され、好まれていた事柄です。生まれた子供に生後 7 日目に名前を与えること、男女の子供の為にアキーカとして動物を屠ること、着こなしに気を配ること、芳香をつけることはムスタハブです。これらを行う人には多くの報償があります。行わなかった人に罰はありません。とりなしを受けられないということもありません。

ムバーフ：行うことが命じられておらず、また禁止もされていない事柄をムバーフ　と呼びます。つまり、罪であること、命令への従属であることが教えられてはいない事柄です。良い　意志で行われた場合にはサワーブが、悪い意志で行われた場合には罰が与えられます。眠ること、合法なものを食べること、合法であることを条件に様々な衣装を身に着けることといった事柄はムバーフ　です。これらはイスラームに従い、その命令に従うことを意志しつつ行えば善行となります。健康であり、イバーダを行うことを意志して飲み食いすることがこれにあたります。

ハラーム:アッラーがクルアーンで「行なってはいけない」と明白に禁じられた事柄です。ハラームを行うこと、ハラームを用いることは絶対に禁止されています。ハラームであるものを合法であると言う人、合法であるものをハラームと言う人の信仰は失われ、不信仰者となります。ハラームであるものを放棄すること、それらを避けることはファルドであり、大きな善行となります。
　ハラームには2種類あります。
ハラーム　リ-アイニヒー：人を殺すこと、姦淫、同性同志の性交、賭博、ワインやあらゆる種類のアルコール飲料を飲むこと、嘘をつくこと、窃盗を行うこと、豚の肉、血、及び死肉を食べること、女性や少女たちが頭や腕、足を露出した状態で外に出ることはハラームであり、大きな罪です。誰かがハラームを行う際にビスミッラーと唱えれば、あるいはそれが合法であると信じるなら、もしくはアッラーがそれを禁じられたことを軽視するのであれば、不信仰者となります。これらがハラームであることを信じ、恐れつつも行った場合は不信仰者とはなりません。しかし地獄の罰の対象となります。もし意地を張って悔悟しないまま死ねば、信仰なしにこの世を去る要因となります。
ハラーム　リ-ガイリヒー：これらは本質的には合法であるものの、他者の権利ゆえにハラームとなるものです。例えば誰かの庭園に入り、持ち主の許可なく果物をもいで食べること、家財やお金を盗んで使うこと、信託を裏切ること、わいろや利子、賭博で資本やお金を得ることなどです。これらを行った人は、その際に

ビスミッラーといった場合、あるいは合法であると信じていた場合は不信仰者とはなりません。なぜならそれは人に対する権利の侵害であり、償いができるからです。5 個半のオオムギの重さの銀の価値程の他者の権利の為に、いつか審判の日に集団で行われた 700 ラカートの認められる礼拝の分だけのサワーブがアッラーによって取り上げられ、その権利の持ち主に与えられます。ハラームを避けることは、イバーダを行うことよりもさらに大きな善行です。だからハラームについて知り、それを避けることが必要なのです。

7・マクルーフ：アッラーと預言者ムハンマドが好まれず、またイバーダのサワーブを損なわせる事柄をマクルーフと呼びます。
　マクルーフは 2 種類あります。
タフリーマン・マクルーフ（ハラームに近いマクルーフ）：ワージブである事柄を行わないことです。ハラームに近いマクルーフとなります。これらを行うことは罰をもたらします。太陽が昇る際、真上にある際、沈む際に礼拝を行うことなどです。これらを意図的に行った人は、反抗し罪を行ったことになります。地獄の罰の対象となります。礼拝においてワージブを放棄した人、タフリーマン・マクルーフを行った人はその礼拝を再度行うことがワージブとなります。もし過失や忘れていたことによって行った場合は、礼拝中に過失のサジュダを行います。
タンズィーハン・マクルーフ（ムバーフ　　に近いマクルーフ）：ムバーフ　、すなわち合法に近い、もしくは行わないことが行うことよりもより良い　事柄です。ムアッカダではないスンナや、ムスタハブである事柄を行わないことなどです。

ムフシド：イスラームにおいて、合法である行いもしくは開始されているイバーダを無効とする事柄です。信仰や礼拝、婚姻や巡礼、ザカートや取引を中断することなどです。例えば、アッラーや啓典に文句をつけることはイスラームへの憎悪を意味し、信仰を中断させます。礼拝中に笑うことは、ウドゥーと礼拝を無効とします。断食中に意図的に飲み食いすることは、断食を中断させます。

ファルド、ワージブ、そしてスンナを行う人、そしてハラームやマクルーフを避ける人には、報償が与えられます。ハラームやマクルーフを行い、ワージブを行わない人には罪が記されます。一つのハラームを避けることのサワーブは、一つのファルドを行うことのサワーブよりもより大きなものとなります。マクルーフを避けるサワーブは、スンナのサワーブよりもより大きなものです。ムバーフ　のうち、アッラーが　案ざれるものを「ハイル」及び「ハサナ」と呼びます。これらを行う人にもサワーブが与えられますが、このサワーブはスンナのサワーブよりもわずかです。

イスラームの敵たち

　イスラームの敵　　は、イスラームを滅亡させる為にスンナに従った書物を攻撃します。クルアーンの食卓章ではイスラームの最大の敵がユダヤ教徒と偶像崇拝者であるとされています。偶像崇拝者とは、偶像や彫像を崇拝する不信仰者です。キリスト教徒の多くが偶像崇拝者であることは明らかです。イエメンのアブドゥッラー・ビン・サバというユダヤ人は、スンナに従う人々を滅亡させる為にシーア派という分派を作りました。シーア派の人々は自らをアラウィ＿派と呼びます。イスラームの敵であるイギリス人たちは、あらゆる帝国主義的な力で、インドやアフリカから集めた金によって、流血を伴う戦乱とワッハーブ派と名付けられた偽りに満ちた書物によってスンナに従う人々を攻撃しました。世界のどこであっても、永遠の幸福を得たい人は、シーア派やワッハーブ派の書物に騙されず、スンナに従う学者たちの書物にしっかりと従う　　ことをお勧めします。

イスラームの条件

　イスラームに入った人々、すなわりムスリムにとってファルドであり、必ず行わなければいけない5つの基本的な務めがあります。
イスラームの条件の一つは、信仰告白（カリマ・シャハーダ）を行うことです。カリマ・シャハーダを行うこととは、「アシュハド　アン　ラー　イラーハ　イッラッラーフ　ワ　アシュハド

アンナ　ムハンマダン　アブドゥフ＿　ワ　ラスールフ」と言うことです。つまり、知性を持ち、思春期に達しており、話すことのできる人が「天と地には、アッラー以外に崇拝されるべき存在拝まれるべきものなど、何一つ、誰一人として　存在しない。真に崇拝されるべきお方はただアッラーであられる。　アッラーはその存在が必須であるお方であり、全ての崇高さがそのお方にあり、そのお方には一切の不足はなく、そのお名前はアッラーである」といい、それを心から絶対的に信じることです。そしてさらに、　バラのように赤みがかった白色の　輝かしく　愛されるお顔を持ち、黒い眉と黒い目を持ち、神聖な額は広く、立派な性格と甘美な言葉を持たれ、アラビアのマッカで生まれた為にアラブ人と呼ばれ、ハーシム家の一員でありアブドゥッラーの息子であるムハンマド（彼の上にアッラーの平安あれ）がアッラーのしもべであり、使者であるということです。彼はハブの娘であるアーミナの息子でした。
イスラームの5つの条件の2つめは、その条件やファルドに従った形で、毎日5回、定時に礼拝を行うことです。全てのムスリムが毎日、時間になると日に5回の礼拝を行い、それらを時間通りに実行することはファルドです。礼拝を、ファルド、ワージブ、スンナに注意を払い、アッラーに集中し、時間が過ぎてしまわないうちに行うことが必要なのです。クルアーンでは礼拝は「サラート」と呼ばれます。サラートとは、辞書によると、　人がドゥアーすること、天使が悔悟すること、アッラーが慈悲をかけられること、慈しまれることを意味します。イスラームにおけるサラートとは、イルミハールの本が教えている形で一定の動作を行い、一定の言葉を唱えることを意味します。礼拝は「イフティタフのタクビール」で始まります。すなわち男性が手を耳の高さまで上げた後、へその下まで下ろし、「アッラーフ　アクバル」と唱えることによって始められるのです。最後の座位で頭を左右の肩に向け、挨拶を行うことで完了します。
イスラームの5つの条件の3つめは、財産からザカートを支払うことです。「ザカート」の辞書的な意味は、清潔さ、称賛、良い状態にすることというものです。イスラームにおけるザカートとは、必要不可欠な額以上、かつ「ニサーブ」と呼ばれる一帯の基

準に応じた「ザカートの財産」を持つ人が、財産の一定量を取り分け、クルアーンで示されているムスリムたちに、恩を着せることなく与えることを意味します。ザカートは七種類の人々に与えられます。四　学派では、4つの種類のザカートの財産があります。金や銀のザカート、貿易品のザカート、半年以上牧草地で放牧した4本足の家畜のザカート、大地からの収穫のザカートです。この4つめのザカートはウシュルと呼ばれます。収穫されるとすぐにウシュルが支払われます。他の3つのザカートは、2サーブの量に達した一年後に支払われます。
イスラームの5つの条件の4つめは、ラマダーン月に毎日断食を行うことです。断食を行うことを「サウム」と呼びます。サウムとは、辞書的にはあるものをあるものから守ることを意味します。イスラームでは、条件に従いつつ、ラマダーン月にアッラーが命じられたゆえに、毎日3つのものから自分を守ることを意味します。この3つのものは、食べること、飲むこと、そして性交渉です。ラマダーン月は空に新月が見られることにより始めります。　前もって計算された暦では　始められません。
イスラームの5つの条件の5つめは、　生涯に一度巡礼を行うことです。道中が安全であり、肉体が健康であり、マッカに行って戻ってくるまで後に残す子供たちの生活に必要なお金を差し引いて残ったお金でその地に行って帰ってくることのできる人にとって、生涯に一度、イフラームの状態でカーバ神殿を周回し、アラファトに滞在することはファルドです。

ここで挙げられたイスラームの5つの条件のうち最も崇高なものは、カリマ・シャハーダを唱え、その意味を信じることです。それに次いで尊いことは礼拝です。それから断食、それに次いで巡礼、最後にザカートとなります。カリマ・シャハーダが最も崇高であることについては学者たちの意見が一致しています。残りの4つの条件の順序については、学者たちの多くが先述のようであると見なしています。カリマ・シャハーダは、イスラームの最初期に　初めて　ファルドとされた事柄でした　。日に5回の礼拝は、預言者としての活動の11年目、ヒジュラの1　年数か月前のミーラージュの夜にファルドとされました。ラマダーン月

の礼拝は、ヒジュラ歴2年目のシャーバン月にファルドとされました。ザカートの　支払い　は、断食がファルドとされた年のラマダーン月にファルドとされました。巡礼はヒジュラ歴9年にファルドとされました。

第 3 部
礼拝を行う

イスラームにおいて、信仰に次いで最も崇高なイバーダは礼拝です。礼拝は信仰の柱です。礼拝はイバーダの中で最も崇高なものであり、　イスラームの 2 つめの条件です。アラビア語では礼拝はサラートといわれます。サラートは本来、ドゥアー、慈悲、悔悟を意味し、　礼拝はこの 3 つの意味を全て含むものである為にサラートと呼ばれるのです。

アッラーの最も好まれ、繰り返し繰り返し命じられたことが、日に 5 回の礼拝です。アッラーがムスリムに対して命令したもの中で、信仰に次いで最も重要なものが礼拝を行うことです。イスラームで最初に命じられたファルドも礼拝です。最後の審判の日　、信仰に次いで最初に問われることは　礼拝についてです　。日に 5 回の礼拝をしていた人は、全ての苦しみや試みから救われ、永遠の救いに至ります。地獄の炎から救われて　天国に至ることは、礼拝を正しく行うことによって可能となるのです。正しい礼拝の為にはまず不足なくウドゥーを行い、気を緩めずに礼拝を始めることが必要です。礼拝における全ての動作を最良の形で行うべく努力すべきなのです。イバーダの全てをそこに集め、人をアッラーへと最も接近させる尊い行為が、礼拝です。預言者ムハンマドは次のように言われました。「礼拝はイスラームの柱である。礼拝を行った人は、イスラームを強める。礼拝を行うことのない　人は、当然イスラームを崩壊させる。」

礼拝を正しく行うことで誉れを与えられた人は、醜い、悪い行いから守られます。というのも、蜘蛛章第 45 節では「本当に礼拝は、(人を)醜行と悪事から遠ざける」とされているため　です。

人を悪事から遠ざけない礼拝は、正しい礼拝ではありません。外見だけの礼拝です。同時に、正しい礼拝ができるようになるまでは、外見だけの礼拝をも放棄するべきではありません。イスラーム学者たちは、「一つのことを全てできないのであっても、その全てを放棄してはいけない」としています。無限の恵みの主であるアッラーは、外見だけのものでも本来のものとして認められ

るかもしれません。このようなおかしな礼拝をするくらいなら礼拝などするな、と言ってはいけないのです。このようなおかしなやり方ではなく、正しく礼拝しなさい、と言うべきなのです。そしてその誤りを正すべきです。この繊細さを十分理解する必要があります。

礼拝は集団で行うべきです。集団で行うことは、個人で行うよりもより大きなサワーブをもたらします。礼拝で全ての器官が謙虚さを示し、その心もアッラーへの畏怖を抱いていることが必要です。人を現世と来世で、災いや苦しみから救うのはただ礼拝です。アッラーは信者たち章の初めの部分で、「信者たちは、確かに勝利を勝ちとる。かれらは、礼拝に敬虔であり」と仰せられているのです。

危険と恐れのある場所で行われるイバーダの価値は何倍も高まります。敵が攻撃してきた時に兵士がささやかな仕事を行うことはとても貴重となります。若者がイバーダを行うことも、より尊いものです。なぜなら我欲　を抑え、イバーダを行いたくないという欲求をも乗り越えているからです。

青年時代に人を襲う3つの敵、即ち　シャイターン、我欲、そして悪い友人　は、彼にイバーダをさせることを望みません。　。あらゆる悪事の源は悪い友人　です。　青年が、3つの敵からもたらされる悪い欲望に従わず、　イバーダを放棄せずに礼拝を行う　のであれば、それはとても尊いものとなります。年老いた人の行うイバーダの何倍ものサワーブが与えられ、　わずかなイバーダに多くの報償があるのです。

礼拝は誰にとってファルドとなるか

礼拝を行うことは、知性を備え、思春期に達している全ての男女のムスリムにとってファルドです。礼拝がファルドとなる為には3つの条件があります。

ムスリムであること
知性を備えていること
思春期に達していること

イスラームでは、知性を備えていない人、思春期に達していない小さな子供たちは礼拝を行う責任を負いません。しかし両親は

子供たちにイスラームの知識を教え、イバーダを行うよう慣れさせなければいけません。預言者ムハンマドは次のように仰せられました。「あなた方は皆、羊飼いのようである。羊飼いがその群れを守るように、あなた方も子供たちとあなたの命令下にある人々を地獄から守らなければいけない。彼らにイスラームを教えなければいけない。もし教えないのであればその責任を負う。」

他のハディースでは「全ての子供たちはイスラームに適した、ふさわしい形で生まれてくる。　後にその父が、彼らをキリスト教徒やユダヤ教徒、そして無宗教者としてしまう。　」

従って全てのムスリムの第一の務めは、子供たちにイスラーム、クルアーンを読むこと、礼拝を行うこと、信仰とイスラームの条件を教えることです。子供がムスリムとなることを望む、現世と来世で平穏さと安らぎを得ることを求める両親は、まずこの務めを果たすべきなのです。なぜなら私たちの父祖は「木は若いうちに曲げられる」と語ってきました。年をとってから曲げようとすれば、それは折れてしまい、害を受けるからです。

イスラームの知識と立派な道徳が与えられなかった子供は、悪い道にいる人々に簡単に騙されてしまいます。両親、国、民族に害を与える存在となるのです。

礼拝を行う人の状態

物語：監獄から救った礼拝

ホラーサーンの総督であるアブドゥッラー　・ビン・ターヒルはとても公正な人でした。憲兵が何人かの泥棒を捕まえ、それを総督に報告しましたが、その　うちの一人が逃亡しました。ちょうどその日、ヒラートの鍛冶屋が　ニーシャープールへと向かいました。しばらくして家に戻り、再び夜に出発する際、人々は彼を泥棒だと思って捕えました。彼は泥棒たちと共に総督に引き渡され、　監獄に入れなさい、と言われました。鍛冶屋は監獄でウドゥーを行い、礼拝を行いました。手を掲げ、「主よ、私を救ってください。私には罪がないことをあなたのみがご存じです。私をこの監獄からあなたの実が救えるのです」とドゥアーしました。総督は、その晩の夢で、4人の　強靭な人物

が訪れ　、その玉座をひっくり返そうとするところで目を覚ましました。それからすぐにウドゥーを行い、2 ラカートの礼拝を行いました。そして再び寝入りました。再び 4 人の人物が来て、玉座を壊そうとしているのを見て、目覚めました。そうして、虐げられた人が自分に対して許しを求めていることを理解したのでした　。

何千もの大砲も鉄砲も決してできない
涙が、夜明け前の時間に行ったことを。
何度も敵を逃した銃剣
信者のドゥアーがそれを行う
主よ、偉大なのはただあなたです。あなたはとても偉大であり、大きなものも小さなものも苦しんだ時にはただあなたに懇願します。あなたに懇願する者が、ただ幸福を得るのです。

彼はその晩のうちに監獄の長を呼び、虐げられた人がいないかと尋ねました。長は、「私にはわかりませんが、ただ　　、礼拝を行い、多くの　ドゥアーをし、涙を流している者であれば一人います　」と答えました。そこで鍛冶屋　連れてこられ、状況が尋ねられました。　宰相は許しを乞い、「あなたが私に対して持っている権利を帳消しにしてほしい、千の銀の贈り物を受けとって欲しい、何か他に望みがある時には私を訊ねてほしい」と求めました。鍛冶屋は、「私の権利は帳消しにしたし、贈り物もいただくが、何かあった時にあなたを訪れるということは致しません」と答えました。なぜか、と尋ねられると、「私のような一人の貧者の為にあなたのような皇帝の玉座を何度もひっくり返されるような私の主を差し置いて、私の要望を主以外の　人に訴えることはしもべにふさわしい行為ではありません。礼拝の後に行ったドゥアーが、私をどれだけ多くの苦しみから救ってくれたことでしょう。どれほどの願いを叶えてくれたことでしょう。だからどうして　他の誰かに庇護を求めましょうか。アッラーは限りのない慈悲の扉を開かれ、無限の恵みの食卓を皆に広げられたのに、なぜ他のお方を訊ねましょうか。そのお方から求めたのに与えられなかった人がいるでしょうか。求め方を知らなければ得ることはできません。そのお方の御前に礼儀正しく出るので

なければ、その慈悲を得ることはできないのです。」

詩
イバーダに、ある夜誰かが訴えたのであれば
その友の恵みはもちろん、彼に多くの扉を開く

偉大なワリーの一人であるラービア - イ - アドゥウィヤ（アッラーの慈悲がありますように）は、　ある人がドゥアーしている時に、「主よ、私に慈悲の扉をお開きください」と言っているのを聞き、「無知な者よ。アッラーの慈悲の扉は今まで閉じられていたというのか？それで今開いてほしいと求めるのか？」と言ったのでした。（慈悲が与えられる扉はいつでも開いていますが、それを受け入れる扉である心は、皆開いているわけではありません。これが開かれる為にドゥアーすることは必要です。）

アッラーよ！皆を苦しみから救われるのはただあなたです。私たちを現世と来世で苦しみのうちに放っておかないでください。必要としている者に全てを与えられるのはただあなたです。現世でも来世でも意義のある、有益なものを私たちにお与えください。現世と来世で、私たちがあなた以外の　　何ものかに求める必要が生じませんように。アーミーン。

物語：家が燃えていた

教友の一人ハミード・タウィールは自分の礼拝場所で礼拝をしていました。彼の家に火事が起こり、人々が集まって火を消しました。その妻が走って彼の元に来て、彼に怒り、「家が燃えてみんなが集まっている。すべきことが山ほど　ある。それなのにあなたはそこから動こうともしない」といいました。彼は、「アッラーに誓って言うが、私は何も知らなかったのだ」と答えました。

アッラーの友である人々は、アッラーへの愛情と近しさにおいて非常に高い段階に達しており、その友に懇願することの味わいに夢中になっており、我を忘れているのです。

物語：鍋の水

教友の一人アブドゥッラー　・ビン・シャフルが語っています。「私はアッラーの使徒のおそばで礼拝をしていました。その神聖な胸部　からは、火にかけられ沸騰している、鍋の水のような音が聞こえていました」

物語：足の矢

預言者ムハンマドの愛されていた婿アリーは、ひとたび礼拝を始めると例え世界が崩壊しても気が付かないような状態でした。

次のように語られています。ある戦いでアリーの足に矢が飛んできて、骨まで貫通しました。人々はその矢を抜くことができず、医師に診せました。医師は、「あなたに意識を失わせる薬を与えなければ。そうすればこの矢を抜くことができるでしょう。そうでなければこの痛みに　耐えることはできません」といいました。信者たちの長アリーは、「意識を失わせる薬など必要ない。少し待ってほしい、礼拝の時間が来る。礼拝を始めた時に抜いてほしい」と言いました。礼拝の時間が来てアリーは礼拝を始めました。医師もその神聖な足を裂き、矢を取り出し、傷口に包帯を巻きました。アリーは礼拝を終え、医師に「矢を取り出しましたか」と聞きました。医師は「はい、取り出しました」と答えました。アリーは「全然気が付かなかった」と言ったのでした。

これは驚くに値しないことではあります。実際、預言者ユースフの美しさを前にして、エジプトの女性たちは我を忘れ、手を切ったことに気がつきませんでした。もしアッラーが、その愛される人々に　我を忘れさせられたとしても、驚くべきことではないのです。信者たちも死の瞬間に預言者ムハンマドの姿を目にし、死の痛みを感じないでしょう。

物語：気を失わせる薬

ワリーの一人アーミル・カユスの足の指に　ハンセン病が見つかり、　これを切断しなければいけないと言われました。アーミルは、決められたことに従うことはしもべであることの条件だ、と言い、その指が切られました。数日後、この病気が足に移り、太ももにまで至っていることがわかりました。「この足を切断しなければいけない、イスラームはこれを許している」と言

い、外科医を連れてきました。外科医は、失神させる為の薬が必要であり、それで痛みを感じさせないようにしなければいけない、そうでなければ耐えられないと言いました。アーミルは、「そんな手間はいらない。美しい声でクルアーンを読む人を連れてきてほしい、その人にクルアーンを読ませてほしい、私の顔に変化が現れたら足を切ってほしい。私は気が付かないだろう」と求めました。人々は彼の言った通りにしました。ある人が　連れてこられ、美しい声でクルアーンを読み始めました。アーミルの顔色が変わり、外科医は太ももの半ばから彼の足を切断し、止血しました。クルアーンを読んでいた人が黙ったことで　アーミルは我に返り、切りましたか？と尋ねました。医師は切りましたと答えました。足を切り、焼いて止血し、包帯を巻きましたが彼は全く気が付いていませんでした。その後、切られた足をくださいと彼が　求め　たので、　彼に足が渡されました。彼は足を掲げ、「主よ、与えられたのはあなたです。私はあなたのしもべです。あなたが定められ、あなたがそれを創造されます。これは足です。もし最後の審判の日に、命令により、決してこの足で罪の為の一歩を踏み出したりはしなかったかと尋ねられれば、私は、決してあなたのご命令なしで足を踏み出したり、呼吸をしたことはありませんと答えるでしょう。」

物語：礼拝の為の自己犠牲

　ブルサがオスマン帝国の領土となる以前、町に住んでいたギリシア人たちのうち一人が、密かにムスリムになりました。彼と仲のよかったギリシア人の親友がその理由を彼に尋ね、それから「あなたのお父さんやお爺さんの教えをなぜ放棄したのか」と彼を批判して言いました。彼は親友に次のように説明しました。「私の元に、一時的に捕虜となったムスリムの一人がいました。ある時、この捕虜が幽閉されている部屋で体を曲げたり起き上がったりしていたことに気が付きました。そばに行って何をしているのか尋ねました。その動作が終わると彼は手で顔を撫で、礼拝をしていると答えました。さらに、もし礼拝することが許されるのなら礼拝ごとに私に金を１枚支払うことを申し出ました。私は欲に取りつかれて日に日にその額を増やし、ついには礼拝ごとに

10 枚の金を求めるようになりましたし、彼もそれを認めました。私は崇拝行為の為に彼が払う犠牲に感嘆し、ある時彼に『あなたを解放しましょう』と言うと、彼はとても喜びました。それから手を掲げ、私の為に次のようにドゥアーしました。『アッラーよ、このあなたのしもべに、信仰によって誉れを与えてください』

その瞬間、私の心にはムスリムになりたいという願いが生じ、それはとても大きなものとなりました。私はすぐに信仰告白を行い、ムスリムとなったのです。」

第 4 部
礼拝の種類

ムスリムに実行が命じられている礼拝は、ファルド、ワージブ、ナーフィラという形で 3 つに分類されます。これらは以下の通りです。

ファルドの礼拝：日に 5 回の礼拝のファルド、金曜礼拝の 2 ラカートのファルド、そして葬儀の礼拝はファルドの礼拝です。(葬儀の礼拝はファルド・キファーヤです)
ワージブの礼拝：ウィトルの礼拝、イードの礼拝、捧げられた礼拝、そして開始したものの途中で中断したナーフィラの礼拝です。定められた時間に行えなかったウィトルの礼拝のカダーを実行することもワージブです。
ナーフィラの礼拝：日に 5 回の礼拝のスンナ、タラーウィーの礼拝、そしてサワーブを得る為に行われるタハッジュド、礼拝所に入った時の礼拝、イシュラーク、ドゥーハー、アッワービン、イスティハーラ、タスビーフの礼拝などはナーフィラの礼拝です。つまり行うことは命令ではありません。ファルドやワージブである礼拝に不足がない人は、ナーフィラのイバーダにおいてもサワーブが与えられます。

日に 5 回の礼拝

礼拝はアッラーのご命令です。クルアーンでは 100 か所以上で、「礼拝を行いなさい」と命じられています。知性を持ち、思春期に達している全てのムスリムが日に 5 回礼拝を行うことが、クルアーンとハディースで命じられています。
ビザンチン章第 17，18 章では「それで、夕暮にまた暁に、アッラーを讃えなさい。天においても地にあっても、栄光はかれに属する。午後遅くに、また日の傾き初めに（アッラーを讃えなさい)」とされています。
雌牛章第 238 節では「各礼拝を、特に中間の礼拝を謹厳に守れ」とされています。(すなわち、礼拝を継続的に行いなさい、

ということを意味します。またクルアーンで言及されている「祈念」や「感謝」が礼拝を意味するということも、クルアーンの解釈の本では記されています。フード章第114節では、「礼拝は昼間の両端において、また夜の初めの時に、務めを守れ。本当に善行は、悪行を消滅させる。これは（主を）念じる者に対する訓戒である」とされています。

預言者ムハンマドは次のように言われました。「アッラーはしもべに、毎日5回の礼拝を行うことを命じられました。正しくウドゥーを行い、この5回の礼拝を時間通りに行い、ルクウやサジュダをきちんと行う人をアッラーは許されるでしょう。」

5回の礼拝は、40ラカートとなります。このうち17ラカートはファルドです。3ラカートはワージブです。20ラカートはスンナとなります。

ファジュルの礼拝：4ラカートです。まず2ラカートのスンナ、そして2ラカートのファルドを行います。このスンナはとても強いものです。ワージブだと見なす人もいます。

ズフルの礼拝：10ラカートです。まず2ラカートの始めのスンナ、それから4ラカートのファルド、最後に2ラカートの終わりのスンナをします。

アスルの礼拝：8ラカートです。まず4ラカートのスンナ、それから4ラカートのファルドを行います。

マグリブの礼拝：5ラカートです。まず3ラカートのファルド、それから2ラカートのスンナを行います。

イシャーの礼拝：13ラカートです。まず4ラカートのスンナ、それから4ラカートのファルド、2ラカートのスンナ、その後、ワージブである3ラカートのウィトルの礼拝を行います。

アスルとイシャーの最初のスンナはムアッカダではないスンナです。これらの第2ラカートでは座位の際に「アッタヒヤート」の後で「アッラーフンマ　サッリ」のドゥアーを、その後で「アッラーフンマ・バーリク」のドゥアーを最後まで唱えます。立ち上がった時には、第3のラカートで「ビスミッラー」を唱える前に「スブハーナカ」を唱えます。しかしズフルの礼拝の最初のスンナはムアッカダです。つまり強く命じられているのです。その

サワーブもより多くあります。一度目の座位ではファルドと同様にただ「アッタヒヤート」を唱え、それから第 3 のラカートの為にすぐに立ち上がります。立ち上がるとまず「ビスミッラー」と唱え、そのままファーティハ章を読みます。

ズフルとイシャーのファルドの後 4 ラカート、マグリブのファルドの後は 2 ラカートをさらに行うことはムスタハブで、多くのサワーブがあります。全てを一度のサラームで、もしくは 2 ラカートごとのサラームを行いつつ実行することができます。どちらの形でも、最初の 2 ラカートは最後のスンナの代わりと見なされます。このムスタハブの礼拝は、終わりのスンナの後で行うこともできます。

第 1 のラカートは礼拝を始めた時点で、その他のラカートは立ち上がった時に始まります。そして再び立ち上がる時まで続きます。終わりのラカートは、挨拶を行うまで続きます。複数のラカートでは、2 回目のサジュダの後は座位を取ります。

それぞれのラカートには、礼拝のファルド、ワージブ、スンナ、ムフシド、そしてマクルーフがあります。この先の項目ではこれらをハナフィー派に従った形で紹介します。

礼拝のファルド

ファルドは、アッラーが実行を求められた絶対的な命令です。イバーダをファルドとする条件が満たされない限り、そのイバーダは誠実で正しいものとはなりません。礼拝を行う際には、12 の条件を実践することがファルドとなります。このファルドのうち 7 つは礼拝外にあり、5 つは礼拝の中にあります。礼拝前のファルドを条件と、礼拝中のファルドをルクン（構成要素）と言います。一部の学者は、タクビールが礼拝中に行われているとしています。それによれば、礼拝の条件も構成要素も 6 つずつとなります。

礼拝前のファルド（条件）

ハデスからの清め：ウドゥーのない人がウドゥーを行い、大汚の状態の人はグスルを行うこと

2. **ナジャーサからの清め**：礼拝を行う人の体、服、そして礼拝

を行う場所を、重大もしくは軽微なナジャーサ（すなわちイスラームにおいて汚いと見なされるもの）から清めること。（例えば、血、尿、アルコールのような物質はイスラームにおいて汚いと見なされます。）
サトゥル・アウラ：礼拝を行う際に覆うべき体の箇所を覆うこと。これはアッラーの命令です。ムカッラフである人、すなわち知性を持ち思春期に達している人について、礼拝時に露出していること、あるいは常に他の人に見せること、他の人が見ることが禁じられた場所のことをアウラの部分と呼びます。男性のアウラはへそから膝下までで、女性は顔と手以外の全てがアウラです。
4．**イスティクバル・キブラ**：礼拝をする際にキブラの方角に体を向けることです。ムスリムのキブラは、マッカの町にあるカーバです。つまりその部分の地上から天に至るまでの空間がキブラなのです。
5．**時間**：礼拝を時間通りに行うことです。すなわち礼拝の時間に入ったことを知ること、行っている礼拝がどの礼拝かを認識していることです。
6．**ニーヤ**：礼拝を行う際に心からそれを意図することです。ただ口に出すことはニーヤとは言われません。礼拝を意図することとは、礼拝の名、時間、キブラを心で念じること、集団で行うのであればイマームに従うことを心で念じることです。ニーヤは最初のタクビールを行う際になされます。タブリークの後で行われるニーヤは有効ではなく、礼拝は認められません。
7．**イフティタフ・タクビリ**：礼拝を始める際に「アッラーフ・アクバル」ということです。この最初のタクビールをイフティタフ・タクビリと呼びます。他の言葉を語ることでこのタクビールを行うことはできません。

礼拝中のファルド（ルクン＝構成要素）

　礼拝を始めてから実行するべき5つのファルドがあります。この5つのファルドのそれぞれをルクン（構成要素）と呼びます。礼拝中のファルドは以下の通りです。

1．**キヤーム**：礼拝を始める際、実行する際に立っていることを

意味します。立てない病人は座って行います。座って礼拝できない人は寝たままで、動作をイメージしながら行います。椅子に座って礼拝をすることは許されてはいません。
2．**キラート**：声に出して読むことを意味します。礼拝で、クルアーンの章もしくは節を読むことです。
3．**ルクウ**：キラートの後、手を膝において体を前に折ることです。ルクウでは少なくとも 3 回、「スブハーナ　ラッビヤル　アズィーム」と呼びます。身を起こす際には「サミアッラーフ　リマン　ハミダ」と唱えます。起き上がったら、「ラッバナー　ラカル　ハムド」と唱えます。
4．**スジュード（サジュダ）**：ルクウの後で地に伏すことです。サジュダは続けて 2 回、手と額と鼻を地面につけることを意味します。サジュダごとに少なくとも 3 回「スブハーナ　ラッビヤル　アラー」と唱えます。
5．**カダーイ・アーヒラ**：最後のラカートでアッタヒヤートを読むまで座位を取ることです。これを最後の座位と呼びます。
　礼拝が重要なことであり、イバーダの中で最も大切であることは、条件がこれだけ多いことからも理解されます。さらに、ワージブ、スンナ、ムスタハブ、マクルーフ、ムフシドもこれらに加えるなら、しもべがアッラーの前にどのようであるべきかが理解できるでしょう。しもべは無力で弱く、哀れな被造物です。あらゆる瞬間に、自らを創造されたアッラーを必要としています。礼拝とは、しもべにその無力さを教えるイバーダなのです。
　この本では、この点に関する知識について順を追って挙げていきましょう。

礼拝の条件

ハデスからの清め：
この項では、ウドゥー、グスル、タヤンムムについて紹介します。

ウドゥーを行うこと：
　ウドゥーを行うことは礼拝のファルドの一つです。クルアーン

を手に取ること、カーバを周回すること、過失のサジュダ（ティラーワのサジュダ）を行うこと、葬儀の礼拝を行うことの為にも、ウドゥーを行うことが必要です。常にウドゥーのある状態であること、ウドゥーのある状態でベッドに入ること、ウドゥーのある状態で飲み食いすることは大きな善行です。

ウドゥーのある状態で亡くなった人にはサワーブが与えられます。預言者ムハンマドは次のように言われました。

「ウドゥーのある状態で死んだ人は、死の苦しみを味わわない。なぜならウドゥーは、信仰を持っていることのしるしである。礼拝の鍵は、体を罪から清めることである。」

「ムスリムがウドゥーを行うと、その罪が耳、目、手、足から落ちる。最後の座位では、許された人として座る。」

「善行のうち最も尊いのは礼拝である。常にウドゥーを保持する人は、ただ信者である。信者は日中ウドゥーを保ち、夜はウドゥーを行って寝るべきである。これによってアッラーの庇護を受けることになる。ウドゥーのある状態で食べ、飲んだ人の腹中では、食べ物や水がズィクルを行っている。腹中に留まっている間中、彼の為に懺悔を行う。」

ウドゥーには、ファルド、スンナ、礼儀、そして禁忌とされるもの、ウドゥーを取り消すものがあります。ウドゥーがないことを知っていながら、強制されるわけでもなく礼拝を行う人は不信仰者となります。礼拝中にウドゥーが無効となった人は、すぐに両側に挨拶を行い礼拝を中断します。時間が過ぎる前にウドゥーを行い、礼拝を最初からやり直します。

ウドゥーのファルド

ウドゥーの義務は、ハナフィー派では 4 つあります。

１．顔を一度水で洗うこと

２．両腕を肘と共に一度水で洗うこと

３．頭の 4 分の一をメスフすること、すなわち濡らした手で撫でること

４．両足をかかとと共に洗うこと

シャーフィイー派によるとニーヤとタルティブもファルドであり、顔を洗う際にニーヤを行う必要があります。水が顔に触れる前にニーヤすれば、そのウドゥーは有効とはならないのです。顔やあごの髭を洗うことはファルドです。マーリキー派では、こすり、洗うことがファルドとなります。シーア派では足を洗わず、はだしの上からメシフを行います。

ウドゥーの行い方

1．ウドゥーを始める際には次のドゥアーを唱えます。
「ビズミッラーヒル・アズィーム、ワルハムド　リッラーヒ　アラー　ディーニル　イスラーム、ワ　アラー　タウフィク　イルイーマーン、アルハムドリッラーヒッラズィー　ジャアラルマータフーラン　ワ　ジェラーレル　イスラーマ　ヌーラン[1]」
　それから、手を肘まで3回洗います。
右手で口に3回水を入れながら次のドゥアーを唱えます。
「アッラーフンマスキニー　ミン　ハウディ　ナビーヤカ　カスアン　ラー　アズマウ　バーデフ　アバーダン[2]」
右手で鼻に3回水を売れ、左手で中を洗います。鼻に水を入れる際には
「アッラーフンマ　アリフニー　ラーイハタル　ジャンナティワルズクニー、ミン　ニアミハー、ワラー　トゥリフニー　ライハタンナール[3]」というドゥアーを唱えます。
掌に水を入れ、額から顎の下、髭まで、顔を洗いながら次のドゥアーを唱えます。
「アッラーフンマ　バイード　ワジュヒ　ビヌーリカ　ヤウマタブヤドゥ　ヴジューフ　アウリヤーイカ　ワ　ラー　トゥサッウィド　ワジュヒー　ビ　ズヌビー　ヤウマ　タスワッドゥ　ウ

[1] 崇高なるアッラーの御名によって始めます。私たちにイスラームの教えを与えられ、信仰を恵まれたアッラーに感謝と称賛を。水を、清める者、イスラームを光とされたアッラーに感謝と称賛を。
[2] アッラーよ、一度飲んだ後、2度と渇きを覚えない預言者の水貯めから私というしもべに一杯飲ませてください。
[3] アッラーよ、私に天国の香りを味わわせてください。そして私に天国の恵みによって糧をお与えください。地獄の香りではなく。

ジューフ　アダーイカ[4]」
左手で右腕を肘まで3回洗う時には、
「アッラーフンマ　アーティニー　キタービ_　ビヤウミニーワ　ハスビニー　ヒサーバン　ヤシーラン[5]」
とドゥアーを唱えます。
右手で左腕を3回、肘まで洗う時には、
「アッラーフンマ　ラー　トゥティニー　キタービ_　ビ　シマーリー　ワ　ラー　ミン　ワラーイ　ザフリー　ワ　ラー　トゥハーシブニ　ヒサーバン　シャディーダン[6]」
とドゥアーを唱えます。
両腕を洗った後、手をもう一度洗い、その水で頭を湿らせながら、
「アッラーフンマ　ハッリム　シャーリー　ワ　バシャリー　アランナール、ワ　アズィラッニー　タフタ　ズィッリ　アルシカラー　ズィッラ　イッラー　ズッル　アルシカ[7]」
とドゥアーを唱えます。
それから右手と左手の人差し指で両耳の穴に水を入れ、親指で耳の後ろを湿らせ、
「アッラーフンマジュアルニー　ミナッラズィーナ　ヤスタミウーナル　カウラ　ファ　ヤッタビウーナ　アフサナフ[8]」
とドゥアーを唱えます。
手の甲で首の後ろを湿らせながら、
「アッラーフンマ　アートゥク　ラカバティ　ミナンナール[9]」
とドゥアーを唱えます。

[4] アッラーよ、あなたの光でワリーたちの顔を白くされたように、私の顔をも白くなさってください。敵の顔が黒くなる日に、私の罪の為に私の顔を黒くなさらないでください。
[5] アッラーよ、私の記録簿を右側からお与えください。私の審判を容易にしてください。
[6] アッラーよ、記録簿を左側から、背後から与えないでください。私の審判を困難なものとなさらないでください。
[7] アッラーよ、私の肉体と髪を地獄に投げ入れないでください。影がない日、私に崇高な玉座で影をお与えください。
[8] アッラーよ、私を、話を聞いて最も良い　ものに従う者としてください。
[9] アッラーよ、私の首を炎から解放してください。

首を湿らせた後、左手の小指で右足の小指から始める形で足の指の間をも洗う形で、かかとと共に右足を 3 回洗いながら、
「アッラーフンマ　サビット　カダマイヤー　アラス　スラートゥ　ヤウマ　タズィッルー　フィヒル　アクダム[10]」
とドゥアーを唱えます。
左足を 3 回洗い、足の指の間を小指で、今度は親指から始め、小指まで洗っていく形で、かかとと共に洗いながら、
「アッラーフンマ　ラー　タトゥルドゥ　カダマイヤー　アラス　スラートゥ　ヤウマ　タトゥルドゥ　クッリ　アカダーミ　アダーイカ、アッラーフンマ　サイー　マシュクーラン　ザンビー　マーフラン　ワ　アマリ　マクブーラン　ワ　ティジャーラティラン　タブーラ[11]」
とドゥアーを唱えます。

　預言者ムハンマドは次のように言われました。「誰であれ、ウドゥーを行った後で天を向いて次のドゥアーと唱えれば、アッラーはその人の罪を許され、受け入れられ、その玉座のもとで庇護される。最後の審判の日にはこのドゥアーを唱えた人はその善行の報償を得る。『スブハーナカッラーフンマ　ワ　ビハムディカ　アシュハド　アン　ラー　イラーハ　イッラー　アンタ　ワフダカ　ラー　シャリーカ　ラカ　アスタグフィルカ　ワ　アトゥーブ　イライカ　アシュハド　アン　ラー　イラーハ　イッラッラー　ワ　アシュハド　アンナ　ムハンマダン　アブドゥカ　ワ　ワスールカ[12]』」
　あるハディースでは、「誰であれウドゥーの後で『インナー

[10] アッラーよ、足が滑る日に、スラート橋で私の足を滑らないものとしてください。
[11] アッラーよ、あなたの敵たちがスラート橋で足を滑らせる日に、私の足を滑らせないでください。アッラーよ、私の努力を認められるものとなさってください。私の罪をお許しください。私の行為をお認めください。私の取引を合法なものとしてください。
[12]アッラーよ、あなたを感謝と共に称え、賞賛します。あなた以外に崇拝されるべき存在はないこと、あなたが唯一であられること、共同で何かを行っている存在は全くないこと、そしてムハンマド（アッラーの祝福あれ）があなたのしもべであり、使者であることを証言します。

アンザルナフー』の章句を一度唱えれば、アッラーはその人を誠実である人として記録する。2 度唱えれば、殉教者として記録される。3 度唱えれば、預言者たちと共に復活する」と言われています。

また別のハディースでは「誰であれウドゥーを行った後で私に対して 10 回祝福祈願を行えば、アッラーはその人の悲しみを取り除かれ、喜ばせられ、ドゥアーを受け入れられる」と言われています。

ウドゥーを行う際、ウドゥーのドゥアーを知らない人は唱えなくても構いません。しかしできる限り急いで暗記し、それをウドゥーの際に唱えるようにすべきです。これは大きな善行です。ウドゥーの最後の方、そしてウドゥーを行った後で「アッラーフンマジュラルニー　ミナッタワービーン、ワジュアルニー　ミナルムタタッヒリーン、ワジュアルニー、ミン　イバーディク　アッサーリヒーン、ワジュアルビー　ミナッラズィーナ　ラー　ハウフン　アライヒム　ワ　ラーフム　ヤフザヌーン」とドゥアーをすることは大きな善行です。

ウドゥーのドゥアーを知らない人は、それぞれの部分を洗う時にカリマ・シャハーダを唱えて大きなサワーブを得るべきです。

あなたに理性があるなら、礼拝を行いなさい
それは幸福の王冠である
礼拝は信者のミーラージュ　であると
知りなさい

ウドゥーのスンナ

ウドゥーのスンナは 18 項目になります。

1. ウドゥーを、「アウーズビッラーヒ　ミナッシャイターニ　ラジーム」と唱えつつ始めること。
2. 手を手首まで 3 回洗うこと。
3. 口を 3 回水で清めること、これを「マズマザ」と呼びます。
4. 鼻を 3 回水で清めること、これを「イスティンシャーク」と呼びます。
5. 眉、髭、あごひげの下に隠れた皮膚を、顔を洗う際に湿らせ

ること。
6. 顔を洗う時、眉の下を湿らせること。
7. あごひげの垂れ下がった部分を湿らせること。
8. あごひげの垂れ下がった部分の中に右手の指を櫛のように入れること。
9. 歯を、何かでこすり、綺麗にすること。ミスワークを用いることは重要なスンナです。
10. 頭のあらゆる部分を一度、湿らせること。
11. 耳を一度湿らせること
12. うなじを、3本の指で一度湿らせること。
13. 手と足の指の間を洗うこと
14. 洗う場所は、3度ずつ洗うこと
15. 顔を洗うときは心からニーヤすること。
16. 順序を守って洗うこと。
17. 洗う部分を十分に手で撫でること。
18. ウドゥーで洗うべき場所を、間隔をあけずに洗うこと。

ウドゥーの徳

ウドゥーの作法は28項目あります。
1.ここでの徳とは、行われることが善行となり、かつ行わなくても罪にはならないものを意味します。しかし、スンナを行うことはスンナであり、行わないことはハラールに近いマクルーフです。この徳のことをマンドゥーブ、もしくはムスタハブとも言います。ウドゥーの徳は次の通りです。
2.礼拝の時間に入る前にウドゥーを行うこと。(差し障りのある状態の人は、時間に入ってからウドゥーを行うことが必要です)
陰部の洗浄を行う際にはキブラが右もしくは左側に来るようにすること。ウドゥーを損なうことを行う際には、キブラが前もしくは後ろに来るようにすることはハラームに近いマクルーフです。
3.ナジャーサ(汚物)が付着していれば水で清めること。
4.水で清めた後、布で拭くこと。
5.洗浄を行う際にはアウラの場所をすぐに覆うこと。
6.他者の助けを求めず、自分でウドゥーを行うこと。
7.キブラの方角に向かってウドゥーを行うこと

8.それぞれの器官を洗う際にカリマ・シャハーダを唱えること。
9.ウドゥーのドゥアーを行うこと。
10.口に右手で水を入れること。
11.鼻に右手で水を入れること。
12.鼻を左手で清めること。
13.口を洗う際にミスワークで歯を清めること。
14.口を洗う時に、断食中でなければ口をゆすぐこと、軽くうがいをすることはウドゥーでもグスルでもスンナです。断食中はマクルーフです。
15.鼻を洗う際には、水を骨の近くまで入れること。
16.耳を湿らせる際に一つの指を耳の穴に入れること。
17.足の指の間を洗う時には、左手の小指で洗うこと。
18.手を洗う時には、緩い指輪であれば動かすこと。きつい、ぴったりした指輪を動かすこ 19.とは欠かせないことであり、ファルドです。
20.水が豊かにあったとしても浪費しないこと。
21.水を、油を塗るかのように少しだけ使うこと。(3 回洗う場所から、少なくとも 2 滴の水がしたたる必要があります)
22.容器の水でウドゥーを行ったのであれば、その容器をいっぱいにしておくこと。
23.ウドゥーが終わった時、あるいはそのなかばで「アッラーフンマジュアルニー　ミナッタワービーン」のドゥアーを唱えること。
24.ウドゥーの後で「スブハー」すなわち 2 ラカートの礼拝を行うこと。
25.ウドゥーがある状態でウドゥーを行うこと、すなわち礼拝を行った後、まだウドゥーがあるうちに、次の礼拝の為にもう一度ウドゥーを行うこと。
26.顔を洗う時にまぶたやまつげを清めること。
27.顔、腕、足を洗う際、ファルドである場所よりも少し広い範囲を洗うこと。(腕を洗う際、手のひらに水を一杯に満たし、それを肘までかけるべきです)
28.ウドゥーを行う時には、使った水を服や体、頭に撥ねさせな

いこと。
自らの学派でマクルーフではなく、他の学派ではファルドであるものがあれば、それを行うことはムスタハブです。

ウドゥーを行う際に禁じられている事柄

ウドゥーを行う際にやってはいけない事柄は 12 個あります。これらを行うことはハラームもしくはマクルーフです。
1.野外でウドゥーを損なうようなことをする場合には、キブラの方角を前もしくは後ろにしないこと。
2.陰部の洗浄の為に他者の前でアウラの場所を見せることはハラームです。
3.右手で洗浄を行ってはいけません。
4.水がない時に、食べ物で、肥料で、骨で、動物のエサで、炭で、そして他の人の持ち物で、植木鉢で、タイルのかけらで、葦で、葉で、あるいは布や紙で洗浄を行うことはマクルーフです。
5.ウドゥーを行う際に水槽につばを吐いたり、鼻水を入れたりしてはいけません。
6.ウドゥーの場所を、その範囲よりも過度に広く、あるいは狭く洗ってはいけません。あるいは 3 回よりも少なく、もしくは多く洗ってはいけません。
7.ウドゥーの場所を、洗浄で用いた布で拭いてはいけません。
8.顔を洗う時には、水を顔にかけるのではなく、額の上から下方に向けて流すべきです。
9.水に息を吹きかけてはいけません。
10.口と目をきつく閉じてはいけません。唇の外から見える部分と瞼に、湿らされていない箇所がわずかでも残っていれば、ウドゥーは有効となりません。
11.右手で鼻を洗ってはいけません。
12.頭、耳、うなじの一つ一つについてはそのたびごとに手を濡らし、一度以上まとめて湿らせてはいけません。毎回濡らすことなく繰り返すことができます。

ミスワークを用いること：ウドゥーを行う際にミスワークを用いることはムアッカダのスンナです。ハディースでは、「ミスワー

クを用いてから行われる礼拝は、ミスワークを用いないまま行われる礼拝よりも 70 倍崇高である」とされています。

「シラージュ・ウル・ワッハージュ」という書物では、ミスワークを用いることに 15 の効用があることが示されています。

1.死の瞬間に、シャハーダの言葉を唱える要因となります。
2.死肉を強くします。
3.痰を取り除きます。
4.胆汁酸を止めます。
5.口内の痛みを取り除きます。
6.口臭を取り除きます。
7.アッラーが喜ばれます。
8.頭部の欠陥を強めます。
9.シャイターンが恐れます。
10.目が輝きます。
11.善行が増します。
12.スンナに従って行動したことになります。
13.口がとても清潔になります。
14.美しい言葉を話すようになります。
15.ミスワークを用いて行われる 2 ラカートの礼拝のサワーブは、ミスワークを用いずに行われる 70 ラカートの礼拝よりもなお多くなります。

ミスワークは、アラビア地方に育つアラックという木の枝です。まっすぐな枝の先端から 2 センチ余りの部分の皮をむき、ここを 2 時間ほど水につけておきます。それからそれをつぶすと、ブラシのように開きます。アラックの木がなければ、オリーブの木で作られます。女性はミスワークの代わりに、ミスワークを用いるというスンナをニーヤしつつ、樹脂を用いるべきです。

ウドゥーを行う際に注意すべき事柄

やむを得ない事情がない限り、以下の 10 の事柄に重きを置く必要があります。

1.両腕に支障がある場合は、タハーラは行えません。腕を土に、顔を壁につけてタヤンムムを行います。顔にも傷がある場合は、

礼拝をウドゥーのない状態で行い、礼拝を放棄することはしません。
2.病気である人には、その妻、女奴隷、子供、兄弟がウドゥーを行わせます。
3.石やそれに類したものでタハーラを行うことは、水の代わりとなります。
4.精神疾患がある、もしくは気絶した人が24時間以内に意識を取り戻さなければ、復活した場合もカダーは行いません。寝ながらイメージに依って礼拝することもできない重病が 24 時間以上継続した人は、知性が伴っていたとしても礼拝は免除されます。
5.トイレに入る為に、専用のシャルワールを着用すること、頭を覆って入ることはムスタハブです。
6.トイレに入る際、手にアッラーの御名やクルアーンが書かれたものを携えていてはいけません。何かに包まれた状態が、ポケットの中に入れておくべきです。
7.トイレには左足から入り、右足から出るべきです。
8.トイレではアウラの箇所を十分に開くべきです。また話してはいけません。
9.アウラの箇所と汚物をみてはいけません。またトイレにつばを吐いてはいけません。
10.あらゆる水、モスクの壁、墓、道に排泄を行ってはいけません。

ウドゥーを無効とする事柄

7つの事柄はウドゥーを無効とします。
1.体の前後から出るもの
2.大小の排泄とおなら
3.浣腸器具の先端や人の指が肛門に出し入れされ、周囲が湿った場合、ウドゥーは無効となります。乾いたままの場合も、再びウドゥーを行うことがなお良い　です。
4.男性及び女性が、尿をこぼさない為に置いた綿の外側の部分が湿った場合は無効となります。
5.口から出る汚物、口いっぱいの嘔吐、つばを吐いた時に血がつばより多く混じった時、胃や腸から来る液状の血は、イマーム・

アザームによると少量でもウドゥーを無効にします。
6.耳に入れられた油が口から出た時にはウドゥーが無効になります。
3. 皮膚から出るもの
A) 血や膿、黄色の液体がそれだけで出た場合。
B) 天然痘患者、及びあらゆる吹き出物から出る血液、膿がグスルの際に洗うべき場所に広がった場合、例えば鼻血が骨を浸透した場合、耳から出る血が、耳の穴から出た場合。
C) 吹き出物や傷の血、膿を綿に吸わせた時。
D) ミスワークやつまようじの血が口に入った場合。
E) 耳、へそ、乳首から痛みもしくは病気により液体が出ている場合。
F) ヒルが大量の血を吸った場合
以上の場合には、ウドゥーが無効となります。

眠ること
　横になって、あるいは肘をついて、あるいは何かにもたれて眠った時には、ウドゥーが無効となります。
気絶すること、発狂すること、てんかん発作を起こすこと、歩くときに揺れてしまうくらい酔うことはウドゥーを無効とします。
ルクウやサジュダを伴う礼拝で声を出して笑うことは、礼拝もウドゥーも無効とします。しかし子供の場合は無効とされません。
礼拝の際の微笑は、礼拝もウドゥーも無効とはしません。他の人がその声を聴いた時には「声を出して笑う」と判断され、声を聞かなかった場合は「微笑」とされます。
裸になり、醜い場所に手を触れることは男性でも女性でもウドゥーを無効とします。
　ウドゥーを行ったことを認識しており、その後、無効になった不安があれば、ウドゥーはあると認められます。ウドゥーが無効となったことを認識し、それからウドゥーをしたかどうか不安になった場合は、ウドゥーを行うことが必要です。

ウドゥーを無効としない事柄
　以下の事柄はウドゥーを無効とはしません。

口、耳、皮膚の傷から出たウジ虫。
痰を吐くこと。
血を吐いた時に出た血が、つばよりも少ない場合。
歯から出た血が、つばよりも少ない場合。
頭からでる固まった血（量が多い場合も）
血や腸から出る固まった血が、口いっぱいよりも少ない場合。
耳に入れられた薬が耳もしくは鼻から出た場合。
鼻に吸い込まれたものが何日も後に鼻から出てきた場合。
何かを噛んだ時に、そこに血が付いた場合。
痛みがなく、何らかの原因で泣いた時、あるいは玉ねぎ、煙、ガスなどの影響で涙が出た場合。
女性が子供に授乳した場合。
大量であっても、汗をかいた場合。
ハエ、カ、ノミ、ワラジムシのような虫が大量に刺した場合。
少量であり広がらない血、もしくは口いっぱいにはならない程度の嘔吐。
眠っている時、もたれているものを取り除いても寝ている人が倒れない場合。
礼拝中に眠ること。
膝を揃え、頭を膝の上において眠った場合。
足を一方に引いて、座ったままで眠ること。
裸の動物の上で眠り、動物が坂を昇っているか、平らな場所を進んでいる場合。
礼拝中に微笑むこと。
礼拝中に笑ったことを自分だけが聞いた場合、「ダフク」と呼ばれます。ダフクは礼拝のみを無効とします。
髪、ひげ、あごひげ、爪を切ること。
傷口のかさぶたがはがれること。
以上の場合には、ウドゥーを無効とはしません。

ウドゥーの為の容易さ（メストもしくは傷口の上からのマスフ）

　マスフとは、撫でることを意味します。メストには２種類あります。
メストの上からのマスフ

メストは、足の洗うべき部分を覆う、水を通さない靴を意味します。メストが大きく、指がメストの端にまで届いていない場合、マスフが何もない場所になされる場合は、それは認められません。メストは、一時間道を歩いても足から外れない位、きっちりとして足にフィットしていることが必要です。

足の裏と足の甲、もしくは足の裏だけが皮で覆われた靴下の上からマスフを行うことは認められています。

伸びておらず、歩くときに下に落ちない靴下の上からマスフを行うことも認められています。

メストは、ウドゥーを無効とするものが足につくことを防ぐものです。足を洗った後、メストを着用すること、それからウドゥーを行うことは認められています。

マスフはメストの上から行われます。メストの下、すなわち足の裏はマスフすることはありません。

スンナに従ってマスフをする為には、右手の親指を右のメストの上に、左手の指を左手のメストに沿わせ、足の指の方から足首の方へと引きます。手のひらはメストに触れさせません。マスフは3本の手の指の幅、そして長さがあることがファルドです。

マスフは手の外側で行うことも認められていますが、内側で行うことがスンナです。

濡れた草の上を歩くこと、あるいが雨によってメストの表面が濡れれば、マスフと見なされます。

メストの上からマスフできる時間は、定住者の場合 24 時間です。旅行者の場合は 3 日 3 晩、すなわち 72 時間です。この時間は、メストを着用した時からではなく、メストを着用後にウドゥーが無効になった時から始まります。メストを着用した人のウドゥーが無効となってから 24 時間以内に旅に出る場合、このメストで 3 日 3 晩マスフすることができます。旅行者であったのが定住者となり、それから 24 時間が経過しているのであれば、メストを脱ぎ、足を洗ってウドゥーを行います。

足の指 3 本分が入るほどの破れがあるメストの上からマスフを行うことが認められません。破れがそれより小さければ、マスフは認められます。一つのメストの数か所に小さな破れがある場合は、これらを合わせた時に 3 本の指ほどになるのであれば、これ

でマスフを行うことは認めらせません。一つのメストに指 2 本分、もう一つのメストにも指 2 本が見えるほどの破れがある場合、これでマスフを行うことは可能です。マスフが認められない破れとは、3 本の指の先端のみではなく、全てが見えるものです。

傷や包帯の上からのマスフ

傷、吹き出物、皮膚のひび割れ、あかぎれなどの上から、あるいはそこに塗られた軟膏、綿、ガーゼ、絆創膏、包帯といったものを外すこと、取り除くことが傷にとって有害であれば、その上からマスフを行います。

差し障りがある人であれば、礼拝の時間を問わずいつでもウドゥーを行うことができます。ここで得られたウドゥーで、好きなだけのファルドとナーフィラの礼拝を行い、クルアーンを読みます。礼拝の時間が過ぎるとウドゥーが無効になります。礼拝の時間になってから新たにウドゥーを行い、この時間が過ぎるまで、あらゆるイバーダを行うことができます。

差し障りがある状態となる為には、ウドゥーを無効とする事柄が継続的に存在していることが必要です。つまり、何らかの礼拝の時間の中でウドゥーを行い、ファルドの礼拝を行うだけの時間であってもウドゥーを維持することができない人は、差し障りがあるという状態になります。差し障りがある人の「差し障り」は、次のそれぞれの礼拝の時間内で一度でも、少しでもみられる場合、その差し障りが継続していると見なされます。

グスル

礼拝が正しいものとなるために、ウドゥーとグスルが正しいものであることが必要です。ジュヌーブ（性交や夢精により洗浄が必要な状態）の男女、または月経や産褥の状態から抜け出した女性が、礼拝の時間の終わりまでの間にその礼拝を行うだけの時間がある場合、グスルを行うことが必要です。

預言者ムハンマドは次のように言われました。「グスルを行おうとしている人に、その毛の数だけ（すなわち、非常に多くの）サワーブが与えられる。たくさんの罪が許される。天国での位階

が高められる。グスルの為に彼に与えられるサワーブは、この世界にある全てのものよりもなお尊い。アッラーは天使たちに、『このしもべを見なさい、夜、嫌がらずに起き、私の命令を考え、ジュヌーブの状態からグスルを行っている。証人になりなさい、私はこのしもべの罪を許した』と言われる。」

別のハディースでは、「穢れた時にすぐにグスルを行いなさい。なぜならキラーマン・カーティビーンの天使たちはジュヌーブの状態の人に傷つく」と言われました。イマーム・ガザーリーは次のように言われました。「誰かが、夢で私に言った。『私は一定の時間、ジュヌーブのままだった。今、私は火のシャツを着せられている。いまだに炎の中にいる。』」

別のハディースでは、「家、犬、そしてジュヌーブの状態の人がいる家には、慈悲の天使は入らない」と言われています。

礼拝を行う、あるいは行わない人でも、一つの礼拝の時間をジュヌーブの状態で過ごせば、厳しい罰を受けます。水で洗うことが不可能であれば、タヤンムムを行うべきです。ジュヌーブである人は次のことを行うことができません。

どの礼拝も行うことはできません。

クルアーンやその章句に手を触れることはできません。

カーバの周回を行うことはできません。

モスクや礼拝所に入ることはできません。

グスルのファルド

ハナフィー派によると、グスルのファルドは3つあります。

口の中を洗うこと。口の中に、針の先ほどでも濡らされていない場所が残れば、歯の上や歯の穴が濡らされなければ、グスルにはなりません。

鼻を洗うこと。鼻の中にある乾いた汚れの下まで、あるいは口の中にある噛まれたパンの下まで水が通らなければ、グスルにはなりません。ハンバリー派では、口と鼻を洗うことはウドゥーでもグスルでもファルドです。シャーフィー派では、グスルを行う際にニーヤをすることがファルドです。

体の全ての部分を洗うこと。へその中、ひげ、まゆ、口ひげ、その下の皮膚、そして髪を洗うことがファルドです。爪、唇、まぶ

た、あるいは体のどこかに水が通っていない物質があれば（例えば、爪にマニキュアがあれば）グスルを行ったことにはなりません。

グスルのスンナ
まず手を洗うこと。
陰部を洗うこと。
体全体を汚れから清めること。
グスルより前にウドゥーを行うこと、顔を洗う際にグスルをニーヤすること。シャーフィー派ではニーヤを行うことはファルドです。
全身を3回、手でこすりながら洗うこと。
全身を洗った後で、両足を洗うこと。

グスルの行い方
スンナに従ったグスルは、次のように行われます。
まず、綺麗であったとしても、両手と陰部、そして体の中で汚れがある部分を洗います。
それから、完全なウドゥーを一度行います。顔を洗う時にはグスルをニーヤします。足の下に水がたまるのであれば、足も洗います。
それから全身に3度水をかけます。まず3度頭に、それから右肩に、それから左肩にかけます。水をかけるごとに、その部分が完全に濡れる必要があります。一度目にかけた時にはそこをこすります。
　グスルで一つの部分にかけられた水が他の部分に流れた場合、その部分も清められます。なぜならグスルでは全身が一つの部分と見なされるからです。ウドゥーの際には、ある部分にかけられた水が他の部分に流れた場合、洗ったことにはなりません。グスルが完了した後、再びウドゥーを行うことはマクルーフです。しかしグスルを行っている時にウドゥーが無効となれば、再びウドゥーを行うことが必要です。

詳細（詰め物やかぶせ物をした歯がある人）

ハナフィー派では、歯の間や歯の穴が濡らされなかった場合、グスルは完了しません。この為、歯にかぶせ物をしたり、詰め物をしたりした場合は、グスルは正しく行われません。人はジュヌーブの状態から逃れられなくなります。金、銀、そして穢れていない他の物質でできたかぶせ物、詰め物の下に水が通らない場合、ハナフィー派の学者の全てによると、グスルは認められません。

タフタウィーは「マラークル・ファラーフ」の注釈、96ページで、さらにはその翻訳文である「イスラームの恵み」という本で、次のように記しています。

ハナフィー派の人は、自分の属する学派ではできないことを実行する為に、シャーフィー派に従うことができます。「バフル・ウル・ラーイク」と「ナフル・ウル・ファーイク」という書物でもそのことが書かれています。しかしそれを行う際には、その学派の条件にも従うことが必要です。努力、苦労をせず、条件に従うこともなく真似をすることは「ムラッフィク」と呼ばれ、簡単なものばかりを集めるという意味になります。これは認められるものではありません。

自分の属する派で、何らかのファルドを行うことができない人は、このファルドを行う為だけに、他の学派の模倣をするべきです。しかし、それを行う際には、模倣したその派の条件にも従うべきです。かぶせ物や詰め物をしているハナフィー派の人は、マーリキー派もしくはシャーフィー派を模倣する為に、グスル、ウドゥーを行う際、礼拝をニーヤする際、イマーム・マーリクもしくはイマーム・シャーフィーに従うことを思い出すことが必要です。つまりグスルを始める際、「グスルを行うこと、マーリキーもしくはシャーフィー派に従うことをニーヤしました」という言葉を心で唱えた人のグスルは、正しいものとなります。ジュヌーブの状態から逃れ、清められるのです。マーリキーもしくはシャーフィーの学派に従うことで、ウドゥーと礼拝が正しいものとなります。かぶせ物や詰め物をしていない人々の前で礼拝を先導することもできます。

シャーフィー派の模倣をする人は、イマームの後ろでファーティハ章を読むこと、自分もしくは他者の陰部に手の平で触れた

時、そして婚姻することがハラームである 18 通りの女性を除く女性の皮膚に自分の皮膚が触れた場合にはウドゥーを行い、またウドゥーではニーヤを行い、わずかな汚れでも避けることが必要です。クルアーンに触れる際にはシャーフィー派に従ってウドゥーを行うことが必要です。ハナフィー派である旅人がシャーフィー派を模倣してズフルとアスルの礼拝をずらして一緒に行う為には、シャーフィー派に従ったウドゥーを行うことが必要となるのです。

女性の月経と産褥

グスルには、11 種類があります。このうち 5 つはファルドです。このうち 2 つは、女性の月経や産褥が終わった時に行うものです。

イブニ・アービディーンは「マンハル・ウル・ワーリディーン」という書物で次のように語っています。

法学者の総意によって、全てのムスリムの男女がイルミハルを学ぶことがファルドであることが示されています。全てのムスリム女性が月経や産褥についての知識を得ることはファルドです。全てのムスリム男性は、結婚する際に月経や産褥について学ぶことが必要です。結婚したら妻にも教えるべきなのです。

月経とは、8 歳を満了し、9 歳になった健康な少女、もしくは月経期間の最後の瞬間から 15 日が経った女性に生じる、少なくとも 3 日間続く出血を意味します。

白色以外のあらゆる色、そして濁ったものを月経の血と呼びます。女の子は、月経が起こるようになると思春期に達したことになり、女性と見なされ、イスラームの教えや命令に従う責任を負います。血が見られた瞬間から見えなくなった日までの日数を生理期間と呼びます。この期間は最短で 3 日、最長で 10 日です。女性それぞれが自分の生理期間や時間を把握することが必要です。8 歳を満了した女の子には、母親や、もしいなければ祖母や姉、叔母などが、月経や産褥についての知識を教える必要があります。

ニファースとは産褥のことであり、産後の女性に見られる出血を意味します。この出血の最短期間というものはありません。出

血が止まり次第すぐにグスルを行います。最長期間は 40 日となります。40 日が過ぎれば、出血が止まっていなくてもグスルを行って礼拝を開始します。40 日以降に出る血はイスティハーザ、すなわち「差し障り」となります。女性は産褥の日についても覚えておく必要があります。

イスティハーザは、3 日すなわち 72 時間から 5 分でも短い出血、あるいは新しく始まった人については 15 日、それ以外の人については 10 日を超える出血、そして妊婦や 55 歳以上の女性、9 歳以下の女の子に見られる出血です。これらの出血は病気のしるしです。長い期間続く場合は危険であり、医者に行くことが必要です。

イスティハーザの状態の女性は、しばしば鼻血が出る人と同様に、その状態で礼拝を行い、断食をすることもできます。

月経、産褥状態にある女性は礼拝ができず、断食をすることもできません。過失のサジュダ、感謝のサジュダを行うこともできません。クルアーンに触れることはできません。モスクや礼拝所に入ることはできません。その状態が終われば、断食をカダーしますが、礼拝のカダーは行いません。女性は月経がはじまったことを夫に知らせることが必要です。預言者ムハンマドは、「月経がはじまったこと、終わったことを夫から隠す女性は呪われる」と言われました。月経や産褥の出血が止まれば、すぐにグスルを行って洗浄することがファルドです。これはアッラーのご命令です。

婚姻の終わり、すなわち離婚の要因となる多くの言葉があります。信仰が失われることを恐れるように、婚姻が終わることをも深く恐れるべきです。「イルミハル全集」の 585 ページを参照してください。

アッラーはその報復を、やはりしもべによって行われる
知らない者は、しもべがやったと考える
全ての物質は創造主のものであり、しもべの手を通して営まれる
アッラーのご命令がない限り、ごみですら微動だにしない

タヤンムム

タヤンムムとは、土で清めることを意味します。ウドゥーを行

う、もしくはグスルを行う為の水が見つからない場合、あるいは水があったとしてもそれを用いることが不可能である場合、きれいな土、砂、レンガ、石のような、土に属する清潔なもので、ハナフィー派においては礼拝の時間に入る前にもタヤンムムを行うことができます。それ以外の学派では礼拝の時間の前に行うことは認められていません。

タヤンムムはウドゥーやグスルを容易にするための規定です。イスラームでは、土で行うタヤンムムも、水での清浄のようであると見なされます。イスラームは多くの汚れが土によって清められることを明白に教えています。

タヤンムムを必要とする状態は主に次のようなものです。

1．ウドゥーやグスルの為の水が見つからないこと（町の中では常に水を探すことがファルドです）。
水を用いる事の妨げとなる病気、水を使った場合にその冷たさから死亡する、もしくは病気になる危険があること。
水のそばに敵、もしくは獰猛な、あるいは毒を持った動物がいること。
牢獄におり、水を使えないこと。
死を以て脅迫されること。
旅行者であり、飲用水以外携えていないこと。
井戸から水を汲むことができないこと。

タヤンムムのファルド

タヤンムムのファルドは3つです。ウドゥーを行う為とグスルを行う為のタヤンムムは同じです。ただニーヤが異なります。ウドゥーの為になされるニーヤでグスルをおこなうことはできません。同じタヤンムムがグスルの為にも有効となる為には、グスルの為にニーヤをすることが必要です。

1.ニーヤを行うこと。
2.両手を清潔な土につけ、顔全体を撫でること。
3.手を清潔な土につけ、まず右、それから左の腕を撫でること。

タヤンムムのファルドは2つであると言う人もいます。2つめと3つめのファルドを一つのファルドとして見なしているのです。どちらも正しいものです。

タヤンムムのスンナ
バスマラによって始めること。
土に手のひらをつけること。
手のひらを土の上で前後に動かすこと。
手のひらに土がついていれば、それがなくなるまで両手を親指も含めて叩き合わせること。
手を土に置く時には指を開くこと。
まず顔、それから右腕、それから左腕を湿らせること。
ウドゥーを行うように、迅速に行うこと。
腕や顔に触れられていない場所を残さないこと。
タヤンムムより前に、考えられる場所で水を探すこと。
手を土に、叩きつけるように強く置くこと。
腕を、上記の通りに湿らせること。
指の間を湿らせること、それを行う際には指輪を動かすこと。

タヤンムムで注意すべき事柄
ウドゥーのない人が、生徒に示す目的でタヤンムムをした場合は、それで礼拝を行うことはできません。
タヤンムムに依って礼拝を行う為には、ただタヤンムムをニーヤするだけでは不十分です。礼拝についてもニーヤする必要があります。
一か所の土で数人がタヤンムムを行うことができます。なぜならタヤンムムがなされる土やそれに類するものは使用済みとはならないからです。タヤンムムが終わってから、手や顔から落ちた土は使用済みのものとなります。
シャーフィー派やハンバリー派では、タヤンムムはただ土でのみ行われます。他の学派では、土と同じような種類である清潔なものであれば、これらの粉はなかったとしても、タヤンムムは行えます。燃えて灰になる、もしくは熱で溶けるものは土の種類ではありません。従って、木、草、板、鉄、米、ペンキ、塗装された壁、銅、金、ガラスなどでタヤンムムはできません。砂ではできますが、真珠や珊瑚ではできません。石灰、漆喰、磨かれた大理石、セメント、素焼きのタイル、素焼きの陶器、陶磁器、泥では行うことができます。ただ泥しかなく、水が半分以下であれば、

それでタヤンムムを行うことができるのです。
一つのタヤンムムで数種類の礼拝を行うことは認められません。
2キロ以下の距離のところに水があるという兆候が認められる、あるいは知性を持ち成熟した公正なムスリムの報告によって強く期待できる場合、旅行者はあらゆる方向に200メートル進み、あるいは誰かを派遣してそれを探すことがファルドです。期待できない場合は水を探すことは不要です。
誰かが、水の有無を訊ねずにタヤンムムを行って礼拝を行い、後でそばにいる公正な人から水が存在することを聞いた場合、ウドゥーを行って礼拝をやり直します。
2キロ以上遠くに水がある時には、タヤンムムで礼拝を行うことが認められます。
荷物の中に水があることを忘れた人は、町や村にいるのでなければ、タヤンムムで礼拝を行うことができます。
水が終わったと思い込んだ人が、礼拝の終了後に水があることに気が付いた場合、タヤンムムで行った礼拝をやり直します。
旅行者が近くにいる人に水を求めることは認められています。彼らが水を与えないのであれば、タヤンムムで礼拝を行います。友達がその水を市場での値段で売るのであれば、余分なお金を持つ旅行者はそれを購入することがファルドです。その持ち主が高値で売るのであれば、タヤンムムで礼拝を行うことが認められます。市価であってもそれを買うだけの余分のお金がなければ、やはりタヤンムムを行います。
砂漠では、道中に飲む為の水がある状態で、タヤンムムを行うことができます。
水が少なければジュヌーブである人が優先され、月経中の女性、ウドゥーのない人、遺体よりも先に洗われます。持ち主が別々である水を一か所に集めたのであれば、まず遺体が洗われます。
ジュヌーブである人は、タヤンムムを行った後でウドゥーが無効になった場合、ジュヌーブの状態とはなりません。水が少しあれば、ただウドゥーを行います。
ジュヌーブである人の体表の半分以上が傷、もしくは天然痘、はしか等であれば、タヤンムムを行います。皮膚の多くが健康な状態であり、傷の部分を濡らすことなく洗浄することが可能であれ

ば、グスルを行います。傷の部分を濡らすことなく洗浄することが不可能であれば、タヤンムムを行います。

タヤンムムはどのように行うか

まず、ジュヌーブである状態、もしくはウドゥーのない状態から清められる為にニーヤをします。

タヤンムムで礼拝を行う為には、ただタヤンムムにニーヤをするだけでは不十分です。イバーダである何か、例えば葬儀の礼拝、過失のサジュダを行う為に、もしくはグスルの為にタヤンムムを行うなどとニーヤすることが必要です。

タヤンムムをニーヤする際には、ウドゥーとグスルを区別することが必要です。ジュヌーブの状態から清められることをニーヤする人は、タヤンムムを行ったことで礼拝をすることはできません。ウドゥーの為にもう一度タヤンムムが必要です。

肘より上の部分まで袖をまくって両腕を出し、両手のひらを清潔な土、石、石や漆喰で覆われた壁につけ、少なくとも 3 本の指を触れさせ、両手のひらで顔を撫でます。針先ほどの場所であれ手のひらの触れていない箇所があれば、タヤンムムは無効となります。

顔に完全に触れる為に、手を広げ、4 本の指を揃え、両手の長い指の先を互いに触れさせ、手のひらを髪の部分に置き、あごへと少しずつ下ろしていきます。指を水平にして額、まぶた、鼻の両脇、唇と顎の顔側の部分に十分に触れていきます。この時、手のひらは頬に触れています。

両手を再び土につけ、手をはたき、砂や土をはたいた後、まず左手の 4 本の指の腹で右腕の下側を、指の先から肘へと触れさせます。それから左手の親指の腹で右の親指の外側に触れます。指輪は外します。それから同様に右手で左腕を触れます。手のひらを土につけることが必要なのであり、土や砂が手につくことは必要事項ではありません。

タヤンムムは、ウドゥーとグスルで同じ手順です。

タヤンムムを無効とする事柄

タヤンムムを必要とする特別な状況がなくなったり、水が見つ

かったりした場合、そしてウドゥーやグスルを無効とする状態となった場合、タヤンムムも無効となります。

ウドゥー、グスル、タヤンムムの効用

イバーダの目的で行われる清浄は、体の健康増進にも効果的です。肉体的な効用と共に、精神的な面からも多くの効用があります。確認されている無数の効用のうちいくつかを、次のように列挙ことができます。

日常世界において、私たちの手が触れない場所はなく、即ち無数の細菌と接触していると言えるでしょう。ウドゥーを行う際に手、顔、足を洗うことは、皮膚病や炎症の最善の予防策です。というのも、細菌、寄生虫、バクテリアの一部は、皮膚を通して体に取り込まれるためです。

気管支系の門番である鼻を洗うことで、砂や細胞の塊が体に入ることを防ぎます。

顔を洗うことは皮膚を強くし、頭痛や疲労感を和らげ、血管や神経を活発化させます。継続的にウドゥーを行う人が年をとっても顔の美しさを失わないのはその為です。

ジュヌーブの要因となる行為では、大きなエネルギーが費やされ、心拍や脈拍が早まります。体が過度に働くことによって、疲労感、だるさ、脱力感、緩みなどが生じます。グスルによって体が本来の生気を取り戻すことができます。

通常、私たちの体には静電気のバランスがあります。体の健康はこの電気バランスと密接な関係があります。このバランスは、心理的緊張、気候条件、服装、生活、仕事、そしてグスルを必要とする状況によって崩れます。この電気的な負荷は、怒りに満ちている状態では通常時の 4 倍、グスルを必要とする状態では 12 倍となります。近年、赤外線によって特殊な方法で外皮を撮影することが可能となり、それによると性的交渉後は全身の体表が過度の静電気層で覆われていることが確認されています。この層は、皮膚が酸素をやりとりすることを妨げ、皮膚の変色やしわの原因となります。この状態から脱する為に、針先ほどの場所すら残さず、全身をくまなく洗うことが必要なのです。これによって水の粒子が不要な静電気を取り去り、体を以前の状態へと戻すので

す。この観点から、グスルは医学的にも必ず実行されるべき清浄なのです。
ウドゥーやグスルは、循環系にも肯定的な影響を与えます。血管の硬化や狭窄を防ぎます。ウドゥーは部分的に刺激を与えることが可能で、リンパ系は、最も重要な中枢の一つである鼻の後ろと扁桃腺を洗うことによって刺激されます。さらに首やその側面を洗うことによってもリンパ系に影響を与えることができます。ウドゥーとグスルによってリンパ循環の流れが改善され、リンパ球と呼ばれる戦う細胞が体を有害な物質から守り、体の抵抗力を高めます。
水がない時に土で行われるタヤンムムも、体の静電気を大きく消失させます。

ナジャーサからの清め（タハーラ）

体、衣装、礼拝をする場所に、ナジャーサ、即ち汚れがないことを意味します。スカーフ、かぶりもの、ターバン、マスト、サンダル等も衣装とみなされます。首に巻いたマフラーの先端の部分も、礼拝をしている人と共に動く為に衣装と見なされ、それが清潔でない場合の礼拝は認められません。敷物は、踏んでいる場所と頭をつける場所が清潔であれば、他の場所に汚れが付いていても礼拝は認められます。なぜなら敷物はマフラーのように体と一体化はしていないからです。しかし、蓋付きの瓶に入った尿を携えている人の礼拝は認められません。なぜなら、ビンは尿が作られる場所ではないからです。（ここから、密閉された香水、エチルアルコール、ヨードチンキのビン、もしくは閉じられた箱に入っていた血のついたティッシュ、汚れた布などがポケットに入っていれば、礼拝を行うことは認められないということがわかります。）両足が踏む場所、そしてサジュダを行う場所が清潔であることが必要です。汚れの上を覆う布、ガラス、ナイロンの上での礼拝は認められます。サジュダで服の裾が渇いた汚れに触れても、害はありません。

皮膚、衣装、礼拝を行っている場所で、「ディルハムの量」、もしくはそれ以上の大きな汚れがなければ礼拝は認められます。しかしディルハムの量があれば、ハラームに近いマクルーフとなり

ます。それを洗うことはワージブです。ディルハムよりも多ければ、洗うことはファルドとなり、少なければ、スンナです。アルコールの滴についても、洗うことがファルドとなります。イマーム・アブー・ユースフとイマーム・ムハンマドによるなら、そしてその他の 3 つの学派によるなら、全ての大きな汚れは、その微粒子であれ洗うことがファルドです。ナジャーサの量はそれが接触した時点ではなく、礼拝を行う時点の量となります。

ディルハムの量とは、固形の汚れであれば１ミスカル、すなわち４．８グラムの重さになります。液体の汚れであれば広げた手のひらに入る水の表面だけの面積です。１ミスカルよりも少ない固形の汚れが、手のひらよりもより広い面積に広まって服についていたとしても、礼拝を妨げることはありません。

ナジャーサには 2 種類あります。

大きいナジャーサ：人から排出された際にウドゥーやグスルへの要因となる全て、肉を食べることのない動物（蝙蝠以外）の、剥がれて鞣された皮、肉、糞、尿。それから、人、家畜、羊やヤギのものを含む全ての動物の糞は大きなナジャーサとなります。

小さいナジャーサ：小さいナジャーサであるものが、身体の部位や衣装の一部についた場合、この部分もしくは部位の４分の１までは礼拝に害を与えません。食用肉とする種の 4 本足の動物の尿、食用肉としない種の鳥の糞は小さなナジャーサです。ハト、スズメといった食用肉とする種の鳥の糞は、きれいなものとされます。

ワインの蒸溜によって作られたラク、エチルアルコールも大きなナジャーサであり、ワインと同様ハラームです。礼拝を行う際には、血、エチルアルコールやアルコール飲料を服や肌から洗い、取り除く必要があります。蒸発することによっては清められません。これらが入っているビンやそれに類するものはポケットから取り出さなければなりません。

ナジャーサは、清潔な水、ウドゥーやグスルを行った水、酢やバラ水のような液体で清められます。ウドゥーやグスルに用いられた水はムスタマルの水と呼ばれ、清潔です。ただ、根本的に清めるものではありません。これによって汚れを落とすことはできます。しかし、ウドゥーを行ったりグスルを行ったりすることは

できないのです。

イスティンジャー：前後から排泄物が出た時、その場所を清めることをイスティンジャーと言います。イスティンジャー、すなわちタハーラは、ムアッカダのスンナです。つまりトイレでウドゥーが無効になった後、男性、女性が石や水で前後を清め、尿や便を残さないことはスンナです。しかし、その場所が他人のいるところであり、アウラの場所を露出して水でイスティンジャーを行うことができないのであれば、汚れがひどかったとしてもイスティンジャーは断念します。アウラの場所を露出することはしません。そのままで礼拝を行います。露出した場合は大きな罪、ハラームを犯したことになります。人の気配のない場所を見つければ、水でイスティンジャーを行い、礼拝をやり直します。なぜなら、一つの命令を実行することがハラームを行うことの要因となるのであれば、ハラームを行わない為、その命令は延期されるか、放棄されて実行されないかのどちらかとするからです。

骨、食料、肥料、レンガ、植木鉢、ガラス片、炭、動物のエサ、他者の持ち物、そしてお金になり得るもの、例えば絹、モスクから出された物資、ザムザムの水、葉、紙でイスティンジャーを行うことは、ハラームに近いマクルーフです。無地の紙であれ、尊重することが必要です。お金になる可能性がないもの、宗教的に無益な文章が書かれた紙、そして新聞でイスティンジャーを行うことは認められています。しかしイスラーム的な言葉が書かれた紙では絶対にイスティンジャーを行うことはできません。前もしくは背面をキブラに向け、立ったまま、あるいは正当な理由なく裸でウドゥーを無効にすることはマクルーフです。尿が集められた場所でグスルを行うことは認められません。しかし尿が流れ去り、残らないのであれば、それらは認められます。イスティンジャーで用いられた水は汚いものとされます。服にかけるべきではありません。その為、イスティンジャーを行う際、アウラの場所を露出し、人のいない場所で行うことが必要となります。蛇口の前で、手を下着の中に入れ、排泄器官を手の中の水で洗うことはイスティンジャーではありません。尿のしずくがつくことで手にしていた水は汚れたものとなり、それが滴った下着が汚れ

ます。その水が滴った場所の合計が手のひらの面積よりも大きければ、礼拝は認められません。

イスティブラ：男性が、歩いたり咳払いをしたり、左側に寝たりすることで「イスティブラ」を行うこと、つまり尿道に水滴を残さないことはワージブです。尿のしずくが残っていないことを確信する前にウドゥーをするべきではありません。一滴でもたれた場合、ウドゥーが無効となり、また服も汚れます。下着が手のひらの面積よりも小さく漏れたのであれば、ウドゥーをして行った礼拝はマクルーフとなります。それより大きく漏れたのであれば礼拝は認められません。イスティブラを困難に感じる人は、オオムギほどの綿を尿の穴に入れるべきです。漏れた尿は綿に吸収されます。ただし、綿の端が外に出ないことが必要です。

サトゥル・アウラ（アウラの場所を覆うことと、女性が身を覆うこと）

人が露出して他の人に見せること、他の人が見ることがハラームである場所を「アウラの場所」と呼びます。男性のアウラの場所は、へそから膝の下までです。膝はアウラに含まれます。これらを露出して行った礼拝は認められません。礼拝を行う際に体の他の部分（腕、頭）を覆うこと、靴下を履くことは男性のスンナです。これらが見える状態で礼拝をすることはマクルーフです。

女性は、手のひらや顔以外の全ての場所、手から上、髪、足は 4 つの学派全てでアウラです。その為、女性のことをアウラと呼ぶこともあります。これらを覆うことはファルドです。アウラのうち何らかの器官の 4 分の一が一回のルクウの間露出した上体であれば礼拝は無効となります。わずかに見える程度では礼拝は無効とはなりませんが、礼拝はマクルーフとなります。薄く、中の体の形や色が見える布は、何も着用していないことを意味します。

女性は礼拝以外、一人でいる時には膝と臍の間を覆うことはファルドであり、背中とおなかを覆うことはワージブ、その他の場所を覆うことは徳です。

預言者ムハンマドは次のように言われました。「他人である女性を性欲を持って見る人の目は火で満たされ、地獄に入れられる。他

人である女性と握手する人の腕は首筋から縛られ、地獄に投げ入れられる。他人である女性と必要に迫られていないのに性欲を持って話す人は、その言葉一つ一つの為に千年地獄にいるだろう」

別のハディースでは、「隣人の女性や友人の妻を性欲を持って見ることは、他人である女性を見ることよりも 10 倍さらに悪い。結婚している女性を見ることは、未婚の女性を見ることよりもさらに千倍の罪である。姦淫の罪も同様である」とされています。

預言者ムハンマドは次のように言われました。「アリーよ、太ももを出してはいけない。そして死んでいようと生きていようと、誰の太ももも見てはいけない。」

別のハディースでは、「アウラの場所を露出してはいけない。なぜならあなたのそばから決して離れない存在がいるためである。それらに対し恥じらい、また敬意を示しなさい。それらは記録する天使である」と言われました。

また他のハディースでは次のようにいわれました。「アウラの場所を覆いなさい。妻や女奴隷以外の誰にも見せてはいけない。一人でいる時も、アッラーに対し恥を感じなさい。」

「自分たちを女性に似せる男性、そして男性に似せる女性をアッラーが呪われますように。」

「一人の少女の美しさを見た人は、目を彼女からすぐに遠ざけるなら、アッラーはイバーダとしてのサワーブを与えられ、彼もイバーダの喜びをすぐに感じる。」

「アウラの場所を露出し、また他人のアウラの場所を見る人を、アッラーが呪われますように。」

「自分自身を何らかの部族に似せる人は、その仲間となる。」すなわち、道徳、職場、衣装を他者に似せる人は、その人たちに含まれるようになるのです。流行や不信仰者たちの風習に従う人、ハラームであるものに芸術という名を与え、ハラームを犯している人々を芸術家、先駆者と呼ぶ人はこのハディースから教訓を得るべきであり、恐れを感じ、彼らに従わないようにするべきなのです。

男性が男性の、女性が女性のアウラの場所を見ることもハラームです。つまり、男性が女性の、女性が男性のアウラの場所を見ることがハラームであるように、男性が男性の、女性が女性のアウラの場所を見ることもハラームです。男性の、男性に対するア

ウラの場所は膝と臍の間であり、女性の、女性に対するアウラの場所も同様です。女性の、他人である男性に対するアウラの場所は、手と顔以外の全身です。他人である女性のアウラの場所は、性欲を伴っていなくても見ることはハラームです。

布団の下で裸で寝ている病人が、頭も布団の中にあった状態でイメージして礼拝を行う際は、裸のままで礼拝をしたことになります。頭を布団から出して礼拝すれば、布団にくるまれて礼拝を行ったことになり、礼拝が認められます。

男性は、婚姻することが永遠に不可能である 18 通りの「マフラム」の女性の頭、顔、首、腕、膝より下の足を、性欲を持たないことを確信できれば、見ることができます。ただし、胸やわき、太もも、膝、背中を見ることはできません。

女性にとって、叔父、叔母、伯父、伯母の息子たちも他人の男性と同様です。義兄や義父も他人の男性です。彼らと話すこと、冗談を言い合うこと、同席することはハラームです。男性も、叔父、叔母、伯父、伯母の娘たちや、義妹、義母と話すことはハラームです。

男性は、マフラムである 18 通りの女性と死ぬまで結婚することはできません。彼女たちと話すことはできます。2 人だけで同じ場所にいることもできます。女性も、18 通りの男性と結婚できません。この、18 通りの男性及び女性とは以下の通りです。

血統により親戚である人々

男性	女性
1．父	1．母
2．父もしくは母の父	2．母もしくは父の母
3．息子、息子や娘の息子	3．娘、息子や娘の娘
4．兄弟	4．姉妹
5．兄弟の息子	5．姉妹の娘
6．姉妹の息子	6．兄弟の娘
7．叔父と伯父	7．叔母と伯母

乳をもらったことで親戚となった人々

男性	女性
8．養父	8．乳母
9．養父と乳母の父	9．乳母と養父の母
10．養子、養子の息子、養女の息子	10．養女、養女と養子の娘
11．乳兄弟（男性）	11．乳兄弟（女性）
12．乳兄弟（女性）の息子	12．乳兄弟（女性）の娘
13．乳兄弟（男性）の息子	13．乳兄弟（男性）の娘
14．乳母の兄弟	14．乳母の姉妹

婚姻によって親戚となった人々

15．義父	15．義母
16．義理の息子	16．義理の娘
17．義理の父	17．義理の母
18．婿	18．嫁

アウラの場所を露出させて外に出る、もしくは他者のアウラの場所を見る男性、女性は、地獄の燃えさかる炎で焼かれることになります。

イスティクバル・キブラ（キブラの方向を向くこと）
礼拝とは、カーバへ向かって行われるものです。マッカの町にあるカーバの建物の方角を「キブラ」と呼びます。キブラは以前、エルサレムでした。聖遷から 17 か月後のシャーバン月の半ばの火曜日に、エルサレムではなくカーバへと向かうことが命じられました。

キブラはカーバの建物ではなく、その空間です。すなわち、地から天までのその空間がキブラなのです。従って海や井戸の底、高山、飛行機でも、この側面に向かって礼拝します。視神経のクロスする 2 つの方角の間の空間がカーバにあたっていれば、その礼拝は正しいものとなります。しかし、
病気の為
財産が盗まれる危険
獰猛な動物による危険
敵に遭遇する危険
動物から下りた場合、再び誰かの手助けなしでは乗ることができない
といった場合や、2 つの礼拝（ズフルとアスル、マグレブとイシャーを、マーリキー派やシャーフィー派に倣って）をまとめて行うこともできない場合であれば、可能である方向に向かって礼拝を行います。ボート、電車、飛行機では、キブラに向かうことは必要条件とされます。

礼拝の定時

　預言者ムハンマドはあるハディースで次のように言われました。「ジブラーイールがカーバの門のそばで、2 日間私のイマームとなった。私たちは暁光がさす時にファジュルの礼拝を、太陽が真上から下がる時にズフルの礼拝を、全ての陰が本体の大きさと等しくなることにアスルの礼拝を、そのすぐ後、断食が終わる時にマグリブを、夜の 3 分の 1 の時間にイシャーを行った。それから、『ムハンマドよ！あなたの、そして過去の預言者たちの礼拝の時間はこの通りである。あなたのウンマに 5 回の礼拝のそれぞれを、私たちが礼拝したこの時間の間に行わせなさい』と彼は言った。」
　毎日行うことが命じられている礼拝の数が 5 であることも、ここから理解されます。
ファジュルの礼拝の時間：暁光が見え始める、すなわち東の方角が白み始めた時から、火が昇る時までです。
ズフルの礼拝の時間：陰が短くなり、それから長くなり始めた時から始まり、陰が実物と同等もしくは 2 倍の長さになるまで続き

ます。一つめは2人のイマーム、すなわちイマーム・アブー・ユースフとイマーム・ムハンマドによるものであり、2つめはイマーム・アザーム・アブー・ハニーファによるものです。
アスルの礼拝の時間：ズフルの礼拝の時間の終わりによって始まります。これも、
イマーム・アブー・ユースフとイマーム・ムハンマドによれば、陰がその本体と同じ長さになった時に始まり、日没まで続きます。
イマーム・アザーム・アブー・ハニーファによれば、陰がその本体の2倍の長さになった時に始まり、日没まで続きます。
　しかし太陽が色づいてから、すなわち地平線まで槍の長さまで近づいてからは、あらゆる礼拝を行うことはハラームです。ただアスルの礼拝をしていなかったのであれば、日没の時間までにそれを行います。
マグリブの礼拝の時間：日没によって始まり、地平線が暗くなるまで、つまり赤みが消失するまで続きます。
イシャーの礼拝の時間：マグリブの礼拝の時間の終了から、暁光がさし始めるまで続きます。イマーム・アザーム・アブー・ハニーファによると、イシャーの時間は空の白みが消えた時に始まります。アスルの時間もこのようになっています。2人のイマームの見解によるイシャーの時間が始まってから、少なくとも半時間待ってイシャーを行えば、全てのイマームに従って礼拝したことになります。イシャーの礼拝を、正当な理由なく夜の半分よりも後に行うことはマクルーフです。
　礼拝を時間より前、もしくは後に行うことはハラームです。大きな罪となります。「トゥルキイェ」紙の発効している礼拝と日の出の時間表は正しいものです。
　礼拝を行うことがハラームに近いマクルーフ、すなわち禁じられている時間は3つあります。この3つの時間に始まったファルドは正しいものとはなりません。日が昇る時、日が沈む時、そして正午です。この3つの時間には、あらかじめ用意されていた葬儀の礼拝、過失のサジュダ、「サジュダ」というクルアーンの言葉に従って行うサジュダも認められません。日が沈む時には、その日のアスルの礼拝は行うことができます。

ナーフィラの礼拝（義務ではない礼拝）を行うのがマクルーフである2つの時間があります。ファジュルの礼拝のファルドを行った後、日が昇るまでと、アスルの礼拝を行った後、マグリブのファルドの前にナーフィラの礼拝を行うことはマクルーフとなります。

詳細についての解説（北極・南極での礼拝と断食）
それぞれの国の礼拝時間は、その国の南極からの距離と季節によって異なります。
67度に位置する北極圏の北側に位置する寒い国では、太陽の傾きがとても大きい季節には、地平線の光が消える前に朝日が昇ります。この為、バルト海の北端では、夏には夜がなく、イシャーとファジュルの礼拝の時間にならないのです。
ハナフィー派においては、時間は礼拝の条件ではなく、理由です。理由がなければ、礼拝はファルドとならないのです。従ってこのような国に住むムスリムには、この2つの礼拝はファルドとなりません。南半球では海である為、このような国は存在しません。
シャーバン月の30日目の夜、どこかの町で新月が見られれば、全世界が断食を始めることが必要となります。日中に見える新月は、これから来る夜の新月です。
北極、南極や月に行ったムスリムも、旅行者の規定に当てはまらないのであれば、断食をすることが必要です。日中が24時間よりも長い場合、礼拝は時刻で始められ、時刻で終わります。日中がこれほどに長くはない町のムスリムたちの時間に従うのです。もし礼拝を行わなければ、日中が長くない場所に来た時にカダーを行います。

アザーンとイカーマ
アザーンとは、皆に知らせることを意味します。日に5回の礼拝とカダーの礼拝の為、そして金曜礼拝で説話者の前で男性がアザーンを唱えることは、ムアッカダのスンナです。女性がアザーンやイカーマを読むことはマクルーフです。アザーンは他の人々に時間を告げる為、高いところで詠みあげられます。アザーンを

唱える時に両手を挙げ、指を一本ずつ両耳の穴に入れることはムスタハブです。イカーマを読むことはアザーンよりもなお重要なことです。アザーンとイカーマはキブラに向かって唱えられます。その時には会話はせず、挨拶をされても返しません。

アザーンとイカーマはどのような場合に読みあげられるか
畑、庭園で個人もしくは集団でカダーを行う場合、男性がアザーンとイカーマを大きな声で読み上げるのはスンナです。アザーンを聞いた人、ジン、石は最後の審判の日に証言を行います。いくつかのカダーの礼拝をまとめて行う人は、まずアザーンとイカーマを詠みあげます。その後、カダーを行う際にはそれぞれについてイカーマのみを読みます。アザーンは読まなくとも構いません。
家で、個人もしくは集団で定時の礼拝を行う人は、アザーンとイカーマを詠みあげません。なぜなら、モスクで読みあげられたアザーンとイカーマは家々でも読まれたと見なされるからです。しかしそれを唱えることはより良い　とされます。地区のモスク、もしくは礼拝の参加者が一定であるモスクにおいて、定時の礼拝を集団で行った後、個人で礼拝を行う人はアザーンとイカーマを唱えません。街道沿いにあり、あるいはイマームやムアッズィンがおらず、礼拝に参加する一定の人もいないモスクでは、様々な時間にやってくる人々が、一つの定時の礼拝の為に様々な小集団を作ります。全ての小集団の為にアザーンとイカーマを読みます。このようなモスクでは個人で礼拝をする人も、アザーンとイカーマを自分が聞こえる程度の声で唱えます。
旅行中である人は、自分の仲間である人々と集団で礼拝する時も、個人で礼拝する時も、アザーンとイカーマを唱えます。個人で礼拝する人のそばに仲間がいれば、アザーンを読まないことも可能です。旅行者は、家で個人で礼拝する時でも、アザーンとイカーマを唱えます。なぜなら、モスクで読みあげられたアザーンとイカーマは、彼の礼拝に適用されないからです。旅行者である集団の一部が家でアザーンを唱えれば、その後で礼拝をする人たちはアザーンを唱えません。
　聡明な子供、盲人、父親が定かでない人、アザーンを読むこと

のできる無知な村人がアザーンを読むことは、問題なく認められます。ジュヌーブの状態である人がアザーンとイカーマを唱えること、ウドゥーのない状態でアザーンを読むこと、女性、罪人、酔っぱらい、知性を伴わない子供がアザーンを読むこと、座ったままでアザーンを読むことは、ハラームに近いマクルーフです。こういった人が読んだアザーンは、復唱されます。アザーンが正しいものである為には、ムアッズィンはムスリムかつ知性を伴う人である必要があります。スピーカーで読むことは真正とはされません。

　罪人である者のアザーンが真正とされないのは、イバーダにおいて彼の言葉が受け入れられないからです。罪人、そしてスピーカーでのアザーンでは、礼拝の時間になったことを信じることができません。このような人のアザーンやサインによって、礼拝を完了させることもされません。

　アザーンを尊重し、敬意を抱く人、文字、言葉を変えることなく、壊すことなく、節をつけたりせず、ミナレット（尖塔）に上がってスンナに適した形で読む人は、高い位階へと達することになります。

　しかし、アザーンをスンナに従って読まないのであれば、例えば、いくつかの言葉を変えたり、訳したりしていれば、あるいは節をつけて読んでいれば、あるいはその声がスピーカーを通して出ていれば（なぜならスピーカーからの声は、イマームもしくはムアッズィンの声ではないのです。彼らの声は電気と磁石に変わります。この電気と磁石が生じさせる声が聞こえるのです）、そのアザーンを聞いた人はそれを復唱することはできません。

詳細についての解説（アザーンはスピーカーを通して読み上げることができるか）

　ミナレットに設置されたスピーカーは、ムアッズィンにとって怠惰となる為の要因であり、アザーンを暗い部屋で、座ったまま、スンナに従わない形で読むことの要因となります。何世紀も、天へとそびえる精神的な装飾であったミナレットが、この悪いビドアゆえにスピーカーの柱となってしまっています。イスラームの学者たちは、科学が生み出したものをいつでも肯定的に受

け止め、例えば印刷機の設置を奨励し、有益な本を印刷して知識を広めることを求めてきました。ラジオやスピーカーを通して各地で有益な放送がなされることも、イスラームが愛し、活用することのできる発見であることは疑いもありません。しかしムスリムがアザーンの心地良い　声を聴くことができず、イバーダをスピーカーを通した耳障りな音によって行うことは、害のあることです。スピーカーをモスクに設置することは不要な浪費です。信仰を持つ心に影響を与える真のムスリムの声の代わりに、あたかも教会での鐘のように響くこの道具がない時代には、ミナレットで読みあげられるアザーンやモスクでのタクビールの声は、外国人をも恍惚とさせたものでした。それぞれの通りで読まれるアザーンを聞きながらモスクをいっぱいにした人々は、教友の時代と同じように、集中して礼拝を行っていました。アザーンの、信者を興奮させる神聖な影響力は、スピーカーの機械的な声によって失われてしまったのです。

　預言者ムハンマドはあるハディースで次のように言われました。「誰であれ、アザーンを聞いた時にムアッズィンと共に小声でそれを唱えれば、一文字ごとに千のサワーブがあり、千の罪が許される」

　アザーンを聞いた人は、クルアーンを読んでいるのであれば、聞いたことをゆっくり口に出すことがスンナです。「ハイヤ　アラー」と聞いた時にはそれは繰り返さず、「ラー　ハウラ　ワラー　クッワタ　イッラー　ビッラー」と言います。2 度目に「アシュハド　アンナ　ムハンマダン　ラスールッラー」と読まれた時、両手の親指の爪にキスをした後、両目の上を触ることはムスタハブです。イカーマではこのようにはされません。

アザーンの唱え方

アッラーフ　アクバル　　4 回
アシュハド　アン　ラー　イラーハ　イッラッラー　2 回
アシュハド　アンナ　ムハンマダン　ラスールッラー　2 回
ハイヤ　アラッサラー　2 回
ハイヤ　アラッファラー　2 回

アッラーフ　アクバル　２回
ラー　イラーハ　イッラッラー　１階

　朝の礼拝のみ、「ハイヤ　アラッファラー」の後で２回「アッサラート　ハイルン　ミナンナウムと唱えます。
　イカーマでは、「ハイヤ　アラッファラー」の後で２回、「カドカーマティッサラートゥ」と唱えます。

　預言者ムハンマドは次のように言われました。「アザーンが読まれた時には次のドゥアーを唱えなさい。
「ワ　アナ　アシュハドゥ　アン　ラー　イラーハ　イッラッラーフ　ラー　シャリーカラフ　ワ　アシュハド　アンナ　ムハンマダン　アブドゥフ　ワ　ラスール　ワ　ラディートゥ　ビッラーヒ　ラッバン　ワ　ビルイスラーム　ディーナン　ワ　ビ　ムハンマディン　サッラッラーフ　アライヒ　ワ　サッラマ　ラスーラン　ナビーヤー」
　またあるハディースでは次のように言われました。「わがウンマよ。アザーンが読まれたなら次のドゥアーを唱えなさい。
「アッラーフンマ　ラッバ　ハーズィヒッダーワティーッターンマティ　ワッサラーティル　カーイマティ　アーティ　ムハンマダニル　ワシーラタ　ワルファズィーラタ　ワッダラジャータルラフィアタ　ワブアスフ　マカ_マン　マフムーダニッラズィワ　アヅタフ　インナカラーッフリフル　ミアード」

アザーンの言葉の意味
アッラーフ　アクバル：アッラーは偉大です。アッラーには何も必要ではありません。しもべのイバーダも必要とされません。イバーダは、アッラーには何の効用もありません。この重要な意味を頭に十分に植えつける為に、この言葉は４回繰り返されます。
アシュハド　アン　ラー　イラーハ　イッラッラーフ：その荘厳さと偉大さにより、誰のイバーダも必要とはされない一方で、アッラー以外の誰にもイバーダをされる権利はないことを証言し、それを信じます。何ものもそのお方には似てはいません。
アシュハド　アンナ　ムハンマダン　ラスルーッラー：ムハンマ

ド（彼の上に平安あれ）はアッラーが遣わされた預言者であること、その預言者はアッラーが望まれるイバーダの方法を教えるお方であること、そしてただ預言者が教え、示されたイバーダのみがアッラーにふさわしいということを証言し、信じます。
ハイヤ　アラッサラー、ハイヤ　アラッファラー：信者を、快楽さや幸福、救いの要因となる礼拝に招く2つの言葉です。
アッラーフ　アクバル：アッラーにふさわしいイバーダは誰にもできません。それほどまでにアッラーは偉大なお方なのです。
ラー　イラーハ　イッラッラーフ：イバーダ、服従にふさわしいお方、その権利を持たれるお方はただアッラーのみです。アッラーにふさわしいイバーダは誰にもできないのと同様、アッラー以外の誰にもイバーダを受ける権利はありません。
　そのお方を皆に知らせる為に選ばれたこれらの言葉の偉大さから、礼拝の誉れの大きさが理解されます。

ニーヤ
　イフティタフ・タクビールを言った後、ニーヤを行います。礼拝のニーヤを行うこととは、その名称、時間、キブラ、イマームに従うということを心に念じることを意味します。
　イフティタフ・タクビールの後で行われるニーヤは真正とはならず、その礼拝は認められません。ファルドやワージブをニーヤする際、どのファルドであるのか、もしくはワージブであるのかを知っていることが必要です。ラカートの数をニーヤすることは不要です。スンナを行う際には、礼拝をニーヤすることで十分です。葬儀の礼拝には、「アッラーの為に礼拝を、死者の為にドゥアーを」とニーヤします。
　イマームが、男性たちのイマームとなることをニーヤすることは条件ではありません。イマームは、同席する信者の集団のイマームとなるとニーヤをしなければ、集団と共に礼拝を行ったことのサワーブを得ることはできません。イマームとなることをニーヤすれば、そのサワーブをも得ることができます。イマームは、女性たちへのイマームとなるとニーヤすることが必要です。
　イバーダを行う際、ただ口先で唱えることをニーヤとはいいません。心からニーヤされなければ、イバーダは認められないのです。

タフリーマ・タクビール

礼拝を行う際に「アッラーフ　アクバル」と言うことであり、これはファルドです。他の言葉を言うことはできません。一部の学者は、タフリーマ・タクビールが礼拝に含まれると見なしています。それによるなら礼拝の条件は6つであり、ルクンも6つとなります。

礼拝のルクン（構成要素）

礼拝中のファルドをルクンと呼びます。全部で5つになります。

キヤーム：礼拝の5つのルクンの一つめが、キヤームです。キヤームは立位を意味します。立てない病人は、座って礼拝します。座れない病人は、あおむけに寝て、頭で礼拝します。顔が上ではなくキブラに向くよう、頭の下に枕を敷きます。足は折り、キブラに向けて伸ばさないようにします。立っている時、足は互いから指4本分ほど離します。

立てない病人、立つとめまいがする人、頭、歯、目、あるいはその他の部位がひどく傷む人、尿を漏らしてしまう人、傷口が開く人、立って行うと敵の恐れや盗難に遭う危険がある人、立って行えば断食が無効となってしまう人、あるいはアウラの場所が露出してしまう人などは、座って礼拝します。ルクウでは少し体を倒し、サジュダでは頭を床につけます。頭を床につけることができない人は、ルクウでわずかに、サジュダではもう少し体を前屈させます。サジュダでの前屈がルクウの時の前屈よりも深いものでなければ、礼拝は認められません。地面に石や板を置き、その上にサジュダを行った場合、礼拝は認められますが、罪を犯したことになります。つまりハラームに近いマクルーフです。

キラート：スンナとウィトルのラカートごとに、そして個人で行うファルドの2ラカートで、立位の状態でクルアーンの一つの節を読むことはファルドです。短い章を読むことはより良い　とされます。

キラートとしてここでファーティハ章を読むこと、またスンナ、そしてウィトルの礼拝のそれぞれのラカートで、そしてファ

ルドの 2 ラカートでファーティハ章以外の一つの章もしくは 3 つの節を読むことはワージブです。ファルドで、ファーティハ章と他の章句を最初の 2 ラカートで読むことはワージブもしくはスンナです。ファーティハ章を他の章句よりも先に読むこともワージブです。この 5 つのワージブのどれかが失念された場合、過失のサジュダを行う必要があります。

キラートでクルアーンの翻訳を読むことは認められません。金曜礼拝やイードの礼拝を除き、イマームが、全ての礼拝において一つめのラカートを 2 つめのラカートよりも 2 倍の長さのものを読むことはスンナです。一人でいる時には、全てのラカートで同じ量を読んでも構いません。イマームが、同じ礼拝の同じラカートで、同じ章句を読む習慣をつけることはマクルーフです。一つめのラカートで読んだものを 2 つめのラカートでも読むことは、ハラールに近いマクルーフです。逆に読むことはより悪いことです。2 つめのラカートで、一つめのラカートで読んだものの次の章を飛ばし、その次のものを読むことはマクルーフです。クルアーンをその正本の順序通りに読むことは、常にワージブです。

ルクウ：立位でクルアーンを読んだ後、タクビールを行い、ルクウをします。ルクウでは、男性は指を開いて肘の上に置きます。背中と頭を同じ高さにします。

ルクウでは、少なくとも 3 回、「スブハーナ　ラッビヤル　アズィーム」と言います。3 回読む前にイマームが頭を上げた場合は、それに従う人もすぐに頭を上げます。ルクウでは腕と足をまっすぐにします。女性は指を開きません。背中と足、腕はまっすぐにはしません。

ルクウから体を起こす時には、「サミアッラーフ　リマン　ハミダ」と言うことは、イマームと、個人で礼拝する人にとってスンナです。イマームの後ろの集団はそれを口にしません。それに続いてすぐに「ラッバナー　ラカル　ハムド」といい、まっすぐに立ち、「アッラーフ　アクバル」といいながらサジュダへと移る際、まず右、それから左の膝、そして右、それから左の手、その後鼻と額を床につけます。

サジュダ：サジュダでは、手の指を互いにつけ、キブラに向かい、耳と同一線上に置き、頭は両手の間に置きます。額を清潔な

場所、つまり石、土、板、敷物につけることはファルドであり、鼻も共に地につけることはワージブとされます。特に理由のない人が鼻だけをつけることは認められません。額だけをつけることもマクルーフです。

両足、あるいは少なくともそれぞれの足の一本ずつの指を地面につけることはファルド、もしくはワージブです。つまり両足とも床につけられていなければ礼拝は認められません。

サジュダでは、足の指を折り曲げ、その先端をキブラに向けることがスンナです。

男性は、腕と太ももをおなかから離しておきます。手と膝を床につけることはスンナです。かかとはキヤームでは互いに指 4 本分離し、ルクウ、カウマとサジュダではくっつけておくことがスンナです。

サジュダをする際、ズボンの裾を上に引っ張ることはマクルーフです。そしてそれを上に向けてまくり上げて礼拝をすることもマクルーフです。腕、足、裾を、まくり上げたりたくし上げたり、短いものを身につけたりしながら礼拝を行うことはマクルーフです。面倒臭がって、あるいは頭を覆う大切さを考えずに頭を覆わずに礼拝を行うことはマクルーフです。礼拝に重きを置かないことは、イスラームの否定です。汚れた服、仕事着で礼拝を行うこともマクルーフです。

カダーイ・アーヒラ：最後のラカートで「アッタヒヤートゥ」を読むまで座っていることはファルドです。座っている時には、指をしるしとすることはありません。男性は左有を、指先を右側に向ける形で床に置き、この足の上に座ります。右足は直立させ、この足の指は地面に触れます。指の先はキブラの方向に少し曲げます。このように座ることはスンナです。

女性は臀部を床に置く形で座ります。太ももは互いに接近させます。右足を右側から外に出します。左足は、指先を右に向けた形で体の下に置きます。

礼拝はどのように行うのか

個人で行う男性の礼拝

例えば、ファジュルの礼拝のスンナは次のように行われます。
まずキブラに向かいます。足をたがいに指 4 本分離し、平行におきます。両手の親指を耳たぶに触れさせます。手のひらをキブラの方向に向け、「アッラーのご満悦の為に今日のファジュルの礼拝のスンナを行うことをニーヤします。キブラに向かいました」と心から念じた後、「アッラーフ　アクバル」といい、へその下で右手を左手の上に重ねます。
サジュダを行う場所から目を離さずに、
A) スブハーナカを読みます。
B) アウズ・バスマラ　の後、ファーティハ章を読みます。
C) ファーティハ章の後、バスマラは読まずに、他の章句（例えば、アラム　タラカーイファ）を読みます。
短い章句を読んだ後、「アッラーフ　アクバル」と唱えながらルクウを行います。手を膝頭におき、腰をまっすぐにし、目は足から離さずに 3 回「スブハーナ　ラッビヤル　アズィーム」と言います。5 回もしくは 7 回言うこともできます。
「セミ　アッラーフ　リマン　ハミダ」といいながら体を起こす際には、ズボンを挽いたり、目をサジュダの場所から離したりしないようにします。まっすぐ起き上がり、「ラッバナー　ラカル　ハムド」と言います。この直立をカウマと呼びます。
あまり時間をおかずに、「アッラーフ　アクバル」といいながらサジュダを行います。サジュダを行う際には順に、
A) 右膝、左膝、右手、左手、鼻、そして額を床につけます。
B) 足の指をキブラの方向に折り曲げます。
C) 頭は両手の間に入っています。
D) 手の指は閉じます。
E) 手のひらはつけます。肘は床につけません。
F) この状態で少なくとも 3 回「スブハーナ　ラッビヤル　アラー」と言います。
それから、「アッラーフ　アクバル」といいながら左足を床に広げ、右足の指をキブラの方向に曲げ、正座します。手のひらは膝

の上に置き、指は自然な状態にしておきます。
長い間正座していることなく、「アッラーフ　アクバル」といい、再びサジュダを行います。2 回のサジュダの間の座位をジャルサと言います。
サジュダでは少なくとも 3 回、「スブハーナ　ラッビヤル　アラー」といった後、「アッラーフ　アクバル」といいながら立ち上がります。立ち上がる時には手を床から勢いよく跳ね上げたり、足を動かしたりはしません。サジュダから起き上がる前に、額、それから鼻、それから左手、右手、そして左膝、右膝という順で地面から起こします。
立っている間に、バスマラについでファーティハ章を、その後他の章句を読み、「アッラーフ　アクバル」といいながらルクウを行います。
2 つめのラカートは、一つめのラカートと同様に行います。ただ2回目のサジュダの後、「アッラーフ　アクバル」と言ってから立ち上がることはせず、正座し、
A)「アッタヒヤートゥ」「アッラーフンマ　サッリ」「アッラーフンマ　バーリク」、そして「ラッバナー　アーティナ」のドゥアーを読んだ後、「アッサラーム　アライクム　ワ　ラフマトゥッラー」と挨拶をします。
B) 挨拶をした後、「アッラーフンマ　アンタッサラーム　ワ　ミンカッサラーム　タバーラクタ　ヤー　ザルジャラーリ　ワルイクラム」と言い、他のことは何も話さず、ファジュルの礼拝のファルドを行います。なぜなら、スンナとファルドの間に話すことは、礼拝を無効にはしませんが、サワーブを減らします。
礼拝の後、それぞれ完全に、アスタグフィルッラーと 3 回唱えます。その後、「アーヤトゥル　クルシー」、30回「スブハーナッラー」、30 回「アルハムドゥリッラー」、30 回「アッラーフ　アクバル」を唱え、そして一度タフリール、すなわち「ラー　イラーハ　イッラッラー　ワフデフ　ラー　シャリーカラフ、ラフムルク　ワ　ワフル　ハムドゥ　ワ　フワ　アラー　クッリ　シャイン　カディール」と、声を潜めて唱えます。大声で読みあげるのはビドゥアです。それからドゥアーを行います。ドゥアーでは、男性は腕を胸の高さに編んであげます。腕を肘のところで曲

げることはしません。手を開き、手のひらを天に向けます。なぜなら、礼拝のキブラがカーバであるように、ドゥアーのキブラは天であるからです。ドゥアーの後、それぞれにバスマラを唱えつつ、イフラース章を 11 回、「クル　アウーズ」を 2 回、そして「アスタグフィルッラー」を67回唱えることはムスタハブです。「スブハーナラッビカ」の章句を読み、手で顔を撫でます。

4 ラカートのスンナとファルドの 2 回目のラカートの後、「タヒヤート」を読み、立ち上がります。スンナの 3 回目と 4 回目のラカートでは、ファーティハ章の後に別の章句を呼びます。ファルドでは、3 回目と 4 回目のラカートでただファーティハ章を読み、別の章句は読みません。ウィトルの 3 ラカートでは、ファーティハ章の後、別の章句を呼びます。それからタクビールを行い、手を耳のところまで上げます。それからクヌートのドゥアーを唱えます。ムアッカダではないアスルとイシャーの最初のスンナも、他の 4 ラカートのスンナと同様です。しかし 2 回目のラカートの後の座位では、「アッタヒヤート」の後「アッラーフンマサッリ」と「アッラーフンマ　バーリク」も唱えます。

個人で行う女性の礼拝

例えば、ファジュルの礼拝は次のように行われます。
体の形がわからない様な形で全身を覆います。外に出して良い部位は手と顔のみです。礼拝で読まれる章句やドゥアーは、先述の「個人で行う男性の礼拝」と同様です。異なる点は以下の通りです。
手は男性のように耳のところに持って行かず、手は肩の高さにし、ニーヤを行い、タクビールをします。手を胸のところで組み合わせ、礼拝を始めます。
B) ルクウでは完全に背をまっすぐにはしません。
C) サジュダでは肘を地面に寝かせます。
D) タシャッフドでは正座をします。すなわち、左右の足は右側に置き、左の太ももの上に座ります。

礼拝において、女性が十分に身を覆う為の最も容易な服装は、手をも覆えるほどの大きなスカーフや、足をも覆えるほどに幅広で長いスカートです。

礼拝のワージブ

　礼拝のワージブは以下の通りです。
ファーティハ章を唱えること。
ファーティハ章の後、一つの章もしくは少なくとも 3 つの短い節を唱えること。
ファーティハ章を、他の章句よりも先に唱えること。
ファーティハ章とその後に読まれる章を、ファルドの礼拝の 1 回目と 2 回目のラカートで、ワージブやスンナのそれぞれのラカートで読むこと。
サジュダを続けて行うこと。
3 もしくは 4 ラカートの礼拝における 2 回目のラカートで、タシャッフドの間は座っていること。最後の座位はファルドです。
2 回目のラカートではタシャッフドであまり座らないこと。
サジュダで、鼻を額と共に床につけること。
最後のラカートで座っている時に「アッタヒヤートゥ」のドゥアーを唱えること。
礼拝ではルクン（構成要素）を正しく行うことに重きを置くこと。
礼拝の後、「アッサラーム　アライクム　ワ　ラフマトゥッラー」と言うこと。
ウィトルの礼拝の 3 回目のラカートの後、クヌートのドゥアーを読むこと。
イードの礼拝でタクビールを行うこと。
イマームが、朝、金曜日、イード、タラーウィー、ウィトルの礼拝、そしてマグリブとイシャーの最初の 2 ラカートを、声を出して読み上げること。
イマームと個人で礼拝を行う人が、ズフルとアスルのファルドで、そしてマグリブの 3 回目、イシャーの 3 回目と 4 回目のラカートで、小さな声で唱えることはワージブです。イマームが大声で読むことがワージブである箇所では、個人で礼拝を行う人の場合、大きな声で読むことも小さな声で読むことも認められています。

イードの礼拝の前日のファジュルの礼拝から、4 日目のアスルの礼拝まで、23回のファルドの礼拝の後で「タシュリークのタクビール」を唱えることはワージブです。

過失のサジュダ（サハーイーのサジュダ）: 礼拝を行う人が、礼拝でファルドである事項を、わざと、あるいは失念して放棄すれば、礼拝は無効になります。もしワージブであるものを失念して放棄しても、礼拝は無効にはなりません。しかし、過失のサジュダを行うことが必要になります。

過失のサジュダをわざと行わない人、あるいは礼拝のワージブのどれかをわざと放棄した人は、その礼拝をもう一度行うことがワージブとなります。行わなければ罪となります。スンナの放棄の場合は過失のサジュダは不要です。過失のサジュダは、ファルドを遅らせた時、もしくはワージブを放棄した時、そして遅らせた時になされます。

礼拝中、何度か過失のサジュダを必要とする状況になったのであれば、一度それを行うことで十分です。イマームがミスをすることは、彼に警告を与えた人にも過失のサジュダを必要とさせます。イマームに従っている人がミスをした場合は、イマームとは別に過失のサジュダをすることはありません。

過失のサジュダを行う為には、アッタヒヤートゥを唱え、一方に挨拶を送った後、2 回サジュダを行い、座位を取ります。それから「アッタヒヤートゥ」「サッリ」「バーリク」「ラッバナー」のドゥアーを唱え、礼拝を完了させます。一方もしくは両方に挨拶を行いながら、あるいはまったく挨拶を行わずに過失のサジュダを行うこともできます。

過失のサジュダを必要とする事柄:

座るべきところで立ち上がること。立ち上がるべきところで座ること。声を出すべきところで声を出さないこと。声を出さないところで声を出すこと。ドゥアーを唱えるべきところでクルアーンを読むこと。クルアーンを読むべきところでドゥアーを読むこと。例えば、ファーティハ章を読むべきところで「アッタヒヤートゥ」のドゥアーを読むこと。「アッタヒヤートゥ」を読むべき

ところでファーティハ章を読むこと。ここではファーティハ章が放棄されたことになります。礼拝を完了させずに挨拶を行うこと。ファルドの礼拝の 1 回目、2 回目のラカートで他の章を読まず、3 回目、4 回目のラカートで読むこと。最初の 2 ラカートでファーティハ章の後で他の章を読まないこと。イードの礼拝のタクビールを行わないこと。ウィトルの礼拝でクヌートのドゥアーを読まないこと。

ティラーワのサジュダ：クルアーンでは 14 か所で、サジュダという言葉を含む節があります。これらのうちどれかを読んだ人、あるいは聞いた人は、その意味を理解しなくても、一度サジュダを行うことはワージブです。サジュダの節を書いた人、スペルをつづった人はサジュダはしません。

山々、砂漠、その他の場所から流れてきたり、こだましてきたりした声を聴いた人、鳥から聞いた人はサジュダすることがワージブとはなりません。人の声であることが必要です。ラジオ、スピーカーから聞こえる声は人の声ではなく、ハーフズの声に似た無機質な機械の声であることは先にも述べた通りです。従って、ラジオやテープで読まれているサジュダの節を聞いた人がティラーワのサジュダを行うことは、ワージブではありません。

ティラーワのサジュダを行う為には、ウドゥーがあること、キブラへ向かって立ち、手を耳のところに上げずに「アッラーフ　アクバル」といい、サジュダを行います。3 度、「スブハーナ　ラッビヤル　アラー」と言います。それから「アッラーフ　アクバル」といいながらサジュダから体を起こすと完了です。まずニーヤを行うことが必要で、ニーヤがなければ受け入れられません。

礼拝中に読まれた時には、すぐに別のルクウもしくはサジュダを行い、立ち上がります。読み続けます。サジュダの節を読んだ後、2，3 の節の後で礼拝のルクウを行い、ティラーワのサジュダをニーヤすれば、礼拝のルクウもしくはサジュダがティラーワのサジュダと見なされます。集団で礼拝している人は、イマームがサジュダの節を読んだのを聞かなかったとしても、イマームと共にさらに 1 回のルクウと 2 回のサジュダを行います。集団の人々もルクウでニーヤを行うことが必要です。礼拝の後で行うこともできます。

感謝のサジュダ：ティラーワのサジュダと同様です。恵みを与えられた人、悩みから救われた人がアッラーに感謝のサジュダを行うことはムスタハブです。サジュダではまず、「アルハムドゥリラー」と言います。それからサジュダのタスビーフを預言者さまなえます。礼拝の後でサジュダを行うことはマクルーフです。

礼拝を正しく行うことを尊重しない人は、全ての被造物に害を与えることとなります。なぜならその人の罪によって雨が降らず、地上に穀物が実らず、そして予想外の時期に雨が降り、効用の代わりに害がもたらされる、とされているからです。

礼拝のスンナ

礼拝で手を耳のところまで上げること。
手のひらをキブラに向けること。
タクビールを行った後、手を組み合わせること。
右手を左手の上に載せること。
男性は手を臍の下に置くこと、女性は胸に置くこと。
イフティタフ・タクビールの後、「スブハーナカ」を唱えること。
イマームと、個人で礼拝を行う人が「アウーズ」を唱えること。
バスマラを唱えること。
ルクウで 3 度「スブハーナ　ラッビヤル　アズィーム」と言うこと。
サジュダで 3 度「スブハーナ　ラッビヤル　アラー」と言うこと。
最後の座位で「サラワート」のドゥアーを読むこと。
挨拶をしながら左右を向くこと。
イマームは金曜礼拝やイードの礼拝の他、全ての礼拝で 1 回目のラカートでは 2 回目のラカートで読むものよりも 2 倍の長さのものを読むこと。
ルクウから起き上がる際、イマームと、個人で礼拝する人が「サミ　アッラーフ　リマン　ハミダ」と言うこと。
ルクウから起き上がったら「ラッバナー　ラカル　ハムド」と言うこと。

サジュダでは足の指を曲げ、先をキブラへと向けること。
ルクウとサジュダを行う際とサジュダから起きあがる際には、「アッラーフ　アクバル」と言うこと。
手と膝を床に置くこと。
かかとを、キヤームでは互いに指 4 本分離し、ルクウとカウマ、サジュダではくっつけること。
ファーティハ章の後、「アーミーン」と言うこと。ルクウより前にタクビールを行うこと。ルクウで、指を開いた手を膝頭に置くこと、サジュダの為にタクビールを行うこと。座位の際に左足を床に寝かせ、右足をたてて座ること。2 回のサジュダの間で座位を取ること。

　マグリブの礼拝では短い章句が読まれます。ファジュルの礼拝の最初のラカートは、2 回目のラカートよりも長くされます。イマームに従う人は、ファーティハ章と他の章を読みません。スブハーナカは読みます。タクビールを言うこと。アッタヒヤートゥとサラワートを行うこと。

礼拝のムスタハブ

礼拝を行う時にはサジュダする場所を見ること。
ルクウを行う際には足を見ていること。
サジュダでは鼻を置いた場所を見ていること。
タヒヤートゥの為に座っている時は、膝の上を見ていること。
ファーティハ章の後で唱えられる章句は、ファジュル、ズフルでは長く、マグリブの礼拝では短くすること。
イマームに従うことは、タクビールを見えないように行うこと。
ルクウでは指を開いて膝の上に置くこと。
頭を、首と共にルクウでは真っ直ぐ保つこと。
サジュダを行う際にはまず右、それから左の膝を床につけること。
サジュダを、両手の間で行うこと。
サジュダで、鼻の後で額をつけること。
礼拝の最中にあくびをする時は、手の甲で口を隠すこと。
男性がサジュダで肘を挙げ、高く保つこと。女性は腕を床につけること。

男性はサジュダで腕と足をおなかから離すこと。
ルクウとサジュダで 3 回ずつタスビーフを行えるだけの間、とどまっていること。
サジュダから頭を上げた後で手を床から上げること。
両手を床から離した後で、膝を上げること。
タヒヤートゥで手を太ももの上に置き、指をキブラに対してまっすぐ向けること、曲げないこと、どの指も動かさないこと。
左右に挨拶を行う時には頭を向けること。
挨拶を行う時には肩を見ること。

礼拝のマクルーフ
服を着ずに、肩に掛けた状態で行うこと。
サジュダを行う際にスカートやズボンの裾をあげること。
スカートやズボンの裾、腕をたくし上げた状態で礼拝を行うこと。
意味のない動きを取ること。
作業着、もしくは年長者の前で着られない様な服で礼拝を行うこと。
口の中に、クルアーンを唱えるのに妨げとなるものを入れていること。妨げとなれば礼拝は無効となります。
頭を覆わない形で礼拝を行うこと。
便意や尿意を我慢しながら、あるいは屁が出そうな状態で礼拝を行うこと。
礼拝中、サジュダの場所にある石や土を手で払うこと。
礼拝中に指を鳴らすこと。
礼拝中に手を脇腹に置くこと。
頭や顔を周囲に向けること、目で周囲を見ていること。胸を他に向けた人は礼拝が無効となります。
タシャッフドで犬のように座ること。
サジュダで、男性が腕を床につけること。
人の顔に対し、あるいは大声で話している人の背中に対して礼拝を行うこと。
誰かの挨拶に、手や頭で応えること。
礼拝、礼拝外であくびをすること。

礼拝中に目をつぶること。
イマームがミフラーブの中にいること。
イマームが単独で、集団から半メートル高いところにいることはハラールに近いマクルーフです。
イマームが単独で下にいることもハラールに近いマクルーフです。
前の列に空いているところがあるのに、後ろの列に並ぶこと、列に場所がない時に列の後ろに一人でいること。
生き物の絵が描かれた服で礼拝を行うこと。
生き物の絵が、礼拝をする人の上、前、右、左の壁に描かれ、あるいは布や紙に描かれて架けられ、あるいは置かれているのは、マクルーフです。巡礼の写真も生き物の写真と同様です。
炎を伴う火に対し礼拝を行うこと。
礼拝の節をタスビーフで数えること。
頭から足まで、一枚の布で包んで礼拝を行うこと。
露出した頭に布を撒いて、上部が露出した状態で礼拝を行うこと。
口や鼻を覆いながら礼拝を行うこと。
やむを得ない場合ではないのに、喉から痰を出すこと。
手を 1、2 度動かすこと。
礼拝のスンナのどれかを放棄すること。
やむを得ない場合ではないのに、子供を胸に抱いて礼拝を行うこと。
心を惑わせ、集中力を失わせるものの近く、例えば装飾品、ゲーム、楽器のそば、食べたいと思っている食事の前などで礼拝を行うこと。
ファルドを行う際、支障がないのに、壁や柱にもたれること。
ルクウを行う際、起きあがる際、手を耳のところまで挙げること。
クルアーンの章句を読むのを、ルクウをしながら終えること。
サジュダとルクウで、イマームより先に頭を置くこと、頭を上げること。
汚れている可能性のある場所で礼拝を行うこと。
墓に向かって礼拝を行うこと。

タシャッフドで、スンナに従って座らないこと。
2 回目のラカートで、1 回目のラカートよりも 3 つの節以上余分に唱えること。

礼拝以外でマクルーフである事柄

トイレや、その他の場所でウドゥーを無効とする際、イスティンジャーを行う際に、キブラを前にすること、背を向けること。
太陽と月に対しウドゥーを無効とすること。
小さな子供をキブラの方向に向けさせてウドゥーを無効にさせることは、それをさせた大人にとってマクルーフとなります。その為、大人に取ってハラームであることを子供にやらせることは、それをさせた人にとってハラームとなります。
キブラに対し、やむを得ない理由なく両足もしくは片足を伸ばすこと。
クルアーンやイスラームの書物に対し足を延ばすこと。それが高いところにあれば、マクルーフとはなりません。

礼拝を無効とする事柄

やむを得ない理由なく咳をすること、のどから痰を出すこと。
礼拝をしている人が、他者がくしゃみをした時に「ヤルハムカッラーフ」と言うこと。
礼拝を個人で行っている人が、別のところで集団礼拝をしている人々へイマームがクルアーンの言葉を唱えている時、間違えたのを聞き、彼に警告すれば、その人の礼拝は無効となります。もしイマームがこの人の警告に従って唱えれば、イマームの礼拝も無効となります。
礼拝中に「ラー　イラーハ　イッラッラー」と言った時、もしその目的が誰かに返事することであれば、礼拝は無効となります。もし目的が何かを告げることであれば、礼拝は無効になりません。
アウラの場所を露出すること。
痛み、もしくは別の悲しみの為に泣くこと。（天国や地獄について言及され、それらを考えて泣いたのであれば無効にはなりません）

手や言葉で挨拶を受けること。
カダーとなった礼拝の量が 5 を超えておらず、礼拝中にそれを思い出すこと。
礼拝中、彼を見た人が礼拝をしていないと思うほどに余計な動きをしていれば、礼拝は無効となります。
礼拝中に何かを食べること、飲むこと。
礼拝中に話すこと。
イマーム以外の人の過ちを指摘すること。
礼拝中に笑うこと。
礼拝中にすすり泣くこと、嘆くこと。

礼拝を中断することをムバーフ　とする事柄
ヘビを殺す為。
逃げる家畜を捕まえる為。
家畜の群れをオオカミから救う為。
沸き立つ鍋から逃れるため。
時間がなくなったり、人々がいなくなったりする心配がない場合、他の学派で礼拝を無効とするものから救われる為、例えばディルハムよりも少ない汚れを清める為に、あるいは他人である女性に接触したことを思い出してウドゥーを行う為に礼拝を中断することは認められます。
排泄や屁が我慢できなくなりそうな時にも、礼拝を中断することができます。

礼拝を中断することをファルドとする事柄
「助けて」と叫ぶ誰かを助ける為、井戸に落ちそうな盲人を助ける為、やけどしたり溺れたりしそうな人を助ける為、火事を消す為。
母、父、祖父、祖母が呼んでいる為にファルドの礼拝を中断することは認められません。認められたとしても、どうしても必要がなければ中断してはいけません。ナーフィラの礼拝では中断することができます。彼らが助けを求めていれば、ファルドをも中断することが必要です。

集団礼拝

礼拝では、少なくとも 2 人がいてその 1 人がイマームとなることで、集団ができます。5 回の礼拝のファルドを集団で行うことは男性にとってスンナです。金曜礼拝やイードの礼拝では集団で行うことはファルドです。集団で行う礼拝にはより多くのサワーブが与えられることがハディースで知らされています。預言者ムハンマドは次のように言われました。「集団で行われる礼拝には、一人で行われる礼拝よりも 27 倍のサワーブがある」、また別のハディースでは、「正しくウドゥーを行い、礼拝所に集団礼拝の為に行く人に、アッラーは一歩ごとにサワーブを記され、行いが記録さえたノートから歩みごとに一つずつ罪が消される。そして天国で彼の位階を一つ上げられる。」

集団で行われる礼拝は、ムスリムの間に一体化や統一をもたらします。愛情や結びつきを深めます。人々は集まり、互いに話し合います。悩みや苦しみがある人、病気である人がそれによって容易に理解されます。集団礼拝は、ムスリムが唯一の心、唯一の体であることの最良のしるしなのです。

病人、麻痺がある人、足が切断された人、歩けない老人、盲人は、集団礼拝に加わることは必須条件ではありません。

集団で行われる礼拝で、人々が従う存在を、イマームと呼びます。イマームとなることや、彼に従って集団を形成する為にはいくつかの条件があります。

イマームとなる為の条件

イマームとなる為には 6 つの条件があります。この条件の一つでも伴わないことがわかっている人の背後でなされた礼拝は、認められません。

ムスリムであること。アブー・バクル・スッドゥークやウマル・ファールクがカリフであることを信じない人、ミーラージュ　や墓場での場所を信じない人はイマームにはなれません。

思春期に達していること。

知性を伴っていること。酔っ払い、老衰した人はイマームにはなれません。

男性であること。女性は男性たちに対しイマームにはなれませ

ん。
少なくとも、ファーティハ章と一つの節を正しく唱えることができる人。一つの節も覚えていない人、覚えていたとしてもタジュウィードで読むことができない人、なまる人はイマームにはなれません。
障害がないこと。障害のある人は、障害のない人々へのイマームにはなれません。

イマームは、クルアーンをタジュウィードで読むことが必要です。読み方がきれいであるとは、タジュウィードで読むということです。礼拝の条件に重きを置かないイマームの背後で礼拝を行うことはできません。「誠実で公正な人の背後で礼拝を行いなさい」というハディースは、モスクのイマームについての言及ではなく、金曜礼拝を先導する統治者や総督の為のものです。
イマームに最も適した人はスンナ（すなわちイスラームの知識）を最も良く知っている人です。この点で同等である人々がいれば、クルアーンを最も良く読む人がイマームとなります。この点でも同等であれば、篤信がある方がイマームとなります。それでも同等であれば、年長であるほうが選ばれます。
奴隷、遊牧民、罪人、盲人、父親のわからない子供がイマームとなることはマクルーフです。イマームは集団をうんざりさせ、彼らを苦しめる形で礼拝を長々と行いません。
女性たちが自分たちだけで集団礼拝を行うことはマクルーフです。
一人の人とだけ一緒に礼拝を行うイマームは、その人を右側に立たせます。2 人の人へのイマームとなるのであれば、前に出ます。男性が女性や子供に従うことは認められません。
イマームの後ろでは男性が列を作り、その後ろで子供たちが、その後ろで女性たちが並びます。
イマームが女性たちの礼拝をも導くことをニーヤしたとき、同じ礼拝に参加している女性たちが男性と同じ列で礼拝を行えば、男性の礼拝が無効となります。もしイマームがこの女性のイマームとなることをニーヤしていなければ、並んでいる男性に害はありません。しかしこの女性の礼拝が認められません。立って礼拝

を行う人が、座ったまま礼拝を行う人に従うことは認められています。定住者は、旅行者であるイマームに従うことができます。ファルドの礼拝をする人は、ナーフィラの礼拝をする人に従うことはできません。イマームに従って礼拝を行った後でイマームのウドゥーがなかったことを知った人は、礼拝をやり直します。

ラガーイブ、ベラート、カディルの礼拝を集団で行うことはマクルーフです。

集団の人々が求めたとしても、イマームがファルドの礼拝を導く際、クルアーンの章句やタスビーフをスンナのよりも長く読むことはハラームに近いマクルーフです。

イマームがルクウをするまでに礼拝に間に合えなかった人は、そのラカートをイマームと行ったことにはなりません。イマームがルクウをしている時に礼拝に来た人は、ニーヤを行い、立ったままタクビールを行い、礼拝に加わります。すぐにルクウを行い、イマームに従います。ルクウを行う前にイマームがルクウから体を起こせば、その人はルクウには間に合えなかったことになります。

イマームよりも先にルクウを行うこと、サジュダを行うこと、あるいは先に身を起こすことはハラームに近いマクルーフです。ファルドの礼拝をした後、列を乱すことはムスタハブです。

ムスリムが日に 5 回の礼拝を毎日集団で行えば、全ての預言者たちと共に行ったほどのサワーブを得ます。

集団で行う礼拝がこれほど徳のあるものとなる為には、イマームの礼拝が有効なものであることが前提です。

誰であれ、集団礼拝を何の理由もなく放棄すれば、その人は天国の香りをかぐことができません。集団礼拝を何の理由もなく放棄する人は、4 つの学派それぞれで「憎まれるべき人」と定義されています。

日に 5 回の礼拝を集団で行うべく努力するべきです。最後の審判の日、アッラーが七層の地上、七層の天、玉座と全ての被造物を天秤の一方に、条件を守って集団で行われた一回の礼拝のサワーブをもう一方に置かれ、集団で行われる礼拝のサワーブの方がより重くなるのです。

イマームに従う礼拝が正しく行われる為に 10 の条件があります。
礼拝を行う際、タクビールの前にイマームに従うことをニーヤすること。「イマームに従います」と心から念じることが必要です。
イマームが女性たちにもイマームとなることをニーヤすることが必要です。男性へのイマームとなることをニーヤする必要はありません。しかしもしニーヤを行えば、彼は集団礼拝に参加している人々のサワーブをも得ることになります。
集団の人々のかかとは、イマームのかかとよりも後ろにあるべきです。
イマームと集団の人々は、同じファルドの礼拝を行うことが必要です。
イマームと集団との間に、女性の列があってはいけません。
イマームと集団との間に、ボートが通れるほどの川や車が通れるほどの道があってはいけません。
イマームもしくは集団の人々のうちの誰かを見たり、声を聞いたりすることができないような壁の間にいてはいけません。
イマームが動物に乗っている時に集団の人々が地面に至り、またその逆であったりしてはいけません。
イマームと集団は、くっついていない 2 つの船にいることはできません。
他の学派のイマームに従う集団の礼拝が真正となる為に、2 つの伝承があります。一つめによるなら、集団礼拝に参加している人々が、自分たちの学派で礼拝を無効とする事柄がイマームに存在しないことを知っていることが必要です。2 つめによるなら、彼自身の学派によって礼拝が真正とされるイマームに、他の学派の人々も従うことができます。この見解によるなら、歯の詰め物やかぶせ物があるイマームに従うことは認められません。

集団にあたる人が一人だけなのであれば、イマームの右側で同じ列に並びます。左側に並ぶことはマクルーフです。背後にいることもマクルーフです。足のかかとがイマームのかかとより前にでなければ、礼拝は真正となります。2 人もしくはそれ以上の場合は、イマームの背後に並びます。

イマームと一緒に、個人で礼拝を行う時のように礼拝します。

ただ、立っている時にイマームが心の中で唱えても、大きな声で唱えても、集団礼拝に参加している人々は何も唱えません。（シャーフィー派では、イマームと共に人々も小声でファーティハ章を読みます）ただ、1 回目のラカートで「スブハーナカ」を唱えます。イマームが大きな声でファーティハ章を唱え終えると、集団の人々は小声で「アーミーン」と言います。これを大声で言ってはいけません。ルクウから起き上がる時、イマームが「セミアッラーフ　リマン　ハミダ」と言うと、集団の人々はただ「ラッバナー　ラカル　ハムド」と言います。それから体を前に折る時に「アッラーフ　アクバル」といいながら、イマームと共に集団の人々もサジュダを行います。ルクウやサジュダ、そして座位においては、一人で礼拝する時と同様に集団の人々もドゥアー等を唱えます。

　ウィトルの礼拝は、ラマダーン月は集団で行われます。それ以外は個人個人で行われます。

遅れてきた人の礼拝

　イマームに従う人には 4 種類があります。これは「ムドゥリク」「ムクタディ」「マスブーク」そして「ラーフク」です。

ムドゥリク：イフティタフ・タクビールをイマームと一緒に行った人を意味します。

ムクタディ：イフティタフ・タクビールに間に合えなかった人を意味します。

マスブーク：イマームの 1 回目のラカートに間に合えなかった人を意味します。

ラーフク：イフティタフ・タクビールをイマームと共に行い、しかしその後ウドゥーを無効とする状態が生じた為、ウドゥーを行いなおし、再びイマームに従った人です。この人は、それまでと同様にキラートをせず、ルクウやサジュダのタスビーフを唱えつつ、礼拝を行います。この人は、もし世俗的な会話をしなければ、イマームの背後にいるような状態です。しかしモスクから出た後、近くでウドゥーを行わなければなりません。もし遠くにいけば礼拝が無効になるともされているからです。

　マスブーク、すなわち 1 回目のラカートに間に合えなかった人

は、イマームが左右に挨拶を行った後、立ち上がり、間に合わなかったラカートの礼拝を行います。

キラートは、まず1回目、それから2回目、そして3回目のラカートを行っている形で実行します。座位は、まず4回目、それから3回目、そして2回目と、すなわち逆から始めます。例えば、イシャーの最後のラカートに間に合った人は、イマームが挨拶を行った後、立ち上がり、1回目、2回目のラカートでファーティハ章と他の章句を読みます。1回目のラカートでは座り、2回目では座りません。

イマームが行わなかった場合、集団礼拝に参加している人々も行わない5つの事柄

イマームがクヌートのドゥアーを唱えなければ、人々も唱えません。

イマームがイードの礼拝のタクビールを行わなければ、人々も行いません。

イマームが4ラカートの礼拝の2ラカート目で座らなければ、人々も座りません。

イマームがサジュダの章句を読み、サジュダを行わなければ、人々も行いません。

イマームが過失のサジュダを行わなければ、人々も行いません。

イマームが行った場合でも、集団礼拝に参加している人々は行わない4つの事柄

イマームが2回よりも多くサジュダを行った場合、人々は行いません。

イマームがイードのタクビールを1回のラカートで3回よりも多く行った場合、人々は行いません。

イマームが葬儀の礼拝で4回よりも多くのタクビールを行った場合、人々は行いません。

イマームが5回目のラカートを行おうとした場合、人々は行いません。イマームを待ち、共に挨拶を行います。

イマームが行わなかった場合でも、集団礼拝に参加している人々は行う 10 の事柄
イフティタフ・タクビールで手を上げること。
スブハーナカを唱えること。
ルクウを行う際タクビールを行うこと。
ルクウでタスビーフを読むこと。
サジュダを行う時、起き上がる時、タクビールを行うこと。
サジュダでタスビーフを唱えること。
「サミ　アッラーフ」を唱えなくても「ラッバナー　ラカル　ハムド」と唱えること。
「アッタヒヤートゥ」の最後まで座ること。
礼拝の最後に挨拶を行うこと。
イード・ル・アドゥハー（犠牲祭）で 23 回のファルドの後、挨拶を行わったすぐ後でタクビールをすること。この 23 回のタクビールをタシュリークのタクビールと呼びます。

イフティタフ・タクビールの徳

誰かが、イフティタフ・タクビールをイマームと共に行えば、秋、木から葉や風が吹くたびに落とされるように、その人の罪も同じように落とされます。

ある日、預言者ムハンマドは礼拝をされている時、ファジュルの礼拝のイフティタフ・タクビールに間に合わなかった人がいました。彼は奴隷を一人解放し、それから預言者ムハンマドを訪ね、質問しました。「アッラーの使徒よ。私は今日、イフティタフ・タクビールに間に合いませんでした。奴隷を一人解放しました。私はイフティタフ・タクビールのサワーブを得ることができるでしょうか。」預言者ムハンマドはアブー・バクル・スッドゥークに、「このイフティタフ・タクビールについてあなたはどう思うか」と尋ねられました。アブー・バクル・スッドゥークは、「アッラーの使徒よ！仮に私が 40 頭のラクダを持ち、その荷が宝石であり、その全てを貧者へのサダカとしても、やはりイマームと共に行うイフティタフ・タクビールのサワーブを得ることはできません」

それからアッラーの使徒は「ウマルよ、あなたはこのイフティ

タフ・タクビールについてどう思うか」と尋ねられました。ウマルは、「アッラーの使徒よ！仮にマッカとマディーナに間をいっぱいにするだけのラクダを私が持っていて、その荷が宝石であり、その全てを貧者へのサダカとしても、やはりイマームと共に行うイフティタフ・タクビールのサワーブを得ることができません」と答えました。

それから預言者ムハンマドは「オスマーンよ！あなたはこのイフティタフ・タクビールについてどう思うか」と尋ねられました。オスマーンは、「アッラーの使徒よ！私が夜、2ラカートの礼拝を行い、それぞれのラカートで荘厳なるクルアーンを全て読んだとしても、やはりイマームと共に行うイフティタフ・タクビールのサワーブを得ることはできません」といいました。

それから預言者ムハンマドは、「アリーよ！あなたはこのイフティタフ・タクビールについてどう思うか」と尋ねられました。アリーは、「アッラーの使徒よ！マグリブ（西方）からマシュリク（東方）まで不信仰者で満ちており、アッラーが私に力を与えられて全てを倒したとしても、やはりイマームと共に行うイフティタフ・タクビールのサワーブを得ることはできません」といいました。

それから預言者ムハンマドは、「わがウンマよ、わが友たちよ！七層の地と七層の天が紙となり、大洋がインクとなり、全ての木がペンとなり、全ての天使が書記となり、最後の審判の日まで書き続けたとしても、やはりイマームと共に行うイフティタフ・タクビールのサワーブについて書くことはできない」といわれました。

物語：宮殿に作られた礼拝所

イマーム・アザーム・アブー・ハニーファの弟子であるイマーム・アブー・ユースフ（アッラーがお慶びくださいますように）は、ハールン・ラシドの時代に地方検事でした。ある日、ハールン・ラシドのそばにいる時、ある人が他の人について訴訟を起こしました。ハールン・ラシドの宰相も、「私が証人だ」といいました。イマーム・アブー・ユースフは、宰相が証人となることを認めませんでした。カリフはなぜ宰相を証人として認めないのか訊

ねました。イマームは、「ある時あなたは彼に仕事を命じられた。彼もあなたに、私はあなたのしもべですといいました。もし事実を話したのであれば、奴隷の証言は認められません。もし嘘を話したのであれば、嘘つきの証言も聞き入れられません」と答えました。カリフは、「私が証言すれば認めるか」と尋ねました。「いいえ、認められません」とイマーム・アブー・ユースフは答えました。「なぜか」と尋ねられました。「あなたは集団礼拝をしておられません」と答えました。「私はムスリムたちの為の仕事で忙しいのだ」とカリフはいいました。イマームは、「創造者に服従すべきところで、被造物へは服従するべきではありません」と答えました。カリフは「もっともだ」といい、宮殿に礼拝所を作るよう命じました。ムアッズィンとイマームも任命されました。そしてそれからはいつも、礼拝を集団と共に行ったのでした。

金曜礼拝

アッラーは金曜日を、ムスリムの特別のものとされました。金曜日のズフルの時間に集団礼拝を行うことは、アッラーのご命令です。

アッラーは、合同礼拝章の 9－10 節で次のようにいわれました。「あなたがた信仰する者よ、合同礼拝の日の礼拝の呼びかけが唱えられたならば、アッラーを念じることに急ぎ、商売から離れなさい。もしあなたがたが時刻を分っているならば、それがあなたがたのために最も善い。礼拝が終ったならば、あなたがたは方々に散り、アッラーの恩恵を求めて、アッラーを讃えて多く唱念しなさい。必ずあなたがたは栄えるであろう」

礼拝後、望む人は仕事に行き、働き、望む人はモスクに留まり、礼拝をしたりクルアーンを読んだりドゥアーをしたりします。金曜礼拝の時間に入ると、商売を行うことは罪となります。

預言者ムハンマドは、様々なハディースで仰せられています。
「ムスリムが金曜日にグスルの礼拝をして金曜礼拝に行くなら。一週間分の罪が許され、一歩ずつの為にサワーブが与えられる」
「アッラーは、金曜礼拝を行わない人の心を封印される。彼らはガーフィルとなる。」
「日々のうち最も尊いのは金曜日である。金曜日はイードの日よ

りも、そしてアシューラの日よりもより尊い。金曜日は現世と天国における信者たちのイード（祝日）である。」
「誰かが、妨げとなるようなものもないのに 3 回にわたり金曜礼拝を行わなければ、アッラーは心を封印される。すなわち、良いことを行わなくなる。」
「金曜礼拝の後、ある一瞬がある。その瞬間に信者が行ったドゥアーは拒まれない。」
「金曜礼拝の後で 7 回イフラース章、7 回黎明章、7 回人々章を読む人を、アッラーは一週間、事故や災難、悪事から守られる。」
「土曜日がユダヤ教徒たちに、日曜日がキリスト教徒たちに与えられたように、金曜日はムスリムに与えられた。この日は、ムスリムたちに福、恵み、善がある。」
　金曜日に行われるイバーダには、他の日に行われるものの少なくとも 2 倍のサワーブが与えられます。金曜日に行われた罪についても 2 倍として記されます。
　金曜日に魂は集まり、互いと知り合います。その後墓地が訪問されます。この日には墓場での罰が止められます。一部の学者によれば、信者に対する罰はそのまま終わります。不信仰者の罰は、金曜日とラマダーン月に赦されず、審判の日まで続きます。この日、そしてこの夜に死んだムスリムは、墓場での罰を受けません。地獄は金曜日にはあまり暑くなりません。預言者アーダムは金曜日に創造されました。金曜日に天国から出されました。天国に行く人々は、アッラーを金曜日に目にすることができます。

金曜礼拝のファルド

　金曜日には 16 ラカートの礼拝がされます。このうち 2 ラカートを行うことはファルドで、これはズフルの礼拝よりもより強いファルドです。金曜礼拝がファルドとなる為には 2 種類の条件があります。
エダーの条件
ウジューブの条件
　エダーの条件の一つが不足すれば、礼拝は認められません。ウジューブの条件が不足しても、礼拝は認められます。

エダー、すなわち金曜礼拝が真正となる為の条件は7つ

礼拝を町で行うこと。（ここでいう町とは、人々が最大のモスクに入りきらない場所を意味します）
国家の長や知事の許可を得て行うこと。彼らが任命した説話者は、自分の代わりに他者を代理にすることができます。
ズフルの礼拝の時間に行うこと。
時間内にフトバ（説話）を行うこと。（学者たちは金曜日のフトバを読むことは、礼拝時に「アッラーフ　アクバル」と唱えることのようである、と話しています。つまり2つのフトバはアラビア語で読むべきです。説話者は心の中で「アウーズ」を唱え、それから大きな声で「ハムドゥ」「セナー」「カリーマ・シャハーダ」「サラートゥ　サラーム」を唱えます。それから、サワーブと罰をもたらすものを思い起こさせ、クルアーンの節を読みます。座り、それから立ち上がります。2回目のフトバを行い、説話の代わりに信者たちにドゥアーします。4大カリフの名を唱えることはムスタハブです。フトバに世俗的な言葉を混入させることはハラームです。フトバを、スピーチや講演会のような形にしてはいけません。フトバを短くすることはスンナです。長くすることはマクルーフです）
フトバを礼拝よりも先に行うこと。
金曜礼拝を集団と共に行うこと。
モスクのドアを皆に対して開いておくこと。

金曜礼拝のウジューブの条件は9つ

町、小さな町に住んでいること。旅行者にはファルドではありません。
健康であること。病人や病人を放っておけない看護人、そして老人にはファルドではありません。
自由（奴隷ではない）であること。
男性であること。女性にはファルドではありません。
知性を持ち、思春期に達していること。つまりムカッラフであること。
盲人ではないこと。モスクに連れて行ってくれる人がいたとしても、目が見えない人にはファルドではありません。

歩けること。運ぶことができるとしても、麻痺のある人、足がない人にはファルドではありません。
刑務所にいないこと、敵の恐れ、統治者や迫害者への恐れがないこと。
過度の雨、雪、嵐、泥、寒さなどがないこと。

金曜礼拝はどのように行われるか

金曜日、ズフルのアザーンが読み上げられると、16 ラカートの金曜礼拝が行われます。これらの手順は次の通りです。
まず、金曜礼拝の 4 ラカートの最初のスンナを行います。このスンナはズフルの礼拝の最初のスンナのように行います。これを、「アッラーのご満悦の為に金曜礼拝の最初のスンナを行うことをニーヤしました。キブラに向かいました」とニーヤします。
それから、モスクの中で 2 回目のアザーンとフトバが読まれます。
フトバを読んだ後にイカーマがなされ、集団と共に金曜礼拝の 2 ラカートのファルドが行われます。
金曜礼拝のファルドを行った後、4 ラカートの終わりのスンナを行います。これはズフルの礼拝の最初のスンナのように行います。
その後、「ファルドであり、行っていなかった最後のズフルの礼拝のファルドを行います」とニーヤし、「アーヒル・ズフル」の礼拝を行います。4 ラカートのこの礼拝の行い方は、ズフルの礼拝のファルドの行い方のようにします。
それから、2 ラカートの「時間のスンナ」を行います。行い方はファジュルの礼拝のスンナの行い方のようにします。
その後、アーヤトゥル・クルシーとタスビーフを唱え、ドゥアーを行います。

金曜礼拝のスンナと徳

金曜礼拝に、木曜日から備えること。
金曜日にグスルを行うこと。
頭の髪を整え、髭の長すぎる部分や爪を切ること。清潔な服を着ること。
金曜礼拝に可能な限り早めに行くこと。

前の列に並ぼうと人々を抜かさないないこと。
モスクでは、礼拝している人の前を通らないこと。
説話者が説教台に上がった後は何も話さないこと、話す人に、しぐさであっても答えないこと、アザーンを繰り返さないこと。
金曜礼拝の後、ファーティハ章、不信者たち章、イフラース章、黎明章、人々章を 7 回読むこと。
アスルの時間までモスクに留まり、イバーダを行うこと。
学者たち（スンナの道をいく学者たちの書物を用いる）の授業や説話に参加すること。
金曜日を 1 日イバーダを行って過ごすこと。
金曜日にサラワート・シャリファを行うこと。
クルアーンを読むこと。洞窟章を読むべきです。
サダカを支払うこと。
両親もしくは墓地を訪問すること。
家の食事を十分に、おいしく作ること。
多くの礼拝を行うこと。カダーに残した礼拝がある人は、カダーの礼拝を行わなければなりません。

イードの礼拝

　シャッワール月の一日目はフィトル、つまりラマダーンあけの大祭の、ズルヒッジャ月の十日目は犠牲祭のそれぞれ初日です。この 2 つの日、日が昇り、礼拝をさけるべき時間が過ぎた後、2 ラカートのイードの礼拝を行うことは、男性にとってワージブです。
　イードの礼拝の条件は、金曜礼拝の条件と同じです。しかしここではフトバはスンナであり、礼拝の後に行われます。
　ラマダーンあけの大祭では、礼拝の前に甘いもの（ナツメヤシもしくは砂糖）を食べること、グスルを行うこと、ミスワークを使うこと、最も良い服を身に着けること、フィトル・サダカを礼拝の前に支払うこと、道中も小声でタクビールを行うことがムスタハブです。
　犠牲祭では、イードの礼拝の前に何も食べないこと、礼拝の後で犠牲として屠った動物の肉を食べること、礼拝に行く時には大きな声で、差し障りがある人は小声でタクビールを行うことがムスタハブです。

イードの礼拝は 2 ラカートです。集団で行われ、個人で行われることはありません。

イードの礼拝はどのように行われるか

まず、「ワージブであるイードの礼拝を行うことをニーヤしました。イマームに従います」とニーヤし、礼拝を始めます。それから「スブハーナカ」を唱えます。
「スブハーナカ」の後、手を耳のところまで上げつつ 3 回タクビールを行い、1 回目と 2 回目では両手を体のわきに下ろします。3 回目では、臍の下で手を組みます。イマーム派まずファーティハ章を、それからもう一つの章を読み、共にルクウを行います。2 回目のラカートで、イマームはまずファーティハ章ともう一つの章を読みます。それから両手を 3 回、タクビールをしつつ上げます。3 回目も体の脇に下ろします。4 回目のタクビールで手を耳のところにあげず、ルクウを行います。簡単に「2 回上げて 1 回組む、3 回上げて 1 回体を折る」と暗記することができるでしょう。

タシュリークのタクビール：

犠牲祭の前日のファジュルの礼拝から 4 日目のアスルの礼拝まで、巡礼者及び巡礼に行かなかった男女全ては、集団礼拝であろうと個人で礼拝していようと、ファルドの礼拝の後で挨拶を行ったすぐ後に、一度タシュリークのタクビールを行うことはワージブです。
葬儀の礼拝の後は読みません。モスクから出た後、あるいは話した後で唱える必要はありません。
イマームがタクビールを忘れても、集団礼拝をしている人々はそれを放棄しません。男性は大きな声で、女性は小さな声で読みます。

タシュリークのタクビール
「アッラーフ　アクバル、アッラーフ　アクバル
ラー　イラーハ　イッラッラーフ
ワッラーフアクバル　アッラーフアクバル
ワ　リッラーヒルハムドゥ」

死への備え

死を思い起こすことは、最大の警告です。信仰を持つ全ての人がしばしば死を思い起こすことはスンナです。死を多く思い起こすことは、命令に従い、罪を避ける要因となる上にハラームを行う勇気を失わせます。預言者ムハンマドは次のように仰せられました。「味わいを損なわせ、楽しさに終わりを与える死を、しばしば思い起こしなさい。」

イスラームの偉人の一部は、毎日一度は死を思い起こすことを習慣としていました。偉大なワリーの一人、ムハンマド・バハーアッディニ・ブハーリーは毎日 20 回、自らが死んで墓に埋められた場面を想像していました。

不死の願望とは、長く生きることを望むことです。イバーダを行い、イスラームに奉仕する為に長生きすることを望むことは、不死の願望ではありません。この願望を持つ人はイバーダを時間通りに行いません。悔悟を行うことも放棄します。心は頑なになっています。死を思い起こすこともなくなります。説話や忠言から教訓を得ることもありません。

不死の願望を持つ人は、いつでも現世での富や地位を得る為に生涯を送ります。来世を忘れます。ただ快楽と喜びを得ることのみを考えています。

ハディースでは次のように仰せられています。

「死ぬ前に、死になさい。審判を受ける前にあなた自身を裁きなさい。」

「もし動物たちが死の後に起こることをあなた方が知っているように知っていれば、食用として脂ののった動物を見つけることはできなかっただろう」

「日夜死を考える人は、審判の日に殉教者のそばにいるだろう」

不死への願望への要因：現世での快楽に夢中になること、死を忘れること、健康や若さに欺かれることです。不死への願望という病から救われる為には、この要因をなくす必要があります。死があらゆる瞬間に訪れることを考えるべきです。不死願望を持つことの弊害と、死を思い起こすことの効用を学ぶべきです。

ハディースでは次のように説かれています。

「死を、多く思い起こしなさい。それを思い起こすことは、罪を犯すことから人を守り、来世で害を及ぼすことを避ける要因となる。」

死とは何か

死をなくすことは不可能です。死とは、魂と肉体の結びつきが終わることです。魂が肉体から離れることです。死は、人がある状態からもう一つの状態へと変わることで、まるで一つの家から別の家に移ることのようです。ウマル・ビン・アブドゥルアジズ師は、「あなた方はただ、永遠の為に創造された。しかし、一つの家から別の家へ移るのだ」と話しています。死は、信者への贈り物ですが、罪を犯した人にとっては災いです。人は死を求めません。しかし死は、災いというよりもむしろ良い　　ことです。人は生きることを好みます。しかし死は、人にとって良い　　ことなのです。誠実な信者であれば、死によって現世の苦労や疲労から救われます。それが迫害者の死であれば、国々や奴隷たちが安全を得ます。ある迫害者の死について語られた古い2行詩があります。

自分自身も楽になることはなかったように、世界にも安らぎを与えなかった
この世界から倒れて去った　死者たちが忍耐するように

信者の魂が肉体から離れることは、捕虜が監獄から救われることのようです。信者は、死んだ後にこの世界に戻ることを求めません。ただ殉死者たちは、この世界に戻ってもう一度殉死することを求めます。死は、全てのムスリムにとっての贈り物です。人の教えを、ただその墓が守ります。墓での生活は、天国の庭にいること、もしくは地獄の穴にいることのように例えることができます。

死は真実である

死から救われることは可能でしょうか。もちろん不可能です。1秒であっても余分に生きることは誰にもできません。死が訪れた人は、死にます。この瞬間は、目を開けて閉じる間に過ぎる一瞬です。クルアーンでは、「死が訪れた時には、それを一時でも

遅らせたり早めたりすることはできない」という意味のことが説かれています。
　アッラーが人の死をどこに定められたのであれ、その人は財産、資産、子供を残し、そこで死にます。
　アッラーは私たちが日に何回呼吸したかをご存じです。アッラーがご存じでないことは何もありません。信仰し、人生がイバーダと共に過ぎたのであれば、その終わりは幸福です。アッラーはアズラーイールに、「わが親友の命を容易に取りなさい、敵の命を困難な形で取りなさい」と仰いました。信仰を持つ人々にとって、これは大きな吉報です。しかし、信仰を持たない人々にとっては大きな災いなのです。

葬儀の礼拝

　信者が亡くなった時、その知らせを受けた男性、男性がいなければ女性に、葬儀の礼拝はキファーヤのファルドとなります。葬儀の礼拝はアッラーの為の礼拝であり、死者の為のドゥアーです。それを大切にしない人は信仰が失われます。

葬儀の礼拝の条件

死者がムスリムであること。
洗浄がなされていること。洗浄されずに埋葬された人は、まだ土がかけられていなければそこから出して洗い、礼拝を行います。
遺体と、イマームのいる場所は、清潔であることが必要です。
遺体の、もしくは胴体の半分と、頭もしくは頭がなければ半分より多い胴体がイマームの前にある必要があります。
遺体は地面もしくは地面に近いところで、手によって支えられているか、石の上に載せられているべきです。遺体の頭はイマームの右側、足は左側に来ます。逆に置くことは罪となります。
遺体はイマームの前にあるべきです。
遺体とイマームのアウラの場所は覆われているべきです。

葬儀の礼拝のファルド

1．4回タクビールを行うこと。
立ったまま行うこと。

葬儀の礼拝のスンナ
「スブハーナカ」を唱えること。
「サラワート」を唱えること。
本人、死者、そして全てのムスリムへ許しを求める為に教えられているドゥアーのうち、知っているものを唱えること。

葬儀の礼拝はモスクの中では行われません。

生きた状態で生まれてそのまま死んだ子供には、名前が付けられ、洗われ、白布で包まれ、礼拝が行われます。

遺体が運ばれる時には、棺の四方から支えます。まず遺体の頭の側が右肩に、それから足の側が右肩に、それから頭の側が左肩に、足の側が左肩に載せられ、それぞれによって 10 歩ずつ運ばれます。墓に着く際、遺体を肩から地面に下ろすまでは座りません。埋葬が行われる際、作業がない人は座ります。

葬儀の礼拝はどのように行われるか
葬儀の礼拝の 4 つのタクビールのそれぞれは、一つのラカートのように行われます。4 つのタクビールの 1 回目のみで、手を耳のところに上げます。後の 3 つのタクビールでは手を上げません。
最初のタクビールを行い、両手を組み合わせ、「スブハーナカ」を唱えます。それが唱えられる時には、「ワジャッラ　サナーウカ」も唱えられます。ファーティハ章は読まれません。
2 回目のタクビールの後、タシャッフドで座る時に読まれる「サラワート」、すなわち「アッラーフンマ　サッリ」と「アッラーフンマ　バーリク」が唱えられます。
3 回目のタクビールの後、葬儀のドゥアーが行われます。(葬儀のドゥアーの代わりに「ラッバナー　アーティナー」もしくはただ「アッラーフンマウフィルラフ」と唱えること、あるいはドゥアーとしての意思を持ってファーティハ章を唱えることもできます)
4 回目のタクビールの後、すぐに左右に挨拶を行います。挨拶を行う際、死者や集団礼拝に参加している人々へという形でニーヤします。

イマームは、ただ 4 つのタクビールと両肩への挨拶を声に出し

て行います。それ以外は心の中で唱えます。
　葬儀の礼拝を行った後、棺のそばでドゥアーを行うことは認められません。マクルーフとなります。

タラーウィーの礼拝

　タラーウィーの礼拝は、男女にとってスンナです。ラマダーン月に毎晩行われます。集団で行うことがキファーヤのスンナです。時間は、イシャーの礼拝の後、そしてウィトルの礼拝の前です。ウィトルの後に行うこともできます。例えば、タラーウィーの一部に間に合って、イマームと共にウィトルの礼拝を行った人は、タラーウィーの礼拝のうちで間に合わなかった分のラカートを、ウィトルの後で行います。
　行われなかったタラーウィーの礼拝は、カダーされません。カダーされた場合はナーフィラの礼拝となります。タラーウィーの礼拝とはならないのです。
　タラーウィーの礼拝は 20 ラカートです。

タラーウィーの礼拝はどのように行われるか

　ウィトルの礼拝は、ラマダーン月のみ集団で行われます。タラーウィーの礼拝を 2 ラカートずつ、10 回の挨拶で行うこと、4 ラカートごとにタスビーフを行いながら実行することがムスタハブです。カダーに残した礼拝がある人は、空いた時間に 5 回の礼拝のスンナとタラーウィーの代わりにカダーの礼拝を行い、少しでも早くカダーの礼拝を終え、それからこの礼拝を始めるようにします。
　タラーウィーの礼拝をモスクにて集団で行えば、他の人々は家で行うことができます。罪にはなりません。しかし、モスクでの集団礼拝のサワーブを得ることはできません。家で、一人もしくは複数の人と集団で行えば、個人で行うよりも 27 倍のサワーブを得ます。イフティタフ・タクビールごとにニーヤを行うことがより良い　とされます。イシャーの礼拝を集団で行わない人は、タラーウィーの礼拝も集団ではできません。イシャーの礼拝を個人で行った人は、ファルドを個人で行い、それからタラーウィーの礼拝を集団で行うことができます。

第5部
旅行中の礼拝

ハナフィー派に属する人は、15日よりも少なく滞在する意思を持ち、104 キロかそれよりも遠い場所に行くことで、旅行者となります。

旅行者は、4 ラカートの礼拝を 2 ラカートとして行います。定住者のイマームに従う時は、やはり 4 ラカート行います。旅行者がイマームになれば、2 回目のラカートの後で挨拶を行います。それから、彼に従って集団礼拝をしていた人々は礼拝を完了させる為に 2 ラカートをさらに行います。

旅行者である人は、メストの上から 3 日 3 晩、マスフを行うことができます。断食を中止することができますが、旅行者の調子がよければ、中止しないことがより良い　とされます。犠牲を屠ることはワージブではありません。金曜礼拝も旅行者としてファルドではありません。

礼拝の時間の最後の方で出発した人は、この礼拝をまだ行っていなければ 2 ラカートで行います。しかし時間の最後に祖国に戻った人がまだその礼拝を行っていなければ、4 ラカートで行います。

「イスラームの恵み」という本では次のように書かれています。ナーフィラの礼拝は、立って行う力があっても、座って行うことはいつでもどこでも認められています。座って行う際には、ルクウの為に体を曲げます。サジュダの為には頭を地面につけます。しかし、理由なくナーフィラの礼拝を座って行う人には、立って行う人の半分ほどしかサワーブが与えられません。日に 5 回の礼拝のスンナも、タラーウィーの礼拝も、ナーフィラの礼拝となります。旅行中、つまり町や村以外で、ナーフィラの礼拝を動物の上で行うことは認められています。キブラに向かうこと、ルクウとサジュダを行うことは不要です。象徴的な動きで行います。つまり、ルクウの為に体を少し曲げます。サジュダの為にもう少し体を曲げます。動物の上にたくさんの汚れがあることは、礼拝の妨げにはなりません。床でナーフィラの礼拝を行う際、疲れた人は、杖、人、壁にもたれて行うことが認められています。自分の

足で歩いている時に礼拝をすることは、真正にはなりません。

ファルドやワージブの礼拝は、やむを得ない理由がない限りは、動物の上で行うことは認められません。ただし差し障りがあれば行えます。やむを得ない理由がある、差し障りのある人とは、財産や生命、家畜が危険であること、家畜から下りた場合、動物もしくは動物の上、もしくは動物の近くにある財産が盗まれること、獰猛な動物、敵、地面に泥があること、雨が降っていること、病人であるために乗り下りする際に回復が遅れること、あるいは病気が重くなること、友が待ってくれず、危険な状態であること、一度下りると援助なしではその家畜に乗れないような人を指します。

可能であれば、動物をキブラの方角に向けて止まらせて行います。不可能であれば、動いている状態でも礼拝を行います。家畜の上にあるマフミールと呼ばれるはこの中で礼拝を行うことも同様です。動物を止まらせ、マフミールの下に棒を置けば、サリール、すなわちテーブルと同じであり、地面で礼拝を行うことを意味します。この場合はキブラに向かって立って行うことが必要です。動物から下りることができる人は、ファルドの礼拝をマフミールで行うことはできません。

船で礼拝を行う時は、ジャファール・タイヤールがエチオピアに向かう時、預言者ムハンマドが教えられたように、次のような形をとります。動いている船で、差し障りがなくても、ファルドやワージブを行うことができます。船で、集団礼拝を行うこともできます。動いている船で象徴的な動きで礼拝をすることは認められません。ルクウとサジュダを行います。キブラに向かうことも必要です。礼拝を始める時、キブラに向かいます。船が動くにつれて、その人もキブラに向きを変えます。船ではナジャーサからの清めも必要です。イマーム・アーザム・アブー・ハニーファによると、進む船ではファルドも、差し障りのない状態で座って行うことが認められています。

海の真ん中にいかりを下ろした船は、大きく揺れているようであれば、進む船と同様です。少ししか揺れていなければ、海岸に停まっている船の場合と同様に行います。海岸に停まっている船では、ファルドを座って行うことはできません。海岸に上がるこ

とが可能であれば、立って礼拝することも真正とはならず、陸に上がって礼拝を行うことが必要となります。財産、生命、そして船が出発する危険があれば、船で、立って礼拝することが認められています。

イブン・アービディンは次のように語っています。「2 つの車輪があり、動物につながれなければ地面でまっすぐ立つことのできない乗り物で礼拝を行うことは、止まっている時も動いている時も、動物の上で礼拝を行うことと同様です。4 つの車輪がある乗り物は、止まっている時はセリル、つまり机と同様です。動いている時は、動物に関して先述の差し障りがあれば、そこでファルドをおこなうことができ、乗り物を止めてキブラに向かって礼拝します。止めることができなければ、進んでいる船に乗っている時のように礼拝します。」

動いている際にキブラに向かうことができない人は、シャーフィー派を模倣し、2 つの礼拝をまとめて行います。これも不可能であれば、キブラに向かうことは条件ではなくなります。椅子、ソファーに座って象徴的な動きで礼拝をすることは、誰にも認められません。バスや飛行機で礼拝することは、乗り物で行うことと同様です。

旅行中のファルドやワージブは、やむを得ない理由なく動物の上で行うべきではありません。乗り物を止め、キブラに向かって立って行うべきです。この為に、乗り物に乗る前に必要となるものの用意をあらかじめしておくべきなのです。

旅行者は、ボートや電車でファルドの礼拝を行う時、キブラに向かい、サジュダの場所のそばにコンパスを置くべきです。ボートや電車が向きを変えるたびに、彼自身もキブラに向きを変えます。胸がキブラの方向から離れた場合、礼拝は無効になります。バス、電車、波のある海で、キブラに向かうことができない人のファルドの礼拝は認められません。その為、こういった人々は旅行中にシャーフィー派を模倣し、ズフルとアスルの礼拝、そしてマグリブとイシャーの礼拝を一緒に行うことができます。つまり、旅行中にこの 2 つの礼拝を続けて行うのです。なぜならシャーフィー派では、80 キロ以上続く旅行の間は、アスルをズフルの時間に、そしてイシャーをマグリブの時間に早めて行うこと、も

しくはズフルをアスルの時間に、マグリブをイシャーの礼拝に遅らせて、この 2 つの礼拝を共に行うことができるからです。この為、ハナフィー派である人が、旅行中キブラに向くことができずに、日中どこかで止まった際にズフルの礼拝を行ったら、すぐ後にアスルの礼拝も行うべきです。夜、止まった時には、イシャーの礼拝の時間にまずマグリブを、それからイシャーを同時に行うべきです。そしてこれらの礼拝をニーヤする時は、「シャーフィー派を模倣し実行します」とニーヤするべきです。出発前、もしくは旅行が終わってから、2 つの時間の礼拝を同時に行うことはできません。

病気の際の礼拝

ウドゥーを無効とするものが体から出ることが続いているのであれば、「差し障り」があるといわれます。尿、膿、屁、鼻血、傷口から血や膿が流れること、痛みや腫れの為に涙が出ること等が一つの礼拝の時間内に続いていれば、もしくは月経ではない出血がある女性は、「差し障り」があるといわれます。詰め物をしたり、薬を処方したり、もしくは礼拝を、座って、もしくは象徴的な動きで行ったりすることで、これらを止めることが必要です。尿が漏れる男性は、尿道にオオムギほどの綿を詰めます。この綿は、少量の尿を吸収し、外に流れることを防ぎます。これによってウドゥーが無効とはなりません。綿は排尿時に自然に外れます。尿が大量に漏れるのであれば、綿を浸透した尿が外にも漏れ、ウドゥーが無効となります。溢れた尿が下着を汚さないようにすべきです。女性は、前部にいつでもパッドを当てておくべきです。おりものがとまらなければ、礼拝の時間ごとにウドゥーをし、その状態で礼拝を行います。差し障りのある人は、一回のウドゥーを行うことで、その時間が終わるまで、ファルド、カザー、そしてナーフィラの礼拝を行うことができます。クルアーンを持つこともできます。礼拝の時間が過ぎれば、ウドゥーは無効になります。時間が過ぎる以前にも、差し障り以外の理由でウドゥーが無効になることもあります。例えば、鼻の穴の一つから血が出ている時にウドゥーを行い、その後もう一つの穴からも血が出てきた場合、ウドゥーは無効となります。ウドゥーを行い、そ

の時間のファルドを行うだけの時間に流れないようであれば、差し障りがあることにはなりません。マーリキー派の一つの見解によれば、一滴でも流れれば差し障りがあることになります。
誰かが差し障りのある状態となり、次の礼拝の時間に、一度でも、一滴でも流れれば、差し障りのある状態はその時間にも続きます。一つの礼拝の時間に全く流れなければ、差し障りのある状態は終わります。差し障りのある人の汚れが、その服にディルハムの量以上についたとき、再び汚れることを防ぐのが可能であれば、汚れた場所を洗うことが必要です。
グスルを行うことで病気になること、もしくは病気が重くなること、あるいは回復が遅れることを恐れる人は、タヤンムムを行います。この恐れは、自分の経験、もしくはムスリムで公正な医師の指摘によるものです。罪を犯したことが言及されていない医師の言葉も認められます。寒さのために住む家や水を温める手段、町のハマムに行くお金がない場合、病気の原因となり得ます。ハナフィー派では一回のタヤンムムで望むだけのファルドを行うことができます。シャーフィー派とマーリキー派では、ファルドの礼拝それぞれの為に新たにタヤンムムを行います。
ウドゥーで洗う場所の半分に傷がある人は、タヤンムムを行います。傷が半分より少なければ、健康な部分を洗い、傷をマスフします。グスルでは全身が一つの器官と見なされる為、全身の半分が傷である場合にタヤンムムを行います。傷にマスフを行うことで害があれば、包帯の上からマスフをします。それでも害があれば、マスフを放棄します。ウドゥーやグスルで、頭へのマスフが害を及ぼすのであれば、頭にマスフを行いません。手に湿疹や傷などの問題があるために水を使えない人は、タヤンムムを行います。顔、腕を地面（レンガ、土、石の壁）につけます。手や足が切断されている人の顔にも傷がある場合は、ウドゥーなしで礼拝を行います。ウドゥーをさせてくれる人を見つけられない人は、タヤンムムを行います。子供、奴隷、対価を払って雇っている人は、彼を助ける義務があります。他の人からも援助を求めることはできますが、彼らには援助を行う義務はありません。夫婦も、互いにウドゥーを行うのを助ける義務はありません。
採血をしたり、ヒルに吸われたり、傷やできものがあったり、

骨が折れたり、痛んだりしたために包帯（綿、ガーゼの上にの版倉庫、軟膏）を巻いている人は、その場所を冷水、温水で洗うこと、もしくはマスフすることができなければ、ウドゥーやグスルでそれらの半分以上を一度マスフします。包帯を解くことが害を及ぼすのであれば、その下の健康な場所も洗いません。包帯の間に見える健康な皮膚の部分にマスフをします。包帯は、ウドゥーのある状態で巻く必要はありません。マスフの後に包帯を変える場合、もしくはその上に別の包帯がまかれる場合、新しい包帯へのマスフは必要とはなりません。

立てない人、もしくは立った場合に病気が長引くことが強く懸念される病人は、礼拝を座ったままで行います。ルクウの為に体を少し曲げ、それから体をまっすぐにし、床に 2 度のサジュダを行います。座りやすい形で座ることが認められ、例えば膝を曲げること、しゃがむこと、あぐらをかくことも認められます。頭、膝、目の痛みは病気と見なされます。敵に姿を見られるという恐れは、「差し障り」です。立った場合に断食やウドゥーが無効になってしまう人も座って礼拝します。何かにもたれることで立っていられる人は、もたれて礼拝します。長い時間立っていられない人は、イフティタフ・タクビールを立って行い、座って礼拝を続けます。

地面にサジュダを行うことができない人は、立ったまま唱え、ルクウやサジュダの為に座って象徴的な動きで行います。座って、ルクウの為に少し、サジュダの為にはもう少し深く、体を曲げます。体を曲げることができない人は頭を下げます。何かの上にサジュダを行うことは必要ではありません。何かの上にサジュダを行った場合、サジュダでルクウよりも深く体を曲げれば礼拝は真正とはなりますが、マクルーフです。もたれながら座ることが可能である場合、横たわって象徴的な動きで行うことは認められません。預言者ムハンマドはある時、病人を訪問されました。彼が、手で枕を持ち上げ、そこでサジュダを行っているのを見て、枕を取られました。病人は薪を持ち上げ、そこでサジュダを行いました。預言者ムハンマドはそれも取られました。そして「もしできるなら、床でサジュダを行いなさい。床に体を傾けることができないのであれば、何かを持ち上げてそこにサジュダを

行うことはやめなさい。象徴的な動きで行いなさい。ルクウよりもサジュダでより深く体を曲げなさい」と命じられました。「バフル・ウル・ラーイク」で記されているように、イムラーン家章191節では、「または立ち、または座り、または横たわって（不断に）アッラーを唱念し、天と地の創造について考える者は言う」とされています。イムラーン・ビン・フサインが病気になった時、預言者ムハンマドは彼に「立って礼拝を行いなさい。それができなければ座って行いなさい。それもできなければ、横向きもしくは仰向けに寝て行いなさい」と命じられました。このように、立てない病人は座って礼拝します。座れない病人は寝て礼拝します。椅子やソファに座って礼拝することは認められていません。病人、もしくはバスや飛行機に乗っている人が椅子やソファに座って礼拝を行うことは、イスラームでは適切ではないのです。集団礼拝となると立って礼拝できない人は、家で立って礼拝します。20の事柄のうち一つでも当てはまれば、集団礼拝に参加しない為の正当な差し障りとなります。雨、激しい暑さ、寒さ、生命や財産を襲う敵への恐れがあること、友人が行ってしまったために一人で出かけることへの恐れがあること、周囲があまりにも真っ暗であること、金を借りている相手につかまって投獄されることを恐れる貧者であること、盲目であること、歩けない程にマヒしていること、片足が切断されていること、病気であること、体が不自由であること、歩けないこと、歩けない老人であること、貴重なイスラーム法学の授業を逃すこと、好きな食事を逃す恐れ、旅に出るところであること、代わりに病人を見る人が見つからない看護人であること、強風の夜、トイレに行く為に我慢を強いられていること。病気の悪化や回復の遅れを恐れる病人や、代わりに病人を見る人がいない看護人、老衰により歩くのが困難であることは、金曜礼拝についての差し障りです。集団礼拝に歩いて行き来することは、乗り物に乗って行き来することよりもより徳があります。モスクで、椅子やソファーに座って象徴的な動きで礼拝を行うことは認められません。イスラームが教えていない形でイバーダを行うことはビドゥアとなります。イスラーム法学の本には、ビドゥアを行うことは大きな罪であると書かれています。

何かにもたれて座ることができない病人は、あおむけに寝で、あおむけに寝ることができなければ右向きに寝て、頭で象徴的な動きをして礼拝します。キブラに向かうことができなければ、彼にとってやりやすい方向に向かって行います。膝を折ることは良い　とされます。頭で象徴的な動きをすることができない人は、礼拝をカダーに残すことが認められます。礼拝中に病気になった人は、できる形で続けます。座って礼拝をしていた病人が礼拝中に回復すれば、立って礼拝を続けます。知性や意識を失った人は、礼拝を行いません。5 回分の礼拝が過ぎる前に回復すれば、5 回の礼拝をカダーします。6 回の礼拝が過ぎれば、カダーは行いません。

象徴的な動きによってではあっても、できなかった礼拝は急いでカダーを行うことがファルドです。カダーする前に死ねば、できなかった礼拝の代償として彼が遺した財産からフィディヤを払うことを遺言することがワージブです。遺言しなければ、家族、さらには他人がその財産から補償を行うことが認められるとされています。

カダーの礼拝

礼拝は肉体によって行われるイバーダである為、他人が代わりに行うことはできません。全て自分で行うことが必要です。礼拝を時間通りに行うことを「エダー」と言います。何らかの時間に再び行うことを「イアーダ」と言います。例えば、マクルーフとして行われた礼拝の時間が過ぎる前、それが不可能であれば他の時でも、それをもう一度行うことはワージブです。ファルドやワージブである礼拝を、その時間が過ぎてから行うことをカダーと言います。

一日の、5 回の礼拝のファルドとウィトルの礼拝を行う際、そしてカダーを行う際には、順序を守って行うことがファルドです。つまり礼拝を行う際にはその順序に注意を払うことが必要です。5 回以上のカダーがない人を「正しく守る人」と呼びます。金曜日のファルドは、その日のズフルの時間に行うことが必要です。ファジュルの礼拝に起きられなかった人は、フトバの最中であれそれを思い出したのであれば、すぐにそのカダーを行うべき

です。一つの礼拝を行わずに、その後の礼拝を行うことは認められません。ハディースでは「一回の礼拝に寝過ごしてしまった人、もしくは失念した人は、その後の礼拝を集団で行っている時にそれを思い出したのであれば、イマームと行っていた礼拝を終わらせ、それから前の礼拝のカダーを行う。その後、イマームと行った礼拝を再度行いなさい」とされています。

ファルドをカダーすることはファルドです。ワージブをカダーすることはワージブです。スンナをカダーすることは命じられていません。ハナフィー派の学者は次の点で意見を一致させています。「スンナの礼拝は、ただ時間内に行うことが命じられている。時間内に行われなかったスンナの礼拝は、人の上で負債とはらない。従って時間外でカダーすることは命じられていない。ファジュルのスンナはワージブに近いものであるため、その日のズフルの前にファルドと共にカダーされる。ファジュルのスンナをズフルの後に、他のスンナはどの時間においてもカダーだれない。カダーを行えば、スンナのサワーブが生じない。ナーフィラの礼拝を行ったことになる」イブニ・アービディーンも、「タルギーブッサラート」の 162 ページで次のように述べています。「スンナを、差し障りがなくても座って行うことは認められる。全く行わないことは罪である。ファルドは、差し障りがある時に座って行うことが認められる」

ファルドの礼拝をわざと、差し障りがないのに放棄することは大きな罪です。時間通りに行われなかったこの礼拝は、カダーを行う必要があります。ファルドとワージブである礼拝を、わざとカダーに残すことに関し、2 つの認められる差し障りがあります。１つは敵を前にしていることです。もう１つは旅行中である人、すなわち 3 日以上の旅行をニーヤしていなかったとしても、旅行中の人が盗賊や獰猛な動物、洪水、嵐等を恐れた場合です。こういった人々は、座って、どちらかの方向に向いて、あるいは動物の上で、象徴的な動きで礼拝ができない時、カダーに残すことができます。この 2 つの理由でファルドをカダーに残すこと、それから寝過ごしたり失念したりして礼拝を逃すことは罪にはなりません。アシュバフはその解説で、「溺れかけている人、あるいは同様の状態にある人を助ける為に礼拝を時間が過ぎてから行

うことは、真正となる」としています。しかし、差し障りのある状態が終了すると、すぐにカダーを行うことがファルドです。ハラームである3つの時間以外の空いている時間で行うことを条件に、子供たちの為の糧を稼ぐまで遅らせることは認められています。それ以上に遅らせると、罪となります。預言者ムハンマドは、ハンダクの戦いでの激しさゆえに4回の礼拝を行えなかったことがありました。その夜、教友たちが傷つき、激しく疲労している中で、すぐに集団礼拝で行われました。預言者ムハンマドは、「2つのファルドの礼拝を1つにまとめることは大きな罪である」といわれています。つまり、礼拝を時間通りに行わず、時間が過ぎて行うことは最も大きな罪なのです。あるハディースでは、「アッラーは、一つの礼拝を時間が過ぎてから行う人を、80フクバの間にわたり地獄に入れられる」とされています。1フクバは来世での80年であり、来世での1日はこの世界での千年ほどになります。一回の礼拝が時間を過ぎてから行われることの罰がこれなのであれば、全く行わないことの罰がいかほどか、考えてみるべきでしょう。

預言者ムハンマドは次のように言われています。「礼拝はイスラームの柱である。礼拝を行う人は、その教えをまっすぐに伸ばす。礼拝を行わない人は、その教えを崩壊させる。」あるハディースでは、「審判の日、信仰の後、最初の問いは礼拝についてのことである」とされています。またアッラーは仰せられた。「しもべよ。礼拝についての裁きを通過することができれば、救いはあなたのものである。私はそれ以外の審判を容易なものとしよう。」また蜘蛛章第45節では、「本当に礼拝は、（人を）醜行と悪事から遠ざける」とされています。預言者ムハンマドは「人がアッラーと最も近い時とは、礼拝を行っている時間である」と言われています。

ムスリムが何らかの礼拝を時間通りに行わないことには、2つの種類があります。1．正当な理由があって行わないこと、2．礼拝を自らの務めであり、重要であると思っているにもかかわらず、怠惰である為に放棄すること。

ファルドの礼拝を正当な理由なく、時間が過ぎてから行うこと、つまりカダーに残すことはハラームであり、大きな罪です。

この罪はカダーを行っても許されません。カダーを行うと、ただ、礼拝を行わなかった罪が許されます。礼拝をカダーしない限りは、ただ悔悟によって許されることはありません。カダーを行った後で悔悟すれば、許されることが望まれます。悔悟する時には、しなかった礼拝をカダーすることが必要です。カダーする力があるのにカダーをしなければ、さらに大きな罪を犯したことになります。この大きな罪は、それぞれの礼拝を行えるだけの時間（6 分）が無駄に過ぎるごとに、それより前の罰の時間程に増えます。なぜなら礼拝は、空いた時間にすぐにカダーすることがファルドだからです。カダーを行うことを重要視しない人は永遠に焼かれます。「ウムダトゥ‐ル　イスラーム」と「ジャーミ‐ウルファタワ」では、次のように記されています。「敵を前にして、1回のファルドの礼拝を行うことが可能である時にそれを放棄することは、700 の大きな罪を犯したかのような罪である」

カダーを遅らせることの罪は、時間内に礼拝しなかった罪よりもより大きなものとなります。一つの礼拝の最初のカダーを行うことをニーヤしてカダーの礼拝を一度行えば、この罪は全て許されます。

詳細の解説：スンナの代わりにカダーの礼拝はできるか

アブドゥルカディィル・ガイラーニ師は、「フトゥーフル・ガイブ」という書物で次のように語っています。信者はまず、ファルドを行う必要があります。ファルドを終えてから、スンナを行います。それからナーフィラに取り組みます。できていないファルドがある時、スンナを行うことは愚かなことです。できていないファルドがある人のスンナは認められません。アリー・イブニー・アブー・ターリブ（アッラーがお慶びくださいますように）は語っています。「できていないファルドがある人がそのカダーを行わずにナーフィラを行えば、無駄に苦労したことになる。この人がカダーを行わない限り、アッラーは彼のナーフィラの礼拝を認められない。」

アブドゥルカディィル・ガイラーニ師が記しているこのハディースから、ハナフィー派の学者アブドゥルハック・ダフラウィー師は以下のように語っています。「この知らせは、できていないフ

ァルドがある人のスンナとナーフィラが認められないことを示す。スンナが、ファルドを完成させることを我々は知っている。この意味は、ファルドを行う際、それらが完全なものとなる為の要因である何かを逃した場合、スンナは、行われたファルドが完全なものとなる為の要因となる。ファルドの礼拝を行っていない人の、認められないスンナは何の役にも立たない」

エルサレムの判事ムハンマド・サードゥク氏は、時間内に行われなかった礼拝をカダーすることについて語る際、次のように示されています。「偉大な学者イブニ・ヌジャイム師に質問がなされた。『誰かに、カダーに残された礼拝があるなら、ファジュル、ズフル、アスル、マグリブ、イシャーのスンナをこの礼拝のカダーとしてニーヤして行えば、この人はスンナを放棄したことになるでしょうか』答えとして『スンナを放棄したことにはならない。なぜなら日に５回の礼拝のスンナを行うことの意図は、その時間の中でファルド以外のさらなる礼拝を行うことである。シャイターンは礼拝を全く行わないことを望む。ファルド以外にもう一つ礼拝を行うことで、シャイターンに対抗し苦しめたことになる。スンナの代わりにカダーを行うことで、スンナをも実行したことになる。できていないファルドの礼拝がある人が、礼拝の時間ごとにその時間のファルドに加えて他の礼拝をも行い、スンナを実行する為に、カダーを行うことが必要でである。なぜなら多くの人が、カダーを行わずにスンナの礼拝を行っているのだ。この人々は地獄に行くことになる。しかしスンナの代わりにカダーを行う人は、地獄から救われる』といわれた」

カダーの礼拝はどのように行われるか

カダーの礼拝を少しでも早く行い、さらに悔悟をも行って、大きな罰から救われるべきです。その為、スンナもカダーのニーヤで行うべきです。怠惰で礼拝しない人々、何年分もできていない礼拝がある人は、礼拝を始める時、スンナを行う際にその時間で最初にカダーに残した礼拝のカダーを行うことをニーヤしながら礼拝するべきです。こういった人がスンナをカダーの礼拝の為にニーヤしつつ行うことは、4 つの学派全てで必要とされています。ハナフィー派では、正当な理由なく礼拝をカダーに残すこと

は大きな罪です。この大きな罪は、礼拝ができるだけの空いた時間が経過するごとに倍に増えていきます。なぜなら礼拝を空いた時間にすぐにカダーすることはファルドだからです。勘定や数に入りきらないこの大きな罪とその罰から救われる為に、ズフルの礼拝の最初の４ラカートのスンナを行う際に、最初にカダーに残したズフルのファルドをニーヤして、カダーの礼拝を行うべきです。ズフルの終わりのスンナを行う際には、最初にカダーに残したファジュルの礼拝のファルドをニーヤし、カダーの礼拝を行います。アスルのスンナを行う際には、アスルのファルドをニーヤし、カダーの礼拝を行います。マグリブのスンナを行う際には、３ラカートのマグリブのファルドをニーヤし、カダーの礼拝を行います。イシャーの最初のスンナを行う際にはイシャーのファルド、終わりのスンナを行う際には、最初にカダーに残したウィトルをニーヤして３ラカートのカダーの礼拝を行います。このようにして毎日、一日分のカダーを行います。タラーウィーの礼拝を行う際も、カダーをニーヤしつつ、カダーの礼拝を行います。何年分のカダーの礼拝があるにしろ、これをそれだけの年月続けます。カダーが終われば、スンナの礼拝を始めます。時間があれば、あらゆる機会にカダーの礼拝を行い、少しでも早くカダーの負債を終えるべきです。行われなかったカダーの礼拝の罪は、毎日倍になって増えていくのです。

第6部
礼拝を行わない人

アブー・バクル・スッドゥーク（アッラーが慶ばれますように）は、次のように言われています。「日に 5 回の礼拝の時間が来ると、天使たちは『人間たちよ、起きなさい。人を焼く為に用意された日を、礼拝によって消しなさい』と言う。」

あるハディースでは、「信者と不信仰者を分ける違いは、礼拝である」とされています。つまり、信者は礼拝を行い、不信仰者は礼拝をしません。偽信者のうち、一部の人々は礼拝を行い、一部の人々は行いません。偽信者は地獄でひどい罰を受けることになります。解釈学者たちの長であるアブドゥッラー　・イブン・アッバースは次のように語っています。「私はアッラーの使徒から聞いた。彼は『礼拝を行わない者は、審判の日、アッラーを立腹さえた状態で見るだろう』といわれた」

ハディースに関わるイマームたちが一致して告げていることは、「一回の礼拝をあえて時間内に行わない、つまり時間が過ぎてしまう時に、礼拝をしていないことを苦にもしない人は不信仰者となる』という点です。あるいは、信仰を持たない者として死ぬとされます。

礼拝を思い起こしもしない人、礼拝を義務と認識していない人はどうなるのでしょうか。スンナの道に従う学者たちは、意見を一致させて「イバーダは信仰の一部ではない」としています。ただし、礼拝についての意見は一致していません。法学に関わるイマームのうち、イマーム・アフマド・イブニ・ハンバル、イスハーク・イブニ・ラーハワイフ、アブドゥッラー　・イブニ・ムバーラク、イブラヒーム・ナハイー、ハカム・ビン・ウタイバ、アイユーブ・サフティヤーニー、ダーウド・ターイー、アブー・バクル・イブニ・シャイバ、ズバイル・ビン・ハルブやその他多くの偉大な学者たちは、一つの礼拝を意図的に、つまりあえて行わない人は不信仰者となる、としています。だから、一度の礼拝も逃さず、また適当に行わないでください。喜んで礼拝を行ってください。審判の日、アッラーが学者たちのこの一致した意見に応じた罰を与えられるなら、どうするべきでしょうか。

ハンバリー派では、一つの礼拝を正当な理由なく行わない人

は、ムルタドのように殺されます。洗浄されず、白布で包まれず、礼拝もなされません。ムスリムの墓地には埋葬されず、また墓地は明らかにされません。山の中の穴に埋められます。

礼拝を行わない人について、シャーフィー派ではムルタドにはなりませんが、その罰は死刑です。礼拝をしない人に対するマーリキー派の見解は、シャーフィー派と同じです。

ハナフィー派では、礼拝を行わない人は礼拝を始めるまで投獄されるか、血が流れるまで打たれるとされます。

5つの事柄を行わない人は、5つのことが叶いません。

財産からザカートを払わない人は、その財産から幸福を得ることができません。

収穫物からザカートが支払われない畑では、その利益に豊かさが見られません。

サダカを支払わない体には、健康は残りません。

ドゥアーをしない人は、その願いに到達できません。

礼拝の時間になって、礼拝をすることを望まない人は、最期の瞬間にカリマ・シャハーダを唱えることができません。

あるハディースでは次のように語られています。「正当な理由なく礼拝を行わない人には、アッラーは 15 の苦しみを与えられる。6つは現世で、3つは死の瞬間に、3つは墓場で、3つは墓から起き上がる時に与えられる。」

現世で与えられる6つの罰：

礼拝を行わない人の生涯には豊かさがありません。

その顔には、アッラーが愛される人々の美しさ、愛らしさがありません。

どのような善を施してもサワーブが与えられません。

ドゥアーが受け入れられません。

その人を誰も愛しません。

ムスリムたちの良いドゥアーも、この人には効果がありません。

死の際に受ける罰：
ひどく、悪く、醜い形で命を落とします。
空腹で死にます。
たくさん水を飲んだとしても、渇きの苦しみの中で死にます。

墓場で受ける罰：
墓がその人を苦しめます。骨が互いに刺さります。
墓が火で満たされます。日夜その人を焼きます。
アッラーはその墓にとても大きなヘビを送られます。現世でのヘビには似ても似つかないものです。毎日、礼拝の時間ごとにその人にかみつきます。

審判の日に受ける罰：
地獄へと引きずっていく罰の天使たちが、その人のそばから離れません。
アッラーはその人を、立腹された状態で迎えられます。
審判はその人にとって非常に厳しいものとなり、地獄に入れられます。

礼拝を行う人の徳

　礼拝を行うことの徳と、礼拝を行う人に与えられるサワーブを教えるハディースはたくさんあります。アブドゥルハック・ビン・サイフッディーン・ダフレウィーの「アシアトゥル・ラマートゥ」という本によると、礼拝の重要性を告げるハディースでは次のように言われています。
アブーフライラ（アッラーがお慶びくださいますように）は語っています。「アッラーの使徒は言われた。『日に 5 回の礼拝と金曜礼拝は次の金曜礼拝まで、そしてラマダーン月の断食は次のラマダーン月までに行われる罪の償いである。大きな罪を犯すことを避ける人の、小さな罪の許しの要因となる。』」
　小さな罪のうち、他の人の権利がそこに入っていないものについては消されます。小さな罪が許され、なくなった人は、大きな罪への罰が軽減される要因となります。大きな罪が許される為に悔悟を行うことが必要です。大きな罪がなければ、位階が高めら

れる要因となります。このハディースは『ムスリム』で書かれています。日に5回の礼拝に不足がある人が許される為には、金曜礼拝が必要となります。金曜礼拝にも不足があれば、ラマダーン月の断食がその罪が許される要因となります。
アブドゥッラー・イブニ・マスード（アッラーがお慶びくださいますように）は語っています。「アッラーがどの行為を最も愛されるかを、アッラーの使徒に尋ねた。すると使徒は、『時間通りに行われる礼拝』と仰せられた。（いくつかのハディースでは、早い時間に行われる礼拝をとても愛される、とされています）その次に、どの行為を愛されるかを訊ねた。『アッラーの道において聖戦を行うこと』と答えられた。」
　このハディースは、2つの真正なハディースの本、ブハーリーとムスリムに書かれています。別のハディースでは、「行為のうち最も良い　　ものは、食事を与えることである」とされています。また別のものでは、「こころよく皆に挨拶をすることである」とされています。また別のハディースでは「夜、皆が寝ている時に礼拝を行うことである」とされています。また異なるハディースでは、「最も尊い行為は、手によっても舌によっても誰も傷つけないことである」とされています。あるハディースでは「最も尊い行為は聖戦である」とされています。またあるハディースでは「最も尊い行為は、一切の罪を犯さず実行されたハッジである」とされています。「アッラーを念じることである」そして「継続的な行為である」というハディースもあります。質問をした人の状態にふさわしい、様々な答えが与えられているのです。あるいは、その時にふさわしい返事がされています。例えばイスラームの初期には、行為のうち最も徳があり尊いものは聖戦でした。（今私たちが生きる時代において最も徳がある行為は、信仰しない人々や宗派に属さない人々に、文章や出版物をもって答えることです。スンナに従う人々の信条を広めることです。このような形での聖戦を行う人に対して、お金、財産、体によって援助を行う人も、サワーブを共に受けます。クルアーンの言葉やハディースは、礼拝がザカートやサダカよりもより尊いものであることを示しています。しかし、死んでいる人に何かを与え、死から救うことは、礼拝を行うことよりもより尊いものです。つま

り、異なる状態、条件の中では、異なるものがより尊くなるのです）
ウバーダ・ビン・サーミト（アッラーがお慶びくださいますように）は語っています。「アッラーの使徒は言われました。『アッラーは、日に 5 回の礼拝を行うことを命じられた。誰かが立派にウドゥーを行い、これらを時間通りに行えば、そしてルクウなどを完全に実行すれば、アッラーは彼を許されることを約束された。これらを行わない人には約束されなかった。お望みにより許され、お望みにより罰せられる。』」
　このハディースを、イマーム・アフマド、アブー・ダーウード、そしてナサーイーが伝えています。ここからわかるように、礼拝の条件、ルクウやサジュダに注意を払うことが必要です。アッラーは約束を違えられることはありません。正しく礼拝をした人を、必ず許されるのです。
教友たちのうち有名な人々の一人、ブライダ・アスラム（アッラーがお慶びくださいますように）は語っています。「アッラーの使徒は言われた。『あなた方との間にある契約は、礼拝である。礼拝を放棄する者は不信仰者となる。』」
　このように、礼拝を行う人はムスリムと見なされます。礼拝に重きを置かない人、礼拝を第一の務めと認めない為にそれを行わない人は、不信仰者となります。このハディースはイマーム・アフマド、ティルミズィー、ナサーイー、そしてイブニ・マジャが伝えています。
アブー・ザル - イ - グファーリーが伝えています。「秋のある日、アッラーの使徒と共に通りに出た。葉が落ちてきていた。使徒は、一本の木から枝を 2 本折られた。これらの葉はすぐに落ちてしまった。『アブー・ザルよ、一人のムスリムがアッラーの為に礼拝を行えば、この枝から葉が落ちるように、その人の罪が落ちるのだ』と言われた。」
　このハディースはイマーム・アフマドが伝えています。
ザイド・ビン・ハーリド・ジュハーニーが伝えています。「アッラーの使徒は言われた。『一人のムスリムが、正しく集中して 2 ラカートの礼拝を行えば、過去の罪は許される。』」
　つまり、アッラーは彼の小さな罪を全て許されます。このハデ

ィースはイマーム・アフマドが伝えています。
アブドゥッラー　　・ビン・アムル・イブニ・アスが伝えています。「アッラーの使徒は言われた。『誰かが礼拝を行えば、この礼拝は審判の日に光としるしとなり、地獄から救われる要因となる。礼拝を維持しなければ、光としるしがなく、救いがない。カールーンやフィルアウーン、ハーマーン、そしてウバイ・ビン・ハラフと共にいる。』」
　このように、人が礼拝を、ファルド、ワージブ、スンナ、そして徳に適った形で行えば、この礼拝は審判の日にその人が光の中にいることの要因となります。このような礼拝を継続して行わなければ、審判の日、ここで名が挙げられた不信仰者と共にいることになります。つまり、地獄で厳しい罰を受けるのです。ウバイ・ビン・ハラフは、マッカの不信仰者の中でも凶暴な一人でした。ウフドの戦いで、預言者ムハンマドはその神聖な手で、彼を地獄へと送られたのでした。このハディースはイマーム・アフマドとダーリーミーが伝えています。バイハキーも、「シュアーブル・イーマーン」という書物に記しています。タビーイン（サハーバたちの次の世代の人々）の偉大な人物の一人であるアブドゥッラー　　・ビン・サキークは語っています。「教友たちはイバーダの中で、ただ礼拝を放棄することが不信仰であることを語った。」
　これを、ティルミズィーが伝えています。アブドゥッラー　　・ビン・サキークは、ウマルから、アリーから、オスマーンから、そしてアーイシャからこのハディースを伝承しています。ヒジュラ歴180年に亡くなっています。
アブッダルダ（アッラーがお慶びくださいますように）は語っています。「とても愛している人が私に言った。『バラバラにちぎられ、火で焼かれたとしても、アッラーに何ものをも配してはいけない。ファルドの礼拝を放棄してはいけない。ファルドの礼拝を故意に放棄する人は、ムスリムであることから外れる。酒を飲んではいけない。酒は全ての悪事の鍵である。』」
　このハディースはイブニ・マジャが伝えています。このように、ファルドの礼拝を重視せずに放棄する人は、不信仰者となります。怠惰であることから放棄する人は、不信仰者にはならなか

ったとしても、大きな罪となります。イスラームが教えている 5 つの差し障りのうちの一つによって死ぬことは、罪ではありません。ワインやアルコール飲料の全ては、理性を取り去るものです。理性がない人は、あらゆる悪事を行います。
アブドゥッラー　・イブニ・ウマル（アッラーがお慶びくださいますように）は伝えています。「アッラーの使徒は言われた。『時間になるとすぐに礼拝を行う人に、アッラーは満足される。時間の終わりの方で行う人を、アッラーは許される。」』このハディースはティルミズィーが伝えています。
ウンム- イ- ファルワが伝えています。「アッラーの使徒に、どの行為が徳のあるものかを人々が尋ねた。『行為のうち徳のあるものは、時間の初めに行われる礼拝である』と答えられた。」
　このハディースはイマーム・アフマド、ティルミズィー、そしてアブー・ダーウードが伝えています。礼拝はイバーダのうち最も崇高なものです。時間に入ってすぐに行えば、より崇高なものとなります。アーイシャ（アッラーがお慶びくださいますように）は語っています。「アッラーの使徒が礼拝を時間の後の方でなされたのを、私は 2 回と見ていない。」すなわち、その生涯で一度だけ、時間の終わりの方で礼拝をされたのです。
アーイシャ（アッラーがお慶びくださいますように）は語っています。「アッラーの使徒が最も多く続けられたナーフィラのイバーダは、ファジュルの礼拝のスンナでした。」この知らせは、ブハーリーでも、ムスリムでも記されています。このようにアーイシャは、日に 5 回の礼拝のファルドと共に行われるスンナの礼拝を、ナーフィラの礼拝と呼んでいます。
　偉大なイスラーム学者であり、アッラーのしもべたちの先導者であり、逸脱した人、無宗派である人々に対するスンナに従う人々の最も強い庇護者であり、アッラーが選ばれ、深く愛されたイスラームを広め、ビドゥアを倒した偉大な戦士である、イマーム・ラッバーニ・ムジャッディード・エルフ- イ- サーニー・アフマド・ビン・アブドゥル・アハド・ファールキー・サルハンディー（アッラーがお慶びくださいますように）は、イスラーム世界における比類のない書物である「書簡集」の第 1 巻、第 29 の書簡で次のように説いています。

「アッラーが満足される行いとは、ファルドとナーフィラの礼拝です。ファルドと並べると、ナーフィラの礼拝には全く価値がありません。一つのファルドを時間内に行うことは、千年休まずにナーフィラのイバーダを行うことよりもより尊いです。各種のナーフィラ、例えば礼拝、ザカート、断食、ズィクル、熟考は皆同様です。さらに、ファルドを行う際、そのスンナのうち一つ、徳であるもののうち一つを行うことが、他のナーフィラを行うことよりも何倍も尊いものです。信者たちの長ウマル・ファールクは、ある日ファジュルの礼拝をした時に、礼拝を行う人々の中にある人の姿が見えなかった為、その理由を聞きました。「彼は毎晩ナーフィラの礼拝をしています。おそらくは寝過ごしたのでしょう」と答えが返ってきました。「一晩中眠って、ファジュルの礼拝を集団で行っていればよりよかっただろう」と彼は言ったのでした。このように、一つのファルドを行う際に、徳であるもののうちのどれかを行うこと、マクルーフであるものを避けることは、ズィクルや熟考、内省よりも何倍も尊いのです。そう、これらは、徳であることの実行と、マクルーフを避ける際に共に行われば、とても効果的なものです。しかし、それらなしに行うのであれば、何の役にも立たないのです。だから、1 リラのザカートを支払うことは、何千リラものナーフィラのサダカを行うことよりもより良い　のです。この 1 リラを支払う際には、その徳についても注意を払うことが大切です。例えば近い親戚に与えることは、ナーフィラのサダカよりも何倍も良い　　ことことなります。（夜の礼拝を行うことを望む人が、カダーの礼拝を行うべきであるということは、ここから理解されます)」

「書簡集」の本は、ペルシア語で書かれています。イマーム・ラッバーニ師は 1034 年（西暦 1624 年）にインドのサルハンドの町で亡くなりました。その翻訳は、「真実の言葉の書」「永遠の幸福」、そして「サハーバたち」そしてペルシア語の「バラーカートゥ」という本に長く記されています。

礼拝の真実

偉大なイスラーム学者のアブドゥッラー　　・ダフラウィーは「マカーティブ・シャリーファ」という書物の 85 番目の書簡で

次のように述べています。

「礼拝を集団で行うこと、そして「トゥマーニーナトゥ」（スブハーナッラーといえるだけの時間動かずにいること）をしながら行うこと、ルクウの後に「カウマ」（ルクウの後の直立姿勢）を行うこと、2 回のサジュダの間にジャルサ（正座）を行うことは、アッラーの預言者を通し我々に教えられました。カウマとジャルサがファルドであると見なす学者たちがいます。ハナフィー派のムフティの一人カーディハーンは、この 2 つがワージブであること、2 つのうちの一つが失念された場合は過失のサジュダを行うことがワージブであること、意図的にそれを行わなかった人は礼拝をやり直すべきであることを教えています。ムアッカダのスンナであると見なす人々も、ワージブに近いスンナであるとしています。スンナを軽視し、重きを置かずに放棄することはイスラームの否定です。礼拝のキヤームで、ルクウで、カウマで、ジャルサで、サジュダで、そして座った時には、それぞれ異なる状態、形が生じます。全てのイバーダが礼拝の中に集約されているのです。クルアーンを読むこと、タスビーフを唱えること（つまりスブハーナッラーと言うこと）、アッラーの使徒にサラワート（祝福祈願）を行うこと、罪を悔悟すること、必要とするものをただアッラーに求め、ドゥアーすることが、礼拝に集約されているのです。木々、草は礼拝を行っているかのようにまっすぐ立っています。動物たちはルクウの状態で、生命を持たない存在も、礼拝で「カアダ」で座っているように地に広げられています。礼拝を行う人は、これらの存在のイバーダの全てを行っているのです。礼拝を行うことは、ミーラージュ　の夜にファルドとなりました。この夜、ミーラージュ　を行うことで、アッラーの愛される預言者は誉れを与えられました。彼に従うことを考えつつ礼拝を行うムスリムは、この崇高な預言者ムハンマドのように、アッラーに近しい位階へと高められるのです。アッラーやその使徒に対し徳を持ち、安らぎのうちに礼拝を行う人は、この位階に高められたことを理解します。アッラーとその使徒は、このウンマに慈悲をかけられ、大きな恵みを与えられ、礼拝を行うことをファルドとされました。このことをアッラーに感謝いたします。その愛される預言者に、私たちは祝福祈願、賞賛、ドゥアーを行いま

す。礼拝を行う際に生じる喜び、安らぎは驚くべきものです。マズハル・ジャーニ・ジャーナーン師は「礼拝を行う際、アッラーを拝見することは可能ではなくても、拝見しているかのような状態が生じる」といわれています。このような状態が生じることは、神秘主義の偉人たち揃って教えています。イスラームの最初期には、礼拝はエルサレムに向かって行われていました。エルサレムの「至高の館」への礼拝が放棄され、預言者イブラーヒームのキブラに向かうことが命じられた時、マディーナのユダヤ教徒たちは立腹しました。「至高の館に向かって行っていた礼拝はどうなるのか」と言ったのでした。雌牛章第 143 節が下され、「だがアッラーは、あなたがたの信仰を決して虚しくなされない」と仰せられました。礼拝が褒賞なく放っておかれることはないことが告げられたのです。礼拝は、信仰の言葉と共に教えられました。ここから理解されるように、礼拝をスンナに従って行わないことは、信仰を損なうことになるのです。預言者ムハンマドは、「あなた方の目の光、そして喜びは礼拝にある」といわれました。このハディースは、「アッラーは礼拝に姿をお見せになられ、それによって目にやすらぎがもたらされる」ということを意味します。あるハディースは、「ビラールよ、私を楽にしてほしい」「ビラールよ、アザーンを唱え、礼拝のイカーマを読み上げて私を楽にしてほしい」といわれました。礼拝以外の何かに快楽を求める人は、認められないのです。礼拝を損なう人、逃す人は、それ以外の宗教的な事柄をさらに逃します。

礼拝における崇高さ

イマーム・ラッバーニ（アッラーの慈悲がありますように）は「書簡集」という本の第 1 巻、261 番目の書簡で次のように語っています。

「次のことは確実に認識されるべきです。礼拝は、イスラームの 5 つの条件の 2 番目であるということです。全てのイバーダがそこに集約されています。イスラームの 5 分の 1 の部分であるとはいえ、その包括性により、それ自体がイスラームであるともいえるのです。人をアッラーの愛情に至らせる行いの、第一のものとなったのです。諸世界の王、そして預言者たちのうちの最も崇高

なお方に、ミーラージュ　の夜、天国で与えられるアッラーとの誉れある面会がこの世界に下されました。その後、この世界の状態にふさわしいものとして、ただ礼拝が与えられたのです。だからこそ、「礼拝は信者のミーラージュ　　である」とされているのです。あるハディースでは、「人がアッラーに最も近くなるのは礼拝においてである」とされています。その道の跡をたどる偉大な人々にも、アッラーにまみえるという誉れから、この世界における大きな取り分がただ礼拝においてあるのです。そう、この世界でアッラーを目にすることは不可能です。この世界にはそれができる場所は存在しないのです。しかしそれに従う偉大な人々には、礼拝を行う際、このアッラーにまみえるという誉れから、何らかのものが与えられるのです。礼拝を行うことが命じられていなければ、その目的、意図の美しい側面から、誰が覆いを取り除くことができたでしょう。深い愛を抱く人々は、その愛される対象をどのように見出すことができたでしょう。礼拝は、悲しんでいる魂に喜びを与えるものです。礼拝は心の癒しです。「ビラールよ、私を楽にしてほしい」とアザーンを唱えることを命じられているハディースが、これを示しています。「礼拝は私の心の喜びであり、目の光である」というハディースは、この願いを示しています。

喜び、興奮、知恵、アッラーについての知識、地位、光、色、心の移り変わり、安定、理解される・そして理解されない顕示、姿のある・そして姿のない顕現のうち、どれであれ礼拝以外のところで生じているのであれば、そして礼拝の真実を何も理解していないのであれば、それらは全て影、反射そして現象によってできたものなのです。むしろ妄想や空想以外の何ものでもないでしょう。礼拝の真実を理解した完成された人は、礼拝に立った時にはあたかもこの世界から離れて来世での生に入ったように、来世に特有の恵みからいくつかのものを授かるのです。そこに反射や想像を混入させることなく、その本来のところから喜びと取り分を得ます。なぜなら、この世界における全ての奇蹟や恵みは、影、反射、そして現象から生じているものです。影や現象が介入せず、直接本質から生じる奇跡や恵みというものは、来世に特有のものなのです。この世界で本質から恵みを得る為には、ミーラ

ージュ　　が必要です。このミーラージュ　　が、信者にとっての礼拝なのです。この恵みは、このウンマに特有のものです。預言者たちに従うことによってこれを受けることができるのです。なぜならこのウンマの預言者（アッラーの祝福と平安がありますように）は、ミーラージュ　の夜にこの世界から離れ、来世へと行かれたのです。天国に行かれ、アッラーにまみえるという幸福、恵みによって誉れを与えられました。アッラーよ！あなたはこの偉大な預言者（アッラーの祝福と平安がありますように）へ、その偉大さにふさわしい善をお与えください。全ての預言者たちにも、幸福と善をお与えください。彼らは人々を、そしてアッラーを知り、アッラーのご満悦を得るようにと呼び掛けられ、アッラーが好まれる道を示したのです。

イスラーム神秘主義の道にいる人々の多くは、彼らに礼拝の真実が教えられず、またその特有の完全性が示されていない為、その苦しみへの薬を別のところで探してきました。その目的に達する為に、他の事柄に道を見出してきたのです。さらにこういった人々の一部は、礼拝がその道の外にあり、その目的とも関係はないと見なしていました。断食が礼拝よりもより崇高だと見なしていました。礼拝の真実を理解できない人々の多くは、その苦しみを軽減して魂を楽にすることを、舞踏や音楽に酔いしれて我を忘れることに求めてきたのです。その目的である愛すべきお方、即ちアッラーが、音楽の覆いの後ろに存在すると考えたのです。この為に舞踏に夢中になったのです。しかし彼らは、「ハラームであるものに、癒しへの効果あるものは創造されない」というハディースを聞きました。そう、それは溺れかけている泳ぎの初心者が、あたり構わず草をもつかもうとするのに似ています。何かへの強い愛情は、その愛情を持つ人の目を閉ざし、また耳をも聞こえなくします。彼らがもし、礼拝の完全性をわずかでも味わっていれば、舞踏や音楽について言及することさえなく、それらに酔いしれることなど思いつきもしなかったでしょう。

兄弟たちよ！礼拝と音楽の間にどれほどの距離があるのであれ、礼拝で生じる完全性と音楽で生じる影響も、互いに同じくらい遠いものです。理性を持つ人であれば、これだけの示唆で多くを理解するでしょう。

イバーダに喜びを感じること、これらを行うことが困難に感じられないということは、アッラーの最大の恵みの一つです。特に礼拝の喜びは、完全に成熟していない人には味わうことができません。ファルドの礼拝の喜びを味わうことは、そういった人々に固有のものです。なぜなら完全さに近づいた人には、ナーフィラの礼拝の喜びが感じられますが、完全さに至った人には、ただファルドの礼拝の喜びが感じられるためです。ナーフィラの礼拝に喜びを感じず、ファルドを行うことは大きな益とされます。
（ナーフィラの礼拝とは、ファルドやワージブ以外の礼拝という意味です。日に 5 回の礼拝のスンナや、その他のワージブではない礼拝は、全てワージブです。ムアッカダであるもの、ムアッカダではないもの、全てのスンナはナーフィラです）

礼拝で生じる喜びには、我欲の取り分はありません。人がこれを味わう際、我欲はすすり泣いたり泣き叫んだりしています。アッラーよ、これはどれほどに偉大な位階でしょうか。私たちのように魂が病んでいる人々がこの言葉を聞くことも大きな恵みであり、真の幸福です。

十分に知りなさい。この世界での礼拝の位階、段階は、来世においてアッラーにまみえることのように崇高なものです。この世界で人がアッラーに最も近しくなるのは、礼拝をしている時です。来世においてアッラーに最も近しくなるのは、アッラーにお目にかかる時です。この世界での全てのイバーダは、人を礼拝ができる状態にする為のものです。真の意図は、礼拝を行うことです。永遠の幸福、無限の恵みを得ることは、礼拝を行うことによってのみ可能となります。

礼拝は全てのイバーダよりも、そして断食よりも尊いものです。礼拝があるからこそ、心が喜びで満たされます。礼拝があるからこそ、罪が消されます。人を悪事から守ります。ハディースでは、「礼拝は心の楽しみであり、喜びの源である」とされています。礼拝は悲しんでいる魂に喜びを与えます。礼拝は魂の糧です。礼拝は心の癒しです。

礼拝の神秘

イマーム・ラッバーニは「書簡集」という本の第 1 巻、304 番

目の書簡で次のように語っています。
「アッラーに感謝し、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）に祝福祈願を行ってから、永遠の幸福を得ることができるようドゥアーをします。アッラーはクルアーンの多くの章句で、善行をする信者たちが天国に入ることを教えられています。この善行とは何でしょうか。良い　行いの全てでしょうか。それともその一部でしょうか。もし全ての良い　行いであるなら、それを実行することは誰にもできません。その一部であるなら、どのような良い　行いが求められているのでしょうか。アッラーはその恵みにより次のように仰せられています。ここでの善行とは、イスラームの 5 つの構成要素であり、柱です。地獄から救われることは強く願われます。なぜならこれらは誠実な行いであり、人々を罪や醜い行いから守ります。事実クルアーンの蜘蛛章第 45 節では、「本当に礼拝は、（人を）醜行と悪事から遠ざける」とされているのです。一人の人が、イスラームの 5 つの条件を実行することができれば、その恵みに感謝したことになります。なぜならアッラーは、婦人章第 146 節で「もしあなたがたが感謝して信仰するならば、アッラーはどうしてあなたがたを処罰されようか」と仰せられているためです。だからイスラームの 5 つの条件を実践する為に、心からの努力をするべきなのです。

この 5 つの条件のうちで最も重要なものが礼拝であり、これはイスラームの柱です。礼拝の徳のうちのどれも損なうことなく行うよう、努力しなければなりません。礼拝を完全に行うことができれば、イスラームの根本の大きな基盤が形成されたことになります。地獄から救われる為のしっかりとした糸を手にしたことになるのです。アッラーが私たち全員に正しい礼拝を行わせてくださいますように。

礼拝に立つ時に「アッラーフ　アクバル」と言うことは、アッラーは被造物のイバーダを全く必要とされていないこと、どの観点からも全く必要性を持たれていないこと、人の礼拝はアッラーに何の効用もないことを宣言することです。礼拝中のタクビールが、アッラーにふさわしいイバーダを行うに適した優れた点も力もないことを示しています。ルクウでのタスビーフにもこの意味があり、その為ルクウの後にはタクビールが命じられていませ

ん。しかしサジュダでのタスビーフの後では命じられています。なぜならサジュダは、謙虚さ、謙遜の最たるものであり、屈辱や卑小さを示す最たる段階である為、これを行うことで真に、完全なイバーダをしていると思い込むことがあります。この思い込みから身を守る為、サジュダに身を付して起き上がる際にタクビールを行うことはスンナです。またサジュダのタスビーフで、「アラー（崇高である)」と言うことが命じられているのです。礼拝は信者たちのミーラージュ　であり、礼拝の最後に預言者ムハンマドがミーラージュ　の夜におっしゃったことで誉れを得られた言葉、すなわち「アッタヒヤートゥ」を唱えることが命じられています。だから礼拝を行う人は、礼拝を自分にとってのミーラージュ　とするべきです。アッラーへの近しさの最高の状態を礼拝に求めるべきなのです。

預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は仰せられています。「人がアッラーに最も近づく時とは、礼拝を行っている時である。」礼拝を行う人は、アッラーと会話し、アッラーに懇願し、その偉大さや、アッラー以外の何ものも無であるということを目にするのです。従って、礼拝では恐れ、畏怖、怯みが生じ得る為、そこからの慰めを得て楽になるように、礼拝の最後に 2 度挨拶を行うことが命じられています。

預言者ムハンマドはあるハディースで、「ファルドの礼拝の後、33 回タスビーフ、33 回タフミード、33 回タクビール、そして 1 回、タフリールを行いなさい」と命じられています。この理由は、礼拝での過ちをタスビーフで覆う為です。アッラーにふさわしい、完全なイバーダができなかったことを告げるものです。タフミードによって、礼拝で誉れを得たことがアッラーの援助と鍛錬によるものであることを認識し、この大きな恵みに感謝するのです。タクビールを行うことで、アッラー以外にイバーダにふさわしい存在は何もないことを宣言します。

礼拝を条件やその徳に従って行い、そこでの不足をこのように覆い、礼拝を行えたことを感謝し、イバーダには他の誰も権利を持たないということを、心から、純粋に、カリマ・タウヒードによって確認すれば、この礼拝は受け入れられ得るのです。この人は、礼拝を行った人、救われる人となるのです。アッラーよ、預

言者たちのうち最も崇高なお方への敬意の為に、私たちを、礼拝を行う幸福なしもべとなさってください。アーミーン。

礼拝の後のドゥアー

「アルハムドゥリッラーヒ　ラッビル　アーラミーン。アッサラートゥ　ワッサラーム　アラー　ラスーリナー　ムハンマディン　ワ　アーリヒ＿　ワ　サフビヒー　アジュマーイン」

主よ、行った礼拝を認めてください。私の来世、先行きを良いものとなさってください。最期の息でカリマ・タウヒードを唱えることができますように。亡くなった、私に関わる人々をお許しください。

「アッラーフンマグフィル　ワルハム　ワ　アンタ　ハイルッラーヒミーン、タワッファニー　ムスリマン　ワ　アルフクニ＿ビッサーリヒーン、アッラーフンマグフィル　リ　ワーリダーヤワ　リ　ウスターズィヤ　ワ　リムッミニーナ　ワル　ムッミナートゥ　ヤウマ　ヤクームル　ヒサーブ」

主よ、私をシャイターンの災いから、敵の災いから、悪を命じる我欲の災いから守ってください。私たちの家に、良い　もの、合法で尊い糧をお恵みください。イスラームに従う人々に祝福をお与えください。ムスリムの敵たちを滅ぼしてください。不信仰者と聖遷を行うムスリムたちを、神の援助によってお助け下さい。

「アッラーフンマ　インナカ　アフーウン　カリームン　トゥヒッブル　アフワ　ファーフ　アンニ」

アッラーよ、病人に健康を、苦しんでいる人々に癒しをお与えください。

「アッラーフンマ　インニー　アッサルカッスハータ　ワル　アーフィヤタ　ワル　アマーナタ　ワ　フスナルフルク　ワッルダー　ビルカダリ　ビラフマティカ　ヤー　アルハマルラーヒミーン」

わが母、わが父、子供たち、親戚、友、そして全てのイスラームの兄弟たちに、尊い生涯と良い　徳、正しい知性と健康、正しい方向への導き、正しい道をお恵みください、主よ！アーミーン。

「ワルハムドゥリッラーヒ　ラッビル　アーラミーン、アッラーフンマ　サッリ　アラー、アッラフンマ　バーリク　アラー、アッラーフンマ　ラッバナー　アーティナー、ワルハムドゥ　リッラーヒ　ラッビルアーラミーン。アスタグフルッラー、アスタグフルッラー、アスタグフルッラハル　アズィーム　アルカリームアッラズィー　ラーイラーハ　イッラー　フワるハイヤルカユーマ　ワ　アトゥーブ　イライフ」

詳細の解説（ドゥアーが受けいられる為の条件）
ムスリムであること。
スンナに従う信仰を持っていること。この為、4 つの学派のどれかに従うことが必要です。
ファルドを行うこと。カダーに残った礼拝を、夜、そしてスンナの代わりにカダーを行い、少しでも早く済ませるべきです。
　ファルドの礼拝がカダーに残されている人の、スンナとナーフィラの礼拝、そしてドゥアーは受け入れられません。つまり、それ自体が真正なものであったとしても、そのサワーブは与えられません。シャイターンはムスリムを欺く為にファルドを無価値なものと示し、スンナやナーフィラを行わせようとします。礼拝は、時間が来たことを認識し、早いうちに行うべきなのです。
ハラームを避けるべきです。受け入れられるのは、ハラールであるものを口にする人のドゥアーです。
ワリーの誰かを媒介にしてドゥアーを行うべきです。
　インドの学者の一人ムハンマド・ビン・アフマド・ザーヒドは、その書物の 54 章で、ペルシア語で次のように語っています。「ドゥアーが認められる為には、2 つのことが必要である。一つは、ドゥアーをイフラースで行うことである。2 つめは食べたもの、着ている者がハラールであることである。信者の部屋に、糸たばほどであれハラームであるものがあれば、この部屋でなされたドゥアーは受け入れられない。」イフラースとは、アッラー以外の何ものについても考えず、ただアッラーから求めることです。この為、スンナに従う学者たちが教えた形で信仰を持ち、イスラームの道徳に従うこと、特に他の人の権利を侵害しないこと、日に 5 回の礼拝を行うことが必要なのです。

信仰を新たにするドゥアー

アッラーよ！思春期に達して以来、この時まで、イスラームの敵やビドゥアに逸脱した人々の欺瞞を信じて持ってしまった誤った信仰と、ビドゥアであり罪である私の発言、私が聞いたもの、見たもの、行ってきたことについて、私は深く悔やんでいます。2 度とあのように誤った形で信仰しないことを願い、ニーヤし、意図します。預言者たちの始まりであるのは預言者アーダムであり、最後の預言者は言者ムハンマドでした。私は、この 2 人の預言者、そして 2 人の間にやってきた諸預言者を信じました。全て正しく、誠実です。彼らが知らせていることは正しいのです。

アーマントゥ　ビッラーヒ　ワ　ビマー　ジャー　ミン　インディッラー、アラー　ムラーディッラフ、ワ　アーマントゥ　ビラスーリッラーフ　ワ　ビマー　ジャー　ミン　インディ　ラスーリッラー　アラー　ムラーディ　ラスーリッラーフ、アーマントゥ　ビッラーヒ　ワ　マラーイカティヒ　ワ　クトゥビヒ　ワルスリヒ　ワルラウミル　アーヒリ　ワ　ビルカダリ　ハイリヒー　ワ　シャッリヒー　ミナッラーヒ　タアーラー　ワル　バスバダルマウティ　ハックン　アシュハドゥ　アン　ラー　イラーハ　イッラッラーフ　ワ　アシュハドゥ　アンナ　ムハンマダンアブドゥフ　ワ　ラスールフ。

礼拝の英知（礼拝と健康）

ムスリムは礼拝を、アッラーの命令である為に行います。アッラーの命令には多くの英知、効用があります。禁じられていることにも、多くの害があることは確実です。この効用や害の一部は、今日医学の研究者たちによって確認されています。イスラームほどに健康を重要視する宗教や思想は他にありません。イスラームは、イバーダの最も崇高なものである礼拝を、生涯の最後まで行うことを命じています。礼拝を行う人は、当然健康の為の効用をも得るのです。礼拝がもたらす健康面での効用のうち、一部は次の通りです。

礼拝で行われているゆっくりとした動作は、心臓に負担をかけません。礼拝は一日の様々な時間に行われる為に、人を常に力強く保ちます。

1 日に頭を地面に 80 回つける人の脳には、律動的に多くの血が運ばれます。この為、脳細胞が十分に育成され、礼拝を行う人が記憶や人格を損なうことはあまりありません。こうした人々は、より健康的な生涯を送ります。今日の医学で認知症と呼ばれる状態にはなりにくいのです。
礼拝を行う人は、定期的に体を折ったり伸ばしたりしているので、より良い状態で血行を維持しています。この為、眼球の内部の圧力が上がることがなく、目の前部にある液体が常に入れ替わることができます。白内障や緑内障といった病気から守られるのです。
礼拝を行う際の動きは、胃にある食物が十分に混ざり、胆汁が流れやすくなり、それによって胆嚢にたまりにくくなり、すい臓で酵素が容易に分泌されることを助け、また同様に便秘を防ぐ上でも役割を果たします。腎臓や尿道が十分に濯がれることとなり、尿道結石の予防や膀胱を空にするといった点でも助けとなります。
日に 5 回行われる礼拝のリズミカルな動きは、日常生活で動かされることのない筋や関節を動かし、関節症や石灰化のような関節の病気、そして筋肉がつることをも防ぎます。
体の健康の為には、清潔さは当然不可欠です。ウドゥーとグスルは、肉体的かつ精神的な清浄です。礼拝とは、清浄さそのものなのです。体と魂の清めのない礼拝はありません。ウドゥーやグスルは体の健康を維持します。イバーダの務めを果たした人は、精神的にも休息し、清められたことになります。
予防医学においては、一定の時間行われる体の動きはとても重要です。礼拝の時間は、血行を新たにし、呼吸を活性化する為に最も適した時間です。
睡眠を促す重要な要素が礼拝です。さらに、体に蓄積した静電気は、サジュダを行うだけで地面に逃すことができます。これによって体が再び活力を取り戻します。
　礼拝のこれらの効用を得る為には、礼拝を時間通りに行うと同時に、清潔さを維持すること、食べ過ぎないこと、清潔でハラールであるものを食べること等にも注意を払うことが必要です。

誰にも永遠ではない、この世界での富、金や銀
荒れ果てた心を、神を知ることが修復する

第７部
礼拝のイスカートゥ（死後、金銭で償いを行うこと）
死者の為のイスカートゥと循環
「ヌール　ウル‐イザーフ」、「タフターウィー」の注釈、そして「ハラビー」と「ドゥル　ウル‐ムンタカー」、及び「ウィカーヤ」、「ドゥラル」、そして「ジャウハラ」、そしてその他の貴重な書物で、断食の項の最後に、遺言を残した死者の為にイスカートゥと循環を行う必要があることが書かれています。例えば、「タフターウィー」の注釈では、「行われなかった断食の代償金を支払い、イスカートゥを行うことがはっきりと定められている。礼拝は断食よりも重要であり、認められている差し障りによって行えなかった礼拝、そしてカダーを行うことを望んでいたのに死に至る病にかかった人たちの実行できなかったカダーについて、断食と同様にイスカートゥを行うことについては、学者たちの意見の一致がある。イスカートゥができないと言う人は無知なのである。なぜなら各学派の一致した意見に対抗しているからである。ハディースでは、『誰も、他人の代わりに断食をすることはできず、礼拝をすることもできない。しかし、彼の断食や礼拝の代わりに貧者に食事をさせることはできる』とされている。」

スンナに従う学者たちの崇高さを理解せず、それぞれの学派のイマームたちが、自分と同じように想像で話していると思い込んでいる一部の人々が、「イスラームには代償金や循環はない。それはキリスト教徒が罪を告白するやり方に似ている」と主張するのを耳にすることがあります。こうした言葉は、彼ら自身を危険に陥れます。なぜなら預言者ムハンマドは、「わがウンマは逸脱した事柄において意見を一致させることはない」といわれているのです。このハディースは、ムジュタヒド（イジュティハド＝法的解釈を行う人）が意見を一致させて承認している事柄は、当然真実であることを示しています。これらを信じない人は、このハディースを信じないことになります。イブニ・アービディーンはウィトルの礼拝について語る際、「イスラームにおいて必須とされていること、すなわち無知な人々も知っているイジュマー（ムジュタヒドたちが意見を一致させて承認していること）である知識を信じない人は、不信仰者となる」と語っています。イジュマーとは、学者たちの意見の一

致を意味します。イスカートゥを罪の告白と似せることがどうしてできるでしょうか。神父たちは、告白をさせているとして、人々に質問を行います。しかしイスラームでは、宗教者はイスカートゥを行えません。イスカートゥを行えるのは死者の後見人のみであり、そのお金は宗教者ではなく貧者に与えられるのです。

イスカートゥと循環は、現在ではほとんどすべての場所で、イスラームに適した形で行われていません。イスラームにイスカートゥはないと言う人々は、そのように主張する代わりに「現在行われているイスカートゥと循環はイスラームに適した形ではない」と言えば、より良かったでしょうし、私たちも彼らを支持していたでしょう。こう言っていれば、彼ら自身が恐ろしい危険に陥らずに済み、さらにイスラームに奉仕を行ったことになっていたでしょう。イスカートゥと循環がイスラームに従ってどのように行われるべきかを下記で説明しています。イブニ・アービディーンは、カダーの礼拝の項の最後で次のように語っています。

「差し障りがあり、カダーに残した礼拝がある人が、それらを象徴的な動きで行うだけの力があるのに行わなかったならば、亡くなった時にその償いを代償金で支払う（イスカートゥ）為に遺言をすることはワージブです。カダーするだけの力もなかったのであれば、遺言は必要ありません。ラマダーン月に断食を行えなかった旅行者や病人も、カダーを行う時間がないうちに亡くなったのであれば、遺言は必要ありません。アッラーは彼らの差し障りを認められるのです。病人の償いのイスカートゥは、死後にその後見人によって行われます。生前には行われません。生きている人が、自分の為にイスカートゥを行わせることは認められないのです」

「ジラーウル・クルビー」では次のように記されています。

「アッラーの権利、そして他者の権利が自分に残っている人が、2 人の証人のそばで遺言を行うこと、もしくは書いたものを彼らに読ませることは、ワージブである。このような権利が残っていない人が遺言を行うことは、ムスタハブである」

償いのイスカートゥの為に遺言を行った死者の後見人、すなわち遺産をそれぞれの箇所に費やす為に遺言を行った人、もしくは相続人がいる人は、遺産の 3 分の 1 を、それぞれの定時の礼拝の為、そしてウィトルの礼拝の為、加えてカダーを行うべきである

一日分の断食の為に、フィトラの量、つまり半サア（520 ディルハムもしくは 1750 グラム）の麦を貧者に代償金として支払います。

ハナフィー派では、償いのイスカートゥの為に遺言を行っていなかったのであれば、後見人が償いのイスカートゥを行うことは必要ありません。シャーフィー派では、遺言を行わなかったのであれば、後見人が行う必要があります。ハナフィー派では、他人に支払うべきものがあり、遺言がない場合、死者が遺した財産から後見人が支払うことが必要です。さらに、債権者は、遺産が相続された時には、裁判を起こさずに受け取るべきものを受け取ることができます。カダーに残された断食の代償金を払うこと、すなわち財産によってそれを払うことを遺言したのであれば、それを実行することはワージブです。なぜならイスラームが命じているからです。遺言をしていないのであれば、礼拝の代償金を払うことはワージブではなく、ジャーイズ（許されること）となります。この最後の 2 つは、もし認められなくても、少なくともサダカのサワーブが生じ、罪を清める助けとなります。イマーム・ムハンマドはこのように語っています。

「マジュマーウル- アンフル」では次のように記されています。「我欲とシャイターンに従って礼拝を行わず、生涯の最後が近づいて初めてそれを後悔し、礼拝を行い、カダーをし始めた人が、カダーすることができなかった礼拝のイスカートゥの為に遺言を遺すことは認められないといわれるが、それが許されることは『ムスタスファー』で記されている」

ジラーウル・クルビーでは次のように記されています。「他者に払うべきものとは、返すべき借金、信託、強奪したもの、盗んだもの、対価等の理由で支払うべきもの、そして喧嘩、傷害、不正な利用といった肉体の権利、それから侮辱、からかい、陰口、中傷といった心の権利である。」

イスカートゥを行う為に遺言を行った死者の財産の 3 分の 1 を充てるのであれば、後見人はこの財産で代償金を払うことが必要です。それに充てようとしないのであれば、財産の 3 分の 1 以上を遺産相続人が寄付することが許されると、「ファトゥフ　ウル-カディール」では記されています。同様に、ファルドであるハッジを行う為に遺言を遺せば、遺産相続人もしくは他の人がハッジ

の代金を贈ることは認められません。死ぬ前に遺言をせず、遺産相続人が彼自身のお金でイスカートゥを行い、ハッジに行けば、死者の借りは返されたことになります。相続人以外の人のお金では、これらは認められないと言う人々もいますが、「ドゥル‐ウル‐ムフタル」や「マラーキル‐ファラーフ」、「ジラーウル・クルビー」といった本の著者たちは、認められるとしています。

償いのイスカートゥは、麦の代わりに小麦粉、あるいは1サアのオオムギ、ナツメヤシ、ブドウを計算して、それらで払うこともできます。（なぜなら、これらは小麦よりもなお貴重であり、貧者にとってより効果的だからです。）全ての代わりに、価値のある金や銀で支払うこともできます。（紙幣ではイスカートゥはできません。）ティラーワのサジュダの為に代償金を払う必要はありません。

イスカートゥや循環はどのように行われるか

代償金が遺産の3分の1を超えるなら、遺産相続人たちが許可を与えない限り、3分の1以上の部分を支払いに費やすことはできません。「クニヤ」という書物では、次のように記されています。「全生涯の礼拝の為に財産の3分の1を支払うことを遺言した死者に、借金があった場合、債権者が遺言の執行を許したとしても、この遺言の執行は認められない。なぜならイスラームは、まず借金を返すことを命じているからである。借金を返すことは、債権者が認めることによって先延ばしにはされない。」

全ての礼拝のイスカートゥを行うよう遺言をした人が何歳で亡くなったのか不明であれば、遺した財産の3分の1が礼拝のイスカートゥに足りない場合、この遺言が認められます。遺産の3分の1がイスカートゥに十分であるか、余る場合は、この遺言は認められず、逸脱とされます。なぜなら、財産の3分の1がイスカートゥに足りない場合、3分の1によってイスカートゥを行う礼拝の数が一定であることから、遺言はこの礼拝の為に適用されます。残りの礼拝の為の遺言は無意味なものとなります。3分の1の方が多い場合、生涯、すなわち礼拝の数が一定ではない為、遺言は無効となります。

礼拝のイスカートゥの為に遺言を行う死者に全く財産がない場

合、あるいは3分の1が遺言に足りない場合、あるいは全く遺言をしておらず、後見人が彼自身の財産でイスカートゥを行うことを望んでいれば、「循環」が行われます。しかし後見人はこの循環を行う義務はありません。循環を行う為に後見人は、一か月もしくは一年のイスカートゥの為に必要な金、腕輪、指輪、銀を借ります。死者が男性であれば年齢から12年、女性であれば9年をマイナスし、できていない礼拝が何年分あるかを計算します。一日分である6回の礼拝の為に10キロ、1年の為に3660キロの麦を支払うことが必要です。例えば、1キロの麦が180クルシュであるなら、1年分の礼拝のイスカートゥは6588リラ、もしくは切り上げて6600リラとなります。1アルトゥン・リラ（7.2グラム）が120リラである時には、1年分の礼拝のイスカートゥの為に55、もしくは念の為として60アルトゥン・リラが必要となります。死者の後見人が5個の金貨を借り、世俗的なことに夢中になっておらず、イスラームを知り、愛している数人の（例えば4人の）貧者を見つけ、（彼らがフィトラを払うことのできない、すなわちサダカを受け取る貧者であることが必須条件となります。もし貧者でなければイスカートゥは認められません。）死者の後見人、すなわち遺言を受けた人、もしくは遺産相続人の一人、もしくは彼らのうちの一人の代理人は、「亡くなった何某氏の礼拝のイスカートゥの為、対価としてこの5アルトゥンをあなたに与えます」といい、5アルトゥンを最初の貧者にサダカのニーヤで与えます。それから貧者は、「受け取りました。私は承認しました。これをあなたに贈ります」といい、これを遺産相続人もしくはその代理人に贈り、相続人もそれを受け取ります。それからまた彼、もしくは次の貧者にそれを与え、贈り物として受け取ります。このようにして同じ貧者に4回、もしくは4人の貧者に一回ずつ与え、受け取ることで循環がなされます。この循環で、20アルトゥンの礼拝の償いをイスカートゥしたことになります。死者が男性で60歳である場合、48年分の礼拝の為に48×60＝2880アルトゥンを払うことが必要です。この為には、2880÷20で、144回の循環を行います。金が10枚あれば72回、金が20枚であれば36回行います。貧者の数が10人で金の数も10枚であれば、48年分の礼拝の償いのイスカートゥの為に29回の循環を行います。

なぜなら、
礼拝を行わなかった年×1 年分の金の数＝貧者の数×循環する金の数×循環の数だからです。この例では、
48×60＝4×5×144＝4×10×72＝4×20×36＝10×10×29
となります。

このように、礼拝のイスカートゥでは循環の数を見出す為に、1 年分の金の数と、死者が礼拝をしていなかった数をかけます。さらに、循環される金の数と貧者の数をかけます。一つめの積の答えを 2 つめの積の答えで割ります。これが循環の数となります。小麦や金の紙幣的な価値は常に同じ割合で変化します。つまり、金の価値と麦の価値は常に同時に減るか、同時に増えます。この観点から、イスカートゥの為に 1 年分の麦の量は変わらないように、1 年分の金の数、つまりここで計算した 60 アルトゥンもほぼ同じです。この為、イスカートゥの計算は常に、慎重なものとして、
1 か月の礼拝のイスカートゥは 5 アルトゥン
1 か月のラマダンの断食のイスカートゥは 1 アルトゥン
と認められています。循環される金の量と循環の数はここから計算されます。

礼拝のイスカートゥを終えた後で、実行できず、カダーすべきであった断食のイスカートゥの為に、5 アルトゥンを 4 人の貧者に 3 回循環させます。すなわち、1 年分つまり 30 日分の断食内のイスカートゥは、52.5 キロの麦もしくは 5.25 グラムの金、すなわち 0.73 個のアルトゥン・リラだからです。このようにハナフィー派では 1 個の金が 1 年分の断食の償いのイスカートゥとなり、48 年の為には 48 個の金を払うことが必要となります。5 個の金を 4 人の貧者に循環させれば、20 アルトゥンを払ったことになります。カダーされるべき断食のイスカートゥを行った後は、ザカートの為、それから犠牲の為に何回か循環を行います。

一回の誓いの為の償いに毎日 10 人の貧者が、そして正当な差し障りなく中断されて償いを必要とする一日分の断食の償いの為にも、1 日 60 人の貧者が必要です。そして一人の貧者には、1 日半サアの小麦以上のものを与えることはできません。だから誓いや断食の償いの為に、一日で循環を行うことはできません。誓いの償いがあるなら、一回の誓いの為に 1 日に 10 人の貧者に 2 キロずつ

の小麦、もしくは小麦粉、あるいは同等の価値を持つその他の財産、金銀を与えます。これは一人の貧者に 10 日間続けて払う形でも行うことができます。あるいは一人の貧者に紙幣を渡し、「あなたを代理人にします。このお金で毎日、朝晩 2 回、10 日間食事をしてください」と言います。10 日間食事をする代わりに、コーヒー代や新聞代として費やせば、それは認められません。最も良いことは、料理人と取引し、10 日分のお金を料理人に渡し、貧者が 10 日間この料理人の元で朝晩食事をするようにします。ニーヤを行ってから中断した断食やズハールの償いも同様であり、この 2 つとも、1 日分の償いの為に 60 人の貧者に 1 日、もしくは 1 人の貧者に 60 日、半サアの小麦もしくは同等の価値のあるその他の財産を与えること、もしくは毎日 2 回食事をさせることが必要です。

遺言がされていないザカートのイスカートゥを行う必要はありません。遺産相続人はザカートのイスカートゥの為にも、自ら循環を行うことができるというファトゥワが出されています。

循環を行う際に後見人は、金を貧者にあたえるごとに、礼拝もしくは断食の為のイスカートゥであるとニーヤしなければいけません。貧者も、それを返す際に贈りましたと言う必要があります。そして後見人は、受け取りましたと言います。後見人はイスカートゥを行えない状態であれば、誰かを代理人とし、この代理人がイスカートゥや循環を行います。

イマーム・ビルギヴィーの「ワシーヤトゥナーメ」という書物と、そのカーディザーデ・アフマド氏の解説では、貧者は 2 サーブの量の財産を持っていないことが条件となります。死者の親戚であっても認められます。貧者に与える際には、「何某氏のこれこれの量の礼拝のイスカートゥの為にこれをあなたにさしあげます」と言う必要があります。貧者も「承知しました」といい、金を受け取った時にはそれが自分のものであることを認識する必要があります。認識していないのであれば前もって教えるべきです。この貧者も慈悲深くふるまい、自らの意志で「誰々の礼拝のイスカートゥの為に、対価としてこれをあなたに差し上げます」といい、他の貧者に与えます。その貧者もそれを手に取って「承知しました」と言わなければいけません。それを受け取り、自分のものであることを認識します。この 2 番目の貧者も「受け取り

ました。認めました」といった後、「これをあなたに差し上げます」と 3 番目の貧者に与えます。これによって、礼拝、断食、ザカート、犠牲、フィトルのサダカ、願掛け、他者に返すべき権利、動物の権利について循環を行うべきです。誤った、道を外れたやりとりも、他者に返すべき権利に含まれます。誓いや断食の償いの為に循環を行うことは認められません。

それから、金がどの貧者の手に残ったとしても、慈悲深く、それを自らの願いと承認によって後見人に贈ります。後見人は受け取り、認めましたと言います。もし贈り物としなければ、それはその貧者の財産であり、無理やり奪うことはできません。後見人は一定の額の金もしくは紙幣、あるいは死者の持ち物をこの貧者に与え、このサダカのサワーブも死者の魂に贈ります。借金がある貧者と、思春期に達していない子供は、この循環を行うことはできません。なぜなら、手にした金で借金を返すことがファルドとなるからです。このファルドを行わず、死者の償いの為に金を別の貧者に与えることは認められません。循環が認められたとしても、彼自身は全くサワーブを得られず、さらには罪を犯したことになります。

財産がない死者が、循環を行うことを遺言に遺していた場合、後見人が循環を行うことはワージブにはなりません。死者の償いをイスカートゥできるだけの額の合計が、遺産の 3 分の 1 を越えないという条件で遺言を行うことがワージブとなります。これにより、循環を必要とすることなく、イスカートゥが行われます。3 分の 1 がイスカートゥに足りる場合、3 分の 1 よりも少ない財産を循環することを遺言すれば、罪を犯したことになります。

イブニ・アービディーンは 5 巻の 273 ページで次のように語っています。「小さな子供たちがいる、あるいは貧しく遺産を必要とする思春期に達した誠実な子供たちがいる病人は、ナーフィラである慈善や善行を遺言するのではなく、財産を誠実な子供たちに遺すことがより良い。　」

「「バッザーリヤ」で贈り物に関する項目では、次のように説かれています。「財産を慈善の為に費やし、罪人である子供には遺産を遺してはいけない。なぜなら罪を助けることになるからである。罪を犯す子供には、日常的な生計に必要なもの以上の金、

財産を与えてはいけない。」

実行できていない礼拝、断食、ザカート、犠牲、誓いが多くあり、これらの為に遺産の 3 分の 1 よりも少ない財産の循環を行い、残ったお金でクルアーンを全章読み、マウリードを読むよう遺言することは認められません。これらを読む為にお金を払う人、受け取る人は罪を犯したことになります。クルアーンを教える為にお金を受け取ること、払うことは認められます。読む為にお金をやりとりすることは認められません。

死者が実行しなかった礼拝、断食を、遺産相続人やその他の人がカダーすることは認められません。しかしナーフィラの礼拝を行い、断食をし、そのサワーブを死者の魂に贈ることは認められ、また良い　ことです。

死者が実行しなかった巡礼を、遺言に遺した誰かがカダーを行うことは認められます。つまり、死者はその負債から救われます。なぜなら巡礼は、体と財産の両方によってなされるイバーダだからです。ナーフィラの巡礼は他者の代わりにいつでも行うことができます。ファルドである巡礼は、ただ死ぬまで巡礼に行くことのできない人の代わりに、代理人によって行われます。
「マジュマ　ウル-アンフル」と「ドゥッル　ウル-ムンタカー」では、「死者のイスカートゥは埋葬の前に行われなければならない」とされています。埋葬後にも認められることが「クヒスターニ」では書かれています。

死者の為の礼拝、断食、ザカート、犠牲の償いのイスカートゥでは、一人の貧者に 2 サーブの量以上を与えることができます。さらには、金の全てを一人の貧者に与えることもできます。

死の床にある病人が、行わなかった礼拝の代償金を払うことは認められません。断食ができない程に老衰している人が、できなかった礼拝の代償金を払うことは認められます。病人は礼拝を、頭で象徴的な動きをしながらであっても行うべきなのです。このような動きであっても 1 日以上礼拝ができない病人の、できなかった礼拝は許されます。回復しても、これらをカダーする必要はありません。できなかった断食については、回復すればそれを行うことが必要です。回復することなく亡くなれば、これらの断食は許されます。

第 8 部
32、そして 54 のファルド

一人の子供が思春期に達した時、そして不信仰者がカリマ・タウヒードを唱えた時、つまり「ラー　イラーハ　イッラッラー　ムハンマドゥン　ラスールッラ」といい、その意味を知り、信じた時には、彼はムスリムとなります。不信仰者の全ての罪がすぐに許されます。しかし彼らは、全てのムスリムと同様、できる限り、信仰の 6 つの条件、すなわち「アーマントゥ」を暗記し、その意味を学び、信じ、「イスラームの全て、つまり預言者ムハンマドが伝えられた命令や禁止事項の全てを、アッラーが教えられたことを信じる」と言うべきです。後に、できる限り、全ての生活や直面する出来事のうち、ファルドであるもの、すなわち命令されたこと、そしてハラームであるもの、すなわち禁じられたことを学ぶことも、ファルドです。これらを学び、ファルドを行い、ハラームを避けることがファルドであることを否定すれば、つまり認めなければ、信仰は失われます。これらの学んだことのどれか一つでも気に入らないのであれば、ムルタドとなってしまいます。ムルタドは、「ラー　イラーハ　イッラッラー」と言うこと、イスラームのいくつかの命令を実行すること、例えば礼拝すること、断食すること、巡礼に行くこと、慈善や善行を行うことなどによって、ムスリムとなることはありません。これらの良い　　行いは、来世で何の効用ももたらしません。否定していること、つまり信じていないことを悔悟し、悔やむことが必要なのです。

イスラーム学者は、全てのムスリムが学び、信じ、従うことが必要であるファルドから 32 個、さらには 54 個を選んでいます。

32 のファルド

信仰の条件：6
イスラームの条件：5
礼拝のファルド：12
ウドゥーのファルド：4
グスルのファルド：3
タヤンムムのファルド： 2
タヤンムムのファルドが 3 つであると言う人々もいます。その場

合、前部で33のファルドとなります。

信仰の条件（6つ）
アッラーの存在と唯一性を信じること
天使たちを信じること
アッラーが下された啓典を信じること
アッラーの預言者たちを信じること
来世を信じること
運命、すなわち良い　ことも悪いこともアッラーからであること
を信じること

イスラームの条件（5つ）
カリマ・シャハーダを唱えること
毎日5回、時間が来たら礼拝を行うこと
財産のザカートを支払うこと
ラマダーン月に毎日断食を行うこと
それができる人は生涯に一度巡礼を行うこと

礼拝のファルド（12個）
A.礼拝の前のファルドは7つです。これらを条件とも呼びます。
汚れからの清め
大汚からの清め
アウラの場所を覆うこと
キブラに向かうこと
時間
ニーヤ
イフティタフもしくはタフリーマのタクビール

B.礼拝中のファルドは5つです。これらをルクンと呼びます。
キヤーム
キラート
ルクウ
サジュダ
座位

ウドゥーのファルド（4 個）
ウドゥーを行う際に顔を洗うこと
手を、肘と共に洗うこと
頭の 4 分の 1 をマスフすること
足を踵と共に洗うこと

グスルのファルド（3 個）
口を洗うこと（マズマラ）
鼻を洗うこと（イスティンシャーク）
全身を洗うこと

タヤンムムのファルド（2 個）
ジュヌーブの状態、もしくはウドゥーのない状態から清められる為にニーヤを行うこと
両手を土につけ、顔をマスフすること、再び両手を土につけ、両腕を肘から手のひらまで撫でること

52 のファルド
アッラーが唯一であることを信じること
ハラールであるものを食べること、飲むこと
ウドゥーを行うこと
日に 5 回の礼拝を行うこと
ジュヌーブの状態からグスルを行うこと
糧がアッラーからのものであることを信じること
合法であり、清潔な衣類を身に着けること
アッラーを信頼すること
満足すること
恵みに対し、アッラーに感謝すること
運命を甘受すること
災難に忍耐すること
罪を悔悟すること
アッラーのご満悦の為にイバーダを行うこと
シャイターンが敵であることを知ること

クルアーンの規定を受け入れること
死が真実であると知ること
アッラーの親友の友となり、アッラーの敵の敵となること
父や母に善行を施すこと
善を命じ、悪を避けることを教えること
親戚を訪問すること
信託を裏切らないこと
常にアッラーを恐れ、つけあがったり堕落したりしないこと
アッラーとその使徒に従うこと
罪を避け、イバーダを多く行うこと
ムスリムの統治者に従うこと
世界を、警告という観点から見ること
アッラーの存在を熟考すること
舌を、姦淫に関連する言葉から守ること
心を清らかに保つこと
決して誰かを笑いものにしないこと
ハラームであるものを目にしないこと
信者はどのような状態であれ、約束に忠実であること
耳を、邪悪なものを聞くことから守ること
知識を学ぶこと
計りや計測器を正しく用いること
アッラーの懲罰について自分は心配ないと思わず、常に恐れること
ムスリムの貧者にザカートを支払うこと、助けること
アッラーの慈悲に絶望しないこと
自我の欲望に従わないこと
アッラーのご満悦を得る為に食事を提供すること
足りるだけの量の糧を得る為に働くこと
財産のザカート、収穫物のウシュルを支払うこと
月経中、産褥期である人と同衾しないこと
心を罪から清めること
うぬぼれを避けること
思春期に達していない孤児の財産を保護すること
若い少年に近く接しないこと

5回の礼拝を時間通りに行い、カダーに残さないこと
迫害によって他者の財産を奪わないこと
アッラーに何ものも配さないこと
姦淫を避けること
ワインやアルコール飲料を飲まないこと
実行する気がないのに誓約しないこと

不信仰について

悪事のうち最も悪いことは、アッラーを信じないこと、無神論者であることです。信じるべきことを信じない場合、不信仰者となります。預言者ムハンマドを信じないことは不信仰です。アッラーの位階からもたらされ、私たちに教えられたこと全てを心から信じ、言葉でも繰り返し語ることを「イーマーン（信仰)｝と言います。それを口に出すことが妨害される状況で口に出さないことは許されます。信仰が生じる為には、イスラームが不信仰のしるしであるとしていることを語ったり、用いたりすることを避ける必要もあります。イスラームの徳、すなわちイスラームの命令や禁止事項のどれか一つを軽視すること、クルアーン、天使たち、預言者たちのいずれかを侮辱することは、不信仰のしるしです。否定することとは、つまりそれらを知った後であえて信じないこと、認めないことを意味します。疑うことも、否定することとなります。

不信仰には3種類あります。無知によるもの、強い否定、判断による不信仰です。
聞いたことがなく、考えたこともない為に信仰しない人の不信仰を、「無知による不信仰」と呼びます。無知にも2種類があります。1つめは単純な無知です。この人々は、自分が無知であることを知っています。彼らには誤った信条はありません。動物のような状態です。なぜなら人を動物と区別するものは、知識と理解であるからです。こういった人々は動物以下となります。なぜなら動物は創造された事柄においてより優れているからです。無知の2つめは「形成された無知」です。誤った、逸脱した信条です。ギリシア哲学を信奉する人々や、ムスリムのうち72のビド

ゥアの派であるような人々がこれに当たります。この無知は、1つめの無知よりもなお悪いものです。薬のない病気のようなものです。
「強い否定」とは、「頑迷な否定」とも呼ばれます。知っていてあえて信仰しないことです。うぬぼれ、地位を得ることへの愛着、非難されることへの恐れから生じます。フィルアウーンとその同行者、ビザンツ皇帝ヘラクリオスの不信仰はこのようなものでした。
信仰の 3 種類目は、判断による不信仰です。イスラームが不信仰の印と見なしている言葉を口に出したり、行動を取ったりした人は、例え心で受け入れていたり、信じていると語っていたとしても、不信仰者となります。イスラームが蔑視を命じているものを尊敬すること、イスラームが尊敬することを命じているものを蔑視することも、不信仰なことです。

アッラーが天、もしくは空から私たちを見ておられる、と言うことは不信仰です。
あなたが私をひどい目にあわせたように、アッラーもあなたをひどい目にあわせる、と言うことは不信仰です。
何某のムスリムは私の目にはユダヤ教徒に見える、と言うことは不信仰です。
偽りである言葉について、アッラーはご存じであると言うことは不信仰です。
天使を侮辱する言葉を語ることは不信仰です。
クルアーン、さらにはその一文字についても、それを侮辱する言葉を語ること、その一文字を信じないことは不信仰です。
楽器を鳴らしながらクルアーンを読むことは不信仰です。
真正である律法や新約聖書を信じないこと、これらを悪く言うことは不信仰です。（現代では真正である律法や新約聖書は存在しません。）
クルアーンの例外的な文字を読み、クルアーンとはこれであると言うことは不信仰です。
預言者たちを侮辱する言葉を語ることは不信仰です。
クルアーンで名が告げられている 25 人の預言者たち（アッラー

の祝福と平安がありますように）の誰か一人でも信じないことは不信仰です。
とても良い　　ことを行った人について、預言者よりもなお良い　、と言うことは不信仰です。
預言者たちは助けを必要としていた、と言うことは不信仰です。なぜなら、彼らの貧しさは彼ら自身の願いによるものだったからです。
誰かが、自分が預言者であるといい出したとき、それを信じる人も不信仰者となります。
来世で起こる出来事をからかうことは不信仰です。
墓場や最後の審判の日の罰について、（知識や科学にそぐわないといって）信じないことは不信仰です。
天国でアッラーにお目にかかることを信じないこと、私は天国は望めない、アッラーを求める、と言うことは不信仰です。
イスラームを信じないことを示す言葉、例えば「科学知識はイスラームの知識よりもずっと価値がある」などと言うことは不信仰です。
礼拝をしてもしなくても同じであると言うことは不信仰です。
私はザカートを払わないと言うことは不信仰です。
利子が合法であればよかったのに、と言うことは不信仰です。
迫害が合法であればよかったのに、と言うことは不信仰です。
ハラームである品を貧者に与えてサワーブを期待することや、貧者がこの与えられたお金がハラームであることを知りながら、与えた人の為に善を願うドゥアーをすることは不信仰です。
イマーム・アーザム・アブー・ハナフィーの類推（キヤース）は正しくないと言うことは不信仰です。ワッハーブ派はこの為に不信仰者となります。
知られているスンナのどれかを気に入らないことは不信仰です。
「私の墓と、私の説教台との間は、天国の庭園の中の庭園である」というハディースを聞いて、「私には説教台、壁掛け、墓の他に何も見えない」と言うことは不信仰です。
イスラームの知識を信じないこと、それら、そしてイスラーム学者を軽視することは不信仰です。
不信仰者となることを望む人は、それをニーヤした瞬間に不信仰

者となります。
他者が不信仰者となることを望む人は、不信仰を好んでいる為にそう望んでいるのであれば、不信仰者となります。
不信仰の原因となることを知りつつ、自らの意思によって不信仰の言葉を語る人は不信仰者となります。知らずに語った場合も、学者たちの多くによれば、やはり不信仰者となります。
不信仰の要因となる仕事を公に行う人ことは不信仰です。知らずに行ったとしても不信仰となる、とする学者も多いです。
腰に、ズナールと呼ばれる神父の帯を撒くこと、不信仰者に特有の何かを身に着けることは不信仰です。商人がダール・アル・ハラブ（戦争の世界＝異教徒が主権を持つ世界）で用いることは不信仰です。これらをユーモアとして、他者を笑わせる為、冗談を言う為に用いることも、不信仰の要因となります。
不信仰者の祝日に、その日に特有のものを彼らのように用いること、それらを不信仰者に贈ることは不信仰です。
知性を持ち、知識を備え、文学者であることを示す為に、もしくは周囲の人々を驚かす為、笑わせる為、喜ばせる為、あるいはからかう為に語った言葉について、判断による不信仰の恐れが持たれます。激怒、立腹、欲望によって語られた言葉も同様です。
陰口をたたいていた人が、私は陰口などたたいていない、彼が持つものについて語っただけだと言うことは不信仰です。
子供の頃に婚姻した少女が、思春期に達し知性を持った時に、信仰、イスラームについて知らず、質問された時に答えられないのであれば、夫と離婚し、本人は背教者となります。男性も同様です。
一人の信者を（正当な理由なく）殺害した人、もしくは殺害を命じた人に「よくやった」と言うことは不信仰です。
殺害がワージブではない人について、殺害されるべきであると語ることは不信仰です。
誰かを正当な理由なく殴る、もしくは殺害する迫害者に、「よくやった、彼はこんなことをされて当然だ」と言うことは不信仰です。
事実ではないのに、「アッラーはご存じだ、あなたを子供の時から とても愛していた」と言うことは不信仰です。

地位のあるムスリムがくしゃみをした時、彼に「ヤルハムハッラー」といったひとに、「目上の人にはそんなことはいってはいけない」と言うことは不信仰です。
務めであることを信じず、軽視し、礼拝を行わないこと、断食をしないこと、ザカートを支払わないことは不信仰です。
アッラーの慈悲に望みを絶つことは不信仰です。
それ自体はハラームではなく、後で生じた理由の為にハラームとなった財産やお金を「ハラーム　リ　ガイリヒ」と呼びます。盗まれた、あるいはハラームである手段で得られた財産がこれに当たります。これらがハラールであると言うことは不信仰です。死肉、豚肉、ワインなど、それ自体がハラームであるものを「ハラーム　リ　アイニヒ」と呼びます。これらがハラールであると言うことは不信仰です。
確実にハラームであると知られている全ての罪について、ハラールと呼ぶことは不信仰です。
アザーン、モスク、法学書など、イスラームが価値を置いているものを軽視することは不信仰です。
ウドゥーがないことを知っていながら礼拝を行うことは不信仰です。
知っているのに、キブラ以外の方向に向かって礼拝を行うことは不信仰です。礼拝をキブラに向かって行う必要はないと言う人は、不信仰者となります。
一人のムスリムをののしる為に不信仰者と言うことは、不信仰にはなりません。不信仰者となることを望んで言うのであれば、不信仰です。
罪であることを重要視せずに罪を犯すことは、不信仰です。
イバーダを行うことが必要であること、罪を避けることが必要であることを信じないことは不信仰です。
集められた税が統治者の財産となることを信じることは不信仰です。
不信仰者たちの宗教的儀式を気に入ること、必要に迫られていないのにズナール（神父の帯）を撒くこと、不信仰の象徴を用いること、この人々と親愛な関係になり握手することは不信仰です。
自ら認めて、「何々のものは、誰々が持っている、もしそこにな

ければ私は不信仰者にもユダヤ教徒にもなろう」と誓約したのであれば、そのものをその人が持っていてもいなくても、この人は自ら認めて不信仰に至ったことになります。
姦淫、同性愛、利子、嘘のような確実にハラームであるものについて「ハラールであればよかったのに、そうであれば私もしたのに」と望むことは不信仰です。
預言者たち（アッラーの祝福と平安がありますように）を信じているが、しかし預言者アーダムは預言者かどうかわからない、と言うことは不信仰です。
預言者ムハンマドが終末の時代の預言者であることを知らない人は、不信仰者となります。
誰かが、「預言者たちの語っていることが正しければ、私たちも救われていただろう」といえば、不信仰者となります。（この言葉を疑いのうちに語ったのであれば不信仰者となります。）
誰かに人々が「来なさい、礼拝をしなさい」といった時、その人が「私は礼拝しない」といえば、不信仰者となります。ただその意図が、「あなたの言葉によって礼拝を行うことはしない。アッラーの命令によって礼拝するのだ」というものであれば、不信仰者にはなりません。
誰かに、「ひげを一定以上に短くするな、あるいは一定以上の部分を切りなさい、爪をも切りなさい。預言者ムハンマドのスンナなのだから」と人々がいい、その人が「私は切らない」といえば、不信仰者となります。他のスンナも同様です。（あなたの言葉ではやらない、ただアッラーの使徒のスンナである為に行うのだ、と言うことは不信仰にはなりません。否定する意図で言えば不信仰となります。）
誰かが口髭を短くした時、そばにいる人が「無駄なことをした」といえば、それを言った人が不信仰者となることが懸念されます。（口ひげを短くすることはスンナです。スンナを軽視したことになります）
誰かが頭から足まで絹の衣装を着ていた時に、他の人がその様子を見て「素晴らしい」といえば、その人の不信仰が懸念されます。
誰かがキブラに対して足を伸ばして座ったり、あるいはキブラに

対してつばを吐いたり、キブラの方向に尿をしたりというマクルーフであることを行い、その人に「この行為はマクルーフだ、やってはいけない」と人々がたしなめた場合、彼が「全ての罪がこれくらいであれば大したことはない」と言ったなら、不信仰が懸念されます。つまり、マクルーフを重要ではないものと見なしたためです。
誰かの召使がドアから中に入り、その主人に「アッサラームアライクム」と言った時、その主人のそばにいた人が「黙れ、主人に挨拶を送るとは何てことだ」と言うなら、その人は不信仰者となります。しかしその意図が礼儀作法を教えることであり、挨拶は心で行うべきだ、と言うためものであれば、不信仰にはなりません。
信仰が増える、減ると言うことは不信仰です。しかし、成熟さやアッラーとの近しさによる、と言うのであれば不信仰にはなりません。
キブラは 2 つある、一つはカーバでもう一つはエルサレムである、と言うことは不信仰です。現在も 2 つである、と言うことは不信仰です。ただし、エルサレムの至高の館はキブラだった、その後カーバがキブラとなった、と言うのであれば不信仰にはなりません。
誰かがイスラーム学者を根拠もなく嫌っていれば、その人の不信仰が懸念されます。
誰かが食事をする際に話さないことはソロアスター教の良い　伝統からのものである、と言えば、あるいは月経中、産褥中の夫人と同衾しないことはゾロアスター教の良い　行いからのものであると言えば、不信仰者となるとされています。
誰かに「あなたは信者なのか」と尋ねたとき、相手が「インシャラー」と答え、それ以上の説明をしなければ不信仰者となります。
誰かが、子供を亡くした人に「アッラーにはあなたの息子が必要だったのだ」といえば、不信仰者となるとされています。
女性が腰に黒い糸を巻き、それが何であるか尋ねられた時に「ズナール（神父の帯）です」と答えるのであれば、不信仰者となります。

誰かがハラームであるものを食べる際に「ビスミッラー」といえば、不信仰者となります。これは、ハラーム・リ・アイニヒ、すなわち死肉やワインといったハラームについて適用されます。それ自体がハラームではない、ハラーム・リ・ガイリヒについてはこのようではありません。強要されたものを食べる際にビスミッラーと言うことは不信仰とはなりません。それ自体はハラームではなく、強要されたことがハラームなのです。
誰かが、不信仰を認めることは不信仰です。誰かを呪いながら、「アッラーがあなたの命を不信仰のうちに取られるように」といえば不信仰者となる、という点で学者たちは論争を行ってきました。不信仰を受け入れることは不信仰です。しかし迫害や罪の為に、「その罪が永遠で厳しいものとなるように」と認めることは不信仰にはなりません。
誰かが、「アッラーがご存じだが、私はこれこれをしていない」と言い、しかし実際にはそれをしたことを認識しているなら、不信仰者となります。それは、アッラーに無知という中傷を行ったことになります。
誰かが女性と証人なしで結婚し、その人や妻が「アッラーと預言者が我々の証人だ」といえば、2 人とも不信仰者となります。なぜなら預言者ムハンマドは生前に幽玄界のことをご存じではありませんでした。預言者が幽玄界のことをご存じだと言うことは不信仰です。(幽玄界はアッラーがご存じであり、アッラーが教えられた人のみがそれを知ることができます。)
「私は盗まれたもの、目に見えないものを知っている」と言えば、それを言った人も、聞いて信じた人も不信仰者となります。「私にはジンが教えてくれる」と言えば、やはり不信仰者となります。預言者たちやジンですら、幽玄界のことは知りません。(幽玄界はアッラーがご存じであり、アッラーが教えられた人のみがそれを知ることができます。)
誰かがアッラーに誓うことを望んだ時、他の誰かが「私はあなたがアッラーに誓うことを望まない。離婚や名誉、誉れをかけて誓うことを求める」と言えば、不信仰者となると言われています。
誰かが、好まない人に対し「あなたの顔は私にとって命取りだ」といえば、不信仰者となります。なぜなら、命を取るのは偉大な

天使アズラーイールだからです。
誰かが、礼拝を行わないのは素敵なことだといえば、不信仰者となります。誰かが誰かに礼拝をしようと呼びかけ、その人が「礼拝をするのは私には難しい」と言えば、不信仰者となるといわれています。
誰かが「アッラーは天における私の証人だ」といえば、不信仰者となります。なぜなら、アッラーにどこかにいる、という中傷を行ったことにるためです。アッラーは、居場所が制限されることからかけ離れた存在です。
「父なるアッラー」と言う人は不信仰者となります。
誰かが「預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は食事の後、指を舐められた」と言った時、他の誰かが「それは不作法だ」といえば、不信仰者となります。
誰かが「預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は黒かった」といえば不信仰者となります。（黒い色をアラブ人、アラブ人とよぶことごきぶりを黒いファトゥマと呼ぶことが広くみられます。これらは避けられるべきです。）
「糧はアッラーが与えられる。しかししもべも行動すべきだ」といえば、この言葉はシルクにあたります。なぜならしもべの行動もアッラーによるものであるからです。
誰かが「キリスト教徒であることは、ユダヤ教徒であることよりも良い　。アメリカの不信仰者であることは、共産主義者であることよりも良い　」と言えば、不信仰者となります。ユダヤ教徒はキリスト教徒よりも、共産主義者はキリスト教徒よりもより災いであると言うべきなのです。
「不信心者であることは裏切り者であることよりも良い　」と言う人は、不信仰者となります。
「知識の評議会が何の役に立つのか」、もしくは「学者たちの言うことを誰が実行できるのか」、もしくはファトワーを無視して「学者の言葉が何の役に立つのか」と言えば、不信仰者となります。
誰かがイスラームに対する不信仰を言葉にし、それに誰かが笑ったのであれば、笑った人も不信仰者となります。笑うことが強制されていたなら、不信仰とはなりません。

誰かが「シャイフの魂はいつでもここにある、彼らは知っている」といえば、不信仰者となります。「ここにある」といえば、不信仰にはなりません。（ワリーの魂は、アッラーのようにどこにも存在されるというわけではありません。思い起こされた場所に存在します。思い起こされる前にはそこにはいないのです。）
「イスラームは知らない、望まない」といえば、不信仰者となります。
誰かが「預言者アーダムが麦を食べなければ、私たちは罪を犯す存在とはならなかった」と言えば、不信仰者となります。しかし、「預言者アーダムが木の実を食べなければ、私たちは世界に存在しなかった」と言うことが不信仰となるかどうかについては論議がなされています。
「預言者アーダムが布を織っていた」といった時、誰かが「それなら私たちは布屋の子孫だということだ」と言えば、不信仰者となります。
誰かが小さな罪を犯し、他の人が彼に悔悟するように言った時、その人が「私が何をしたというのか。なぜ悔悟をするのだ」と言えば、不信仰者となります。
誰かが他の人に「来なさい、イスラーム学者を訪ねよう」、もしくは「法学、イルミハルの本を読んで学ぼう」と言った時、その人が「そんなもの学んでどうするのだ」と言えば、不信仰者となります。なぜなら、これは知識を軽視することだからです。
クルアーンの解釈本、法学の本を侮辱する人、これらを好まない人、悪く言う人は不信仰者となります。
誰かに「あなたは誰の子孫なのか。どの民族なのか。信仰におけるあなたの派のイマームは誰か、行動におけるあなたの派のイマームは誰か」と聞かれた時、答えられないのであれば、不信仰者となります。
絶対的にハラームであるものをハラールであると言う人は、不信仰者となります。（タバコをハラームであると言うことは、危険です。）
全ての宗教でハラームであり、ハラールとされることが叡智にそぐわないような事柄について、ハラールであればよかったと願うことは不信仰です。姦通、同性愛、満腹しているのに更に食べる

こと、利子を受け取ること、払うことなどです。ワインがハラールであることを望むことは、不信仰ではありません。なぜなら全ての宗教でハラームではないからです。
崇高なるクルアーンを、会話の中で用いることは不信仰です。
ヤフヤーという名の人に、「ヤヒヤーよ、啓典をしっかりと守れ」（マルヤム章第 12 節から）といえば、不信仰者となります。クルアーンをからかったことになるのです。楽器、ゲーム、歌の間にクルアーンを読むことも同様です。
「今来た、ビスミッラー」と言うことは災いです。何かをたくさん見た時に「マーハラカッラー（アッラーが何と多くのものを創造されたのか）」と言った場合、意味を知らなければ不信仰者となります。
誰かが「今はあなたを責めない、人々は責めることを罪と呼ぶらしい」と言うことは、災いです。
誰かが「ジブラーイールの子牛のように真っ裸だ」と言うことは災いです。天使をからかうことになります。
「息子の頭」もしくは「私の頭」という言葉に誓いの意味を持たせれば、つまり「アッラーに誓って、息子の頭の為に」と言えば、不信仰となることが懸念されます。
クルアーン、マウリード、そして賛美の歌を、楽器を鳴らしながら歌うこと、演奏器具と共に読むことは不信仰です。
クルアーン、マウリード、賛美の歌、祝福祈願を、罪が行われる場で尊敬の意を持って唱えることはハラームです。楽しみ、娯楽の為に唱えることは不信仰です。
スンナに従って唱えられるムハンマドのアザーンを聞かず、大切にしないのであれば、すぐに不信仰者となります。
クルアーンに自分の頭で意味付けをする人は不信仰者となります。
クルアーンやハディースで明白に告げられ、法解釈の見解を出すイマームたちが意見を一致させて教えている事柄、そしてムスリムの間でも広く知られている信仰上の知識に適った形で信仰しない人は、不信仰者となります。不信仰のこの種の形を「イルハド」、信じる人を「ムルヒド」と呼びます。
不信仰者に敬意を持って挨拶をする人は、不信仰者となります。

不信仰者に敬意を表す言葉を語ること、例えば「わが師よ」と言うことは不信仰です。
他者の不信仰を喜ぶ人は不信仰者となります。
クルアーンが録音されたテープやレコードは、クルアーンの崇高な正本と同様に尊いものです。これらに不遜な態度を取ることは不信仰です。
ジンと交わっている占い師や占星術師、まじない師を訪ね、彼らが語ることや行っていることを信じることは、不信仰です。時には当たったとしても、アッラー以外の他の誰かが全てを知り、望むことを何でも行うと信じる行為であるためです。（科学の知識を信じることはこの通りではありません。）
スンナを軽視することや、大切にせず放棄することは不信仰です。
ズナールと呼ばれる神父の帯を巻くこと、偶像、すなわち十字架、クロスと呼ばれるまっすぐに切られた 2 つの棒、像、そしてそれらの絵を崇拝すること、崇めること、イスラームの徳を教える宗教書のどれかを侮辱すること、イスラーム学者の誰かを侮辱すること、からかうこと、不信仰の要因となる言葉を語ること、書くことは不信仰です。また、崇めることが命じられている何かを侮辱し、侮辱することが命じられている何かを崇めることもまた不信仰です。
「まじない師はまじないによって望むことを当然行う、まじないには必ず効果がある」と言い、信じる人は不信仰者となります。
ムスリムが、自らを不信心者と呼ぶ人に対し、「はい」といったような承認を示す返事をすれば、彼も不信仰者となります。
ハラームであることが知られている一定の財産で、モスクを造らせること、サダカを支払うこと、その他の慈善を行わせること、これに対してサワーブを期待することは、不信仰です。
誰かに絶対にハラームである財産からサダカを与えてサワーブを期待すること、受け取った貧者がハラームのお金であることを知っていながら「アッラーが慶んでくださいますように」と言うことで、与えた人も、「アーミーン」といった人がいればその人も、皆が不信仰者となります。
結婚がハラームである女性と結婚することについて、それをハラ

ールと言う人は、不信仰者となります。
酒場、遊技場、罪が犯されている場において、ラジオやスピーカーでクルアーンやマウリードを聞いて楽しむことは不信仰です。
クルアーンを、楽器を演奏しながら読むことは不信仰です。
ラジオやスピーカーで読まれているクルアーンに対して失礼な態度をとることは不信仰です。
アッラー以外のどのような存在に対しても、どのような目的があったとしても、「創造者」と言うことは不信仰です。
「アブドゥルカディル」と言う代わりに、「アブドゥルコイドゥル」と言うことは、もし意図的であれば不信仰です。「アブドゥルアジズ」と言う代わりに「アブドゥルゼイズ」、「ムハンマド」と言う代わりに「メモ」、「ハサン」と言う代わりに「ハッソ」、「イブラーヒーム」と言う代わりに「イボ」と言うことも同様です。これらの名前を靴やサンダルに書く人、それを踏む人の信仰が失われることが懸念されます。
ウドゥーがないことを認識しながら礼拝を行うこと、スンナである何かの事柄を好まないことは不信仰です。スンナに重きを置かないことは不信仰です。
無知な人々がワリーを創造主と思い込むことを懸念して、その墓を破壊する、という言葉は不信仰です。
他者、特に自分の子供が不信仰者となる要因となった人は、不信仰者となります。
姦通、同性愛が認められると言うことは、不信仰です。
クルアーンの言葉や、ハディース、そして意見の一致によって宣告されているハラームに重きを置かないことは、不信仰です。
大きな罪を繰り返すこと、頑なに繰り返すことは不信仰に引きずり込まれる要因となります。礼拝に重きを置かないことは不信仰です。
文章、文字が書かれた紙、覆い、礼拝用の絨毯を床に敷くこと（侮辱の為に敷くこと、利用すること）は不信仰です。
アブー・バクル・スッドゥークとウマル・ウル・ファールーク（アッラーがお慶びくださいますように）にカリフになる権利はなかった、と言うことは不信仰です。
アッラーとは別に、死者から何かを求めることは不信仰です。

「テズヴェレン・デデ」（その人に願えば子供が授かるとされる）というようなことはとても醜いものであり、不信仰の要因となります。
死者を土に埋めることはファルドであり、このファルドに重きをおかずにその奉仕から逃げる人、知識や科学を主張して「死者を埋めることは時代遅れだ、偶像崇拝者や共産主義者、不信仰者のように死者を焼くことがより良い　」と言う人の信仰は失われ、ムルタドとなります。
アッラーの友であるワリーたちのうち、亡くなった、もしくは生きている誰かについて、言葉もしくは心で否定することは不信仰です。
ワリーたちや知識人、税の徴収係である人々への敵対は不信仰です。
「ワリーたちに一切の罪がないという特性がある」と言うことは不信仰です。一切の罪がないという特性はただ預言者たちにのみあります。
知識から何も得ることがない人は、信仰がない状態で去ることが懸念されます。そこから何かを得る為の最低限のことは、この知識を信じることです。
クルアーンを、イスラーム学者たちの誰もが読んだことのない形で読むことは、その意味や言葉を壊さなかったとしても、不信仰です。
神父たちのイバーダに特有のものを用いることは不信仰です。
何らかの出来事が勝手に生じたものであると信じること、そして動物が、単細胞から高等なものへと進化し、ついに人間となったと言うことは不信仰です。
礼拝をわざと行わず、カダーを行うことも考えない、その為に罰を受けることを恐れない人は、ハナフィー派でも不信仰者となります。
不信仰者のイバーダをイバーダとして行うこと、例えば、教会で鳴らしているオルガン等の楽器や鐘をモスクで鳴らすこと、イスラームが不信仰のしるしと見なしていることを、必要に迫られたり強制されたりしていないのに用いることは不信仰です。
教友を嫌う人はムルヒドと呼ばれます。ムルヒドは不信仰者とな

ります。
不信仰者の絵画を高いところに飾り、崇めることは不信仰です。
絵画や像、モデル、十字架、あるいは星、太陽、牛といったものに神性があることを信じること、例えば望むものを創造し、望むことを行い、病人を癒す、として崇めることは不信仰です。
アーイシャが不貞であるといい、その父が教友であることを信じない人は不信仰者となります。
預言者イーサーが天から下りてくることが、必ず起こることとして知られています。これを信じない人は不信仰者となります。
クルアーンで、そしてハディースで、天国が吉報として伝えられた人について、不信仰者であると言うことは不信仰です。
科学の経験の範疇に含まれない、科学とかかわりのないクルアーンの章句を、科学の知識に結び付けようとすること、サハーバやその次とその次の世代の人々の解釈を変えることは大きな罪となります。このような解釈や翻訳を行う人は不信仰者となります。
ムスリムである少女が、思春期に達した時にイスラームについて何も知らなければ、不信仰者となります。男性も同様です。
ムスリム女性が頭、腕、足を露出した状態で外に出ること、男性がそれを見ることはハラームであり、罪です。これに重きを置かず、気に留めないのであれば、信仰は失われ、不信仰者となります。
預言者ムハンマドが教えられたファルドとハラームも、クルアーンで明白に告げられているファルドやハラームと同様に尊いものです。これらを信じない人、認めない人はイスラームから離れ、不信仰者となります。
ルクウのタスビーフで「ズ」の音で「アズィーム」と言うこと。アッラーは偉大であるという意味です。もし「ザ」の音でアズィームといえば、「アッラーは私の敵である」という意味になり、礼拝は無効となります。意味が変わってしまう為、不信仰の要因ともなります。
クルアーンに節をつけて読むハーフィズに、何と美しく読んだのでしょうと言う人の信仰は消え、不信仰者となります。4 つの学派とも、ハラームであるものを美しいと言う人は不信仰者となると見なしています。ただ、声、音色、クルアーンを読むこと自体

が素晴らしいということを意図していった人は、不信仰にはなりません。
天使やジンの存在を信じない人は、不信仰にはなりません。
クルアーンの章句では、それぞれの言葉には明白でよく知られる意味が与えられます。この意味を変化させ、バーティン派（イスマーイール派）に従う人は不信仰者となります。
魔術を行う際、不信仰の要因となる言葉や行いがあれば、不信仰です。
ムスリムに「不信仰者よ」と言う人、あるいはムスリムにフリーメーソンと言う人、共産主義者と言う人は、彼を不信仰者であると信じるのであれば、発言者自身が不信仰者となります。
イバーダを行う人が、信仰が損なわれたことに不安を抱き、「私には罪が多い、イバーダは私を救わない」と考えれば、その信仰は強いと言えます。信仰が続くかどうかを疑う人は不信仰者となります。
預言者たちの数を明言することは、預言者でない人を預言者であると言うこと、あるいは預言者を預言者と認めないこととなり得ます。これは不信仰です。なぜなら、預言者たちのうち一人でも認めないことは、誰一人として認めないことを意味するのです。

男性もしくは女性のムスリムは、学者たちが意見を一致させて不信仰の要因となり得ると告げている一つの言葉、もしくは行いが、不信仰の要因となることを認識し、自発的に（脅迫を受けることなく、自らの希望で）、真剣に、もしくは冗談で、笑わせる為に語ったり行ったりすれば、その意味を考えてはいなかったとしても信仰が失われてムルタドとなります。これは「頑迷な不信仰」といわれます。頑迷な不信仰によってムルタドとなる人は、以前のイバーダのサワーブが失われます。悔悟をしても取り戻すことはできません。裕福であれば再び巡礼に行くことが必要となります。ムルタドである時に行った礼拝、断食、ザカートのカダーは行いません。棄教以前にできなかったものについてカダーをします。悔悟をする為には、カリマ・シャハーダを唱えるだけでは十分ではありません。不信仰の要因となったそのものについても悔悟を行うことが必要です。（イスラームから、どの扉を通っ

て出たのであれ、そこから入ることが必要です。）もし不信仰の要因となることを知らずに語ったり、行ったりしたのであれば、あるいは不信仰の要因となるかどうか学者たちの間で意見が統一されていない言葉を意図的に語ったのであれば、信仰が失われ、婚姻が無効となるかどうかは疑問です。用心として、信仰を新たにし、婚姻を行うことが良い　　とされます。知らずに語ることを、「無知による不信仰」と言います。知らないことは正当な理由ではなく、大きな罪です。なぜなら全てのムスリムにとって、知っておくべきことを学ぶのはファルドであるからです。不信仰の要因となる言葉を、誤って、間違って、あるいは言葉に複数の意味があることから口に出したこととなってしまった人の信仰や婚姻は、無効となりません。ただ悔悟と懺悔、すなわち信仰を新たにすることは良い　とされます。

不信心者は、カリマ・タウヒードを唱えることで信者となるように、信者も、一つの言葉を口にすることで不信仰者となるのです。

一人のムスリムのある言葉、あるいはある行いに 100 の意味がある場合、つまり 100 通りの見解ができる場合、そのうちの 1 つがその人が信仰を持つことを示し、残りの 99 が不信仰者であることを示しているなら、この人はムスリムであると見なされるべきです。つまり不信仰を示す 99 の意味は目にせず、信仰を示す 1 つの意味を見るのです。この言葉を誤解してはいけません。この為には 2 つの点に注意すべきです。一つ目は、この言葉、行いの主がムスリムであることです。一人のフランス人がクルアーンを褒め、イギリス人がアッラーは唯一であるといったとしても、彼らがムスリムであると言うことはできません。二つ目として、一つの言葉もしくは行いに 100 の意味があった場合、と言われたことです。逆に、100 の言葉もしくは 100 の行いのうち、1 つが信仰を示し、99 が不信仰を示しているのであれば、この人をムスリムと呼ぶことができるとは言われていないのです。

全てのムスリムは朝晩、この信仰の為のドゥアーを唱えるべきです。

「アッラーフンマ　インニー　アウズビカ　ミン　アン　ウシュリカ　ビカ　サイアン　ワ　アナー　アラム　ワ　アスタグフィルーカ　リマー　ラー　アラム　インナカ　アンタ　アッラームル　グユーブ」
「アッラーフンマ　インニー　ユリードゥー　アン　ウジャッディダル　イーマーナ　ワンニカーハ　タジュディーダン　ビ　カウリ　ラー　イラーハ　イッラッラー　ムハンマドゥン　ラスルーラー」
とドゥアーし、悔悟し、信仰を新たにし、婚姻を行います。

信仰が私たちにおいて維持され、失われない為に：
目に見えないことを信じること
目に見えないことを、ただアッラーが、そしてアッラーが教えられた人々がご存じであることを信じること
ハラームをハラームと認識し、信じること
ハラールをハラールと認識し、信じること
アッラーの罰に対して自分は大丈夫と思わず、常に恐れていること
アッラーに希望を絶たずにいること

　ムルタドとなる事柄を否定することも、悔悟です。ムルタドが悔悟を行わずに死ねば、地獄の炎で永遠に罰を受けます。この為、不信仰を強く恐れ、話し過ぎないようにするべきです。ハディースでは、「いつでも意義のある、効果のあることを話なさい。あるいは黙っていなさい」とされています。真剣であるべきであり、冗談をいったりふざけ過ぎたりしてはいけないのです。理性や人間性にふさわしくないことを行ってはいけません。自分自身を不信仰から守るべく、アッラーに多くドゥアーを行わなければなりません。

現在信仰があっても、将来的に信仰が失われる要因となる事柄：
ビドゥアを行うこと。つまり壊れた信条を持つこと。(スンナの学者たちが教えている信仰からわずかであれ離れた人は、逸脱者もしくは不信仰者となります)
行動を伴わない信仰。

体の９つの器官を正しい道から逸脱させること。
大きな罪を犯し続けること。
イスラームの恵みへの感謝をやめること。
来世に、信仰のない状態で行くことを恐れないこと。
迫害を行うこと。
スンナに従って唱えられるムハンマドのアザーンを聞かないこと。
母や父に反抗的であること。
正しかったとしても、誓いを多く行い過ぎること。
礼拝で、礼拝の構成要素となるものを正しく行うことを放棄すること。
礼拝を重要ではないと思い、学ぶことや子供に教えることを重要視せず、礼拝を行う人の妨げとなること。
アルコール飲料を摂取すること。
ムスリムを苦しめること。
ワリーであると偽り、イスラームの知識を売ること。
罪を忘れること、軽視すること。
うぬぼれること、つまり思い上がること。
自慢、すなわち私の知識や宗教的な行いは多いと言うこと。
偽信者であること、偽善者であること。
妬むこと、イスラームの兄弟について嫉妬すること。
政府、指導者の、イスラームに反するものではない指示に従わないこと。
誰かについて、経験を通さずに「良い」　と言うこと。
嘘を頑固に主張し続けること。
ウラマー（知識人たち）から逃げること。
口髭を、スンナの量以上に伸ばすこと。
男性が絹の衣装を身に着けること。
陰口をしつこく行うこと。
不信仰者であったとしても、隣人を苦しめること。
世俗的な事柄の為に激怒すること、いらいらすること。
利子を受け取ること、支払うこと。
褒められようと服の腕や裾を過度に長くすること。
魔術や魔法を行うこと。

ムスリムであり、誠実であるマフラムの親戚（結婚することが永遠に禁じられる男女の親戚）の訪問を放棄すること。
アッラーが愛される人を愛さないこと、イスラームを損なおうとする人を愛すること。（アッラー故に愛すること、アッラーゆえに憎むことは信仰の条件です。）
信者の兄弟を3日以上憎み続けること。
姦淫を続けること。
同性愛を行い、悔悟をしないこと。
アザーンを、法学の本が教えている時間に、スンナに従って唱えないこと、スンナに従って唱えられているアザーンを聞いた時に敬意を持って聞かないこと。
禁じられていることを行っている人を見て、それができる力があるにもかかわらず、穏やかな言葉でそれをやめさせないこと。
妻、娘、そして忠告を行う権利を持っている女性たちが、頭や腕、足を露出させ、飾り立て、芳香をつけて外に出ること、悪い人たちと会うことを認めること。

多くの大罪（72の大罪は以下の通りです）
正当な理由なく人を殺すこと。
姦通を行うこと。
同性愛を行うこと。
ワインや、アルコールを含んだ飲み物を飲むこと。（ビールを飲むことはハラームです。）
窃盗を行うこと。
快楽の為に覚せい剤を摂取すること。
他者の財産を無理やり奪うこと。
偽りの証言を行うこと。
ラマダーン月の断食を、正当な理由なく、ムスリムの前で放棄すること。
利子を受け取ること、支払うこと。
誓いを多く行いすぎること。
母や父に反抗的であること、対立すること。
マフラムであり、善良な親戚への訪問を放棄すること。
戦いにおいて、戦うことを放棄して敵前逃亡すること。

不正に、孤児の財産を着服すること。
秤、重りを正しく用いること。
礼拝を、時間よりも前、もしくは後に行うこと。
ムスリムの兄弟の心を傷つけること。（カーバを倒すことよりもより大きな罪となります。アッラーを最も傷つける不信仰の他には、心を傷つけることほどの大罪はありません）
預言者ムハンマド（彼の上にアッラーの祝福と平安がありますように）が語られた言葉を語ること、それを預言者ムハンマドが語ったとして中傷すること。
わいろを受け取ること。
正しい証言から逃げること。
財産のザカートとウシュルを支払わないこと。
十分な力を持つ人が、罪を犯している人を見て、それをやめさせようとしないこと。
生きた動物を火で焼くこと。
崇高なるクルアーンを学んだ後、読み方を忘れること。
至高なるアッラーの慈悲から、望みを絶つこと。
ムスリムであろうと、不信仰者であろうと、人々を裏切ること。
豚肉を食べること。
預言者ムハンマドの教友たちの誰か一人でも愛さないこと、嫌うこと。
満腹であるのに食べ続けること。
妻が、夫の寝床から逃げること。
妻が、夫の許可なく訪問に出かけること。
純潔を守っている女性に売春婦と言うこと。
ムスリムの間で、人の陰口を他の人に言いつけること。
秘められるべき場所（アウラ）を他人に見せること。（男性は臍と膝の間、女性は髪や腕や足がアウラです）他者のアウラを見ることもハラームです。
死肉を食べること、他者に食べさせること。
信託を裏切ること。
ムスリムの陰口を言うこと。
妬むこと。
至高なるアッラーに何ものかを配すること。

嘘をつくこと。
うぬぼれること、自分を過大評価すること。
死の床にある病人の遺産相続人から財産を盗むこと。
非常にけちであること。
現世を深く愛すること。
アッラーの懲罰を恐れないこと。
ハラームであるものをハラームと信じないこと。
ハラールであるものをハラールと信じないこと。
占い師の占いや、占い師が幽玄界から知らせをもたらしていると信じること。
棄教すること、ムルタドとなること。
正当な理由なく、他人の女性や娘を見ること。
女性が男性の服を着ること。
男性が女性の服を着ること。
カーバ神殿で罪を犯すこと。
時間になっていないのにアザーンを唱えること、礼拝を行うこと。
政治家の命令や法律に逆らうこと、反抗すること。
他者の秘められた場所を母の秘められた場所に似せること。
他者の母を侮辱すること。
互いに狙いをつけること。
犬の食べ残しを食べること、飲むこと。
施した善について恩着せがましい態度を取ること。
絹の衣装を身に着けること。(男性)
無知であることに固執すること。（スンナの信条、ファルド、ハラーム、そして必要な知識を学ばないこと）
アッラー、そしてイスラームが教えている名前以外を口にして誓約を行うこと。
知識から逃げること。
無知であることは災いであると理解しないこと。
小さな罪を繰り返すことに固執すること。
必要がないのに、高笑いをすること。
礼拝の時間が過ぎるだけの時間、ジュヌーブ（大汚）の状態で出歩くこと。

月経もしくは産褥中の妻に近づくこと。
歌を歌うこと、不道徳な歌を歌うこと、楽器、演奏装置を使うこと。
自殺すること。

ムトアの婚姻（一時的で、対価を払っての婚姻）やムワッカートゥの婚姻（期間限定の婚姻）はハラームです。女性や少女たちは頭、髪、腕、足を露出させて外に出ることがハラームであると同様、薄く、飾り立てた、体を締め付けている、もしくは良い香りをつけた服を着て外に出ることもハラームです。
アウラの場所を体にぴったりする服で覆っている女性を見ることは、性欲を伴わなくともハラームです。他人の女性の下着を、性欲を伴って見ることはハラームです。きつく体にぴったりした服で覆われた体を、性欲を伴って見ることはハラームです。性欲やハラームの要因となるような絵をかくこと、印刷すること、描くことはハラームです。（ハラームであるものに、「どうなるというのか」と言うことは不信仰です。）
ウドゥーやグスルに必要以上の水を用いることは浪費であり、ハラームです。
過去のワリーについて悪口を言うこと、彼らについて無知であると言うこと、彼らの言葉からイスラームの徳にふさわしくない意味を取り出そうとすること、死後も奇蹟を起こしていたことを信じないこと、死ぬことでワリー（聖人）ではなくなると考えること、彼らの墓によって恵みを得る人々を妨害することは、ムスリムに対し邪推すること、迫害すること、財産を無理やり奪うこと、妬み、中傷、嘘をつくこと、陰口を言うことと同様にハラームです。

信仰を失ったまま死ぬことの要因となる10の事柄：
アッラーのご命令と禁止されたことを学ばないこと。
その信仰を、スンナに従う人々の信条に適う形でたださないこと。
現世の財産、地位、名誉に執着すること。
人々、動物、自分自身を迫害し、苦しめること。

アッラーに、そして良い　ものがもたらされる要因となる存在に感謝しないこと。
信仰を失うことを恐れないこと。
日に5回の礼拝を時間通りに行わないこと。
利子を受け取ること、支払うこと。
イスラームに従っているムスリムを軽視すること。彼らに、後進的であるといったようなことを言うこと。
売買春に関わる言葉、文章、絵を、話すこと、書くこと、描くこと。

スンナの道に従う人々の信条を持っている為に、下記の点に注意すべきです
アッラーには固有の特性があります。これはザートの特質（アッラーに帰される特質）とは異なります。
信仰は増えることはなく、また減ることもありません。
大きな罪を犯すことで信仰は失われません。
幽玄界を信じることは原則です。
信仰に関する項目では類推は行われません。
アッラーは天国でその姿を示されます。
タワックル（まず努力をし、結果をアッラーに委ねること、信頼すること）は信仰の条件です。
行為（イバーダ）は信仰の一部ではありません。
運命を信じることは、信仰の条件です。
行動において、4つの学派のどれかに従うことは条件です。
教友たち、そして預言者ムハンマドの家族、そして妻たちの全てを愛することが条件です。
4大カリフの崇高さは、カリフとなった順序どおりです。
礼拝、断食、サダカといったナーフィラのイバーダのサワーブを他者に贈ることは、認められています。
ミーラージュ　は、魂と肉体によって行われたものです。
ワリー（聖人）たちの奇蹟は真実です。
とりなしは真実です。
メストの上からマスフと行うことは認められています。
墓場では尋問が行われます。

墓場での罰は魂と肉体に与えられます。
人間と、その行いをもアッラーが創造されます。人にはわずかな選択を行う意志があるのです。
糧には、ハラールのものも、ハラームのものもあります。
ワリー（聖人）の魂を媒介とし、彼らに鑑みる、という形でドゥアーを行います。

ムアッズィンが声を張り上げ、それからイカーマを行った
その顔はカーバに向けられ、そしてニーヤを行った
信仰を持つ人々がそれを耳にし、敬意のうちに聞いていた
それから礼拝に立ち、アッラーにしもべとして仕えた

悪い性質
不信仰。
無知。
非難されるという恐れ。（人々が非難したり、けなしたり、責めたりすることを悲しんで、真実を受け入れないこと）
称賛を愛すること。（うぬぼれ、人に褒められることを好むこと）
損なわれた信仰。（ビドゥアの信仰）
ナフスに従うこと。（自我の欲望、快楽、性欲に従うこと）
模倣による信仰。（よく知らない人々を模倣すること）
偽善。（見せかけ、来世的な行為を行うことで現世での欲望をかなえようとすること）
長生きへの願望。（快楽や心地よさが続くよう、長く生きたいと望むこと）
現世での快楽をハラームである手段で得ようとすること。
うぬぼれ。自らを優れていると見なすこと。
へりくだり。（過剰な謙虚さ）
自らの行った良い　こと、イバーダに満足していること。
妬み。焼きもちを焼くこと、嫉妬すること。恵みが相手から失われることを望むこと。アブルライシー・サマルカンディーは、「3種類の人のドゥアーは認められない。ハラームであるものを食べ

る人、陰口を行う人、妬む人」と語っています。
他者を低く見ること。
他者の身に生じた災い、被害を喜ぶこと。
友情を放棄すること、腹を立てること。
臆病であること、勇気がないこと。
怒りや厳しさが過剰であり、有害であること。
誓約や約束を守らないこと。
背信。偽信者のしるしであり、信頼を損なう言葉や行い。
約束を破ること。ハディースでは、「偽信者のしるしは 3 つある。嘘をつくこと、約束を守らないこと、信託を裏切ること」とされています。
邪推。邪推はハラームです。罪が許されないと思うことは、アッラーに対する邪推となります。信者についてハラームを犯している、つまり罪を犯す人であると見なすことは邪推となります。
財産への執着。財産に夢中になること。
後回しにすること。善行を施すことを後回しにすること。ハディースでは、「5 つのものが訪れる前に 5 つのものの価値を知りなさい。死ぬ前に命の価値を、病気になる前に健康の価値を、現世で、来世を獲得することの価値を、年を取る前に若さの価値を、貧しくなる前に豊かさの価値を」とされています。
罪を犯している人々を愛すること。罪の最大のものは、迫害です。ハラームであることを行っている人を、ファースク（罪を犯している人）と言います。
学者たちを敵視すること。イスラームの知識と学者たちを侮辱することは不信仰です。
フィトナ（人々を苦難や災いに陥れることです。ハディースでは、「フィトナは眠っている、それを起こす人々に呪いを」とされています）
それができる力があるのに、ハラームを犯している人を止めようとしないこと。現世の為に教えを差し出すこと（ムダーハナ）。教えの為に現世を差し出すことはムダーラと言います。
意地を張ること、自分の過ちや相手の正しさを認めないこと。真実、事実を聞いた時に認めないこと。
二面性。信者のように見せかけつつ、実際は信仰を持っていない

こと。内面と外面の不一致。
熟考しないこと。罪について、被造物について、そして自らについて考えないこと。
ムスリムへの呪い。
ムスリムに悪いあだ名をつけること。
差し障りを認めないこと。
クルアーンを誤って解釈すること。
ハラームであることを行うことに固執すること。
陰口。
悔悟をしないこと。
財産や地位への欲望。

悪い性質を避け、良い　性質を備えるよう努力するべきです。ハディースでは、次のように仰せられています。
「イバーダが少ないしもべは、良い　性質によって審判の日に高い位階を得る」
「イバーダの中で最も容易であり、最も効果的なものは、少ししか話さないことと、良い　性質を持つことである」
「自分から遠ざかった人に近づくこと、迫害する人を許すこと、彼自身を苦しめた人に慈悲を施すことは、良い　性質を持つことである」とされています。

第９部
礼拝の為の章とドゥアー

クルアーンの章句やドゥアーはローマ字で書くことができるか

私たちはクルアーンの章句やドゥアーをローマ字で表記しようとしましたが、それはできることではありませんでした。ローマ字にどのような印をつけたとしても、章句やドゥアーを正しく読むことは不可能です。これらをクルアーンのアラビア文字のように読む為には、知っている人が読ませ、何度も繰り返し慣れさせることが必要です。この習得は必ず必要となる為、知っている人に直接クルアーンの文字を紹介し、教える可能性と恵みを獲得させます。この恵みの大きさ、現世と来世での効用というものについて、ハディースや法学書では詳しく説いており、そのサワーブの多さを教えています。

従って全てのムスリムは、その子供をモスクやクルアーン教室に通わせ、クルアーンの文字とその読み方を十分に教え、この大きなサワーブを獲得させる努力をするべきなのです。あるハディースでは、「子供たちにクルアーンを教える人、あるいはクルアーンの先生に通わせる人には、教えられた全ての文字について、10回カーバを訪問しただけのサワーブが与えられる。そして審判の日に、その頭に王冠が与えられる。全ての人はそれを見て羨むだろう」とされています。他のハディースでは、「子供たちにイスラームを教えない人は地獄に行く」とされています。

礼拝の為の章の意味

ファーティハ章（開端章）

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。
万有の主、アッラーにこそ凡ての称讃あれ、
慈悲あまねく慈愛深き御方、
最後の審きの日の主宰者に。
わたしたちはあなたにのみ崇め仕え、あなたにのみ御助けを請い願う。
わたしたちを正しい道に導きたまえ、

あなたが御恵みを下された人々の道に、あなたの怒りを受けし者、また踏み迷える人々の道ではなく。

象章

あなたの主が、象の仲間に、どう対処なされたか、知らなかったのか。
かれは、かれらの計略を壊滅させられたではないか。
かれらの上に群れなす数多の鳥を遣わされ、
焼き土の礫を投げ付けさせて、
食い荒らされた藁屑のようになされた。

象の事件

エチオピア皇帝のナジャーシーには、イエメン総督であったアブラハという名の部下がいました。アブラハは、人々がマッカのカーバを訪問することを断念させる為、サナアの町に、飾り立てられた巨大な教会を造らせました。しかしその目的はかなわず、カーバを訪問する人々はその教会には訪れませんでした。さらにフカイン族のヌファイルという名の若者が、夜、こっそり持ってきた汚物で、教会のあらゆる場所を汚しました。これを理由として、アブラハは大軍を用意してマッカへと進み始めました。軍の前には、ナジャーシーの連れてきた一頭の大きな象がいました。象を軍の前で歩かせることで、軍が勝利すると考えられていたのです。

このようにして軍はマッカへと進みました。町に入ろうとした時、象はある場所に倒れ込み、どうしても動こうとしませんでした。あらゆる努力に関わらず、象をマッカの方へ進ませることはできませんでした。他の方角へは走って進むのでした。まさにその時に、アッラーはアバービルといわれる鳥たちを送られました。鳥たちは、口や足で石を運び、それをアブラハの軍の上に落としました。象章で描かれているように、軍は「食い荒らされた藁屑のように」なったのでした。

この出来事が起こった年を、アラブ人たちは「象の年」と呼んでいました。この出来事から 50－55 日後に、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）がお生まれになり、

この世界に誉れを与えられたのです。

クライシュ族章
クライシュ族の保護のため、
冬と夏のかれらの隊商の保護のため[13]、（そのアッラーの御恵みのために）
かれらに、この聖殿の主に仕えさせよ。
飢えに際しては、かれらに食物を与え、また恐れに際しては、それを除いて心を安らかにして下さる御方に。

慈善章
あなたは、審判を嘘であるとする者を見たか。
かれは、孤児[14]に手荒くする者であり、
また貧者に食物を与えることを勧めない者[15]である。
災いなるかな、礼拝する者でありながら、
自分の礼拝を忽せにする者。
（人に）見られるための礼拝をし、
慈善[16]を断わる者に。

潤沢章
本当にわれは、あなた（ムハンマド）に潤沢[17]を授けた。
さあ、あなたの主に礼拝し、犠牲を捧げなさい。
本当にあなたを憎悪する者こそ、（将来の希望を）断たれるであろう。

解説：

13 全ての被造物がそのお方に戻り、庇護を求める唯一の存在です。またこの言葉は唯一という特性を示すものです。
14 伝承の一つによると、アブー・ジャフルの遺産相続人である奴隷。
15 アブージャフル。
16 「マーウン」とは、ザカート、サダカといった意味にもなるのと同様、人が他の人から借りたものをも意味します。
17 イスラーム学者たちによる。

この神聖な章は、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）が受けられた恵みと、そのお方の２つの神聖な使命を示すものです。この章での「潤沢」（カウサル）という語についてイスラーム学者たちは様々な意味を与えています。学者った胃の多くの見解によれば、
天国の川、もしくは貯水池であり、その水は蜜よりも甘く、乳よりも白く、雪よりもなお冷たいとされます。
崇高なるクルアーンとされます。これは現世的、来世的な尊さを集約した書物です。
預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）が与えられた、預言者としての誉れです。
天と地で預言者ムハンマドの為に行われる多くのズィクルと称賛です。
預言者ムハンマドの子供たちと彼に従う人々です。
預言者ムハンマドの教友たちとそのウンマの学者たちです。
　預言者ムハンマドの息子カースムが亡くなった時、アース・ビン・ワリーは「もはやムハンマドの血筋は絶たれた。彼を思い出させる息子は残っていない」と言いました。他の偽信者たちもこれを口に出していました。彼らは、ムスリムに困難な状況や苦痛が生じるとそれを喜び、気分良くなっていました。この荘厳な章がこの不信仰者たちの逸脱した考えを拒んだのでした。非常に短い章であるにもかかわらず、非常に多くの真実を示しています。

不信心者たち章

言ってやるがいい[18]。「おお不信者たちよ、
わたしは、あなたがたが崇めるものを崇めない。
あなたがたは、わたしが崇めるものを、崇める者たちではない。
わたしは、あなたがたが崇めてきたものの、崇拝者ではない。

[18] マッカの偽信者アブー・ジャフル、アス・ビン・ワリー、アスヴァド・ビン・アブドゥルウッタリブ、ワリド、ウマイヤ・ビン・ハラフやその他の人々は、アッバースを通して預言者ムハンマドに知らせを送り、次のような提案を行いました。「一年間は彼が私たちの神を崇拝するように。また一年は私たちが彼のアッラーを崇拝しよう。」これに対してこの章が啓示されました。

あなたがたは、わたしが崇めてきたものの、崇拝者ではない。
あなたがたには、あなたがたの宗教があり、わたしには、わたしの宗教があるのである。」

援助章
アッラーの援助と勝利が来て、
人びとが群れをなしてアッラーの教え（イスラーム）に入るのを見たら、
あなたの主の栄光を誉め称え、また御赦しを請え。本当にかれは、度々赦される御方である[19]。

棕櫚章
アブー・ラハブの両手は滅び、かれも滅びてしまえ。
かれの富も儲けた金も、かれのために役立ちはしない。
やがてかれは、燃え盛る炎の業火の中で焼かれよう。
かれの妻はその薪を運ぶ、
首に棕櫚の荒縄かけて。

解説：この荘厳な章は、預言者ムハンマドを迫害し、苦しめたアブー・ラハブとその妻が滅びること、厳しい罰を受けることを伝えるものです。預言者ムハンマドは、「あなたの親戚に恐れを抱かせなさい」という神の命令を受け、サファーの丘に登り、近親者を呼び、彼らをイスラームへの教えへと導かれました。アブー・ラハブはここで預言者ムハンマドに語られたことに異議を唱え、彼を侮辱してその場を離れ、またそこにいる人々を妨害しました。アブー・ラハブの妻も、預言者ムハンマドが歩かれる道に、夜、とげのある木や草を運んではそこに巻いていました。さらに預言者ムハンマドの背後で中傷を行っていました。

19 この章には預言者ムハンマドの死へのしるしがあります。この章を預言者ムハンマドが読まれた時、アッバースは泣いていました。アッラーの使徒がなぜ泣いているのかを訊ねると、アッバースは「この章にはあなたの死へのしるしがあります」と言いました。預言者ムハンマドは、「あなたのいう通りだ」と言われました。

アブー・ラハブは、ヒジュラ歴 2 年、バドゥルの戦いでイスラーム軍が勝利したことに耐えられず、七日後に死んでいます。体中に穴があき、子供たちすら近寄れない状態でした。3 日後にようやく埋葬されました。その後、その妻も死亡し、それにふさわしい罰を受けることとなったのでした。

純正章
言え、「かれはアッラー、唯一なる御方であられる。
アッラーは、自存され[20]、
御産みなさらないし、御産れになられたのではない、
かれに比べ得る、何ものもない。」

黎明章
言え、「黎明の主にご加護を乞い願う。
かれが創られるものの悪（災難）から、
深まる夜の闇の悪（危害）から、
結び目に息を吹きかける（妖術使いの）女たちの悪から、
また、嫉妬する者の嫉妬の悪（災厄）から。[21]」

人々章
言え、「ご加護を乞い願う、人間の主、
人間の王、
人間の神に。
こっそりと忍び込み、囁く者の悪から。
それが人間の胸に囁きかける、

20 全ての被造物がそのお方に戻り、庇護を求める唯一の存在です。またこの言葉は唯一という特性を示すものです。

21 ラビド・ビン・アサムという名のユダヤ教徒が、預言者ムハンマドの髪のうち 11 本に結び目を作り、まじないをかけて井戸に投げ入れました。それによって預言者ムハンマドは病気になりました。後に、天使ジブリールがこのことを預言者ムハンマドに伝えました。髪はアリーによって井戸から出されました。これにより、預言者ムハンマドは元通り健康になりました。黎明章と人々章が 11 節であるのは、これを示唆するものです。

ジン（幽精）であろうと、人間であろうと。」[22]

アーヤトル・クルシー

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において
アッラー、かれの外に神はなく、永生に自存される御方。仮眠も熟睡も、かれをとらえることは出来ない。天にあり地にある凡てのものは、かれの有である。かれの許し無くして、誰がかれの御許で執り成すことが出来ようか。かれは（人びとの）、以前のことも以後のことをも知っておられる。かれの御意に適ったことの外、かれらはかれの御知識に就いて、何も会得するところはないのである。かれの玉座は、凡ての天と地を覆って広がり、この２つを守って、疲れも覚えられない。かれは至高にして至大であられる。

礼拝のドゥアーの意味

スブハーナカ

アッラーよ、あなたは一切の欠点もないお方です。完全性を示す特性の全てであなたを賛美いたします。あなたに感謝します。あなたの美名は崇高です。（あなたの誉れは全てのものをしのぎます。[23]）あなたの他に神は存在しません。

アッタヒヤートゥ

　尊崇、礼讃、神聖のきわみのアッラーをたたえ奉ります。おおみ使いよ、あなたに平安あれ、アッラーの恩恵と祝福あれ、 私た

[22] ルバブによるクルアーンの解釈所によれば、この章に存在する5回の「人間」という語は、5つの異なる階級の人を示唆するものです。これらは、
子供たち
若者たち
老人たち
誠実な人たち
人の姿をしたシャイターン
です。
[23] この部分は葬儀の礼拝を行う際に加えられます。

ち全て、アッラーの忠誠なしもべの上に平安あれ、 私はアッラーのほかに仕えるに値するものが存在しないことを証言します。また私は、ムハンマドがアッラーのしもべであり、み使いであることを証言します。

アッラーフンマ　サッリ
おおアッラーよ、ムハンマドとその後継者にあなたの恵みを与えたまえ。 あなたがイブラーヒーム（アブラハム）とその後継者に恵みを与えられたように。まことにあなたは讃美すべき荘厳なる方であられます。

アッラーフンマ　バーリク
おおアッラー、ムハンマドとその後継者を加護したまえ。 あなたがイブラーヒームとその後継者を加護したように。まことにあなたは讃美すべき荘厳なる方であられます。

ラッバナー　アーティナー
ああ主よ！この世界と来世で私たちに善をお与えください。私たちを炎の懲罰からお守りください。最も慈悲深いお方よ、あなたの慈悲によって。

クヌートのドゥアー
おおアッラーよ、私達はあなたのご加護を乞い、 あなたのお許しを願います。また、あなたを信じ、 あなたに帰依します。私達は最上の儀式であなたを讃えて、あなたに感謝し、あなたのご恩を忘れません。また、あなたに従わぬものと絶交して見捨てます。おおアッラーよ。あなたにのみ私達は仕え、あなたに祈りまた服従します。私たちは急いであなたのもとに参じ、精進します。私たちは、あなたのお恵みを歎願し、あなたの懲罰を恐れます。 まことにあなたの懲罰は不信者に対して下ります。

礼拝の書

筆者：
ハサン・ヤヴァシュ

ビスミッラーヒラフマーニラヒーム

人間には 3 つの種類の生があります。現世、墓、来世での生です。現世では肉体は魂と共にあります。人に生命と活力を与えるのは魂です。魂が肉体から離れると、人は死にます。肉体が墓で腐り、土に還っても、あるいは焼かれて灰になったとしても、もしくは猛獣が食べてなくなってしまったとしても、魂はなくなりません。墓場での生が始まります。墓場での生では感覚があり、動きはありません。最後の審判では一つの肉体が創造され、魂と共に天国もしくは地獄で永遠に生きるのです。

人が現世と来世で幸福である為には、ムスリムとなることが必要なのです。現世で幸福であることとは、快適に生きることです。来世で幸福であることとは、天国に行くことです。アッラーはしもべを深く慈しまれ、幸福である為の道を預言者たちを通してしもべに教えられました。なぜなら人は、この幸せの道を自分の理性で見つけることができないからです。どの預言者も、決して自分の考えで何かを語ったりはしませんでした。預言者たちが語った幸福への道をディーン（イスラーム、宗教）と呼びます。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）が示されたものをイスラームと呼びます。預言者アーダム以来、何千人もの預言者が遣わされてきました。最後の預言者が私たちの預言者ムハンマドです。他の預言者たちが伝えた教えは、時の経過と共に損なわれてきました。今では、幸福に至る為にはイスラームを学ぶ以外の手段はないのです。イスラームは心から信じるべき「イーマーン」（信仰）の知識と、肉体によってなされるべき「イスラームの規定」の知識です。信仰と規定に関する知識は、スンナに従う学者たちの書物から学びます。無知な人々、逸脱した人々の誤った書物から学ぶべきではありません。イスラーム暦 1000 年以前には、イスラーム諸国には多くの、スンナに従う学者たちがいました。しかし今ではもはや存在しなくなってしまいました。この学者たちが書いたアラビア語、ペルシア語の本、そしてそれらの翻訳は世界各地に、図書館などに存在します。ハキーカトゥ出版の全ての書籍は、これらの文献をもとにしたものです。幸福に至る為に、ハキーカトゥ出版の本を読んでください。

忠言：宣教師はキリスト教を広めようと努力し、ユダヤ教徒は律法を広めようと、イスタンブールのハキーカトゥ出版はイスラームを広めようと、フリーメーソンは宗教を消失させようと努めます。知性、理性と良心を備えた人は、これらの中の正しいものを認識し、理解します。それを広める為の助けとなり、全ての人々が現世と来世で幸福となる為の要因となるのです。人々の為のこれ以上に尊く、効果的な奉仕はあり得ません。今日、キリスト教徒やユダヤ教徒が手にする「律法」「新約聖書」という名の教えの本は、人間によって書かれたものであることを彼ら自身も語っています。クルアーンは、アッラーによって遣わされたままの状態を維持しています。全ての牧師や司祭たちはハキーカトゥ出版の出版している書物を注意深く、良心を持って読み、理解するべく努力するべきなのです。

印刷：イフラース新聞社
イスタンブール、イェニボスナ、29 エキム通り 23 号
電話：0212－454－3000

ISBN:975-92119-3-9

そう、これこそが永遠の宝庫の鍵である

بسم الله الرحمن الرحيم

序文

礼拝の書の執筆を、バスマラを唱えることによって始めます。アッラーに感謝いたします。アッラーが選ばれ愛されたしもべたち、そしてその中で最も崇高な存在であられるムハンマドに祝福と平安あれ。崇高なる預言者ムハンマドの清らかな家族と公正で誠実なその友たち皆の為に良いドゥアーを。

現世では、良い　こと、価値のあることと悪いこと、有害なことなどが　混ざり合っています。幸福、安楽、そして安らぎに至る為には、常に良い　こと、意義のあることを行うことが必要です。アッラーは非常に慈悲深いお方であられる為に、良い　ことを悪いことから区別する一つの力を創造されました。この力を理性と呼ぶのです。清らかでしっかりした理性はこの役割を立派に果たし、決して誤ることはありません。罪を犯すこと、我欲に従うことは理性と心を病ませます。善を悪から識別できなくなるのです。アッラーは憐れみを以てこのことをご自身で行われ、また預言者たちを仲介　して教えられ、またこれを行うことを命じられています。この命令と禁止を「ディーン」（教え、宗教）と呼びます。預言者ムハンマドが教えられた「ディーン」をイスラームと呼びます。今日、地上には変化していない、損なわれていない教えが一つだけあります。それがイスラームです。幸福になる為にはイスラームに従うこと、つまりムスリムになることが必要です。ムスリムになる為には、形式的なものもイマームも宗務担当者も不要です。まず人は心で信仰し、それからイスラームの命令と禁止事項を学び、実践するのです。

信仰を持つ為には信仰告白を唱え、その意味を知ることが必要です。この言葉の意味を正しく信じる為には、スンナの道に従う学者たちの書いた書物を、そのままの形で信じることが必要です。スンナの道に従う学者たちの書いたもの、真の宗教書に従う

人には 100 回殉教しただけの善行が与えられます。イスラームの 4 つの学派（マズハブ）のいずれかに所属する学者を「スンナの道に従う（アフル・アル＝スンナ）学者」と呼びます。信仰の条件は『　皆が必要とする信仰』　の本で詳しく説かれています。この本を読まれることをお勧めいたします。

今日、全世界のムスリムは 3 つに分類されます。一つめはサハーバたちの道を行く、真のムスリムたちです。彼らは「スンナの民」もしくは「スンニ」もしくは「救われた民」と呼ばれます。2 つめはサハーバたちに敵対する人々です。彼らは「シーア」「逸脱者」と呼ばれます。3 つめはスンニ派にもシーア派にも敵対する人々です。彼らは「ワッハーブ」「ナジュド派　　」と呼ばれます。なぜなら最初、アラビアのナジュド地方で生じたものであるからです。また彼らは「呪われた民」とも呼ばれます。この人々がムスリムを「偽信者」と呼んでいることが『最後の審判と来世』、『永遠の幸福』という私たちの書物にも書かれています。ムスリムを「不信仰者」と呼ぶ人々を、預言者ムハンマドは呪われました。ムスリムをこの 3 つに分類させたのはユダヤ教徒であり、イギリスなのです。

どのグループ　に属していようと、自らの我欲に従い、心が損なわれている人は地獄へ行きます。ムスリムは皆、我欲を清めるため、すなわち自我に本質的に存在する不信仰や罪を清める為に、いつでも「ラーイラーハイッラッラー」と唱え、そして心を清める為、すなわち我欲やシャイターン、悪い友人、そして有害な誤った書物からもたらされる憎悪や罪から救われる為に、「アスタグフィルッラー」と唱える必要があります。イスラームに従う人のドゥアーは必ず受け入れられます。礼拝を行わない人、身を覆っていない女性や秘められるべき部分を見る人、ハラームであるものを飲み食いする人はイスラームに従っていないことが理解されます。このような人々のドゥアーは受け入れられません。

信仰を持った後、最も重要な命令は礼拝です。日に 5 回の礼拝を行うことは、全てのムスリムにとってファルド・アイン（イスラム教徒すべての個人的義務）です。礼拝を行わないことは大きな罪です。ハンバリー派においては不信仰とされます。『　　ガーヤトゥッタフキーク　　』という書物を参考にしてください。

礼拝を完全に、正しく行う為には、まず礼拝についての知識を学ぶことが必要です。この本では、イスラームで教えられている礼拝についての知識を、簡潔に説くことが効果的であると考えました。多くのイスラーム学者たちの書物を活用して、私たちの用意したこの礼拝に関する知識を全てのムスリムが学び、また子供たちにも教えるべきなのです。

礼拝を正しく行う為には、礼拝で唱えられるクルアーンの言葉やドゥアーを暗記する必要があります。少なくとも、礼拝ができるだけの章句やドゥアーを、それらの詠み方を熟知し、完全に発音できる先生や友人から学ぶべきです。

クルアーンを正しく読む為には、クルアーン教室に通う必要があります。クルアーンを正しく読むことを学び、子供たちにも教えるべきです。

クルアーンは、ローマ字で記すことは不可能です。だから原文を読むべきなのです。これを読むことはとても容易です。預言者ムハンマドはあるハディースで「子供たちにクルアーンを教え、もしくはクルアーンを教える師のもとに送る人に、教えられたクルアーンの一文字一文字ごとに、10回カーバを訪問しただけの報償が与えられる。審判の日には国家の長という王冠が与えられる。全ての人々がそれを見てうらやむ」と語られています。

アッラーが私たち皆を、正しく信仰を持った後で礼拝を正しく学び、行い、善行を行うしもべとして下さいますように。

西暦 2001 年　ヒジュラ歴（太陽暦）1380 年　ヒジュラ歴（太陰暦）1422 年

礼拝は偉大な神命である

預言者アーダム以来、　啓示が下されるたび、一回の礼拝が課されていった。。それぞれが行っていた礼拝をまとめたものが、預言者ムハンマドを信じる人々に義務とされました。礼拝を行うことは、信仰の条件ではありません。しかし礼拝が義務であることを信じることは、信仰の条件です。

礼拝はイスラームの柱です。礼拝を継続的に、正しく、完全に行う人は、教えを確立させ、イスラームという建物を維持することになります。礼拝を行わない人は、教えと、イスラームの建物を崩したことになります。預言者ムハンマドは、「イスラームの頭は、礼拝である」と言われました。頭のない人はいないように、礼拝のないイスラームもあり得ないのです。

礼拝はイスラームの教えにおいて、信仰に次いで最初にファルド（義務）とされた命令です。アッラーはしもべたちが、ただご自身に崇拝行為を行うようにと礼拝を義務にされました。クルアーンでは 100 か所以上で「礼拝を行いなさい」と命じられています。ハディースでも、「アッラーは毎日 5 回の礼拝を行うことを義務とされた。それを大事にし、条件に従い、毎日 5 回の礼拝を行う人を天国に入れられることをアッラーは約束されている」とされています。

礼拝は、イスラームにおいて実行が命じられている全てのイバーダのうち、最も尊いものです。あるハディースでは「礼拝を行わない者は、イスラームから得るものがない」とされています。また別のハディースでは「信者と不信仰者を区別するものは礼拝である」とされています。つまりムスリムは礼拝を行い、不信仰者は行わないのです。偽信者は時には行い、時には行いません。偽信者は地獄で痛ましい罰をうけます。預言者ムハンマドは「礼拝を行わない者は、最後の審判の日、アッラーを立腹された状態で見るだろう」といわれています。

礼拝を行うことは、アッラーの偉大さを考え、その前で自らの小ささを理解することです。これを理解した人は常に良い　ことを行い、悪いことを行いません。毎日 5 回、アッラーの御前にいることを意識する人の心は純粋な信仰で満たされます。礼拝で行

うことが命じられている全ての動きは、心と体に効果のあるものです。

モスクで集団礼拝を行うことは、ムスリムの心を互いに結びつけます。彼らの間に愛情をもたらします。互いが兄弟であることを理解します。年長者は年少者に慈悲を持ってふるまいます。豊かな人は貧しい人を、強い人は弱い人を助けます。健康な人々は病気の人がモスクにいないことに気が付くと家を訪問します。「イスラームの兄弟たちの援助に駆けつける人を、アッラーが助けられる」というハディースにおける吉報の対象となるべく競い合うのです。

礼拝は人を、悪事、醜い行い、あるいは禁じられた行いから遠ざけます。罪への償いとなるのです　。ハディースでは「日に5回の礼拝は、あなた方の誰かの家の前を流れる川のようである。誰かが日に5回この川に入って体を洗えば、その体には汚れが残らないように、日に5回の礼拝を行う人は小さな罪を許される」

礼拝はアッラーと預言者への信仰に次いで、全ての行い、イバーダよりもさらに尊いイバーダです。その為、礼拝はそのファルド、ワージブ（義務）、スンナ、ムスタハッブ（推奨行為）を尊重しつつ行わなければなりません。預言者ムハンマドはあるハディースで次のように仰せられました。「わがウンマ、わが友たちよ。その実践において完全に尊重がなされている礼拝は、アッラーが好まれる全ての善行の中でも最も崇高なものである。預言者たちのスンナである。天使たちの愛するものである。マアリファ（アッラーに関する智）と、地と天の光である。肉体の力である。糧の恵みである。ドゥアーが受け入れられる媒介である。死の天使へのとりなしである。墓での光であり、ムンカルとナキールへの答えである。審判の日に人を覆う影となる。地獄の炎と日との間の遮断壁である。スラート橋を稲妻のように通り抜けさせる。天国の鍵である。天国で王冠となる。アッラーは信者に、礼拝よりも重要なものは与えられなかった。もし礼拝よりも崇高なイバーダがあったならば、まずそれを信者に与えられただろう。なぜなら天使たちの一部は常にキヤーム（直立）を、一部はルクウ（立礼）を、一部はサジダ（跪拝）を、一部はタシャッフドを行っている。これらの全てを1ラカートの礼拝にまとめ、信者に

贈られたのである。なぜなら礼拝は信仰の頭であり、教えの柱であり、イスラームの言葉であり、信者にとってのミウラージュだからである。天の光であり、地獄から救うものである」

ある時、アリーがアスルの礼拝を過ごしてしまったことがありました。彼はその悲しみにより、自らを丘から下へと叩きつけ、声をあげて泣いていました。預言者ムハンマドは彼のこの状態を知り、アリーのそばに来られました。彼のその状態をご覧になって諸世界の王である預言者ムハンマドも泣きはじめられました。そしてドゥアーを行われました。太陽が再び上がり、預言者ムハンマドは「アリーよ、頭を上げなさい。まだ太陽がある」　と言われました。アリーはとても喜び、礼拝を行ったのでした。

アブー・バクルはある晩、多くのイバーダを行った為に夜遅くに寝入ってしまい、ウィトルの礼拝ができませんでした。朝の礼拝に預言者ムハンマドの後を追い、モスクの入り口で預言者ムハンマドに会い、泣いて訴えました。「アッラーの使徒よ！私を助けてください、ウィトルの礼拝ができませんでした」と泣き、懇願しました。預言者ムハンマドも泣き始められました。そこに天使ジブラーイールが現れ、「アッラーの使徒よ、スッドゥーク（誠実な者）に伝えなさい。アッラーは彼を許された」と告げました。

アッラーの友（ワリー）であるお方バヤジード・ビスターミ師はある晩、深い眠りに襲われ、朝の礼拝に起きることができませんでした。彼が余りにも泣き、嘆いた為、次のような声を聴いたのでした。「バヤジードよ、私はこの過ちを許した。あなたが泣いたことへの恵みとして、あなたにさらに 7 万の礼拝のサワーブ（功徳）を与えた。」数か月後、また深い眠りに襲われた時、シャイターンが来てその神聖な足をつかんで彼を起こしました。「起きなさい、礼拝の時間が過ぎてしまう。」バヤジード・ビスターミ師は「シャイターンよ、おまえがこのようなことをするとは。おまえは皆が礼拝を逃し、時間が過ぎてしまうことを望む。なぜ私を起こしたのだ？」シャイターンは答えて言いました。「朝の礼拝を逃した時、あなたは泣いて 7 万の礼拝のサワーブを得た。今日はそれを考えてあなたを起こしたのだ。1 回分の礼拝のサワーブしか得られないように。7 万回の礼拝のサワーブを得ないようにと。」

偉大なるワリーであるジュナイド・バグダディ師は言われています。「現世での 1 時間は、審判の日の千年間よりもより尊い。なぜならこの 1 時間で誠実な、受け入れられる善行を実施することができるし、もう一方の千年間では何も行うことができないためである。」預言者ムハンマドは言われました。「礼拝を、わざと次の礼拝と一緒にするのであれば、地獄で 80 フクバ焼かれるだろう。」1 フクバは来世における 80 年であり、来世における 1 日は現世における千年に当たります。

だから、イスラームの兄弟たちよ！あなたの時間を、無駄な、無益なものに費やしてはいけないのです。あなたの時間の価値を知ってください。あなたの時間を良い　ことの為に使ってください。預言者ムハンマドは「災いのうち最たるものは、時間を無益なものに費やすことである」と言われました。礼拝を時間通りに行ってください。審判の日に後悔せず、また大きな善行を得ることができるでしょう。ハディースでは次のよう言われています。「礼拝を既定の時間に行わず、カダーに残し、それを実践することなく亡くなった人の墓では、地獄の 70 の窓が開かれ、審判の日まで罰を受ける。」

礼拝を、規定の時間にあえて行わない人、すなわち礼拝の時間が過ぎてしまうことを悲しむこともない人は教えから逸脱し、もしくは信仰を持たない人として死ぬのです。礼拝を思い起こしもしない人、礼拝を行うべきと認めていない人はどうなるでしょうか。礼拝を大切にせず、自分がやるべきことども思っていない人は「ムルタド」すなわち棄教者となる、ということを、4 つの学派の全ての学者が意見を一致させて教えています。礼拝をわざと行わず、それを後でカダーとして行うことすら考えない人も「ムルタド」すなわち棄教者になることが、アブドゥルガーニ・ナブルシー師の『　ハディカートゥン・ナディヤ』　という書物の「舌の災い」という部分でも書かれています。

イマーム・ラッバーニ師の『　書簡集』　という本の第 1 巻、275 番目の書簡では次のように書かれています。

- あなた方がこの恵みを得たことは、イスラームの知識を教えたこと、そしてイスラーム法の規定を伝えたことによる。その地では無知が根付き、迷信が広められていた。アッラーは愛される

お方の愛情をあなた方に与えられた。だからイスラームの知識を教え、法の規定を伝える為にできる限りのことをしてほしい。この 2 つは全ての幸福の始まりであり、上昇への媒介であり、救いの要因である。十分に努力してほしい。宗教者として尽力してほしい。その地において命じられたことを伝え、禁じられたことを避けさせ、正しい道を示してほしい。衣を纏う者章第 19 節では「本当にこれは訓戒である。それで望む者に、主への道を取らせなさい」と命じられている。

来なさい、礼拝を行おう、心の汚れを拭き去ろう
アッラーに近づくことはできない　礼拝をしない限りは
どこで礼拝を行おうと、罪は全て零れ落ちる
人は完全となることはできない　礼拝をしない限りは
クルアーンでアッラーは礼拝を賞賛された
礼拝しない限り、その者を愛さないと仰せられた
ハディースでは言われている
信仰のしるしは、人において明らかにはならない
彼が礼拝をしない限りは
礼拝を一つ損なうことは大きな罪である
悔悟しても許されない
カダーの礼拝をしない限りは
礼拝を軽視する者は
信仰から去ることになる
彼はムスリムとはなり得ない
礼拝をしない限りは
礼拝は心を清め、悪を遠ざける
清められることはない
礼拝をしない限りは

第１部
信仰と礼拝

まず礼拝をすべきである

アッラーは、人がこの世界で快適に安らいで生きることができること、来世でも無限の国に至ることができることを願っておられます。そのために、　幸福の要因となる　有益なことを行うように命じられました。災いの要因となる有害なことは禁じられました。アッラーの第一の命令は、信仰することです。信仰することは全ての人に必要なことです。皆にとって信仰は必須なのです。

信仰（イーマーン）は辞書においては誰かが完全に正しいことを語ると認識すること、その人を信仰することを意味します。預言者ムハンマドがアッラーの預言者であること、アッラーによって選ばれた使者であることを事実と見なし、信じてそれを口に出すこと、アッラーがシンプルな形で教えられていることはシンプルな形で、包括的な形で教えられていることは包括的な形で信じること、できるのであれば信仰告白を口に出して唱えることです。強い信仰とは、火が焼くこと、ヘビが噛んで毒をもたらし人を死なせることがあることを経験として信じ、それらから逃れるように、心から完全にアッラーとその特性を偉大であると認識し、神のご満悦や美を求めて努力すること、その罰や威厳から逃れること、そしてその信仰を大理石に書かれた文字のようにしっかりした形で心に定着させることです。

信仰とは、預言者ムハンマドが語られた全てのことに喜び、心で受け入れる、すなわち信じることです。このように信じる人を信者（ムーミン)、そしてムスリムと呼びます。全てのムスリムは預言者ムハンマドに従い、彼が示された道を進むことが必要です。そのお方に従う為に、まず信仰し、それからイスラームを十分に学ぶこと、そしてファルドであることを実行し、禁じられたものを避け、その後スンナを実行し、マクルーフであるものを避けることが必要なのです。その後にムバーフ（許容行為）であることについてもそのお方に従うよう努力するべきなのです。

イスラームの基本は信仰です。信仰を持たない人のイバーダや

善行を決してアッラーは好まれず、受け入れられることもありません。ムスリムとなることを望む人はまず信仰し、それからグスル（大浄・沐浴）、ウドゥー（小浄）、礼拝、そして必要となるその他のファルドや禁じられた事柄を学ぶべきなのです。

信仰は　正しくあるべきである

感覚器官や知性が把握した知識は、信仰に至る為の助けとなります。科学の知識は、世界における均衡や秩序が偶然の産物ではないこと、創造主がいることを理解し、知り、信仰に至ることへの要因となります。信仰とは、最後の預言者である預言者ムハンマドがもたらされた知識を学び、信じるということです。信じるべき事柄について、「もし納得できるなら信じよう」と言うことは、預言者たちを信じていないことを意味します。イスラームの知識は、理性を持つ人々が見出したものではないのです。預言者ムハンマドが教えられた事柄を、スンナの道に従う学者たちから学び、そのまま信じるべきなのです。正しく、認められる信仰を持つ為には、以下の条件にも従うことが必要です。
信仰は継続的で定着したものであるべきです。一瞬であれそこから離れることを考えてはいけないのです。3 年後にはムスリムをやめる、などと言う人はその瞬間に信仰を失い、イスラームから去ることになります。

信者の信仰は、恐れと希望の間にあるべきです。アッラーの罰を恐れ、しかしその慈悲に一瞬たりとも絶望してはいけないのです。罪を行うことを避け、罪によって信仰が失われることを恐れなければなりません。そして全ての罪を犯したとしても、アッラーのお許しに対し希望を失ってはいけないのです。罪について悔悟を行うべきです。なぜなら悔悟を行った人は、罪を犯さなかったかのようになるからです。

命が尽きる瞬間に至る前に信仰を持つことが必要です。死が迫った時には、来世のあり方が示されます。その時には、全ての不信仰者は信仰を持つことを望むでしょう。しかし信仰は、目に見えないものに対して行う　べきなのです。目で見ることなく信じなければいけないのです。目で見てしまえ　ば信仰したことには

ならないのです。しかしこの瞬間にも、信者の悔悟は受け入れられます。
　太陽が西から登る前に信仰しなければいけません。世界の終わりの大きなしるしの一つが、太陽が西から昇　ることです。それを見た　　皆が　　信仰を持つでしょう。しかしその信仰は認められません。もはや悔悟の扉は閉じられているのです。
　アッラー以外の何ものも、幽玄界の事象、秘められた事象を知らないということを信じるべきです。つまり、幽玄界はただアッラーがご存じであり、そしてアッラーが教えられたもののみがそれを知るのです。天使、ジン、シャイターン、さらには預言者たちもそれを知ることはありません。しかし預言者たちや誠実なしもべたちには、幽玄界から知識が与えられることがあります。
　イスラームの　　信仰やイバーダについての規定は　　、強制されない限り　　意図的に否定してはいけません。イスラームの規定（　　すなわちイスラームの命じていること）や禁止事項　　　　の一つでも　　軽視すること、クルアーンや天使、預言者たちのうちいずれか一つでも侮辱すること、そしてこれらやその伝えた事柄について、強制がない限り、言葉で否定を行うことは　　信仰を持たないこととなります。アッラーの存在、天使たち、グスルや礼拝が義務であることを、殺害すると脅されているようなやむを得ない状態で否定すると口にした人は、不信仰者とはなりません。
　イスラームが明白に教えている必須事項について、疑いや不安を抱いてはいけません。礼拝　　が義務であること、ワインやその他のアルコール飲料を口にすることや、賭博　　、利子やわいろがハラーム（禁じられたもの）であることについて疑いを抱くことは、信仰からの逸脱の要因となります。　　あるいはハラールであるものをハラームと述べ立てること、ハラームであるものをハラールであると訴えることについても同様です。
　信仰は、イスラームが教えている形であるべきです。自分の理性で把握できた形で、あるいは哲学者や科学者たちが教える形で信じることは、信仰とはなりません。預言者ムハンマドが教えられた形で信仰することが必要なのです。
信仰する人は、ただアッラーの為に愛し、ただアッラーの為に敵対するべきです。アッラーの友であるムスリムたちを愛し、イス

ラームに対し手やペンによって敵対する人々は愛してはいけないのです。この敵意は心に存在するものです。（ムスリムではない人々、ムスリムではないトルコ人、そして観光客などにも、笑顔と優しい言葉で接するべきです。良い　徳によって私たちの教えを彼らに愛してもらうのです。）

預言者ムハンマドとその教友たちが示した正しい道から離れることのない真のムスリムたちが信じたように、信仰を持つべきです。正しく信じる為には、スンナの道を行く人々の信仰にふさわしい形で信仰するべきなのです。スンナの道を行く学者たちの書いた真の宗教書に従う人々には、100 回分の殉教に値する　善行が与えられます。4 つの学派のいずれかに属する学者を、「スンナに従う学者」と呼びます。スンナに従う学者たちの長は、イマーム・アーザム・アブー・ハニーファです。この学者たちは、教友たちから学んだことを記しているのです。教友たちも学者たちに、預言者ムハンマドから聞いたことを伝えたのでした。

スンナに従った信条

ムスリムであることの最初の条件は、信仰することです。正しい信仰は、スンナに従った信条に基づいて信じることで可能となります。知性を持ち、思春期を終えた　男女の最初の義務は、スンナに従う学者たちが　書物に　書いている信仰についての知識を学び、それらに従った形で信仰することです。最後の審判の日に地獄での罰から逃れることは、彼らが教えた事を信じることで可能となるのです。地獄から救われる人々は、ただ、彼らの道を進む人々なのです。彼らの道を行く人々を「スンニ」もしくは「スンナ派」と呼びます。『　イスラームの徳』　という書物の 553 ページ、第 46 の書簡を参考にしてください。

あるハディースでは「私のウンマは 73 の派に分かれる。このうち一つの派のみが地獄の罰から救われる。他のものは滅び、地獄に行くことになる」といわれています。この 73 の派のそれぞれが、イスラームに従っていることを主張しており、地獄から救われるとされている派が自分たちであることを訴えています。信

者たち（アル＝ムウミヌーン）章第 54 節及びビザンチン（アッ＝ローム）章第 32 節では「それなのにかれらは諸宗派に分裂した。しかも各派は自分たちが素晴らしいと言っている」「それは宗教を分裂させて、分派を作り、それぞれ自分の持っているものに喜び、満足している者」とされています。しかしこの様々な派の中で救われるであろう唯一のもののしるしとして、預言者ムハンマドは次のように告げられています。「この派に属する者とは、私やわが教友たちの道を行く人々である。」教友のうち誰か一人でも愛さないのであれば、スンナの道を行く人であることから逸脱するのです。スンナに従う人々の信条を持たない人は、不信仰者もしくは逸脱者となります。

スンナに則した信条を持つことの証

アッラーは、スンナに従う　形で信仰を持つ　ムスリムたちに満足　されます。　多くの条件を満たすことで初めてスンナに従った信仰をしていると言えます。　スンナに従う学者たちはこの条件　を次のように説明しています。

信仰の 6 つの条件、すなわちアッラーへの信仰とその唯一性（　それに類する存在がないこと）を信じること、天使、啓典、預言者たち、来世での生、定命（良い　ことも悪いこともアッラーによって創造されたものであること）を信仰することです。これらは「アーマントゥ」で示されています。

アッラーの最後の啓典であるクルアーンが、アッラーの言葉であることを信じることです。

信者は、自分の信仰について疑いを抱いてはいけません。

預言者ムハンマドを信じ、生前にそのお方を目にする誉れを与えられた教友たちの全てを深く愛するべきです。4 代のカリフ、そして預言者ムハンマドの家族、妻たちのうち、誰についても否定的なことを口にするべきではありません。

イバーダを、信仰の一部と見なすべきです。アッラーのご命令と禁じられた事柄を信じつつ、それを面倒がって行わないのであれば不信仰者となると認識するべきです。ハラームに重きを置かず、軽視する人、イスラームをからかう人の信仰は消え去っていくでしょう。

礼拝をし、アッラーと預言者ムハンマドを信じているという一方で、誤った信仰を持つ人を否定したり、彼らが不信仰者であると主張したりしてはいけません。

罪を犯したことが明らかに分　かっている人以外、どの信者の背後でも礼拝を行うべきです。この法規は、金曜礼拝、イード（大祭）の礼拝を先導する統治者や首長についても同様です。

ムスリムは、自分たちの統治者、支配者に反抗するべきではありません。反抗することは騒乱をもたらすこととなり、様々な災いの要因となります。彼らが善行を施すようドゥアーし、罪である事柄を放棄するよう穏やかな言葉で忠告するべきです。

ウドゥーを行う際、足を洗う代わりに、特に何の支障や必要性がなかったとしても、濡れた手で一度革製の靴下の上から湿らせることが、男性にも女性にも許されています。裸足、もしくは靴下をはいた足にはこれは適用されません。

預言者ムハンマドのミーラージュ（昇天）が、魂と肉体と共に行われたことであることを信じなければいけません。「ミーラージュは夢の中で起こったことである」という人は、スンナの道から離れたことになります。

信者たちは、天国でアッラーにまみえます。最後の審判の日、預言者たちと誠実なしもべたち、善人たち　によってとりなしが　行われ　ます。それから墓での尋問があり、そこ　での罰は　魂と肉体の双方に対して与えられます。アウリヤー（聖人、アッラーの友）たちの奇蹟は真実です。奇蹟とは、アッラーが愛されるしもべにおいて顕れる奇蹟的な状態であり、アッラーの規定の範疇外、すなわち物理や科学、生物の法則に反する形で与えられるものです。これらは実に数多く存在し、とても全てを否定することは不可能です。　墓にいる魂は、生者　が行っていること、話していることを聞いています。クルアーンを読むこと、サダカを支払うこと、さらには全てのイバーダの善行を死者の魂に贈ることは彼らにとって効果があり、罰が軽減される　、もしくは取り除かれる　理由となります。これら全てを信じることが、スンナに従う信仰を持つ人であることのしるしなのです。

信仰の条件

信仰の条件は6つあり、　これらは「アーマントゥ」で明らかにされています。預言者ムハンマドは、信仰とは　定められた6つの事柄を信じることであると　教えられています。この為、ムスリムであるならば　　　　　　子供に何よりも前に「アーマントゥ」を暗記させ、その意味を十分に教えるべきです。

アーマントゥ：　アーマントゥ ビッラーヒ ワマラーイカティヒー ワクトゥビヒー　ワルスリヒー. ワルヤウミル アーヒ リ ワルカダリ ハ イリヒー ワシャッリヒー.
ミナッラーヒ タアーラー ワルバアスィ バアダル マウティ　ハックン、アシュハド　アン　ラー　イラーハ　イッラッラー、ワ　アシュハド　アンナ　ムハンマダン　アブドゥフ＿　ワラスールフ

第一の条件
アッラーを信じること

「アーマントゥ　ビッラーヒ」と述べることは、アッラーの存在と唯一性を信じ、心で認め、言葉にした、という意味です。アッラーは存在し、唯一であられます。一つ、という言葉には辞書的には2種類の意味があります。一つめは数の観点から2の半分であり、数のうち最初のものです。もう一つは、並び得るもの、類似したものが存在しないという観点からの「一」です、アッラーは数の観点からではなく、並び得るもの、類似したものが存在しないという観点から「唯一」であられます。つまりその特性・属性においてどのような形であれアッラーに配される存在はないのです。全ての被造物の特性・　属性は、それを創造した存在の特性、属性とは類似しないものであると同様に、創造主の特性・属性も、その創造されたものの特性や属性とは類似しないものなのです。

全ての被造物のあらゆる器官・　細胞の創造主、無から存在させられたお方はただアッラーのみです。アッラーの特性の真実を知ることは誰にもできません。人が考え、思いつくようなものか

ら、はるかにかけ離れているのです。その特性について思いを巡らせ、考えることは適切ではありません。私たちはただ、クルアーンで述べられている特性や美名を覚え、その神性をこれらによって認め、口にするべきなのです。全ての特性と美名は、始まりもなく終わりもないものです。その特性は決してとどまることのないものであり、認識されている 6 つの形からもかけ離れたものです。すなわち前、後ろ、右、左、上、下というものはありません。ただ「あらゆる場所に存在され、あらゆる場所に向いておられる」と表現することができるのです。

アッラーの特性は 14 あり、　　そのうちの 6 つはザートの特性、8 つはスブートの特性と呼ばれます。これらの意味を知り、覚えることはとても重要です。

ザートの特性

ヴジュード:アッラーは存在し、その存在は無限です。そして「ワージブル・ヴジュード」、すなわちその存在は必須であるのです。
キダム：アッラーの存在に始まりはありません。
バカー:アッラーの存在には終わりはありません。決して消失されることはありません。類似するものの存在が不可能であるように、その特性や属性において無となることは不可能なのです。
ワフダーニーヤ：アッラーの特性、属性、そしてそのみわざにおいては、共同作業者も類似する存在もありません。
ムハーラファトゥン・リルハワーディス：アッラーはその特性、属性において、どの被造物の特性や属性に類似してはおられません。
キヤーム・ビナフシヒ：アッラーはその特性と共にひとりでに生きられ　　　　ます。場所を必要とはされません。物質や空間が存在しない時から、アッラーは存在されていました。なぜならアッラーはどのようなものであれ必要とはされないからです。この世界を無から存在へと至らされるより以前にどのような特性を持たれていたのであれ、永遠にそのようであられるのです。

スブートの特性

ハヤート：アッラーは生命を持たれるお方です。その生命は被造物の生命とは類似しないものであり、その特性にふさわしく、ま

た固有の生命であり、始まりも終わりもありません。
イルム：アッラーは全てをご存じであられます。アッラーの知は被造物の知とは異なります　。闇夜に、アリーが黒い石の上を歩くのをご覧になられ、それをお知りになります。人の心に浮かぶ考えや意志をもご存じです。その知には変化はなく、始まりも終わりもないものです。
サミイ：アッラーは聞いておられます。媒介なく、道具なく、聞いておられるのです。アッラーの聞かれ方は、しもべの聞き方には類似しないものです。この特性も、全ての特性と同様に始まりも終わりもないものです。
バサル：アッラーはご覧になっておられます。道具や条件なしにご覧になられます。目によってご覧になるのではありません。
イラーダ：アッラーは望まれます。望まれたものを創造されます。全ては、アッラーが望まれたことによって存在します。そのお望みの妨げとなるような力は一切存在しません。
クドゥラ：アッラーは全てにおいてその力が十分であられます。どんなことであれ、アッラーにとって困難ではなのです。
カラーム：アッラーは語られるお方です。それは道具、文字、声や舌によるものではありません。
タクウィーン：アッラーは創造者であられます。アッラー以外に創造者は存在しません。全てをアッラーが創造されます。アッラー以外のものについて創造者というべきではありません。

アッラーの特性の真実を理解することは不可能です。誰も、そしてどんなものも、アッラーの特性を分かち合うこともそれに似せることもできません。

第２の条件
天使たちを信じること

「ワ　マラーイカトゥ」：私はアッラーの天使たちを信じました、ということです。天使たちはアッラーのしもべです。全ての天使は　アッラーの命令に従い、　罪を犯しません。男女の差はなく、結婚しません。彼らには　生命があり　ます。食べる

こと、飲むこと、眠ることはありません。光でできており、知性を持ちます。そのうち最も崇高な存在が4大天使です。
ジブラーイール（彼の上に平安あれ）：その役割は預言者たちに啓示をもたらすこと、命令や禁止事項を教えることです。
イスラーフィール（彼の上に平安あれ）：スールを吹き鳴らすことがその役割です。1　回目にそれを吹いた時に出る音を聞いた生物は、アッラーを除いて全て死に絶えます。2 回目に吹いた時には全てが再び蘇ります。
ミーカーイール（彼の上に平安あれ）：糧を送ること、安くなること、豊かであること、飢饉となること、高くなること、そしてあらゆる物質を動かす役割を負っています。
アズラーイール（彼の上に平安あれ）：人々の魂を取ることがその役割です。
　彼らに続いて4つの階級の天使たちがいます。「ハメレ-イ-アルシュ」と呼ばれる天使は4人います。アッラーの御前に存在する天使を「ムカッラビーン」と呼びます。罰を与える天使たちのうち大きなものを「カルービヤーン」、慈悲の天使たちを「ルーハーニーヤーン」と呼びます。天国の天使たちのうち偉大なものの名はルドゥヴァーン、地獄の天使たちのうち偉大なものの名は「マーリク」です。地獄の天使たちを「ザバーニー」と呼びます。　最も数の多い被造物は天使です。天においては天使たちがイバーダを行っていない　場所は存在しません。

第3の条件
啓典を信じること

「ワ　クトゥビヒー」アッラーが下された啓典を信じました、という意味です。アッラーはこれらの啓典の一部を預言者たちへジブラーイールという名の天使に読ませられることで、また一部を銘板の上に記された形で、また一部は天使を媒介とせずに直接伝えられるという形で、下されました。全てがアッラーの言葉です。これらは始まりもなく、終わりもありません。これらは創られたものではありません。全てが真実です。アッラーによって下された啓典のうち、私たちに知らされているものは104ページあ

ります　。これらのうち10ページは預言者アーダムに、50ページは預言者シトに、30 ページは預言者イドリースに、10 ページは預言者イブラーヒームに、律法が預言者ムーサーに、詩篇が預言者ダーウードに、新約聖書が預言者イーサーに、クルアーンが預言者ムハンマドに下されたのです。

アッラーは、人々が現世で安らいで暮らし、来世でも永遠の幸福に至ることができるよう、最初の人間、そして最初の預言者であるアーダム（彼の上に平安あれ）から最後の預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）まで、多くの預言者を媒介として啓典を下されました。これらの啓典で、信仰とイバーダの基本が説かれ、人々が必要とする全ての事柄についての知識が与えられています。

これらのうちクルアーンは、アッラーが下された最後の啓典です。クルアーンが啓示された後、それ以外の全ての啓典は無効とされました。天使ジブラーイールはクルアーンを、預言者ムハンマドに 23 年かけてもたらしました。クルアーンは 14 の章、6236 の節からなります。　一部の本ではこの数が異なっていますが　、長い一節をいくつかに区切っていることによります。なぜならクルアーンは啓示されて以来、一切の変化が加えられていないからです。そして今後も変化することはありません。クルアーンはアッラーのお言葉です。このような書物が人間によって作られることは不可能です。一つの節ですら作ることは不可能なのです。

預言者ムハンマドが来世へと移られた後、最初のカリフとなったのはアブー・バクル・スッドゥークでした。彼はクルアーンの節をまとめ、これによって「ムスハフ」ができました。教友の全ては、このムスハフがアッラーの言葉であることを一致して告げました。第3代のカリフであるウ　スマーンは、このムスハフをさらに6つ書かせ、いくつかの地方に送っています。

クルアーンは、本来の形に従って読むことが必要です。他の文字で書かれたものは、クルアーンとは呼ばれません。

A)　ムスハフを手による時には、ウドゥーのある状態でいなければいけません。キブラの方角を向いて座り、注意深く詠みます。

B)　重々しく、謙虚さを持って読みます。

C)　ムスハフを見ながら、それぞれの節一つ一つを正しく読みます。

D)　タジュウィードの原則に従って読みます。
E)　読まれているものがアッラーの言葉であることを考えるべきです。
F)　クルアーンの命令や禁止に従います。

第４の条件
預言者たちを信じること

「ワ　ルスーリヒ」: アッラーの預言者たちを信じました、という意味です。預言者たちは、アッラーが喜ばれる道へ人々を至らせ、正しい道を示す為に選ばれました。全ての預言者たちは皆、同じ信仰を語っています。預言者たちには7つの特性があることを信じる事が必要です。
イスマ：罪を犯さないこと。預言者たちはいずれかの教えで禁じられている、もしくは禁じられることになる大小の罪を決して行いません。
アマーナ：預言者たちはあらゆる観点から信頼できる人々です。決してその信頼を裏切ることはありません。
スッドゥーク：預言者たちはその言葉、行い、そしてあらゆるふるまいにおいて正しく、誠実な人々です。決して嘘をつくことはありません。
ファターナ：預言者たちは非常に知的で、理解力のある人々です。目や耳が不自由である人、女性からは預言者は現れていません。
タブリーグ：預言者たちは、人々に教示した　事柄を、全てアッラーからもたらされた啓示によって学びました。彼らが教えた命令や禁止事項のどれ一つとして　、彼ら自身の考えのもの　はありません。預言者たち　はアッラーから命じられたことの全てを人々に教えました。
アダーラ：預言者たちは決して迫害や不正を行いません。誰かの為に公正さを放棄することもありません。
アムヌル・アズル：預言者たちは、預言者としての任務から解かれることはありません。現世でも来世でも常に預言者なのです。

新たな教えと規定をもたらす預言者をラスールと呼びます。新しい教えはもたらさず、既存の教えに人々を導く預言者はナビーと呼ばれます。預言者たちを信じるとは、彼らの間に差をつけることなく、　　全員が、アッラーによって選ばれた誠実な、真実を語る預言者である事を信じることです。彼らのうちの一人でも信じないという人は、即ち誰も信じないことになるのです。

預言者という任務は、勤勉であること、イバーダを多く行うこと、空白や苦しみを味わうことなどによって得られるものではありません。ただアッラーの恵みと選択によるのです。その数は定かではありませんが、　　12 万 4 千よりも多いことが知られています。このうちの 313 人もしくは 315 人がラスールです。このうち 6 人がより崇高とされます。彼らを「ウル-ル-アズムの預言者」と呼びます。　　ウル-ル-アズムの預言者とは、預言者アーダム、ヌーフ、イブラーヒーム、ムーサー、イーサー、そしてムハンマド・ムスタファ（彼の上にアッラーの祝福と平安がありますように）です。また、預言者たちのうちでは 30 人の名前がよく知られています。これらは、アーダム、イドリース、シト、ヌーフ、フード、サーリフ、イブラーヒーム、ルーツ、イスマーイール、イスハーク、ヤークブ、ユースフ、アイユーブ、シュアイブ、ムーサー、ハールーン、フドゥル、ユーシャ・ビン・ヌーン、イルヤス、エルヤサ、ズルキフル、シャムウン、イシュモイル、ユーヌス・ビン・マタ、ダーウード、スライマーン、ルクマーン、ザカリヤー、ヤフヤー、ウザイル、イーサー・ビン・マルヤム、ズルカルナイン、そしてムハンマド（彼の上に祝福と平安がありますように）です。

このうちの 28 人のみがクルアーンで紹介されています。ズルカルナイン、ルクマーン、ウザイル、そしてフドゥルについては、預言者であるかどうかについて意見の相違があります。ムハンマド・マースム師は、第 2 巻第 36 の書簡でフドゥルが預言者であることを告げる知らせがしっかりしたものであることを記しています。第 182 の手紙では、フドゥルが人間の形で姿を見せること、　そして物事を行うことは、彼が生きていることを示すものではないとしています。アッラーはフドゥル　の、そして多くの預言者、聖人たちの魂が人間の形で姿を見せることを許された

のです。彼らを見ることは、彼らが生きていることを示すことではないと説いているのです。

預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）

彼はアッラーの預言者であり、愛されるお方です。預言者たちのうち最も優れた存在であり、そして最後の預言者です。父はアブドゥッラーです。西暦 571 年の 4 月 20 日にあたる、ラビーウル・アウワル月の 12 日、月曜日の夜、夜明け近くにマッカで生まれました。父は彼の誕生以前に亡くなっていました。6 歳の時母を、8 歳の時に祖父を亡くしています。その後、アブー・ターリブに扶養されました。25歳の時、ハディージャ・トゥル・クブラーと結婚しました。彼女との間に 4 人の娘と 2 人の息子が生まれました。最初の息子の名はカーシムでした。その為、アブー・カースムとも呼ばれています。40 歳の時、全ての人間　　とジンの為の預言者であることが告げられました。3 年後には、皆を信仰へと呼びかけるようになりました。52歳の時に、ある晩マッカからエルサレムへ、そこから天に運ばれ、また戻されるという出来事がありました　。この旅をミーラージュと呼びます。ミーラージュでは、天国と地獄、そしてアッラーと会われたのでした　。日に 5 回の礼拝はこの夜に義務とされたのです　。歴史家によれば、西暦 622 年に　　アッラーのお許しを得てマッカからマディーナへと移住しました。この旅をヒジュラ（聖遷）と呼びます。マディーナの町のクバー村に到着した、ラビーウル・アッワル月の 8 日、月曜日にあたる西暦 10 月 20 日が、ムスリムのヒジュラ太陽暦の初日になります。ムスリムのヒジュラ太陰暦は、その土地のムハッラム月に始まります。天にある月が地球の周りを 12 回廻ることで 1 年となります。そしてヒジュラ歴 11 年（西暦 632 年）のラビーウル・アッワル月の 12 日、月曜日の午前に亡くなられました。火曜日から水曜日への夜に、亡くなった時の部屋に埋葬されました。亡くなった年齢　は、太陰暦によれば 63 歳、太陽暦によれば 61 歳でした。

預言者ムハンマドは色白で、　全ての人々の中で最も美しいお方でした。その美しさは皆に明らかにはされず、　その美しさを

一度目にした人、さらには夢で見た人の生涯は快適さと喜びのうちに過ぎました。預言者は、　　あらゆる時代、　　あらゆる場所に生まれた人々、そしてこれから生まれてくる全ての人々よりも、あらゆる観点で崇高な存在です。知性、思想、良い　　気質　、全ての器官の力が、全ての人よりも優れていました。

預言者は、子供の頃に2度、貿易を行う人々と共にダマスカスに行き、ブスラと呼ばれる地点から戻りました。それ以外にはどこにも行ったことがありませんでした。彼は文盲でした。つまり、学校に行ったことは全くありませんでした。誰かに教えを受けたこともありませんでした。しかし彼は全てをご存じでした。すなわち、考えたこと、知ることを望んだことは全てアッラーが教えられていたのです。ジブラーイールという名の天使が来て、預言者の望むこと全てを　語っていました。その神聖な心臓は、太陽のように光を放っていました。預言者　　の放つ　　アッラーについての知識の光は、電波のように、地に、天に、そしてあらゆる場所へと至りました。今ではその墓地からも光が放たれており、　　その　　力は　　一瞬ごとに強まっているのです。電磁波を受け取る為にはその受信装置が必要であるように、彼の光を受け取る為には、彼を信じ、愛し、彼が示した道を進むことで清められた心が必要です。このような心を持つ人はこの光を受け取り、それを周囲に放ち、広めます。このような偉大な人をワリー（アッラーの友）と呼びます。このワリーを知り、信じ、愛する人も、彼の前で礼儀正しく座る人も　　、もしくは遠方で　　彼を徳と愛情を持って思い起こす人も　　、その心は　　光や閃きを受け取り、清められ、成熟し始めます。アッラーは、私たちの肉体や組織を成長させる為に太陽エネルギーを　要因とされたように、心を完全させる為には、預言者ムハンマドの心と、そこから放たれる光を要因とされたのです。人を育て、その構造とエネルギーを維持する全ての栄養素が同化によって生み出されるように、心や魂の糧となるワリーたちの説話、言葉、文章もまた、全てが預言者ムハンマドの神聖な心から放たれた光によって生み出されたものなのです。

アッラーは、ジブラーイールという名の天使により、預言者ムハンマドにクルアーンを遣わされました。そうして人々に、現世

と来世で必要かつ　有益である事柄を命じられ、　同時に有害なものを禁じられました。これらの命令や禁止事項の全てを、「イスラーム教」もしくは「イスラーム」、もしくは「神の掟」というのです。

預言者ムハンマドの全ての言葉は正しく、尊く、有益なものです。それを信じる人々を「信者」もしくは「ムスリム」と呼びます。預言者ムハンマドの言葉のどれか一つであれ信じない、気に入らないという人は不信仰者と呼ばれます。アッラーは信者を愛されます。信者を　永遠に地獄で放置されることはありません。地獄には全く入れられないか、もしくは罪の為に入れられたとしても後に地獄から出されるのです。不信仰者である人は、天国に入ることはありません。直接地獄に入り、そこから決して出ることはありません。彼を信じること、預言者ムハンマドを愛することは、全ての幸福、安寧、善の始まりです。彼が預言者であることを信じないことは、あらゆる災い、苦しみ、悪事の始まりです。

預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）の知識、理性、理解力、知性、知能、気前のよさ、謙虚さ、温和さ、慈しみ、忍耐、努力、人間愛、誠実さ、信頼、勇敢さ、威厳、勇気、表現力、的確な話し　方、預言者特有の英知、美しさ、罪に対する注意深さ、高潔さ、寛大さ　、良心、恥を知る意識、禁欲主義、篤信は、他の全ての預言者たちよりも優れていました。親友や敵から受けた害は許されました。誰にも対抗するようなことはされませんでした。ウフドの戦いで不信仰者たちが預言者の　神聖な頬に血を流させて　歯を折った時も、これらを行った人々について「アッラーよ、彼らをお許しください。無知ゆえのことなのです」とドゥアーされたのでした。

預言者ムハンマドは非常に多くの良い気質　　　をお持ちでした。全てのムスリムがこれらを学び、そのような道徳を身に着けることが必要なのです。これによって現世と来世の災い、苦しみから救われ、2 つの世界の主であるお方（彼の上に祝福と平安あれ）の仲裁を受けることができるのです。なぜならハディースで「アッラーの徳によって道徳を身につけなさい」と命じられているからです。

教友（サハーバ）たち

預言者ムハンマドの神聖なお顔を目にし、その甘美な声を聴く誉れを得たムスリムたちを教友（サハーバ）と呼びます。預言者たちに次いで、これまで生まれてきた、そしてこれから生まれてくる全ての人の中で最も尊く崇高な人はアブー・バクル・スッドゥークです。最初のカリフがこの人でした。彼に次いで最も尊い人はウマル・ビン・ハッターブであり、その次に最も尊い人は預言者ムハンマドの 3 代目カリフであり、信仰と謙譲、知識の源であったウスマーン　・ビン・アッファーンです。彼に次いで最も尊いのは、4 代目のカリフであり驚くほどの優秀さを備えたアッラーの獅子、アリー・ビン・アブー・ターリブです。ハディースから理解されるところによると、ファーティマ、ハディージャ、アーイシャ、マル　ヤム、そしてアーイシャが世界の女性の中で最も崇高な存在です。ハディースでは「ファーティマは天国の女性の中で最も崇高である。ハサンとフサインは、天国の若者の中で最も崇高である」とされています。

彼らに次いで、教友たちの中で最も崇高なのは、天国に行くことが吉報で伝えられた 10 人です。これはアブー・バクル・スッドゥーク、ウマル・ウル・ファールク、オスマン・ビン・アッファーン、アリー・ビン・アブー・ターリブ、アブー・ウバイダ・ビン・ジャラフ、タルハー、ズバイル・ビン・アッワーム、サアド・ビン・アブー・ワッカース、サイド・ビン・ザイド、アブフゥルラフマーン・ビン・アウフです。彼らに次いで、バドルの戦い、次いでウフドの戦い、それから「ルドゥワンの誓い」に参加した人々です。

アッラーの使徒である預言者ムハンマドの為に生命や財産を捧げ、彼を助けた教友たち全ての名を、敬意と愛情を持って唱えることは私たちのワージブ（ファルドではないが実行すべきであること）です。反対に、彼らの偉大さにふさわしくない様な言葉を口にすることは決して許されないのです。彼らの名を失礼な形で語ることは逸脱にあたります。

預言者ムハンマドを愛する人は、その教友の全てをも愛するべきです。なぜならあるハディースでは「わが友を愛する人は、私を愛する故に愛するのだ。彼らを愛さない人は、私を愛さないゆ

えに愛さないということである。彼らを傷つける人は私をも傷つける。私を傷つける人はアッラーをも傷つけたことになる。アッラーを傷つける人は当然、罰を受けることになる」とされています。また別のハディースでは、「アッラーは私のウンマのうち誰かに善をなすことを望まれた時には、彼の心に教友たちへの愛情を与えられる。彼らの全てを自分の命のように愛するようになる」とされています。預言者ムハンマドが亡くなった日、マディーナの町には3万3千人の教友がいました。教友の合計は12万4千人を超えていました。

4大学派のイマームとその他の学者たち

信仰に関する知識において、正しい道は唯一です。これはスンナ　派です。この世界に存在する全てのムスリムに正しい道を示し、預言者ムハンマドの道を変化・改悪なしに私たちが学ぶことができる要因となっているのが、この偉大な4人です。その一人目がイマーム・アザーム・アブー・ハニーファ・ヌマン・ビン・サービトです。イスラーム学者のうち最も偉大な人の一人で、スンナ派の長です。2人目はイマーム・マーリク・ビン・アナス、3人目がイマーム・ムハンマド・ビン・イドリス・シャーフィイー、4人目がイマーム・アフマド・ビン・ハンバル（アッラーが彼ら皆に慈悲をおかけくださいますように）です。

今日、この4人のイマームの誰か一人にでも従わない人は、大きな危険の中にあります。正しい道から逸れてしまっているのです。私たちはこの本で、ハナフィー派に従った　礼拝についての事柄を、この学派の偉大な学者たちの書物から引用し、要約して紹介しています。

この4大イマームの弟子たちのうち2人は、神学　の知識を実に　　高められていました。この為、神学　についての学派は2つあります。クルアーンとハディースに適った信仰とは、この2つの学派が示す信仰なのです。スンナに従った信仰の　知識を地上に広めたのはこの2人です。一人はアブー・マンスール・マートゥリディーであり、もう一人はアブー・ル・ハサン・アリー・アシュアリーです。

この2人のイマームは、同じ信仰を伝えています。彼らの間の

いくつかの差異は、重要なものではありません。真実においては同じなのです。イスラーム学者は、クルアーンやハディースで称賛されています。クルアーンのある章句では、「知っている者と知らない者が同じであろうか」とされています。また別の章句でも、「ムスリムよ、あなたが知らないことを知っている者に尋ねなさい」とされているのです。

ハディースでは次のように言われています。「アッラーと天使たち、そして全ての生物は、人に善を教えるムスリムたちの為にドゥアーする。」「最後の審判の日には、最初に預言者たち、それから学者たち、次いで殉教者たちがとりなしを行う。」「人々よ、知りなさい。学者たちの話を聞き、学ぶのです。」「学びなさい。学ぶことはイバーダである。教える人、学ぶ人には聖戦（ジハード）のサワーブが与えられる。」「学ぶことは、サダカを支払うことのようである。学者たちに学ぶことは、タハッ　ジュドの礼拝を行うことのようである」「学ぶことは、全てのナーフィラ（義務ではない）礼拝よりもより報償がある。なぜなら、彼自身にも、彼が教える人々にも有益であるからである。」「他者に教える為に学ぶ人は、スッドゥーク誠実な人々）としてのサワーブが与えられる。」「知識は、宝庫である。その鍵は、質問して学ぶことである。」「学びなさい、そして教えなさい。」「あらゆるものには源がある。篤信の源は知識を備えた人の心である。」「教えることは、罪の償いとなる。」

第５の条件
来世を信じること

「ワル　ヤウミル　アーヒリ」：最後の審判の日を信じます、という意味です。この時の始点は、人が死んだ日です。最後の審判の終わりまで続きます。最後の日といわれるのは、それに続く夜が来ない為です。あるいは、この世界の後に訪れるものだからです。最後の審判がいつ訪れるかは知らされていません。しかし預言者ムハンマドはそれに関する多くの　しるしを伝えておられます。例えば、マフディー（救世主）が現れ、　預言者イーサーが天からダマスカスに再降臨します。ダッジャール（偽の救世主）

が現れ、ゴグとマゴグと呼ばれる人々があらゆる場所を騒乱に陥れます。太陽が西から昇り、　大きな地震が起こります。イスラームの知識が忘れ去られ、　罪や悪事が多く行われるようになります。ハラームに当たる行為　があらゆる場所で行われます。イエメンから火が立ち昇ります。天と山が砕け、太陽と月が光を失います。

墓場では尋問が行われます。墓場でムンカルとナキールという天使たちに答える為には　次のことを覚えるべきであり、　そして子供たちにも覚えさせるのです。「私の主はアッラーです。私の預言者はムハンマドです。私の教えはイスラームです。私の聖典はクルアーンです。私のキブラはカーバです。私の学派はアブー・ハニーファの学派です。」

最後の審判の日には皆が蘇ります。マフシャルの場に集められます。誠実な人々の記録簿は右側から、悪　人の記録簿は後ろから、あるいは左側から与えられます。シルク（アッラーに何ものかを配すること）や不信仰以外の全ての罪は、アッラーが望まれれば許されます。望まれれば小さな罪の為に罰が与えられます。

行いを量る為の秤があります。スラート橋がアッラーの命令によって地獄の上に架けられます。預言者ムハンマドだけのカウサルの泉があります。

とりなしが行われます。悔悟を行うことなくして死んだ信者の大小の罪が許される為に、預言者たち、ワリーたち、誠実な信者たち、学者たち、天使たち、殉教者たち、そしてアッラーの　許された人達がとりなしを行い、それは受け入れられます。

天国と地獄は今でも存在します。天国は七　層の天の上にあります。地獄はあらゆるものの下にあります。天国には八　つの扉があります。地獄は七層になっています。一番目の層から七　番目の層へと、罰が重くなっていきます。

第６の条件
運命を信じること

「ワ　ビルカデリ　ハイリヒ　ワ　シャッリヒ　ミナッラーヒターラー」：運命と、良　いことも悪いこともアッラーからであ

ることを信じました、という意味です。人の身に起こる良い　こと、災い、有益なこと、有害なこと、利益や損失の全ては　、アッラーが定められたことなのです。

アッラーが何かの存在を望まれることを「カダル」問います。カダル、すなわち　望まれた事象が存在させられることを「カダー」と呼びます。カダーとカダルの言葉は、それぞれ互いの意味でも用いられます。

アッラーはしもべたちに意志を与えられ、この意志と彼らが望むことを、事象の創造の要因とされました。一人のしもべが何かを行うことを求め、アッラーもそれを望まれるのであれば、アッラーはその事象　を創造されます。しもべが求めなければアッラーも望まれず、それは創造されません。

ここまで簡単に紹介してきたスンナ派の教義についてより広く学びたい人は、ハキーカトゥ出版の発行している、重要なイスラーム学者であり偉大なワリーであるマヴラーナ・ハーリド・バグダディのペルシア語で書かれた『　信仰の書』　と、カマフル・フェイズラー師のなされた翻訳である『　皆が必要とする信仰』という本を読んでください。とても有益で素晴らしい作品であり、その恵みは現世と来世での幸福の為に必要十分なのです。

アッラーは皆にタワックル（信頼）を命じられました。信頼は信仰の条件であるというクルアーンの章句は、この命令の一つにあたります　。食卓章では「もし信仰があるなら、アッラーについて信頼しなさい」と、イムラーン家章では「当然アッラーは信頼する者を愛される」と、離婚章では「誰かがアッラーについて信頼するのなら、彼にはアッラーが十分であられる」と、集団章では「アッラーはそのしもべにとって十分ではないのか」とされ、また他にも多くの章句があります。

アッラーの使徒は次のようにおっしゃられました。「わがウンマの一部が、私に示された。山や砂漠を満たしていた。これほどにたくさんであることに私は驚き、喜んだ。あなたは喜んだのか、と問われた。私ははい、と答えた。彼らのうちわずかに七万人が罪を問われることなく天国に行く、と言われた。それは誰なのかを私は尋ねた。その行い　に魔術、まじない、占いを混入させず、アッラー以外のものについて信頼せず、信用もしない人々

であると仰せられた。」この話を聞いていた人のうちウカーシャ（彼の上に平安あれ）が立ち上がり、「アッラーの使徒よ、ドゥアーしてください。私たちもその一部となりましょう」と言った時、預言者ムハンマドは「主よ、彼をその一部としてください」と言われたのでした。別の人が立ち上がって同じドゥアーを求めた時には、「ウカーシャはあなたよりも素早く行動した」と応じられました。

タワックルとは、やるべきことを行い、その結果については思いわずらわないことです。

第２部
イバーダと礼拝

イバーダとは何か

イバーダ（崇拝行為）とは、私たちと全ての存在を無から創造され、あらゆる瞬間に存在を維持され、目に見える、あるいは見えない事故や災いから守られ、あらゆる瞬間に様々な恵みや　素晴らしいものを与えられ、育まれる存在であるアッラーによって与えられた、　命令と禁止事項を実践することです。また、アッラーの愛情を得られた預言者たち、ワリーたち、学者たちのようになろうとすること、従うことです。

自らに無数の恵みを与えられたアッラーに　力の限り感謝することは、人としての務めです。知性が命じるこの行いは、一つの借りです。しかし人は、自らの不完全な　知性や狭い考えによって、アッラーへの感謝や敬意となる事柄を見つけることはできません。感謝すること、敬意を示すことが可能となる行いがアッラーによって教えられない限りは、称賛のつもりで行ったことがけなすという意味になるかもしれないのです。

そう、人々がアッラーに対し、心、言葉、そして体で行う感謝の行為　、つまりしもべとしての務めというものは、アッラーによって教えられ、それが預言者ムハンマドによって示されたのです。アッラーが示され、命じられたしもべとしての務めを、イスラームと呼びます。アッラーへの感謝は、その使徒たちがもたらした道に従うことで可能となります。この道に従わず、これに適さない全ての感謝やイバーダを、アッラーは認められず、また好まれません。なぜなら人が　素晴らしいと思うものの中であっても、イスラームにおいてはそれが好まれず　　　、醜いものであると見なされ　るものは多くあるからです。

つまり、知性を持つ人がアッラーに感謝し、イバーダを行う為には、預言者ムハンマドに従うことが必要となるのです。

預言者ムハンマドに従う人はムスリムです。アッラーに感謝すること、つまり預言者ムハンマドに従うことを「イバーダを行う」と言います。

イスラームは２つに区分されます。

1. 心によって信じ、信仰するべき事柄

2. 体や心によって行われるべきイバーダ

体によって行われるイバーダにうち最も尊いものが、礼拝です。ムカッラフ責任能力者である全てのムスリムが日に 5 回礼拝を行うことはファルド（義務）なのです。

ムカッラフとは誰のことか

知性を持ち、思春期に達している男女をムカッラフと呼びます。ムカッラフである人は、アッラーの命令と禁止事項に従う責任を持ちます。イスラームでは、ムカッラフである人に、まず信仰すること、それからイバーダを行うことが命じられています。さらに、行うことが禁じられているハラーム及びマクルーフの事柄を避けることも必要です。

知性は、理解する為の力です。益のあることを害のあることから区別する為に創造されたものです。知性は一つの計測機器のようです。2 つの良い　ものうちより良い　ものを、2 つの悪いもののうちより悪いものを識別します。知性を持つ人とは、ただ善と悪を区別するのではなく、良い　ものを見た時にそちらを選び、悪いものを見た時　はそれを放棄する人なのです。知性は目のようなものであり、　イスラームは光のようなものです。光がなければ目で　見ることができないのです。

思春期とは、成熟した年齢ということです。男の子が思春期に達するのは、12 歳を満了した時点で始まります。男の子が思春期に達したことを示す徴候があります。この徴候が見られない場合は、15 歳になった時点でイスラームにおいては思春期に達したと判断されます。

女の子が思春期に達することは、9 歳を満了した時点で始まりです。女の子か思春期に達した徴候が全く見られない場合は、15 歳を満了した時点で思春期に達したと判断されます。

ムカッラフの行い（イスラーム法）

イスラームの教えが教えている命令や禁止事項を「シャーリア法」もしくは「イスラーム法」と呼びます。これらを「ムカッラフの行い」とも呼びます。ムカッラフの行いは 8 つあります。ファルド、ワージブ、スンナ、ムスタハブ、ムバーフ　、ハラー

ム、マクルーフ、そしてムフシドです。
ファルド：アッラーが、それを行うことをクルアーンで明白に、絶対的に命じておられることをファルドと呼びます。ファルドを放棄することはハラームです。それを信じない人、その実践に重きを置かない人は不信仰者となります。ファルドには 2 種類あります。
ファルド・アイン（個人的義務）：ムカッラフであるムスリムが皆、それぞれに行うことが必要なファルドです。信仰すること、ウドゥーを行うこと、グスルを行うこと、日に 5 回の礼拝を行うこと、ラマダーン月に断食を行うこと、豊かであればザカートを支払うこと、巡礼に行くことなどはファルド・アインです。32 のファルド、54 のファルドが知られています。
ファルド・キファーヤ（社会的義務）：ムスリムのうち数人、もしくはたった一人であれそれを行うのであれば、他の人々はその義務から救われることになるファルドです。なされた挨拶に答えること、遺体を洗浄すること、葬儀の礼拝を行うこと、クルアーンを全て暗記してハーフィズになること、ジハード（聖戦）を行うこと、工業や貿易に必要となるもの以上に、宗教的、科学的な知識を学ぶことといったファルドがそれにあたります。

ワージブ：行うことがファルドのように確定的である命令をこう呼びます。この命令のクルアーンにおける根拠は、ファルドほどに明白ではありません。疑問の余地のある証拠によって確定されているものです。ウィトルの礼拝を行うこと、イードの礼拝を行うこと、豊かであれば犠牲の動物を屠ること、フィトラを支払うことはワージブです。ワージブの規定はファルドに近く、　ワージブを放棄することはハラームに近いマクルーフです。ワージブである事を信じない人は不信仰者となります。しかしそれを実行しなかったことで地獄の罰の対象となることはありません。

スンナ：アッラーが明白に示されてはおらず、ただ預言者ムハンマドがその実行を奨励され、あるいは継続的にご自身が行われ、あるいは他の人がそれを行っているのを見られてもそれを止められなかった事柄について「スンナ」と呼びます。スンナを気に入

らないとすることはイスラームの否定です。それを気に入り、かつ実践はしない場合、罰はありません。しかし理由なく継続的にそれを放棄する人は、災いや罰の対象、もしくはサワーブを減らされることの対象となります。例えば、アザーンを唱えること、イカーマを行うこと、集団で礼拝を行うこと、ウドゥーを行う時にミスワークを用いること、結婚した夜には食事をふるまうこと、子供に割礼を受けさせることなどです。

スンナには2種類があります。

スンナ・ムアッカダ：預言者ムハンマドが継続的に行われ、行われなかったことのない強いスンナです。ファルドの礼拝のスンナ、ズフルの最初と最後のスンナ、マグリ　ブのスンナ　、イシャーの最後の2ラカートのスンナがそれにあたります。これらのスンナは、理由なくして放棄することはできません。これを気にらない人は不信仰者となります。

スンナ・ガイリ・ムアッカダ（ムアッカダではないスンナ）：預言者ムハンマドがイバーダとして時折行われたことです。アスルとイシャーの4ラカートの最初のスンナがこれにあたります。これらはしばしば放棄されたとしても何かを必要とすることはありません。理由なく完全に放棄することは、破滅や、とりなしを受けられないといったことの要因となります。

5人から10人の人が実行すれば、他のムスリムに対しては取り消されるスンナは「キファーヤのスンナ」と呼ばれます。挨拶を行うこと、お籠りを行うことなどです。ウドゥーを行う時、飲食や　良い　行いの初めにビスミッラーと唱えることはスンナです。

ムスタハブ：これはマンドゥーブ、アーダーブ（礼儀）とも呼ばれます。ムアッカダではないスンナに当てはまります。預言者ムハンマドがその生涯に一度か2度であれ行われ、愛され、好まれていた事柄です。生まれた子供に生後7日目に名前を与えること、男女の子供の為にアキーカとして動物を屠ること、着こなしに気を配ること、芳香をつけることはムスタハブです。これらを行う人には多くの報償があります。行わなかった人に罰はありません。とりなしを受けられないということもありません。

ムバーフ：行うことが命じられておらず、また禁止もされていない事柄をムバーフ　と呼びます。つまり、罪であること、命令への従属であることが教えられてはいない事柄です。良い　意志で行われた場合にはサワーブが、悪い意志で行われた場合には罰が与えられます。眠ること、合法なものを食べること、合法であることを条件に様々な衣装を身に着けることといった事柄はムバーフ　です。これらはイスラームに従い、その命令に従うことを意志しつつ行えば善行となります。健康であり、イバーダを行うことを意志して飲み食いすることがこれにあたります。

ハラーム:アッラーがクルアーンで「行なってはいけない」と明白に禁じられた事柄です。ハラームを行うこと、ハラームを用いることは絶対に禁止されています。ハラームであるものを合法であると言う人、合法であるものをハラームと言う人の信仰は失われ、不信仰者となります。ハラームであるものを放棄すること、それらを避けることはファルドであり、大きな善行となります。
　ハラームには2種類あります。
ハラーム　リ-アイニヒー：人を殺すこと、姦淫、同性同志の性交、賭博、ワインやあらゆる種類のアルコール飲料を飲むこと、嘘をつくこと、窃盗を行うこと、豚の肉、血、及び死肉を食べること、女性や少女たちが頭や腕、足を露出した状態で外に出ることはハラームであり、大きな罪です。誰かがハラームを行う際にビスミッラーと唱えれば、あるいはそれが合法であると信じるなら、もしくはアッラーがそれを禁じられたことを軽視するのであれば、不信仰者となります。これらがハラームであることを信じ、恐れつつも行った場合は不信仰者とはなりません。しかし地獄の罰の対象となります。もし意地を張って悔悟しないまま死ねば、信仰なしにこの世を去る要因となります。
ハラーム　リ-ガイリヒー：これらは本質的には合法であるものの、他者の権利ゆえにハラームとなるものです。例えば誰かの庭園に入り、持ち主の許可なく果物をもいで食べること、家財やお金を盗んで使うこと、信託を裏切ること、わいろや利子、賭博で資本やお金を得ることなどです。これらを行った人は、その際に

ビスミッラーといった場合、あるいは合法であると信じていた場合は不信仰者とはなりません。なぜならそれは人に対する権利の侵害であり、償いができるからです。5 個半のオオムギの重さの銀の価値程の他者の権利の為に、いつか審判の日に集団で行われた 700 ラカートの認められる礼拝の分だけのサワーブがアッラーによって取り上げられ、その権利の持ち主に与えられます。ハラームを避けることは、イバーダを行うことよりもさらに大きな善行です。だからハラームについて知り、それを避けることが必要なのです。

7・マクルーフ：アッラーと預言者ムハンマドが好まれず、またイバーダのサワーブを損なわせる事柄をマクルーフと呼びます。
　マクルーフは 2 種類あります。
タフリーマン・マクルーフ（ハラームに近いマクルーフ）：ワージブである事柄を行わないことです。ハラームに近いマクルーフとなります。これらを行うことは罰をもたらします。太陽が昇る際、真上にある際、沈む際に礼拝を行うことなどです。これらを意図的に行った人は、反抗し罪を行ったことになります。地獄の罰の対象となります。礼拝においてワージブを放棄した人、タフリーマン・マクルーフを行った人はその礼拝を再度行うことがワージブとなります。もし過失や忘れていたことによって行った場合は、礼拝中に過失のサジュダを行います。
タンズィーハン・マクルーフ（ムバーフ　　に近いマクルーフ）：ムバーフ　、すなわち合法に近い、もしくは行わないことが行うことよりもより良い　事柄です。ムアッカダではないスンナや、ムスタハブである事柄を行わないことなどです。

ムフシド：イスラームにおいて、合法である行いもしくは開始されているイバーダを無効とする事柄です。信仰や礼拝、婚姻や巡礼、ザカートや取引を中断することなどです。例えば、アッラーや啓典に文句をつけることはイスラームへの憎悪を意味し、信仰を中断させます。礼拝中に笑うことは、ウドゥーと礼拝を無効とします。断食中に意図的に飲み食いすることは、断食を中断させます。

ファルド、ワージブ、そしてスンナを行う人、そしてハラームやマクルーフを避ける人には、報償が与えられます。ハラームやマクルーフを行い、ワージブを行わない人には罪が記されます。一つのハラームを避けることのサワーブは、一つのファルドを行うことのサワーブよりもより大きなものとなります。マクルーフを避けるサワーブは、スンナのサワーブよりもより大きなものです。ムバーフ　のうち、アッラーが　案ざれるものを「ハイル」及び「ハサナ」と呼びます。これらを行う人にもサワーブが与えられますが、このサワーブはスンナのサワーブよりもわずかです。

イスラームの敵たち

イスラームの敵　は、イスラームを滅亡させる為にスンナに従った書物を攻撃します。クルアーンの食卓章ではイスラームの最大の敵がユダヤ教徒と偶像崇拝者であるとされています。偶像崇拝者とは、偶像や彫像を崇拝する不信仰者です。キリスト教徒の多くが偶像崇拝者であることは明らかです。イエメンのアブドゥッラー・ビン・サバというユダヤ人は、スンナに従う人々を滅亡させる為にシーア派という分派を作りました。シーア派の人々は自らをアラウィー派と呼びます。イスラームの敵であるイギリス人たちは、あらゆる帝国主義的な力で、インドやアフリカから集めた金によって、流血を伴う戦乱とワッハーブ派と名付けられた偽りに満ちた書物によってスンナに従う人々を攻撃しました。世界のどこであっても、永遠の幸福を得たい人は、シーア派やワッハーブ派の書物に騙されず、スンナに従う学者たちの書物にしっかりと従う　ことをお勧めします。

イスラームの条件

イスラームに入った人々、すなわりムスリムにとってファルドであり、必ず行わなければいけない5つの基本的な務めがあります。

イスラームの条件の一つは、信仰告白（カリマ・シャハーダ）を行うことです。カリマ・シャハーダを行うこととは、「アシュハド　アン　ラー　イラーハ　イッラッラーフ　ワ　アシュハド

アンナ　ムハンマダン　アブドゥフ＿　ワ　ラスールフ」と言うことです。つまり、知性を持ち、思春期に達しており、話すことのできる人が「天と地には、アッラー以外に崇拝されるべき存在拝まれるべきものなど、何一つ、誰一人として　存在しない。
真に崇拝されるべきお方はただアッラーであられる。　アッラーはその存在が必須であるお方であり、全ての崇高さがそのお方にあり、そのお方には一切の不足はなく、そのお名前はアッラーである」といい、それを心から絶対的に信じることです。そしてさらに、　バラのように赤みがかった白色の　輝かしく　愛されるお顔を持ち、黒い眉と黒い目を持ち、神聖な額は広く、立派な性格と甘美な言葉を持たれ、アラビアのマッカで生まれた為にアラブ人と呼ばれ、ハーシム家の一員でありアブドゥッラーの息子であるムハンマド（彼の上にアッラーの平安あれ）がアッラーのしもべであり、使者であるということです。彼はハブの娘であるアーミナの息子でした。
イスラームの5つの条件の2つめは、その条件やファルドに従った形で、毎日5回、定時に礼拝を行うことです。全てのムスリムが毎日、時間になると日に5回の礼拝を行い、それらを時間通りに実行することはファルドです。礼拝を、ファルド、ワージブ、スンナに注意を払い、アッラーに集中し、時間が過ぎてしまわないうちに行うことが必要なのです。クルアーンでは礼拝は「サラート」と呼ばれます。サラートとは、辞書によると、　人がドゥアーすること、天使が悔悟すること、アッラーが慈悲をかけられること、慈しまれることを意味します。イスラームにおけるサラートとは、イルミハールの本が教えている形で一定の動作を行い、一定の言葉を唱えることを意味します。礼拝は「イフティタフのタクビール」で始まります。すなわち男性が手を耳の高さまで上げた後、へその下まで下ろし、「アッラーフ　アクバル」と唱えることによって始められるのです。最後の座位で頭を左右の肩に向け、挨拶を行うことで完了します。
イスラームの5つの条件の3つめは、財産からザカートを支払うことです。「ザカート」の辞書的な意味は、清潔さ、称賛、良い状態にすることというものです。イスラームにおけるザカートとは、必要不可欠な額以上、かつ「ニサーブ」と呼ばれる一帯の基

準に応じた「ザカートの財産」を持つ人が、財産の一定量を取り分け、クルアーンで示されているムスリムたちに、恩を着せることなく与えることを意味します。ザカートは七種類の人々に与えられます。四　学派では、4 つの種類のザカートの財産があります。金や銀のザカート、貿易品のザカート、半年以上牧草地で放牧した 4 本足の家畜のザカート、大地からの収穫のザカートです。この 4 つめのザカートはウシュルと呼ばれます。収穫されるとすぐにウシュルが支払われます。他の 3 つのザカートは、2 サーブの量に達した一年後に支払われます。
イスラームの 5 つの条件の 4 つめは、ラマダーン月に毎日断食を行うことです。断食を行うことを「サウム」と呼びます。サウムとは、辞書的にはあるものをあるものから守ることを意味します。イスラームでは、条件に従いつつ、ラマダーン月にアッラーが命じられたゆえに、毎日 3 つのものから自分を守ることを意味します。この 3 つのものは、食べること、飲むこと、そして性交渉です。ラマダーン月は空に新月が見られることにより始めります。　前もって計算された暦では　始められません。
イスラームの 5 つの条件の 5 つめは、　生涯に一度巡礼を行うことです。道中が安全であり、肉体が健康であり、マッカに行って戻ってくるまで後に残す子供たちの生活に必要なお金を差し引いて残ったお金でその地に行って帰ってくることのできる人にとって、生涯に一度、イフラームの状態でカーバ神殿を周回し、アラファトに滞在することはファルドです。

ここで挙げられたイスラームの 5 つの条件のうち最も崇高なものは、カリマ・シャハーダを唱え、その意味を信じることです。それに次いで尊いことは礼拝です。それから断食、それに次いで巡礼、最後にザカートとなります。カリマ・シャハーダが最も崇高であることについては学者たちの意見が一致しています。残りの 4 つの条件の順序については、学者たちの多くが先述のようであると見なしています。カリマ・シャハーダは、イスラームの最初期に　初めて　ファルドとされた事柄でした　。日に 5 回の礼拝は、預言者としての活動の 11 年目、ヒジュラの 1　年数か月前のミーラージュの夜にファルドとされました。ラマダーン月

の礼拝は、ヒジュラ歴2年目のシャーバン月にファルドとされました。ザカートの　支払い　は、断食がファルドとされた年のラマダーン月にファルドとされました。巡礼はヒジュラ歴9年にファルドとされました。

第３部
礼拝を行う

イスラームにおいて、信仰に次いで最も崇高なイバーダは礼拝です。礼拝は信仰の柱です。礼拝はイバーダの中で最も崇高なものであり、　イスラームの2つめの条件です。アラビア語では礼拝はサラートといわれます。サラートは本来、ドゥアー、慈悲、悔悟を意味し、　礼拝はこの3つの意味を全て含むものである為にサラートと呼ばれるのです。

アッラーの最も好まれ、繰り返し繰り返し命じられたことが、日に5回の礼拝です。アッラーがムスリムに対して命令したもの中で、信仰に次いで最も重要なものが礼拝を行うことです。イスラームで最初に命じられたファルドも礼拝です。最後の審判の日　、信仰に次いで最初に問われることは　礼拝についてです　。日に5回の礼拝をしていた人は、全ての苦しみや試みから救われ、永遠の救いに至ります。地獄の炎から救われて　天国に至ることは、礼拝を正しく行うことによって可能となるのです。正しい礼拝の為にはまず不足なくウドゥーを行い、気を緩めずに礼拝を始めることが必要です。礼拝における全ての動作を最良の形で行うべく努力すべきなのです。イバーダの全てをそこに集め、人をアッラーへと最も接近させる尊い行為が、礼拝です。預言者ムハンマドは次のように言われました。「礼拝はイスラームの柱である。礼拝を行った人は、イスラームを強める。礼拝を行うことのない　人は、当然イスラームを崩壊させる。」

礼拝を正しく行うことで誉れを与えられた人は、醜い、悪い行いから守られます。というのも、蜘蛛章第45節では「本当に礼拝は、（人を）醜行と悪事から遠ざける」とされているため　です。

人を悪事から遠ざけない礼拝は、正しい礼拝ではありません。外見だけの礼拝です。同時に、正しい礼拝ができるようになるまでは、外見だけの礼拝をも放棄するべきではありません。イスラーム学者たちは、「一つのことを全てできないのであっても、その全てを放棄してはいけない」としています。無限の恵みの主であるアッラーは、外見だけのものでも本来のものとして認められ

るかもしれません。このようなおかしな礼拝をするくらいなら礼拝などするな、と言ってはいけないのです。このようなおかしなやり方ではなく、正しく礼拝しなさい、と言うべきなのです。そしてその誤りを正すべきです。この繊細さを十分理解する必要があります。

礼拝は集団で行うべきです。集団で行うことは、個人で行うよりもより大きなサワーブをもたらします。礼拝で全ての器官が謙虚さを示し、その心もアッラーへの畏怖を抱いていることが必要です。人を現世と来世で、災いや苦しみから救うのはただ礼拝です。アッラーは信者たち章の初めの部分で、「信者たちは、確かに勝利を勝ちとる。かれらは、礼拝に敬虔であり」と仰せられているのです。

危険と恐れのある場所で行われるイバーダの価値は何倍も高まります。敵が攻撃してきた時に兵士がささやかな仕事を行うことはとても貴重となります。若者がイバーダを行うことも、より尊いものです。なぜなら我欲　を抑え、イバーダを行いたくないという欲求をも乗り越えているからです。

青年時代に人を襲う3つの敵、即ち　シャイターン、我欲、そして悪い友人　は、彼にイバーダをさせることを望みません。　。あらゆる悪事の源は悪い友人　です。　青年が、3つの敵からもたらされる悪い欲望に従わず、　イバーダを放棄せずに礼拝を行う　のであれば、それはとても尊いものとなります。年老いた人の行うイバーダの何倍ものサワーブが与えられ、　わずかなイバーダに多くの報償があるのです。

礼拝は誰にとってファルドとなるか

礼拝を行うことは、知性を備え、思春期に達している全ての男女のムスリムにとってファルドです。礼拝がファルドとなる為には3つの条件があります。

ムスリムであること
知性を備えていること
思春期に達していること

イスラームでは、知性を備えていない人、思春期に達していない小さな子供たちは礼拝を行う責任を負いません。しかし両親は

子供たちにイスラームの知識を教え、イバーダを行うよう慣れさせなければいけません。預言者ムハンマドは次のように仰せられました。「あなた方は皆、羊飼いのようである。羊飼いがその群れを守るように、あなた方も子供たちとあなたの命令下にある人々を地獄から守らなければいけない。彼らにイスラームを教えなければいけない。もし教えないのであればその責任を負う。」

他のハディースでは「全ての子供たちはイスラームに適した、ふさわしい形で生まれてくる。　後にその父が、彼らをキリスト教徒やユダヤ教徒、そして無宗教者としてしまう。　」

従って全てのムスリムの第一の務めは、子供たちにイスラーム、クルアーンを読むこと、礼拝を行うこと、信仰とイスラームの条件を教えることです。子供がムスリムとなることを望む、現世と来世で平穏さと安らぎを得ることを求める両親は、まずこの務めを果たすべきなのです。なぜなら私たちの父祖は「木は若いうちに曲げられる」と語ってきました。年をとってから曲げようとすれば、それは折れてしまい、害を受けるからです。

イスラームの知識と立派な道徳が与えられなかった子供は、悪い道にいる人々に簡単に騙されてしまいます。両親、国、民族に害を与える存在となるのです。

礼拝を行う人の状態

物語：監獄から救った礼拝

ホラーサーンの総督であるアブドゥッラー　・ビン・ターヒルはとても公正な人でした。憲兵が何人かの泥棒を捕まえ、それを総督に報告しましたが、その　　うちの一人が逃亡しました。ちょうどその日、ヒラートの鍛冶屋が　ニーシャープールへと向かいました。しばらくして家に戻り、再び夜に出発する際、人々は彼を泥棒だと思って捕えました。彼は泥棒たちと共に総督に引き渡され、　監獄に入れなさい、と言われました。鍛冶屋は監獄でウドゥーを行い、礼拝を行いました。手を掲げ、「主よ、私を救ってください。私には罪がないことをあなたのみがご存じです。私をこの監獄からあなたの実が救えるのです」とドゥアーしました。総督は、その晩の夢で、4 人の　強靭な人物

が訪れ　、その玉座をひっくり返そうとするところで目を覚ましました。それからすぐにウドゥーを行い、2ラカートの礼拝を行いました。そして再び寝入りました。再び4人の人物が来て、玉座を壊そうとしているのを見て、目覚めました。そうして、虐げられた人が自分に対して許しを求めていることを理解したのでした　。

何千もの大砲も鉄砲も決してできない
涙が、夜明け前の時間に行ったことを。
何度も敵を逃した銃剣
信者のドゥアーがそれを行う
主よ、偉大なのはただあなたです。あなたはとても偉大であり、大きなものも小さなものも苦しんだ時にはただあなたに懇願します。あなたに懇願する者が、ただ幸福を得るのです。

彼はその晩のうちに監獄の長を呼び、虐げられた人がいないかと尋ねました。長は、「私にはわかりませんが、ただ　　、礼拝を行い、多くの　ドゥアーをし、涙を流している者であれば一人います　」と答えました。そこで鍛冶屋　連れてこられ、状況が尋ねられました。　宰相は許しを乞い、「あなたが私に対して持っている権利を帳消しにしてほしい、千の銀の贈り物を受けとって欲しい、何か他に望みがある時には私を訊ねてほしい」と求めました。鍛冶屋は、「私の権利は帳消しにしたし、贈り物もいただくが、何かあった時にあなたを訪れるということは致しません」と答えました。なぜか、と尋ねられると、「私のような一人の貧者の為にあなたのような皇帝の玉座を何度もひっくり返されるような私の主を差し置いて、私の要望を主以外の　人に訴えることはしもべにふさわしい行為ではありません。礼拝の後に行ったドゥアーが、私をどれだけ多くの苦しみから救ってくれたことでしょう。どれほどの願いを叶えてくれたことでしょう。だからどうして　他の誰かに庇護を求めましょうか。アッラーは限りのない慈悲の扉を開かれ、無限の恵みの食卓を皆に広げられたのに、なぜ他のお方を訊ねましょうか。そのお方から求めたのに与えられなかった人がいるでしょうか。求め方を知らなければ得ることはできません。そのお方の御前に礼儀正しく出るので

なければ、その慈悲を得ることはできないのです。」

詩
イバーダに、ある夜誰かが訴えたのであれば
その友の恵みはもちろん、彼に多くの扉を開く

偉大なワリーの一人であるラービア - イ - アドゥウィヤ（アッラーの慈悲がありますように）は、　ある人がドゥアーしている時に、「主よ、私に慈悲の扉をお開きください」と言っているのを聞き、「無知な者よ。アッラーの慈悲の扉は今まで閉じられていたというのか？それで今開いてほしいと求めるのか？」と言ったのでした。（慈悲が与えられる扉はいつでも開いていますが、それを受け入れる扉である心は、皆開いているわけではありません。これが開かれる為にドゥアーすることは必要です。）

アッラーよ！皆を苦しみから救われるのはただあなたです。私たちを現世と来世で苦しみのうちに放っておかないでください。必要としている者に全てを与えられるのはただあなたです。現世でも来世でも意義のある、有益なものを私たちにお与えください。現世と来世で、私たちがあなた以外の　何ものかに求める必要が生じませんように。アーミーン。

物語：家が燃えていた

教友の一人ハミード・タウィールは自分の礼拝場所で礼拝をしていました。彼の家に火事が起こり、人々が集まって火を消しました。その妻が走って彼の元に来て、彼に怒り、「家が燃えてみんなが集まっている。すべきことが山ほど　ある。それなのにあなたはそこから動こうともしない」といいました。彼は、「アッラーに誓って言うが、私は何も知らなかったのだ」と答えました。

アッラーの友である人々は、アッラーへの愛情と近しさにおいて非常に高い段階に達しており、その友に懇願することの味わいに夢中になっており、我を忘れているのです。

物語：鍋の水

教友の一人アブドゥッラー　・ビン・シャフルが語っています。「私はアッラーの使徒のおそばで礼拝をしていました。その神聖な胸部　からは、火にかけられ沸騰している、鍋の水のような音が聞こえていました」

物語：足の矢

預言者ムハンマドの愛されていた婿アリーは、ひとたび礼拝を始めると例え世界が崩壊しても気が付かないような状態でした。

次のように語られています。ある戦いでアリーの足に矢が飛んできて、骨まで貫通しました。人々はその矢を抜くことができず、医師に診せました。医師は、「あなたに意識を失わせる薬を与えなければ。そうすればこの矢を抜くことができるでしょう。そうでなければこの痛みに　耐えることはできません」といいました。信者たちの長アリーは、「意識を失わせる薬など必要ない。少し待ってほしい、礼拝の時間が来る。礼拝を始めた時に抜いてほしい」と言いました。礼拝の時間が来てアリーは礼拝を始めました。医師もその神聖な足を裂き、矢を取り出し、傷口に包帯を巻きました。アリーは礼拝を終え、医師に「矢を取り出しましたか」と聞きました。医師は「はい、取り出しました」と答えました。アリーは「全然気が付かなかった」と言ったのでした。

これは驚くに値しないことではあります。実際、預言者ユースフの美しさを前にして、エジプトの女性たちは我を忘れ、手を切ったことに気がつきませんでした。もしアッラーが、その愛される人々に　我を忘れさせられたとしても、驚くべきことではないのです。信者たちも死の瞬間に預言者ムハンマドの姿を目にし、死の痛みを感じないでしょう。

物語：気を失わせる薬

ワリーの一人アーミル・カユスの足の指に　ハンセン病が見つかり、　これを切断しなければいけないと言われました。アーミルは、決められたことに従うことはしもべであることの条件だ、と言い、その指が切られました。数日後、この病気が足に移り、太ももにまで至っていることがわかりました。「この足を切断しなければいけない、イスラームはこれを許している」と言

い、外科医を連れてきました。外科医は、失神させる為の薬が必要であり、それで痛みを感じさせないようにしなければいけない、そうでなければ耐えられないと言いました。アーミルは、「そんな手間はいらない。美しい声でクルアーンを読む人を連れてきてほしい、その人にクルアーンを読ませてほしい、私の顔に変化が現れたら足を切ってほしい。私は気が付かないだろう」と求めました。人々は彼の言った通りにしました。ある人が　連れてこられ、美しい声でクルアーンを読み始めました。アーミルの顔色が変わり、外科医は太ももの半ばから彼の足を切断し、止血しました。クルアーンを読んでいた人が黙ったことで　アーミルは我に返り、切りましたか？と尋ねました。医師は切りましたと答えました。足を切り、焼いて止血し、包帯を巻きましたが彼は全く気が付いていませんでした。その後、切られた足をくださいと彼が　求め　たので、　彼に足が渡されました。彼は足を掲げ、「主よ、与えられたのはあなたです。私はあなたのしもべです。あなたが定められ、あなたがそれを創造されます。これは足です。もし最後の審判の日に、命令により、決してこの足で罪の為の一歩を踏み出したりはしなかったかと尋ねられれば、私は、決してあなたのご命令なしで足を踏み出したり、呼吸をしたことはありませんと答えるでしょう。」

物語：礼拝の為の自己犠牲

　ブルサがオスマン帝国の領土となる以前、町に住んでいたギリシア人たちのうち一人が、密かにムスリムになりました。彼と仲のよかったギリシア人の親友がその理由を彼に尋ね、それから「あなたのお父さんやお爺さんの教えをなぜ放棄したのか」と彼を批判して言いました。彼は親友に次のように説明しました。「私の元に、一時的に捕虜となったムスリムの一人がいました。ある時、この捕虜が幽閉されている部屋で体を曲げたり起き上がったりしていたことに気が付きました。そばに行って何をしているのか尋ねました。その動作が終わると彼は手で顔を撫で、礼拝をしていると答えました。さらに、もし礼拝することが許されるのなら礼拝ごとに私に金を1枚支払うことを申し出ました。私は欲に取りつかれて日に日にその額を増やし、ついには礼拝ごとに

10 枚の金を求めるようになりましたし、彼もそれを認めました。私は崇拝行為の為に彼が払う犠牲に感嘆し、ある時彼に『あなたを解放しましょう』と言うと、彼はとても喜びました。それから手を掲げ、私の為に次のようにドゥアーしました。『アッラーよ、このあなたのしもべに、信仰によって誉れを与えてください』

その瞬間、私の心にはムスリムになりたいという願いが生じ、それはとても大きなものとなりました。私はすぐに信仰告白を行い、ムスリムとなったのです。」

第 4 部
礼拝の種類

　ムスリムに実行が命じられている礼拝は、ファルド、ワージブ、ナーフィラという形で 3 つに分類されます。これらは以下の通りです。

ファルドの礼拝：日に 5 回の礼拝のファルド、金曜礼拝の 2 ラカートのファルド、そして葬儀の礼拝はファルドの礼拝です。(葬儀の礼拝はファルド・キファーヤです)
ワージブの礼拝：ウィトルの礼拝、イードの礼拝、捧げられた礼拝、そして開始したものの途中で中断したナーフィラの礼拝です。定められた時間に行えなかったウィトルの礼拝のカダーを実行することもワージブです。
ナーフィラの礼拝：日に 5 回の礼拝のスンナ、タラーウィーの礼拝、そしてサワーブを得る為に行われるタハッジュド、礼拝所に入った時の礼拝、イシュラーク、ドゥーハー、アッワービン、イスティハーラ、タスビーフの礼拝などはナーフィラの礼拝です。つまり行うことは命令ではありません。ファルドやワージブである礼拝に不足がない人は、ナーフィラのイバーダにおいてもサワーブが与えられます。

日に 5 回の礼拝

　礼拝はアッラーのご命令です。クルアーンでは 100 か所以上で、「礼拝を行いなさい」と命じられています。知性を持ち、思春期に達している全てのムスリムが日に 5 回礼拝を行うことが、クルアーンとハディースで命じられています。
　ビザンチン章第 17，18 章では「それで、夕暮にまた暁に、アッラーを讃えなさい。天においても地にあっても、栄光はかれに属する。午後遅くに、また日の傾き初めに（アッラーを讃えなさい)」とされています。
　雌牛章第 238 節では「各礼拝を、特に中間の礼拝を謹厳に守れ」とされています。(すなわち、礼拝を継続的に行いなさい、

ということを意味します。またクルアーンで言及されている「祈念」や「感謝」が礼拝を意味するということも、クルアーンの解釈の本では記されています。フード章第114節では、「礼拝は昼間の両端において、また夜の初めの時に、務めを守れ。本当に善行は、悪行を消滅させる。これは（主を）念じる者に対する訓戒である」とされています。

預言者ムハンマドは次のように言われました。「アッラーはしもべに、毎日5回の礼拝を行うことを命じられました。正しくウドゥーを行い、この5回の礼拝を時間通りに行い、ルクウやサジュダをきちんと行う人をアッラーは許されるでしょう。」

5回の礼拝は、40ラカートとなります。このうち17ラカートはファルドです。3ラカートはワージブです。20ラカートはスンナとなります。

ファジュルの礼拝：4ラカートです。まず2ラカートのスンナ、そして2ラカートのファルドを行います。このスンナはとても強いものです。ワージブだと見なす人もいます。

ズフルの礼拝：10ラカートです。まず2ラカートの始めのスンナ、それから4ラカートのファルド、最後に2ラカートの終わりのスンナをします。

アスルの礼拝：8ラカートです。まず4ラカートのスンナ、それから4ラカートのファルドを行います。

マグリブの礼拝：5ラカートです。まず3ラカートのファルド、それから2ラカートのスンナを行います。

イシャーの礼拝：13ラカートです。まず4ラカートのスンナ、それから4ラカートのファルド、2ラカートのスンナ、その後、ワージブである3ラカートのウィトルの礼拝を行います。

アスルとイシャーの最初のスンナはムアッカダではないスンナです。これらの第2ラカートでは座位の際に「アッタヒヤート」の後で「アッラーフンマ　サッリ」のドゥアーを、その後で「アッラーフンマ・バーリク」のドゥアーを最後まで唱えます。立ち上がった時には、第3のラカートで「ビスミッラー」を唱える前に「スブハーナカ」を唱えます。しかしズフルの礼拝の最初のスンナはムアッカダです。つまり強く命じられているのです。その

サワーブもより多くあります。一度目の座位ではファルドと同様にただ「アッタヒヤート」を唱え、それから第3のラカートの為にすぐに立ち上がります。立ち上がるとまず「ビスミッラー」と唱え、そのままファーティハ章を読みます。

ズフルとイシャーのファルドの後4ラカート、マグリブのファルドの後は2ラカートをさらに行うことはムスタハブで、多くのサワーブがあります。全てを一度のサラームで、もしくは2ラカートごとのサラームを行いつつ実行することができます。どちらの形でも、最初の2ラカートは最後のスンナの代わりと見なされます。このムスタハブの礼拝は、終わりのスンナの後で行うこともできます。

第1のラカートは礼拝を始めた時点で、その他のラカートは立ち上がった時に始まります。そして再び立ち上がる時まで続きます。終わりのラカートは、挨拶を行うまで続きます。複数のラカートでは、2回目のサジュダの後は座位を取ります。

それぞれのラカートには、礼拝のファルド、ワージブ、スンナ、ムフシド、そしてマクルーフがあります。この先の項目ではこれらをハナフィー派に従った形で紹介します。

礼拝のファルド

ファルドは、アッラーが実行を求められた絶対的な命令です。イバーダをファルドとする条件が満たされない限り、そのイバーダは誠実で正しいものとはなりません。礼拝を行う際には、12の条件を実践することがファルドとなります。このファルドのうち7つは礼拝外にあり、5つは礼拝の中にあります。礼拝前のファルドを条件と、礼拝中のファルドをルクン（構成要素）と言います。一部の学者は、タクビールが礼拝中に行われているとしています。それによれば、礼拝の条件も構成要素も6つずつとなります。

礼拝前のファルド（条件）

ハデスからの清め：ウドゥーのない人がウドゥーを行い、大汚の状態の人はグスルを行うこと

2. **ナジャーサからの清め**：礼拝を行う人の体、服、そして礼拝

を行う場所を、重大もしくは軽微なナジャーサ（すなわちイスラームにおいて汚いと見なされるもの）から清めること。（例えば、血、尿、アルコールのような物質はイスラームにおいて汚いと見なされます。）
サトゥル・アウラ：礼拝を行う際に覆うべき体の箇所を覆うこと。これはアッラーの命令です。ムカッラフである人、すなわち知性を持ち思春期に達している人について、礼拝時に露出していること、あるいは常に他の人に見せること、他の人が見ることが禁じられた場所のことをアウラの部分と呼びます。男性のアウラはへそから膝下までで、女性は顔と手以外の全てがアウラです。
4．**イスティクバル・キブラ**：礼拝をする際にキブラの方角に体を向けることです。ムスリムのキブラは、マッカの町にあるカーバです。つまりその部分の地上から天に至るまでの空間がキブラなのです。
5．**時間**：礼拝を時間通りに行うことです。すなわち礼拝の時間に入ったことを知ること、行っている礼拝がどの礼拝かを認識していることです。
6．**ニーヤ**：礼拝を行う際に心からそれを意図することです。ただ口に出すことはニーヤとは言われません。礼拝を意図することとは、礼拝の名、時間、キブラを心で念じること、集団で行うのであればイマームに従うことを心で念じることです。ニーヤは最初のタクビールを行う際になされます。タブリークの後で行われるニーヤは有効ではなく、礼拝は認められません。
7．**イフティタフ・タクビリ**：礼拝を始める際に「アッラーフ・アクバル」ということです。この最初のタクビールをイフティタフ・タクビリと呼びます。他の言葉を語ることでこのタクビールを行うことはできません。

礼拝中のファルド（ルクン＝構成要素）

　礼拝を始めてから実行するべき5つのファルドがあります。この5つのファルドのそれぞれをルクン（構成要素）と呼びます。礼拝中のファルドは以下の通りです。

1．**キヤーム**：礼拝を始める際、実行する際に立っていることを

意味します。立てない病人は座って行います。座って礼拝できない人は寝たままで、動作をイメージしながら行います。椅子に座って礼拝をすることは許されてはいません。
2. **キラート**：声に出して読むことを意味します。礼拝で、クルアーンの章もしくは節を読むことです。
3. **ルクウ**：キラートの後、手を膝において体を前に折ることです。ルクウでは少なくとも 3 回、「スブハーナ　ラッビヤル　アズィーム」と呼びます。身を起こす際には「サミアッラーフ　リマン　ハミダ」と唱えます。起き上がったら、「ラッバナー　ラカル　ハムド」と唱えます。
4. **スジュード（サジュダ）**：ルクウの後で地に伏すことです。サジュダは続けて 2 回、手と額と鼻を地面につけることを意味します。サジュダごとに少なくとも 3 回「スブハーナ　ラッビヤル　アラー」と唱えます。
5. **カダーイ・アーヒラ**：最後のラカートでアッタヒヤートを読むまで座位を取ることです。これを最後の座位と呼びます。
　礼拝が重要なことであり、イバーダの中で最も大切であることは、条件がこれだけ多いことからも理解されます。さらに、ワージブ、スンナ、ムスタハブ、マクルーフ、ムフシドもこれらに加えるなら、しもべがアッラーの前にどのようであるべきかが理解できるでしょう。しもべは無力で弱く、哀れな被造物です。あらゆる瞬間に、自らを創造されたアッラーを必要としています。礼拝とは、しもべにその無力さを教えるイバーダなのです。
　この本では、この点に関する知識について順を追って挙げていきましょう。

礼拝の条件

ハデスからの清め：
この項では、ウドゥー、グスル、タヤンムムについて紹介します。

ウドゥーを行うこと：

　ウドゥーを行うことは礼拝のファルドの一つです。クルアーン

を手に取ること、カーバを周回すること、過失のサジュダ（ティラーワのサジュダ）を行うこと、葬儀の礼拝を行うことの為にも、ウドゥーを行うことが必要です。常にウドゥーのある状態であること、ウドゥーのある状態でベッドに入ること、ウドゥーのある状態で飲み食いすることは大きな善行です。

ウドゥーのある状態で亡くなった人にはサワーブが与えられます。預言者ムハンマドは次のように言われました。

「ウドゥーのある状態で死んだ人は、死の苦しみを味わわない。なぜならウドゥーは、信仰を持っていることのしるしである。礼拝の鍵は、体を罪から清めることである。」

「ムスリムがウドゥーを行うと、その罪が耳、目、手、足から落ちる。最後の座位では、許された人として座る。」

「善行のうち最も尊いのは礼拝である。常にウドゥーを保持する人は、ただ信者である。信者は日中ウドゥーを保ち、夜はウドゥーを行って寝るべきである。これによってアッラーの庇護を受けることになる。ウドゥーのある状態で食べ、飲んだ人の腹中では、食べ物や水がズィクルを行っている。腹中に留まっている間中、彼の為に懺悔を行う。」

ウドゥーには、ファルド、スンナ、礼儀、そして禁忌とされるもの、ウドゥーを取り消すものがあります。ウドゥーがないことを知っていながら、強制されるわけでもなく礼拝を行う人は不信仰者となります。礼拝中にウドゥーが無効となった人は、すぐに両側に挨拶を行い礼拝を中断します。時間が過ぎる前にウドゥーを行い、礼拝を最初からやり直します。

ウドゥーのファルド

ウドゥーの義務は、ハナフィー派では 4 つあります。

１．顔を一度水で洗うこと

２．両腕を肘と共に一度水で洗うこと

３．頭の 4 分の一をメスフすること、すなわち濡らした手で撫でること

４．両足をかかとと共に洗うこと

シャーフィイー派によるとニーヤとタルティブもファルドであり、顔を洗う際にニーヤを行う必要があります。水が顔に触れる前にニーヤすれば、そのウドゥーは有効とはならないのです。顔やあごの髭を洗うことはファルドです。マーリキー派では、こすり、洗うことがファルドとなります。シーア派では足を洗わず、はだしの上からメシフを行います。

ウドゥーの行い方

1. ウドゥーを始める際には次のドゥアーを唱えます。
「ビズミッラーヒル・アズィーム、ワルハムド　リッラーヒ　アラー　ディーニル　イスラーム、ワ　アラー　タウフィク　イルイーマーン、アルハムドリッラーヒッラズィー　ジャアラルマータフーラン　ワ　ジェラーレル　イスラーマ　ヌーラン[1]」
　それから、手を肘まで 3 回洗います。
右手で口に 3 回水を入れながら次のドゥアーを唱えます。
「アッラーフンマスキニー　ミン　ハウディ　ナビーヤカ　カスアン　ラー　アズマウ　バーデフ　アバーダン[2]」
右手で鼻に 3 回水を売れ、左手で中を洗います。鼻に水を入れる際には
「アッラーフンマ　アリフニー　ラーイハタル　ジャンナティワルズクニー、ミン　ニアミハー、ワラー　トゥリフニー　ライハタンナール[3]」というドゥアーを唱えます。
掌に水を入れ、額から顎の下、髭まで、顔を洗いながら次のドゥアーを唱えます。
「アッラーフンマ　バイード　ワジュヒ　ビヌーリカ　ヤウマタブヤドゥ　ヴジューフ　アウリヤーイカ　ワ　ラー　トゥサッウィド　ワジュヒー　ビ　ズヌビー　ヤウマ　タスワッドゥ　ウ

[1] 崇高なるアッラーの御名によって始めます。私たちにイスラームの教えを与えられ、信仰を恵まれたアッラーに感謝と称賛を。水を、清める者、イスラームを光とされたアッラーに感謝と称賛を。
[2] アッラーよ、一度飲んだ後、2 度と渇きを覚えない預言者の水貯めから私というしもべに一杯飲ませてください。
[3] アッラーよ、私に天国の香りを味わわせてください。そして私に天国の恵みによって糧をお与えください。地獄の香りではなく。

ジューフ　アダーイカ[4]」
左手で右腕を肘まで3回洗う時には、
「アッラーフンマ　アーティニー　キタービ＿　ビヤウミニーワ　ハスビニー　ヒサーバン　ヤシーラン[5]」
とドゥアーを唱えます。
右手で左腕を3回、肘まで洗う時には、
「アッラーフンマ　ラー　トゥティニー　キタービ＿　ビ　シマーリー　ワ　ラー　ミン　ワラーイ　ザフリー　ワ　ラー　トゥハーシブニ　ヒサーバン　シャディーダン[6]」
とドゥアーを唱えます。
両腕を洗った後、手をもう一度洗い、その水で頭を湿らせながら、
「アッラーフンマ　ハッリム　シャーリー　ワ　バシャリー　アランナール、ワ　アズィラッニー　タフタ　ズィッリ　アルシカラー　ズィッラ　イッラー　ズッル　アルシカ[7]」
とドゥアーを唱えます。
それから右手と左手の人差し指で両耳の穴に水を入れ、親指で耳の後ろを湿らせ、
「アッラーフンマジュアルニー　ミナッラズィーナ　ヤスタミウーナル　カウラ　ファ　ヤッタビウーナ　アフサナフ[8]」
とドゥアーを唱えます。
手の甲で首の後ろを湿らせながら、
「アッラーフンマ　アートゥク　ラカバティ　ミナンナール[9]」
とドゥアーを唱えます。

[4] アッラーよ、あなたの光でワリーたちの顔を白くされたように、私の顔をも白くなさってください。敵の顔が黒くなる日に、私の罪の為に私の顔を黒くなさらないでください。
[5] アッラーよ、私の記録簿を右側からお与えください。私の審判を容易にしてください。
[6] アッラーよ、記録簿を左側から、背後から与えないでください。私の審判を困難なものとなさらないでください。
[7] アッラーよ、私の肉体と髪を地獄に投げ入れないでください。影がない日、私に崇高な玉座で影をお与えください。
[8] アッラーよ、私を、話を聞いて最も良い　ものに従う者としてください。
[9] アッラーよ、私の首を炎から解放してください。

首を湿らせた後、左手の小指で右足の小指から始める形で足の指の間をも洗う形で、かかとと共に右足を 3 回洗いながら、
「アッラーフンマ　サビット　カダマイヤー　アラス　スラートゥ　ヤウマ　タズィッルー　フィヒル　アクダム[10]」
とドゥアーを唱えます。
左足を 3 回洗い、足の指の間を小指で、今度は親指から始め、小指まで洗っていく形で、かかとと共に洗いながら、
「アッラーフンマ　ラー　タトゥルドゥ　カダマイヤー　アラス　スラートゥ　ヤウマ　タトゥルドゥ　クッリ　アカダーミ　アダーイカ、アッラーフンマ　サイー　マシュクーラン　ザンビー　マーフラン　ワ　アマリ　マクブーラン　ワ　ティジャーラティラン　タブーラ[11]」
とドゥアーを唱えます。

　預言者ムハンマドは次のように言われました。「誰であれ、ウドゥーを行った後で天を向いて次のドゥアーと唱えれば、アッラーはその人の罪を許され、受け入れられ、その玉座のもとで庇護される。最後の審判の日にはこのドゥアーを唱えた人はその善行の報償を得る。『スブハーナカッラーフンマ　ワ　ビハムディカ　アシュハド　アン　ラー　イラーハ　イッラー　アンタ　ワフダカ　ラー　シャリーカ　ラカ　アスタグフィルカ　ワ　アトゥーブ　イライカ　アシュハド　アン　ラー　イラーハ　イッラッラー　ワ　アシュハド　アンナ　ムハンマダン　アブドゥカ　ワ　ワスールカ[12]』」
　あるハディースでは、「誰であれウドゥーの後で『インナー

10 アッラーよ、足が滑る日に、スラート橋で私の足を滑らないものとしてください。
11 アッラーよ、あなたの敵たちがスラート橋で足を滑らせる日に、私の足を滑らせないでください。アッラーよ、私の努力を認められるものとなさってください。私の罪をお許しください。私の行為をお認めください。私の取引を合法なものとしてください。
12アッラーよ、あなたを感謝と共に称え、賞賛します。あなた以外に崇拝されるべき存在はないこと、あなたが唯一であられること、共同で何かを行っている存在は全くないこと、そしてムハンマド（アッラーの祝福あれ）があなたのしもべであり、使者であることを証言します。

アンザルナフー』の章句を一度唱えれば、アッラーはその人を誠実である人として記録する。2 度唱えれば、殉教者として記録される。3 度唱えれば、預言者たちと共に復活する」と言われています。

　また別のハディースでは「誰であれウドゥーを行った後で私に対して 10 回祝福祈願を行えば、アッラーはその人の悲しみを取り除かれ、喜ばせられ、ドゥアーを受け入れられる」と言われています。

　ウドゥーを行う際、ウドゥーのドゥアーを知らない人は唱えなくても構いません。しかしできる限り急いで暗記し、それをウドゥーの際に唱えるようにすべきです。これは大きな善行です。ウドゥーの最後の方、そしてウドゥーを行った後で「アッラーフンマジュラルニー　ミナッタワービーン、ワジュアルニー　ミナルムタタッヒリーン、ワジュアルニー、ミン　イバーディク　アッサーリヒーン、ワジュアルビー　ミナッラズィーナ　ラー　ハウフン　アライヒム　ワ　ラーフム　ヤフザヌーン」とドゥアーをすることは大きな善行です。

　ウドゥーのドゥアーを知らない人は、それぞれの部分を洗う時にカリマ・シャハーダを唱えて大きなサワーブを得るべきです。

あなたに理性があるなら、礼拝を行いなさい
それは幸福の王冠である
礼拝は信者のミーラージュ　　であると
知りなさい

ウドゥーのスンナ

　ウドゥーのスンナは 18 項目になります。

1. ウドゥーを、「アウーズビッラーヒ　ミナッシャイターニ　ラジーム」と唱えつつ始めること。
2. 手を手首まで 3 回洗うこと。
3. 口を 3 回水で清めること、これを「マズマザ」と呼びます。
4. 鼻を 3 回水で清めること、これを「イスティンシャーク」と呼びます。
5. 眉、髭、あごひげの下に隠れた皮膚を、顔を洗う際に湿らせ

ること。
6. 顔を洗う時、眉の下を湿らせること。
7. あごひげの垂れ下がった部分を湿らせること。
8. あごひげの垂れ下がった部分の中に右手の指を櫛のように入れること。
9. 歯を、何かでこすり、綺麗にすること。ミスワークを用いることは重要なスンナです。
10. 頭のあらゆる部分を一度、湿らせること。
11. 耳を一度湿らせること
12. うなじを、3本の指で一度湿らせること。
13. 手と足の指の間を洗うこと
14. 洗う場所は、3度ずつ洗うこと
15. 顔を洗うときは心からニーヤすること。
16. 順序を守って洗うこと。
17. 洗う部分を十分に手で撫でること。
18. ウドゥーで洗うべき場所を、間隔をあけずに洗うこと。

ウドゥーの徳

ウドゥーの作法は28項目あります。
1.ここでの徳とは、行われることが善行となり、かつ行わなくても罪にはならないものを意味します。しかし、スンナを行うことはスンナであり、行わないことはハラールに近いマクルーフです。この徳のことをマンドゥーブ、もしくはムスタハブとも言います。ウドゥーの徳は次の通りです。
2.礼拝の時間に入る前にウドゥーを行うこと。(差し障りのある状態の人は、時間に入ってからウドゥーを行うことが必要です)
陰部の洗浄を行う際にはキブラが右もしくは左側に来るようにすること。ウドゥーを損なうことを行う際には、キブラが前もしくは後ろに来るようにすることはハラームに近いマクルーフです。
3.ナジャーサ(汚物)が付着していれば水で清めること。
4.水で清めた後、布で拭くこと。
5.洗浄を行う際にはアウラの場所をすぐに覆うこと。
6.他者の助けを求めず、自分でウドゥーを行うこと。
7.キブラの方角に向かってウドゥーを行うこと

8.それぞれの器官を洗う際にカリマ・シャハーダを唱えること。
9.ウドゥーのドゥアーを行うこと。
10.口に右手で水を入れること。
11.鼻に右手で水を入れること。
12.鼻を左手で清めること。
13.口を洗う際にミスワークで歯を清めること。
14.口を洗う時に、断食中でなければ口をゆすぐこと、軽くうがいをすることはウドゥーでもグスルでもスンナです。断食中はマクルーフです。
15.鼻を洗う際には、水を骨の近くまで入れること。
16.耳を湿らせる際に一つの指を耳の穴に入れること。
17.足の指の間を洗う時には、左手の小指で洗うこと。
18.手を洗う時には、緩い指輪であれば動かすこと。きつい、ぴったりした指輪を動かすこ 19.とは欠かせないことであり、ファルドです。
20.水が豊かにあったとしても浪費しないこと。
21.水を、油を塗るかのように少しだけ使うこと。(3 回洗う場所から、少なくとも 2 滴の水がしたたる必要があります)
22.容器の水でウドゥーを行ったのであれば、その容器をいっぱいにしておくこと。
23.ウドゥーが終わった時、あるいはそのなかばで「アッラーフンマジュアルニー　ミナッタワービーン」のドゥアーを唱えること。
24.ウドゥーの後で「スブハー」すなわち 2 ラカートの礼拝を行うこと。
25.ウドゥーがある状態でウドゥーを行うこと、すなわち礼拝を行った後、まだウドゥーがあるうちに、次の礼拝の為にもう一度ウドゥーを行うこと。
26.顔を洗う時にまぶたやまつげを清めること。
27.顔、腕、足を洗う際、ファルドである場所よりも少し広い範囲を洗うこと。(腕を洗う際、手のひらに水を一杯に満たし、それを肘までかけるべきです)
28.ウドゥーを行う時には、使った水を服や体、頭に撥ねさせな

いこと。
自らの学派でマクルーフではなく、他の学派ではファルドであるものがあれば、それを行うことはムスタハブです。

ウドゥーを行う際に禁じられている事柄

ウドゥーを行う際にやってはいけない事柄は 12 個あります。これらを行うことはハラームもしくはマクルーフです。
1.野外でウドゥーを損なうようなことをする場合には、キブラの方角を前もしくは後ろにしないこと。
2.陰部の洗浄の為に他者の前でアウラの場所を見せることはハラームです。
3.右手で洗浄を行ってはいけません。
4.水がない時に、食べ物で、肥料で、骨で、動物のエサで、炭で、そして他の人の持ち物で、植木鉢で、タイルのかけらで、葦で、葉で、あるいは布や紙で洗浄を行うことはマクルーフです。
5.ウドゥーを行う際に水槽につばを吐いたり、鼻水を入れたりしてはいけません。
6.ウドゥーの場所を、その範囲よりも過度に広く、あるいは狭く洗ってはいけません。あるいは 3 回よりも少なく、もしくは多く洗ってはいけません。
7.ウドゥーの場所を、洗浄で用いた布で拭いてはいけません。
8.顔を洗う時には、水を顔にかけるのではなく、額の上から下方に向けて流すべきです。
9.水に息を吹きかけてはいけません。
10.口と目をきつく閉じてはいけません。唇の外から見える部分と瞼に、湿らされていない箇所がわずかでも残っていれば、ウドゥーは有効となりません。
11.右手で鼻を洗ってはいけません。
12.頭、耳、うなじの一つ一つについてはそのたびごとに手を濡らし、一度以上まとめて湿らせてはいけません。毎回濡らすことなく繰り返すことができます。

ミスワークを用いること：ウドゥーを行う際にミスワークを用いることはムアッカダのスンナです。ハディースでは、「ミスワー

クを用いてから行われる礼拝は、ミスワークを用いないまま行われる礼拝よりも 70 倍崇高である」とされています。

「シラージュ・ウル・ワッハージュ」という書物では、ミスワークを用いることに 15 の効用があることが示されています。

1.死の瞬間に、シャハーダの言葉を唱える要因となります。
2.死肉を強くします。
3.痰を取り除きます。
4.胆汁酸を止めます。
5.口内の痛みを取り除きます。
6.口臭を取り除きます。
7.アッラーが喜ばれます。
8.頭部の欠陥を強めます。
9.シャイターンが恐れます。
10.目が輝きます。
11.善行が増します。
12.スンナに従って行動したことになります。
13.口がとても清潔になります。
14.美しい言葉を話すようになります。
15.ミスワークを用いて行われる 2 ラカートの礼拝のサワーブは、ミスワークを用いずに行われる 70 ラカートの礼拝よりもなお多くなります。

ミスワークは、アラビア地方に育つアラックという木の枝です。まっすぐな枝の先端から 2 センチ余りの部分の皮をむき、ここを 2 時間ほど水につけておきます。それからそれをつぶすと、ブラシのように開きます。アラックの木がなければ、オリーブの木で作られます。女性はミスワークの代わりに、ミスワークを用いるというスンナをニーヤしつつ、樹脂を用いるべきです。

ウドゥーを行う際に注意すべき事柄

やむを得ない事情がない限り、以下の 10 の事柄に重きを置く必要があります。

1.両腕に支障がある場合は、タハーラは行えません。腕を土に、顔を壁につけてタヤンムムを行います。顔にも傷がある場合は、

礼拝をウドゥーのない状態で行い、礼拝を放棄することはしません。
2.病気である人には、その妻、女奴隷、子供、兄弟がウドゥーを行わせます。
3.石やそれに類したものでタハーラを行うことは、水の代わりとなります。
4.精神疾患がある、もしくは気絶した人が24時間以内に意識を取り戻さなければ、復活した場合もカダーは行いません。寝ながらイメージに依って礼拝することもできない重病が 24 時間以上継続した人は、知性が伴っていたとしても礼拝は免除されます。
5.トイレに入る為に、専用のシャルワールを着用すること、頭を覆って入ることはムスタハブです。
6.トイレに入る際、手にアッラーの御名やクルアーンが書かれたものを携えていてはいけません。何かに包まれた状態が、ポケットの中に入れておくべきです。
7.トイレには左足から入り、右足から出るべきです。
8.トイレではアウラの箇所を十分に開くべきです。また話してはいけません。
9.アウラの箇所と汚物をみてはいけません。またトイレにつばを吐いてはいけません。
10.あらゆる水、モスクの壁、墓、道に排泄を行ってはいけません。

ウドゥーを無効とする事柄

7つの事柄はウドゥーを無効とします。
1.体の前後から出るもの
2.大小の排泄とおなら
3.浣腸器具の先端や人の指が肛門に出し入れされ、周囲が湿った場合、ウドゥーは無効となります。乾いたままの場合も、再びウドゥーを行うことがなお良い　です。
4.男性及び女性が、尿をこぼさない為に置いた綿の外側の部分が湿った場合は無効となります。
5.口から出る汚物、口いっぱいの嘔吐、つばを吐いた時に血がつばより多く混じった時、胃や腸から来る液状の血は、イマーム・

アザームによると少量でもウドゥーを無効にします。
6.耳に入れられた油が口から出た時にはウドゥーが無効になります。
3．皮膚から出るもの
A)　血や膿、黄色の液体がそれだけで出た場合。
B)　天然痘患者、及びあらゆる吹き出物から出る血液、膿がグスルの際に洗うべき場所に広がった場合、例えば鼻血が骨を浸透した場合、耳から出る血が、耳の穴から出た場合。
C)　吹き出物や傷の血、膿を綿に吸わせた時。
D)　ミスワークやつまようじの血が口に入った場合。
E)　耳、へそ、乳首から痛みもしくは病気により液体が出ている場合。
F)　ヒルが大量の血を吸った場合
以上の場合には、ウドゥーが無効となります。

眠ること
　横になって、あるいは肘をついて、あるいは何かにもたれて眠った時には、ウドゥーが無効となります。
気絶すること、発狂すること、てんかん発作を起こすこと、歩くときに揺れてしまうくらい酔うことはウドゥーを無効とします。
ルクウやサジュダを伴う礼拝で声を出して笑うことは、礼拝もウドゥーも無効とします。しかし子供の場合は無効とされません。
礼拝の際の微笑は、礼拝もウドゥーも無効とはしません。他の人がその声を聴いた時には「声を出して笑う」と判断され、声を聞かなかった場合は「微笑」とされます。
裸になり、醜い場所に手を触れることは男性でも女性でもウドゥーを無効とします。
　ウドゥーを行ったことを認識しており、その後、無効になった不安があれば、ウドゥーはあると認められます。ウドゥーが無効となったことを認識し、それからウドゥーをしたかどうか不安になった場合は、ウドゥーを行うことが必要です。

ウドゥーを無効としない事柄
　以下の事柄はウドゥーを無効とはしません。

口、耳、皮膚の傷から出たウジ虫。
痰を吐くこと。
血を吐いた時に出た血が、つばよりも少ない場合。
歯から出た血が、つばよりも少ない場合。
頭からでる固まった血（量が多い場合も）
血や腸から出る固まった血が、口いっぱいよりも少ない場合。
耳に入れられた薬が耳もしくは鼻から出た場合。
鼻に吸い込まれたものが何日も後に鼻から出てきた場合。
何かを噛んだ時に、そこに血が付いた場合。
痛みがなく、何らかの原因で泣いた時、あるいは玉ねぎ、煙、ガスなどの影響で涙が出た場合。
女性が子供に授乳した場合。
大量であっても、汗をかいた場合。
ハエ、カ、ノミ、ワラジムシのような虫が大量に刺した場合。
少量であり広がらない血、もしくは口いっぱいにはならない程度の嘔吐。
眠っている時、もたれているものを取り除いても寝ている人が倒れない場合。
礼拝中に眠ること。
膝を揃え、頭を膝の上において眠った場合。
足を一方に引いて、座ったままで眠ること。
裸の動物の上で眠り、動物が坂を昇っているか、平らな場所を進んでいる場合。
礼拝中に微笑むこと。
礼拝中に笑ったことを自分だけが聞いた場合、「ダフク」と呼ばれます。ダフクは礼拝のみを無効とします。
髪、ひげ、あごひげ、爪を切ること。
傷口のかさぶたがはがれること。
以上の場合には、ウドゥーを無効とはしません。

ウドゥーの為の容易さ（メストもしくは傷口の上からのマスフ）

　マスフとは、撫でることを意味します。メストには２種類あります。
メストの上からのマスフ

メストは、足の洗うべき部分を覆う、水を通さない靴を意味します。メストが大きく、指がメストの端にまで届いていない場合、マスフが何もない場所になされる場合は、それは認められません。メストは、一時間道を歩いても足から外れない位、きっちりとして足にフィットしていることが必要です。

足の裏と足の甲、もしくは足の裏だけが皮で覆われた靴下の上からマスフを行うことは認められています。

伸びておらず、歩くときに下に落ちない靴下の上からマスフを行うことも認められています。

メストは、ウドゥーを無効とするものが足につくことを防ぐものです。足を洗った後、メストを着用すること、それからウドゥーを行うことは認められています。

マスフはメストの上から行われます。メストの下、すなわち足の裏はマスフすることはありません。

スンナに従ってマスフをする為には、右手の親指を右のメストの上に、左手の指を左手のメストに沿わせ、足の指の方から足首の方へと引きます。手のひらはメストに触れさせません。マスフは3本の手の指の幅、そして長さがあることがファルドです。

マスフは手の外側で行うことも認められていますが、内側で行うことがスンナです。

濡れた草の上を歩くこと、あるいが雨によってメストの表面が濡れれば、マスフと見なされます。

メストの上からマスフできる時間は、定住者の場合 24 時間です。旅行者の場合は 3 日 3 晩、すなわち 72 時間です。この時間は、メストを着用した時からではなく、メストを着用後にウドゥーが無効になった時から始まります。メストを着用した人のウドゥーが無効となってから 24 時間以内に旅に出る場合、このメストで 3 日 3 晩マスフすることができます。旅行者であったのが定住者となり、それから 24 時間が経過しているのであれば、メストを脱ぎ、足を洗ってウドゥーを行います。

足の指 3 本分が入るほどの破れがあるメストの上からマスフを行うことが認められません。破れがそれより小さければ、マスフは認められます。一つのメストの数か所に小さな破れがある場合は、これらを合わせた時に 3 本の指ほどになるのであれば、これ

でマスフを行うことは認めらせません。一つのメストに指 2 本分、もう一つのメストにも指 2 本が見えるほどの破れがある場合、これでマスフを行うことは可能です。マスフが認められない破れとは、3 本の指の先端のみではなく、全てが見えるものです。

傷や包帯の上からのマスフ

傷、吹き出物、皮膚のひび割れ、あかぎれなどの上から、あるいはそこに塗られた軟膏、綿、ガーゼ、絆創膏、包帯といったものを外すこと、取り除くことが傷にとって有害であれば、その上からマスフを行います。

差し障りがある人であれば、礼拝の時間を問わずいつでもウドゥーを行うことができます。ここで得られたウドゥーで、好きなだけのファルドとナーフィラの礼拝を行い、クルアーンを読みます。礼拝の時間が過ぎるとウドゥーが無効になります。礼拝の時間になってから新たにウドゥーを行い、この時間が過ぎるまで、あらゆるイバーダを行うことができます。

差し障りがある状態となる為には、ウドゥーを無効とする事柄が継続的に存在していることが必要です。つまり、何らかの礼拝の時間の中でウドゥーを行い、ファルドの礼拝を行うだけの時間であってもウドゥーを維持することができない人は、差し障りがあるという状態になります。差し障りがある人の「差し障り」は、次のそれぞれの礼拝の時間内で一度でも、少しでもみられる場合、その差し障りが継続していると見なされます。

グスル

礼拝が正しいものとなるために、ウドゥーとグスルが正しいものであることが必要です。ジュヌーブ（性交や夢精により洗浄が必要な状態）の男女、または月経や産褥の状態から抜け出した女性が、礼拝の時間の終わりまでの間にその礼拝を行うだけの時間がある場合、グスルを行うことが必要です。

預言者ムハンマドは次のように言われました。「グスルを行おうとしている人に、その毛の数だけ（すなわち、非常に多くの）サワーブが与えられる。たくさんの罪が許される。天国での位階

が高められる。グスルの為に彼に与えられるサワーブは、この世界にある全てのものよりもなお尊い。アッラーは天使たちに、『このしもべを見なさい、夜、嫌がらずに起き、私の命令を考え、ジュヌーブの状態からグスルを行っている。証人になりなさい、私はこのしもべの罪を許した』と言われる。」

別のハディースでは、「穢れた時にすぐにグスルを行いなさい。なぜならキラーマン・カーティビーンの天使たちはジュヌーブの状態の人に傷つく」と言われました。イマーム・ガザーリーは次のように言われました。「誰かが、夢で私に言った。『私は一定の時間、ジュヌーブのままだった。今、私は火のシャツを着せられている。いまだに炎の中にいる。』」

別のハディースでは、「家、犬、そしてジュヌーブの状態の人がいる家には、慈悲の天使は入らない」と言われています。

礼拝を行う、あるいは行わない人でも、一つの礼拝の時間をジュヌーブの状態で過ごせば、厳しい罰を受けます。水で洗うことが不可能であれば、タヤンムムを行うべきです。ジュヌーブである人は次のことを行うことができません。
どの礼拝も行うことはできません。
クルアーンやその章句に手を触れることはできません。
カーバの周回を行うことはできません。
モスクや礼拝所に入ることはできません。

グスルのファルド

ハナフィー派によると、グスルのファルドは３つあります。
口の中を洗うこと。口の中に、針の先ほどでも濡らされていない場所が残れば、歯の上や歯の穴が濡らされなければ、グスルにはなりません。
鼻を洗うこと。鼻の中にある乾いた汚れの下まで、あるいは口の中にある噛まれたパンの下まで水が通らなければ、グスルにはなりません。ハンバリー派では、口と鼻を洗うことはウドゥーでもグスルでもファルドです。シャーフィー派では、グスルを行う際にニーヤをすることがファルドです。
体の全ての部分を洗うこと。へその中、ひげ、まゆ、口ひげ、その下の皮膚、そして髪を洗うことがファルドです。爪、唇、まぶ

た、あるいは体のどこかに水が通っていない物質があれば（例えば、爪にマニキュアがあれば）グスルを行ったことにはなりません。

グスルのスンナ
まず手を洗うこと。
陰部を洗うこと。
体全体を汚れから清めること。
グスルより前にウドゥーを行うこと、顔を洗う際にグスルをニーヤすること。シャーフィー派ではニーヤを行うことはファルドです。
全身を3回、手でこすりながら洗うこと。
全身を洗った後で、両足を洗うこと。

グスルの行い方
スンナに従ったグスルは、次のように行われます。
まず、綺麗であったとしても、両手と陰部、そして体の中で汚れがある部分を洗います。
それから、完全なウドゥーを一度行います。顔を洗う時にはグスルをニーヤします。足の下に水がたまるのであれば、足も洗います。
それから全身に3度水をかけます。まず3度頭に、それから右肩に、それから左肩にかけます。水をかけるごとに、その部分が完全に濡れる必要があります。一度目にかけた時にはそこをこすります。
　グスルで一つの部分にかけられた水が他の部分に流れた場合、その部分も清められます。なぜならグスルでは全身が一つの部分と見なされるからです。ウドゥーの際には、ある部分にかけられた水が他の部分に流れた場合、洗ったことにはなりません。グスルが完了した後、再びウドゥーを行うことはマクルーフです。しかしグスルを行っている時にウドゥーが無効となれば、再びウドゥーを行うことが必要です。

詳細（詰め物やかぶせ物をした歯がある人）

ハナフィー派では、歯の間や歯の穴が濡らされなかった場合、グスルは完了しません。この為、歯にかぶせ物をしたり、詰め物をしたりした場合は、グスルは正しく行われません。人はジュヌーブの状態から逃れられなくなります。金、銀、そして穢れていない他の物質でできたかぶせ物、詰め物の下に水が通らない場合、ハナフィー派の学者の全てによると、グスルは認められません。

タフタウィーは「マラークル・ファラーフ」の注釈、96ページで、さらにはその翻訳文である「イスラームの恵み」という本で、次のように記しています。

ハナフィー派の人は、自分の属する学派ではできないことを実行する為に、シャーフィー派に従うことができます。「バフル・ウル・ラーイク」と「ナフル・ウル・ファーイク」という書物でもそのことが書かれています。しかしそれを行う際には、その学派の条件にも従うことが必要です。努力、苦労をせず、条件に従うこともなく真似をすることは「ムラッフィク」と呼ばれ、簡単なものばかりを集めるという意味になります。これは認められるものではありません。

自分の属する派で、何らかのファルドを行うことができない人は、このファルドを行う為だけに、他の学派の模倣をするべきです。しかし、それを行う際には、模倣したその派の条件にも従うべきです。かぶせ物や詰め物をしているハナフィー派の人は、マーリキー派もしくはシャーフィー派を模倣する為に、グスル、ウドゥーを行う際、礼拝をニーヤする際、イマーム・マーリクもしくはイマーム・シャーフィーに従うことを思い出すことが必要です。つまりグスルを始める際、「グスルを行うこと、マーリキーもしくはシャーフィー派に従うことをニーヤしました」という言葉を心で唱えた人のグスルは、正しいものとなります。ジュヌーブの状態から逃れ、清められるのです。マーリキーもしくはシャーフィーの学派に従うことで、ウドゥーと礼拝が正しいものとなります。かぶせ物や詰め物をしていない人々の前で礼拝を先導することもできます。

シャーフィー派の模倣をする人は、イマームの後ろでファーティハ章を読むこと、自分もしくは他者の陰部に手の平で触れた

時、そして婚姻することがハラームである 18 通りの女性を除く女性の皮膚に自分の皮膚が触れた場合にはウドゥーを行い、またウドゥーではニーヤを行い、わずかな汚れでも避けることが必要です。クルアーンに触れる際にはシャーフィー派に従ってウドゥーを行うことが必要です。ハナフィー派である旅人がシャーフィー派を模倣してズフルとアスルの礼拝をずらして一緒に行う為には、シャーフィー派に従ったウドゥーを行うことが必要となるのです。

女性の月経と産褥

グスルには、11 種類があります。このうち 5 つはファルドです。このうち 2 つは、女性の月経や産褥が終わった時に行うものです。

イブニ・アービディーンは「マンハル・ウル・ワーリディーン」という書物で次のように語っています。

法学者の総意によって、全てのムスリムの男女がイルミハルを学ぶことがファルドであることが示されています。全てのムスリム女性が月経や産褥についての知識を得ることはファルドです。全てのムスリム男性は、結婚する際に月経や産褥について学ぶことが必要です。結婚したら妻にも教えるべきなのです。

月経とは、8 歳を満了し、9 歳になった健康な少女、もしくは月経期間の最後の瞬間から 15 日が経った女性に生じる、少なくとも 3 日間続く出血を意味します。

白色以外のあらゆる色、そして濁ったものを月経の血と呼びます。女の子は、月経が起こるようになると思春期に達したことになり、女性と見なされ、イスラームの教えや命令に従う責任を負います。血が見られた瞬間から見えなくなった日までの日数を生理期間と呼びます。この期間は最短で 3 日、最長で 10 日です。女性それぞれが自分の生理期間や時間を把握することが必要です。8 歳を満了した女の子には、母親や、もしいなければ祖母や姉、叔母などが、月経や産褥についての知識を教える必要があります。

ニファースとは産褥のことであり、産後の女性に見られる出血を意味します。この出血の最短期間というものはありません。出

血が止まり次第すぐにグスルを行います。最長期間は 40 日となります。40 日が過ぎれば、出血が止まっていなくてもグスルを行って礼拝を開始します。40 日以降に出る血はイスティハーザ、すなわち「差し障り」となります。女性は産褥の日についても覚えておく必要があります。

イスティハーザは、3 日すなわち 72 時間から 5 分でも短い出血、あるいは新しく始まった人については 15 日、それ以外の人については 10 日を超える出血、そして妊婦や 55 歳以上の女性、9 歳以下の女の子に見られる出血です。これらの出血は病気のしるしです。長い期間続く場合は危険であり、医者に行くことが必要です。

イスティハーザの状態の女性は、しばしば鼻血が出る人と同様に、その状態で礼拝を行い、断食をすることもできます。

月経、産褥状態にある女性は礼拝ができず、断食をすることもできません。過失のサジュダ、感謝のサジュダを行うこともできません。クルアーンに触れることはできません。モスクや礼拝所に入ることはできません。その状態が終われば、断食をカダーしますが、礼拝のカダーは行いません。女性は月経がはじまったことを夫に知らせることが必要です。預言者ムハンマドは、「月経がはじまったこと、終わったことを夫から隠す女性は呪われる」と言われました。月経や産褥の出血が止まれば、すぐにグスルを行って洗浄することがファルドです。これはアッラーのご命令です。

婚姻の終わり、すなわち離婚の要因となる多くの言葉があります。信仰が失われることを恐れるように、婚姻が終わることをも深く恐れるべきです。「イルミハル全集」の 585 ページを参照してください。

アッラーはその報復を、やはりしもべによって行われる
知らない者は、しもべがやったと考える
全ての物質は創造主のものであり、しもべの手を通して営まれる
アッラーのご命令がない限り、ごみですら微動だにしない

タヤンムム

タヤンムムとは、土で清めることを意味します。ウドゥーを行

う、もしくはグスルを行う為の水が見つからない場合、あるいは水があったとしてもそれを用いることが不可能である場合、きれいな土、砂、レンガ、石のような、土に属する清潔なもので、ハナフィー派においては礼拝の時間に入る前にもタヤンムムを行うことができます。それ以外の学派では礼拝の時間の前に行うことは認められていません。

タヤンムムはウドゥーやグスルを容易にするための規定です。イスラームでは、土で行うタヤンムムも、水での清浄のようであると見なされます。イスラームは多くの汚れが土によって清められることを明白に教えています。

タヤンムムを必要とする状態は主に次のようなものです。

1．ウドゥーやグスルの為の水が見つからないこと（町の中では常に水を探すことがファルドです）。
水を用いる事の妨げとなる病気、水を使った場合にその冷たさから死亡する、もしくは病気になる危険があること。
水のそばに敵、もしくは獰猛な、あるいは毒を持った動物がいること。
牢獄におり、水を使えないこと。
死を以て脅迫されること。
旅行者であり、飲用水以外携えていないこと。
井戸から水を汲むことができないこと。

タヤンムムのファルド

タヤンムムのファルドは3つです。ウドゥーを行う為とグスルを行う為のタヤンムムは同じです。ただニーヤが異なります。ウドゥーの為になされるニーヤでグスルをおこなうことはできません。同じタヤンムムがグスルの為にも有効となる為には、グスルの為にニーヤをすることが必要です。

1.ニーヤを行うこと。
2.両手を清潔な土につけ、顔全体を撫でること。
3.手を清潔な土につけ、まず右、それから左の腕を撫でること。

タヤンムムのファルドは2つであると言う人もいます。2つめと3つめのファルドを一つのファルドとして見なしているのです。どちらも正しいものです。

タヤンムムのスンナ
バスマラによって始めること。
土に手のひらをつけること。
手のひらを土の上で前後に動かすこと。
手のひらに土がついていれば、それがなくなるまで両手を親指も含めて叩き合わせること。
手を土に置く時には指を開くこと。
まず顔、それから右腕、それから左腕を湿らせること。
ウドゥーを行うように、迅速に行うこと。
腕や顔に触れられていない場所を残さないこと。
タヤンムムより前に、考えられる場所で水を探すこと。
手を土に、叩きつけるように強く置くこと。
腕を、上記の通りに湿らせること。
指の間を湿らせること、それを行う際には指輪を動かすこと。

タヤンムムで注意すべき事柄
ウドゥーのない人が、生徒に示す目的でタヤンムムをした場合は、それで礼拝を行うことはできません。
タヤンムムに依って礼拝を行う為には、ただタヤンムムをニーヤするだけでは不十分です。礼拝についてもニーヤする必要があります。
一か所の土で数人がタヤンムムを行うことができます。なぜならタヤンムムがなされる土やそれに類するものは使用済みとはならないからです。タヤンムムが終わってから、手や顔から落ちた土は使用済みのものとなります。
シャーフィー派やハンバリー派では、タヤンムムはただ土でのみ行われます。他の学派では、土と同じような種類である清潔なものであれば、これらの粉はなかったとしても、タヤンムムは行えます。燃えて灰になる、もしくは熱で溶けるものは土の種類ではありません。従って、木、草、板、鉄、米、ペンキ、塗装された壁、銅、金、ガラスなどでタヤンムムはできません。砂ではできますが、真珠や珊瑚ではできません。石灰、漆喰、磨かれた大理石、セメント、素焼きのタイル、素焼きの陶器、陶磁器、泥では行うことができます。ただ泥しかなく、水が半分以下であれば、

それでタヤンムムを行うことができるのです。
一つのタヤンムムで数種類の礼拝を行うことは認められません。
2 キロ以下の距離のところに水があるという兆候が認められる、あるいは知性を持ち成熟した公正なムスリムの報告によって強く期待できる場合、旅行者はあらゆる方向に 200 メートル進み、あるいは誰かを派遣してそれを探すことがファルドです。期待できない場合は水を探すことは不要です。
誰かが、水の有無を訊ねずにタヤンムムを行って礼拝を行い、後でそばにいる公正な人から水が存在することを聞いた場合、ウドゥーを行って礼拝をやり直します。
2 キロ以上遠くに水がある時には、タヤンムムで礼拝を行うことが認められます。
荷物の中に水があることを忘れた人は、町や村にいるのでなければ、タヤンムムで礼拝を行うことができます。
水が終わったと思い込んだ人が、礼拝の終了後に水があることに気が付いた場合、タヤンムムで行った礼拝をやり直します。
旅行者が近くにいる人に水を求めることは認められています。彼らが水を与えないのであれば、タヤンムムで礼拝を行います。友達がその水を市場での値段で売るのであれば、余分なお金を持つ旅行者はそれを購入することがファルドです。その持ち主が高値で売るのであれば、タヤンムムで礼拝を行うことが認められます。市価であってもそれを買うだけの余分のお金がなければ、やはりタヤンムムを行います。
砂漠では、道中に飲む為の水がある状態で、タヤンムムを行うことができます。
水が少なければジュヌーブである人が優先され、月経中の女性、ウドゥーのない人、遺体よりも先に洗われます。持ち主が別々である水を一か所に集めたのであれば、まず遺体が洗われます。
ジュヌーブである人は、タヤンムムを行った後でウドゥーが無効になった場合、ジュヌーブの状態とはなりません。水が少しあれば、ただウドゥーを行います。
ジュヌーブである人の体表の半分以上が傷、もしくは天然痘、はしか等であれば、タヤンムムを行います。皮膚の多くが健康な状態であり、傷の部分を濡らすことなく洗浄することが可能であれ

ば、グスルを行います。傷の部分を濡らすことなく洗浄することが不可能であれば、タヤンムムを行います。

タヤンムムはどのように行うか

まず、ジュヌーブである状態、もしくはウドゥーのない状態から清められる為にニーヤをします。

タヤンムムで礼拝を行う為には、ただタヤンムムにニーヤをするだけでは不十分です。イバーダである何か、例えば葬儀の礼拝、過失のサジュダを行う為に、もしくはグスルの為にタヤンムムを行うなどとニーヤすることが必要です。

タヤンムムをニーヤする際には、ウドゥーとグスルを区別することが必要です。ジュヌーブの状態から清められることをニーヤする人は、タヤンムムを行ったことで礼拝をすることはできません。ウドゥーの為にもう一度タヤンムムが必要です。

肘より上の部分まで袖をまくって両腕を出し、両手のひらを清潔な土、石、石や漆喰で覆われた壁につけ、少なくとも 3 本の指を触れさせ、両手のひらで顔を撫でます。針先ほどの場所であれ手のひらの触れていない箇所があれば、タヤンムムは無効となります。

顔に完全に触れる為に、手を広げ、4 本の指を揃え、両手の長い指の先を互いに触れさせ、手のひらを髪の部分に置き、あごへと少しずつ下ろしていきます。指を水平にして額、まぶた、鼻の両脇、唇と顎の顔側の部分に十分に触れていきます。この時、手のひらは頬に触れています。

両手を再び土につけ、手をはたき、砂や土をはたいた後、まず左手の 4 本の指の腹で右腕の下側を、指の先から肘へと触れさせます。それから左手の親指の腹で右の親指の外側に触れます。指輪は外します。それから同様に右手で左腕を触れます。手のひらを土につけることが必要なのであり、土や砂が手につくことは必要事項ではありません。

タヤンムムは、ウドゥーとグスルで同じ手順です。

タヤンムムを無効とする事柄

タヤンムムを必要とする特別な状況がなくなったり、水が見つ

かったりした場合、そしてウドゥーやグスルを無効とする状態となった場合、タヤンムムも無効となります。

ウドゥー、グスル、タヤンムムの効用

イバーダの目的で行われる清浄は、体の健康増進にも効果的です。肉体的な効用と共に、精神的な面からも多くの効用があります。確認されている無数の効用のうちいくつかを、次のように列挙ことができます。

日常世界において、私たちの手が触れない場所はなく、即ち無数の細菌と接触していると言えるでしょう。ウドゥーを行う際に手、顔、足を洗うことは、皮膚病や炎症の最善の予防策です。というのも、細菌、寄生虫、バクテリアの一部は、皮膚を通して体に取り込まれるためです。

気管支系の門番である鼻を洗うことで、砂や細胞の塊が体に入ることを防ぎます。

顔を洗うことは皮膚を強くし、頭痛や疲労感を和らげ、血管や神経を活発化させます。継続的にウドゥーを行う人が年をとっても顔の美しさを失わないのはその為です。

ジュヌーブの要因となる行為では、大きなエネルギーが費やされ、心拍や脈拍が早まります。体が過度に働くことによって、疲労感、だるさ、脱力感、緩みなどが生じます。グスルによって体が本来の生気を取り戻すことができます。

通常、私たちの体には静電気のバランスがあります。体の健康はこの電気バランスと密接な関係があります。このバランスは、心理的緊張、気候条件、服装、生活、仕事、そしてグスルを必要とする状況によって崩れます。この電気的な負荷は、怒りに満ちている状態では通常時の 4 倍、グスルを必要とする状態では 12 倍となります。近年、赤外線によって特殊な方法で外皮を撮影することが可能となり、それによると性的交渉後は全身の体表が過度の静電気層で覆われていることが確認されています。この層は、皮膚が酸素をやりとりすることを妨げ、皮膚の変色やしわの原因となります。この状態から脱する為に、針先ほどの場所すら残さず、全身をくまなく洗うことが必要なのです。これによって水の粒子が不要な静電気を取り去り、体を以前の状態へと戻すので

す。この観点から、グスルは医学的にも必ず実行されるべき清浄なのです。
ウドゥーやグスルは、循環系にも肯定的な影響を与えます。血管の硬化や狭窄を防ぎます。ウドゥーは部分的に刺激を与えることが可能で、リンパ系は、最も重要な中枢の一つである鼻の後ろと扁桃腺を洗うことによって刺激されます。さらに首やその側面を洗うことによってもリンパ系に影響を与えることができます。ウドゥーとグスルによってリンパ循環の流れが改善され、リンパ球と呼ばれる戦う細胞が体を有害な物質から守り、体の抵抗力を高めます。
水がない時に土で行われるタヤンムムも、体の静電気を大きく消失させます。

ナジャーサからの清め（タハーラ）

　体、衣装、礼拝をする場所に、ナジャーサ、即ち汚れがないことを意味します。スカーフ、かぶりもの、ターバン、マスト、サンダル等も衣装とみなされます。首に巻いたマフラーの先端の部分も、礼拝をしている人と共に動く為に衣装と見なされ、それが清潔でない場合の礼拝は認められません。敷物は、踏んでいる場所と頭をつける場所が清潔であれば、他の場所に汚れが付いていても礼拝は認められます。なぜなら敷物はマフラーのように体と一体化はしていないからです。しかし、蓋付きの瓶に入った尿を携えている人の礼拝は認められません。なぜなら、ビンは尿が作られる場所ではないからです。（ここから、密閉された香水、エチルアルコール、ヨードチンキのビン、もしくは閉じられた箱に入っていた血のついたティッシュ、汚れた布などがポケットに入っていれば、礼拝を行うことは認められないということがわかります。）両足が踏む場所、そしてサジュダを行う場所が清潔であることが必要です。汚れの上を覆う布、ガラス、ナイロンの上での礼拝は認められます。サジュダで服の裾が渇いた汚れに触れても、害はありません。
　皮膚、衣装、礼拝を行っている場所で、「ディルハムの量」、もしくはそれ以上の大きな汚れがなければ礼拝は認められます。しかしディルハムの量があれば、ハラームに近いマクルーフとなり

ます。それを洗うことはワージブです。ディルハムよりも多ければ、洗うことはファルドとなり、少なければ、スンナです。アルコールの滴についても、洗うことがファルドとなります。イマーム・アブー・ユースフとイマーム・ムハンマドによるなら、そしてその他の 3 つの学派によるなら、全ての大きな汚れは、その微粒子であれ洗うことがファルドです。ナジャーサの量はそれが接触した時点ではなく、礼拝を行う時点の量となります。

ディルハムの量とは、固形の汚れであれば１ミスカル、すなわち４．８グラムの重さになります。液体の汚れであれば広げた手のひらに入る水の表面だけの面積です。１ミスカルよりも少ない固形の汚れが、手のひらよりもより広い面積に広まって服についていたとしても、礼拝を妨げることはありません。

ナジャーサには 2 種類あります。

大きいナジャーサ：人から排出された際にウドゥーやグスルへの要因となる全て、肉を食べることのない動物（蝙蝠以外）の、剥がれて鞣された皮、肉、糞、尿。それから、人、家畜、羊やヤギのものを含む全ての動物の糞は大きなナジャーサとなります。

小さいナジャーサ：小さいナジャーサであるものが、身体の部位や衣装の一部についた場合、この部分もしくは部位の４分の１までは礼拝に害を与えません。食用肉とする種の 4 本足の動物の尿、食用肉としない種の鳥の糞は小さなナジャーサです。ハト、スズメといった食用肉とする種の鳥の糞は、きれいなものとされます。

ワインの蒸溜によって作られたラク、エチルアルコールも大きなナジャーサであり、ワインと同様ハラームです。礼拝を行う際には、血、エチルアルコールやアルコール飲料を服や肌から洗い、取り除く必要があります。蒸発することによっては清められません。これらが入っているビンやそれに類するものはポケットから取り出さなければなりません。

ナジャーサは、清潔な水、ウドゥーやグスルを行った水、酢やバラ水のような液体で清められます。ウドゥーやグスルに用いられた水はムスタマルの水と呼ばれ、清潔です。ただ、根本的に清めるものではありません。これによって汚れを落とすことはできます。しかし、ウドゥーを行ったりグスルを行ったりすることは

できないのです。

イスティンジャー：前後から排泄物が出た時、その場所を清めることをイスティンジャーと言います。イスティンジャー、すなわちタハーラは、ムアッカダのスンナです。つまりトイレでウドゥーが無効になった後、男性、女性が石や水で前後を清め、尿や便を残さないことはスンナです。しかし、その場所が他人のいるところであり、アウラの場所を露出して水でイスティンジャーを行うことができないのであれば、汚れがひどかったとしてもイスティンジャーは断念します。アウラの場所を露出することはしません。そのままで礼拝を行います。露出した場合は大きな罪、ハラームを犯したことになります。人の気配のない場所を見つければ、水でイスティンジャーを行い、礼拝をやり直します。なぜなら、一つの命令を実行することがハラームを行うことの要因となるのであれば、ハラームを行わない為、その命令は延期されるか、放棄されて実行されないかのどちらかとするからです。

骨、食料、肥料、レンガ、植木鉢、ガラス片、炭、動物のエサ、他者の持ち物、そしてお金になり得るもの、例えば絹、モスクから出された物資、ザムザムの水、葉、紙でイスティンジャーを行うことは、ハラームに近いマクルーフです。無地の紙であれ、尊重することが必要です。お金になる可能性がないもの、宗教的に無益な文章が書かれた紙、そして新聞でイスティンジャーを行うことは認められています。しかしイスラーム的な言葉が書かれた紙では絶対にイスティンジャーを行うことはできません。前もしくは背面をキブラに向け、立ったまま、あるいは正当な理由なく裸でウドゥーを無効にすることはマクルーフです。尿が集められた場所でグスルを行うことは認められません。しかし尿が流れ去り、残らないのであれば、それらは認められます。イスティンジャーで用いられた水は汚いものとされます。服にかけるべきではありません。その為、イスティンジャーを行う際、アウラの場所を露出し、人のいない場所で行うことが必要となります。蛇口の前で、手を下着の中に入れ、排泄器官を手の中の水で洗うことはイスティンジャーではありません。尿のしずくがつくことで手にしていた水は汚れたものとなり、それが滴った下着が汚れ

ます。その水が滴った場所の合計が手のひらの面積よりも大きければ、礼拝は認められません。

イスティブラ：男性が、歩いたり咳払いをしたり、左側に寝たりすることで「イスティブラ」を行うこと、つまり尿道に水滴を残さないことはワージブです。尿のしずくが残っていないことを確信する前にウドゥーをするべきではありません。一滴でもたれた場合、ウドゥーが無効となり、また服も汚れます。下着が手のひらの面積よりも小さく漏れたのであれば、ウドゥーをして行った礼拝はマクルーフとなります。それより大きく漏れたのであれば礼拝は認められません。イスティブラを困難に感じる人は、オオムギほどの綿を尿の穴に入れるべきです。漏れた尿は綿に吸収されます。ただし、綿の端が外に出ないことが必要です。

サトゥル・アウラ（アウラの場所を覆うことと、女性が身を覆うこと）

人が露出して他の人に見せること、他の人が見ることがハラームである場所を「アウラの場所」と呼びます。男性のアウラの場所は、へそから膝の下までです。膝はアウラに含まれます。これらを露出して行った礼拝は認められません。礼拝を行う際に体の他の部分（腕、頭）を覆うこと、靴下を履くことは男性のスンナです。これらが見える状態で礼拝をすることはマクルーフです。

女性は、手のひらや顔以外の全ての場所、手から上、髪、足は 4 つの学派全てでアウラです。その為、女性のことをアウラと呼ぶこともあります。これらを覆うことはファルドです。アウラのうち何らかの器官の 4 分の一が一回のルクウの間露出した上体であれば礼拝は無効となります。わずかに見える程度では礼拝は無効とはなりませんが、礼拝はマクルーフとなります。薄く、中の体の形や色が見える布は、何も着用していないことを意味します。

女性は礼拝以外、一人でいる時には膝と臍の間を覆うことはファルドであり、背中とおなかを覆うことはワージブ、その他の場所を覆うことは徳です。

預言者ムハンマドは次のように言われました。「他人である女性を性欲を持って見る人の目は火で満たされ、地獄に入れられる。他

人である女性と握手する人の腕は首筋から縛られ、地獄に投げ入れられる。他人である女性と必要に迫られていないのに性欲を持って話す人は、その言葉一つ一つの為に千年地獄にいるだろう」

別のハディースでは、「隣人の女性や友人の妻を性欲を持って見ることは、他人である女性を見ることよりも 10 倍さらに悪い。結婚している女性を見ることは、未婚の女性を見ることよりもさらに千倍の罪である。姦淫の罪も同様である」とされています。

預言者ムハンマドは次のように言われました。「アリーよ、太ももを出してはいけない。そして死んでいようと生きていようと、誰の太ももも見てはいけない。」

別のハディースでは、「アウラの場所を露出してはいけない。なぜならあなたのそばから決して離れない存在がいるためである。それらに対し恥じらい、また敬意を示しなさい。それらは記録する天使である」と言われました。

また他のハディースでは次のようにいわれました。「アウラの場所を覆いなさい。妻や女奴隷以外の誰にも見せてはいけない。一人でいる時も、アッラーに対し恥を感じなさい。」

「自分たちを女性に似せる男性、そして男性に似せる女性をアッラーが呪われますように。」

「一人の少女の美しさを見た人は、目を彼女からすぐに遠ざけるなら、アッラーはイバーダとしてのサワーブを与えられ、彼もイバーダの喜びをすぐに感じる。」

「アウラの場所を露出し、また他人のアウラの場所を見る人を、アッラーが呪われますように。」

「自分自身を何らかの部族に似せる人は、その仲間となる。」すなわち、道徳、職場、衣装を他者に似せる人は、その人たちに含まれるようになるのです。流行や不信仰者たちの風習に従う人、ハラームであるものに芸術という名を与え、ハラームを犯している人々を芸術家、先駆者と呼ぶ人はこのハディースから教訓を得るべきであり、恐れを感じ、彼らに従わないようにするべきなのです。

男性が男性の、女性が女性のアウラの場所を見ることもハラームです。つまり、男性が女性の、女性が男性のアウラの場所を見ることがハラームであるように、男性が男性の、女性が女性のアウラの場所を見ることもハラームです。男性の、男性に対するア

ウラの場所は膝と臍の間であり、女性の、女性に対するアウラの場所も同様です。女性の、他人である男性に対するアウラの場所は、手と顔以外の全身です。他人である女性のアウラの場所は、性欲を伴っていなくても見ることはハラームです。

布団の下で裸で寝ている病人が、頭も布団の中にあった状態でイメージして礼拝を行う際は、裸のままで礼拝をしたことになります。頭を布団から出して礼拝すれば、布団にくるまれて礼拝を行ったことになり、礼拝が認められます。

男性は、婚姻することが永遠に不可能である 18 通りの「マフラム」の女性の頭、顔、首、腕、膝より下の足を、性欲を持たないことを確信できれば、見ることができます。ただし、胸やわき、太もも、膝、背中を見ることはできません。

女性にとって、叔父、叔母、伯父、伯母の息子たちも他人の男性と同様です。義兄や義父も他人の男性です。彼らと話すこと、冗談を言い合うこと、同席することはハラームです。男性も、叔父、叔母、伯父、伯母の娘たちや、義妹、義母と話すことはハラームです。

男性は、マフラムである 18 通りの女性と死ぬまで結婚することはできません。彼女たちと話すことはできます。2 人だけで同じ場所にいることもできます。女性も、18 通りの男性と結婚できません。この、18 通りの男性及び女性とは以下の通りです。

血統により親戚である人々

男性	女性
1．父	1．母
2．父もしくは母の父	2．母もしくは父の母
3．息子、息子や娘の息子	3．娘、息子や娘の娘
4．兄弟	4．姉妹
5．兄弟の息子	5．姉妹の娘
6．姉妹の息子	6．兄弟の娘
7．叔父と伯父	7．叔母と伯母

乳をもらったことで親戚となった人々

男性	女性
8．養父	8．乳母
9．養父と乳母の父	9．乳母と養父の母
10．養子、養子の息子、養女の息子	10．養女、養女と養子の娘
11．乳兄弟（男性）	11．乳兄弟（女性）
12．乳兄弟（女性）の息子	12．乳兄弟（女性）の娘
13．乳兄弟（男性）の息子	13．乳兄弟（男性）の娘
14．乳母の兄弟	14．乳母の姉妹

婚姻によって親戚となった人々

15．義父	15．義母
16．義理の息子	16．義理の娘
17．義理の父	17．義理の母
18．婿	18．嫁

アウラの場所を露出させて外に出る、もしくは他者のアウラの場所を見る男性、女性は、地獄の燃えさかる炎で焼かれることになります。

イスティクバル・キブラ（キブラの方向を向くこと）

礼拝とは、カーバへ向かって行われるものです。マッカの町にあるカーバの建物の方角を「キブラ」と呼びます。キブラは以前、エルサレムでした。聖遷から 17 か月後のシャーバン月の半ばの火曜日に、エルサレムではなくカーバへと向かうことが命じられました。

キブラはカーバの建物ではなく、その空間です。すなわち、地から天までのその空間がキブラなのです。従って海や井戸の底、高山、飛行機でも、この側面に向かって礼拝します。視神経のクロスする 2 つの方角の間の空間がカーバにあたっていれば、その礼拝は正しいものとなります。しかし、
病気の為
財産が盗まれる危険
獰猛な動物による危険
敵に遭遇する危険
動物から下りた場合、再び誰かの手助けなしでは乗ることができない
といった場合や、2 つの礼拝（ズフルとアスル、マグレブとイシャーを、マーリキー派やシャーフィー派に倣って）をまとめて行うこともできない場合であれば、可能である方向に向かって礼拝を行います。ボート、電車、飛行機では、キブラに向かうことは必要条件とされます。

礼拝の定時

　預言者ムハンマドはあるハディースで次のように言われました。「ジブラーイールがカーバの門のそばで、2 日間私のイマームとなった。私たちは暁光がさす時にファジュルの礼拝を、太陽が真上から下がる時にズフルの礼拝を、全ての陰が本体の大きさと等しくなることにアスルの礼拝を、そのすぐ後、断食が終わる時にマグリブを、夜の 3 分の 1 の時間にイシャーを行った。それから、『ムハンマドよ！あなたの、そして過去の預言者たちの礼拝の時間はこの通りである。あなたのウンマに 5 回の礼拝のそれぞれを、私たちが礼拝したこの時間の間に行わせなさい』と彼は言った。」
　毎日行うことが命じられている礼拝の数が 5 であることも、ここから理解されます。
ファジュルの礼拝の時間：暁光が見え始める、すなわち東の方角が白み始めた時から、火が昇る時までです。
ズフルの礼拝の時間：陰が短くなり、それから長くなり始めた時から始まり、陰が実物と同等もしくは 2 倍の長さになるまで続き

ます。一つめは2人のイマーム、すなわちイマーム・アブー・ユースフとイマーム・ムハンマドによるものであり、2つめはイマーム・アザーム・アブー・ハニーファによるものです。
アスルの礼拝の時間：ズフルの礼拝の時間の終わりによって始まります。これも、
イマーム・アブー・ユースフとイマーム・ムハンマドによれば、陰がその本体と同じ長さになった時に始まり、日没まで続きます。
イマーム・アザーム・アブー・ハニーファによれば、陰がその本体の2倍の長さになった時に始まり、日没まで続きます。
　しかし太陽が色づいてから、すなわち地平線まで槍の長さまで近づいてからは、あらゆる礼拝を行うことはハラームです。ただアスルの礼拝をしていなかったのであれば、日没の時間までにそれを行います。
マグリブの礼拝の時間：日没によって始まり、地平線が暗くなるまで、つまり赤みが消失するまで続きます。
イシャーの礼拝の時間：マグリブの礼拝の時間の終了から、暁光がさし始めるまで続きます。イマーム・アザーム・アブー・ハニーファによると、イシャーの時間は空の白みが消えた時に始まります。アスルの時間もこのようになっています。2人のイマームの見解によるイシャーの時間が始まってから、少なくとも半時間待ってイシャーを行えば、全てのイマームに従って礼拝したことになります。イシャーの礼拝を、正当な理由なく夜の半分よりも後に行うことはマクルーフです。
　礼拝を時間より前、もしくは後に行うことはハラームです。大きな罪となります。「トゥルキイェ」紙の発効している礼拝と日の出の時間表は正しいものです。
　礼拝を行うことがハラームに近いマクルーフ、すなわち禁じられている時間は3つあります。この3つの時間に始まったファルドは正しいものとはなりません。日が昇る時、日が沈む時、そして正午です。この3つの時間には、あらかじめ用意されていた葬儀の礼拝、過失のサジュダ、「サジュダ」というクルアーンの言葉に従って行うサジュダも認められません。日が沈む時には、その日のアスルの礼拝は行うことができます。

ナーフィラの礼拝（義務ではない礼拝）を行うのがマクルーフである 2 つの時間があります。ファジュルの礼拝のファルドを行った後、日が昇るまでと、アスルの礼拝を行った後、マグリブのファルドの前にナーフィラの礼拝を行うことはマクルーフとなります。

詳細についての解説（北極・南極での礼拝と断食）
それぞれの国の礼拝時間は、その国の南極からの距離と季節によって異なります。
67度に位置する北極圏の北側に位置する寒い国では、太陽の傾きがとても大きい季節には、地平線の光が消える前に朝日が昇ります。この為、バルト海の北端では、夏には夜がなく、イシャーとファジュルの礼拝の時間にならないのです。
ハナフィー派においては、時間は礼拝の条件ではなく、理由です。理由がなければ、礼拝はファルドとならないのです。従ってこのような国に住むムスリムには、この 2 つの礼拝はファルドとなりません。南半球では海である為、このような国は存在しません。
シャーバン月の 30 日目の夜、どこかの町で新月が見られれば、全世界が断食を始めることが必要となります。日中に見える新月は、これから来る夜の新月です。
北極、南極や月に行ったムスリムも、旅行者の規定に当てはまらないのであれば、断食をすることが必要です。日中が 24 時間よりも長い場合、礼拝は時刻で始められ、時刻で終わります。日中がこれほどに長くはない町のムスリムたちの時間に従うのです。もし礼拝を行わなければ、日中が長くない場所に来た時にカダーを行います。

アザーンとイカーマ
アザーンとは、皆に知らせることを意味します。日に 5 回の礼拝とカダーの礼拝の為、そして金曜礼拝で説話者の前で男性がアザーンを唱えることは、ムアッカダのスンナです。女性がアザーンやイカーマを読むことはマクルーフです。アザーンは他の人々に時間を告げる為、高いところで詠みあげられます。アザーンを

唱える時に両手を挙げ、指を一本ずつ両耳の穴に入れることはムスタハブです。イカーマを読むことはアザーンよりもなお重要なことです。アザーンとイカーマはキブラに向かって唱えられます。その時には会話はせず、挨拶をされても返しません。

アザーンとイカーマはどのような場合に読みあげられるか

畑、庭園で個人もしくは集団でカダーを行う場合、男性がアザーンとイカーマを大きな声で読み上げるのはスンナです。アザーンを聞いた人、ジン、石は最後の審判の日に証言を行います。いくつかのカダーの礼拝をまとめて行う人は、まずアザーンとイカーマを詠みあげます。その後、カダーを行う際にはそれぞれについてイカーマのみを読みます。アザーンは読まなくとも構いません。

家で、個人もしくは集団で定時の礼拝を行う人は、アザーンとイカーマを詠みあげません。なぜなら、モスクで読みあげられたアザーンとイカーマは家々でも読まれたと見なされるからです。しかしそれを唱えることはより良い　とされます。地区のモスク、もしくは礼拝の参加者が一定であるモスクにおいて、定時の礼拝を集団で行った後、個人で礼拝を行う人はアザーンとイカーマを唱えません。街道沿いにあり、あるいはイマームやムアッズィンがおらず、礼拝に参加する一定の人もいないモスクでは、様々な時間にやってくる人々が、一つの定時の礼拝の為に様々な小集団を作ります。全ての小集団の為にアザーンとイカーマを読みます。このようなモスクでは個人で礼拝をする人も、アザーンとイカーマを自分が聞こえる程度の声で唱えます。

旅行中である人は、自分の仲間である人々と集団で礼拝する時も、個人で礼拝する時も、アザーンとイカーマを唱えます。個人で礼拝する人のそばに仲間がいれば、アザーンを読まないことも可能です。旅行者は、家で個人で礼拝する時でも、アザーンとイカーマを唱えます。なぜなら、モスクで読みあげられたアザーンとイカーマは、彼の礼拝に適用されないからです。旅行者である集団の一部が家でアザーンを唱えれば、その後で礼拝をする人たちはアザーンを唱えません。

　聡明な子供、盲人、父親が定かでない人、アザーンを読むこと

のできる無知な村人がアザーンを読むことは、問題なく認められます。ジュヌーブの状態である人がアザーンとイカーマを唱えること、ウドゥーのない状態でアザーンを読むこと、女性、罪人、酔っぱらい、知性を伴わない子供がアザーンを読むこと、座ったままでアザーンを読むことは、ハラームに近いマクルーフです。こういった人が読んだアザーンは、復唱されます。アザーンが正しいものである為には、ムアッズィンはムスリムかつ知性を伴う人である必要があります。スピーカーで読むことは真正とはされません。

罪人である者のアザーンが真正とされないのは、イバーダにおいて彼の言葉が受け入れられないからです。罪人、そしてスピーカーでのアザーンでは、礼拝の時間になったことを信じることができません。このような人のアザーンやサインによって、礼拝を完了させることもされません。

アザーンを尊重し、敬意を抱く人、文字、言葉を変えることなく、壊すことなく、節をつけたりせず、ミナレット（尖塔）に上がってスンナに適した形で読む人は、高い位階へと達することになります。

しかし、アザーンをスンナに従って読まないのであれば、例えば、いくつかの言葉を変えたり、訳したりしていれば、あるいは節をつけて読んでいれば、あるいはその声がスピーカーを通して出ていれば（なぜならスピーカーからの声は、イマームもしくはムアッズィンの声ではないのです。彼らの声は電気と磁石に変わります。この電気と磁石が生じさせる声が聞こえるのです）、そのアザーンを聞いた人はそれを復唱することはできません。

詳細についての解説（アザーンはスピーカーを通して読み上げることができるか）

ミナレットに設置されたスピーカーは、ムアッズィンにとって怠惰となる為の要因であり、アザーンを暗い部屋で、座ったまま、スンナに従わない形で読むことの要因となります。何世紀も、天へとそびえる精神的な装飾であったミナレットが、この悪いビドアゆえにスピーカーの柱となってしまっています。イスラームの学者たちは、科学が生み出したものをいつでも肯定的に受

け止め、例えば印刷機の設置を奨励し、有益な本を印刷して知識を広めることを求めてきました。ラジオやスピーカーを通して各地で有益な放送がなされることも、イスラームが愛し、活用することのできる発見であることは疑いもありません。しかしムスリムがアザーンの心地良い　声を聴くことができず、イバーダをスピーカーを通した耳障りな音によって行うことは、害のあることです。スピーカーをモスクに設置することは不要な浪費です。信仰を持つ心に影響を与える真のムスリムの声の代わりに、あたかも教会での鐘のように響くこの道具がない時代には、ミナレットで読みあげられるアザーンやモスクでのタクビールの声は、外国人をも恍惚とさせたものでした。それぞれの通りで読まれるアザーンを聞きながらモスクをいっぱいにした人々は、教友の時代と同じように、集中して礼拝を行っていました。アザーンの、信者を興奮させる神聖な影響力は、スピーカーの機械的な声によって失われてしまったのです。

　預言者ムハンマドはあるハディースで次のように言われました。「誰であれ、アザーンを聞いた時にムアッズィンと共に小声でそれを唱えれば、一文字ごとに千のサワーブがあり、千の罪が許される」

　アザーンを聞いた人は、クルアーンを読んでいるのであれば、聞いたことをゆっくり口に出すことがスンナです。「ハイヤ　アラー」と聞いた時にはそれは繰り返さず、「ラー　ハウラ　ワラー　クッワタ　イッラー　ビッラー」と言います。2 度目に「アシュハド　アンナ　ムハンマダン　ラスールッラー」と読まれた時、両手の親指の爪にキスをした後、両目の上を触ることはムスタハブです。イカーマではこのようにはされません。

アザーンの唱え方

アッラーフ　アクバル　　4 回
アシュハド　アン　ラー　イラーハ　イッラッラー　2 回
アシュハド　アンナ　ムハンマダン　ラスールッラー　2 回
ハイヤ　アラッサラー　2 回
ハイヤ　アラッファラー　2 回

アッラーフ　アクバル　2回
ラー　イラーハ　イッラッラー　1階

　朝の礼拝のみ、「ハイヤ　アラッファラー」の後で 2 回「アッサラート　ハイルン　ミナンナウムと唱えます。
　イカーマでは、「ハイヤ　アラッファラー」の後で 2 回、「カドカーマティッサラートゥ」と唱えます。

　預言者ムハンマドは次のように言われました。「アザーンが読まれた時には次のドゥアーを唱えなさい。
「ワ　アナ　アシュハドゥ　アン　ラー　イラーハ　イッラッラーフ　ラー　シャリーカラフ　ワ　アシュハド　アンナ　ムハンマダン　アブドゥフ　ワ　ラスール　ワ　ラディートゥ　ビッラーヒ　ラッバン　ワ　ビルイスラーム　ディーナン　ワ　ビ　ムハンマディン　サッラッラーフ　アライヒ　ワ　サッラマ　ラスーラン　ナビーヤー」
　またあるハディースでは次のように言われました。「わがウンマよ。アザーンが読まれたなら次のドゥアーを唱えなさい。
「アッラーフンマ　ラッバ　ハーズィヒッダーワティーッターンマティ　ワッサラーティル　カーイマティ　アーティ　ムハンマダニル　ワシーラタ　ワルファズィーラタ　ワッダラジャータルラフィアタ　ワブアスフ　マカ_マン　マフムーダニッラズィワ　アヅタフ　インナカラーッフリフル　ミアード」

アザーンの言葉の意味
アッラーフ　アクバル：アッラーは偉大です。アッラーには何も必要ではありません。しもべのイバーダも必要とされません。イバーダは、アッラーには何の効用もありません。この重要な意味を頭に十分に植えつける為に、この言葉は 4 回繰り返されます。
アシュハド　アン　ラー　イラーハ　イッラッラーフ：その荘厳さと偉大さにより、誰のイバーダも必要とはされない一方で、アッラー以外の誰にもイバーダをされる権利はないことを証言し、それを信じます。何ものもそのお方には似てはいません。
アシュハド　アンナ　ムハンマダン　ラスルーッラー：ムハンマ

ド（彼の上に平安あれ）はアッラーが遣わされた預言者であること、その預言者はアッラーが望まれるイバーダの方法を教えるお方であること、そしてただ預言者が教え、示されたイバーダのみがアッラーにふさわしいということを証言し、信じます。
ハイヤ　アラッサラー、ハイヤ　アラッファラー：信者を、快楽さや幸福、救いの要因となる礼拝に招く2つの言葉です。
アッラーフ　アクバル：アッラーにふさわしいイバーダは誰にもできません。それほどまでにアッラーは偉大なお方なのです。
ラー　イラーハ　イッラッラーフ：イバーダ、服従にふさわしいお方、その権利を持たれるお方はただアッラーのみです。アッラーにふさわしいイバーダは誰にもできないのと同様、アッラー以外の誰にもイバーダを受ける権利はありません。
　そのお方を皆に知らせる為に選ばれたこれらの言葉の偉大さから、礼拝の誉れの大きさが理解されます。

ニーヤ

　イフティタフ・タクビールを言った後、ニーヤを行います。礼拝のニーヤを行うこととは、その名称、時間、キブラ、イマームに従うということを心に念じることを意味します。
　イフティタフ・タクビールの後で行われるニーヤは真正とはならず、その礼拝は認められません。ファルドやワージブをニーヤする際、どのファルドであるのか、もしくはワージブであるのかを知っていることが必要です。ラカートの数をニーヤすることは不要です。スンナを行う際には、礼拝をニーヤすることで十分です。葬儀の礼拝には、「アッラーの為に礼拝を、死者の為にドゥアーを」とニーヤします。
　イマームが、男性たちのイマームとなることをニーヤすることは条件ではありません。イマームは、同席する信者の集団のイマームとなるとニーヤをしなければ、集団と共に礼拝を行ったことのサワーブを得ることはできません。イマームとなることをニーヤすれば、そのサワーブをも得ることができます。イマームは、女性たちへのイマームとなるとニーヤすることが必要です。
　イバーダを行う際、ただ口先で唱えることをニーヤとはいいません。心からニーヤされなければ、イバーダは認められないのです。

タフリーマ・タクビール
　礼拝を行う際に「アッラーフ　アクバル」と言うことであり、これはファルドです。他の言葉を言うことはできません。一部の学者は、タフリーマ・タクビールが礼拝に含まれると見なしています。それによるなら礼拝の条件は6つであり、ルクンも6つとなります。

礼拝のルクン（構成要素）
　礼拝中のファルドをルクンと呼びます。全部で5つになります。
キヤーム：礼拝の5つのルクンの一つめが、キヤームです。キヤームは立位を意味します。立てない病人は、座って礼拝します。座れない病人は、あおむけに寝て、頭で礼拝します。顔が上ではなくキブラに向くよう、頭の下に枕を敷きます。足は折り、キブラに向けて伸ばさないようにします。立っている時、足は互いから指4本分ほど離します。
　立てない病人、立つとめまいがする人、頭、歯、目、あるいはその他の部位がひどく傷む人、尿を漏らしてしまう人、傷口が開く人、立って行うと敵の恐れや盗難に遭う危険がある人、立って行えば断食が無効となってしまう人、あるいはアウラの場所が露出してしまう人などは、座って礼拝します。ルクウでは少し体を倒し、サジュダでは頭を床につけます。頭を床につけることができない人は、ルクウでわずかに、サジュダではもう少し体を前屈させます。サジュダでの前屈がルクウの時の前屈よりも深いものでなければ、礼拝は認められません。地面に石や板を置き、その上にサジュダを行った場合、礼拝は認められますが、罪を犯したことになります。つまりハラームに近いマクルーフです。
キラート：スンナとウィトルのラカートごとに、そして個人で行うファルドの2ラカートで、立位の状態でクルアーンの一つの節を読むことはファルドです。短い章を読むことはより良い　とされます。
　キラートとしてここでファーティハ章を読むこと、またスンナ、そしてウィトルの礼拝のそれぞれのラカートで、そしてファ

ルドの2ラカートでファーティハ章以外の一つの章もしくは3つの節を読むことはワージブです。ファルドで、ファーティハ章と他の章句を最初の2ラカートで読むことはワージブもしくはスンナです。ファーティハ章を他の章句よりも先に読むこともワージブです。この5つのワージブのどれかが失念された場合、過失のサジュダを行う必要があります。

キラートでクルアーンの翻訳を読むことは認められません。金曜礼拝やイードの礼拝を除き、イマームが、全ての礼拝において一つめのラカートを2つめのラカートよりも2倍の長さのものを読むことはスンナです。一人でいる時には、全てのラカートで同じ量を読んでも構いません。イマームが、同じ礼拝の同じラカートで、同じ章句を読む習慣をつけることはマクルーフです。一つめのラカートで読んだものを2つめのラカートでも読むことは、ハラールに近いマクルーフです。逆に読むことはより悪いことです。2つめのラカートで、一つめのラカートで読んだものの次の章を飛ばし、その次のものを読むことはマクルーフです。クルアーンをその正本の順序通りに読むことは、常にワージブです。

ルクウ：立位でクルアーンを読んだ後、タクビールを行い、ルクウをします。ルクウでは、男性は指を開いて肘の上に置きます。背中と頭を同じ高さにします。

ルクウでは、少なくとも3回、「スブハーナ　ラッビヤル　アズィーム」と言います。3回読む前にイマームが頭を上げた場合は、それに従う人もすぐに頭を上げます。ルクウでは腕と足をまっすぐにします。女性は指を開きません。背中と足、腕はまっすぐにはしません。

ルクウから体を起こす時には、「サミアッラーフ　リマン　ハミダ」と言うことは、イマームと、個人で礼拝する人にとってスンナです。イマームの後ろの集団はそれを口にしません。それに続いてすぐに「ラッバナー　ラカル　ハムド」といい、まっすぐに立ち、「アッラーフ　アクバル」といいながらサジュダへと移る際、まず右、それから左の膝、そして右、それから左の手、その後鼻と額を床につけます。

サジュダ：サジュダでは、手の指を互いにつけ、キブラに向かい、耳と同一線上に置き、頭は両手の間に置きます。額を清潔な

場所、つまり石、土、板、敷物につけることはファルドであり、鼻も共に地につけることはワージブとされます。特に理由のない人が鼻だけをつけることは認められません。額だけをつけることもマクルーフです。

両足、あるいは少なくともそれぞれの足の一本ずつの指を地面につけることはファルド、もしくはワージブです。つまり両足とも床につけられていなければ礼拝は認められません。

サジュダでは、足の指を折り曲げ、その先端をキブラに向けることがスンナです。

男性は、腕と太ももをおなかから離しておきます。手と膝を床につけることはスンナです。かかとはキヤームでは互いに指 4 本分離し、ルクウ、カウマとサジュダではくっつけておくことがスンナです。

サジュダをする際、ズボンの裾を上に引っ張ることはマクルーフです。そしてそれを上に向けてまくり上げて礼拝をすることもマクルーフです。腕、足、裾を、まくり上げたりたくし上げたり、短いものを身につけたりしながら礼拝を行うことはマクルーフです。面倒臭がって、あるいは頭を覆う大切さを考えずに頭を覆わずに礼拝を行うことはマクルーフです。礼拝に重きを置かないことは、イスラームの否定です。汚れた服、仕事着で礼拝を行うこともマクルーフです。

カダーイ・アーヒラ：最後のラカートで「アッタヒヤートゥ」を読むまで座っていることはファルドです。座っている時には、指をしるしとすることはありません。男性は左有を、指先を右側に向ける形で床に置き、この足の上に座ります。右足は直立させ、この足の指は地面に触れます。指の先はキブラの方向に少し曲げます。このように座ることはスンナです。

女性は臀部を床に置く形で座ります。太ももは互いに接近させます。右足を右側から外に出します。左足は、指先を右に向けた形で体の下に置きます。

礼拝はどのように行うのか

個人で行う男性の礼拝

例えば、ファジュルの礼拝のスンナは次のように行われます。
まずキブラに向かいます。足をたがいに指 4 本分離し、平行におきます。両手の親指を耳たぶに触れさせます。手のひらをキブラの方向に向け、「アッラーのご満悦の為に今日のファジュルの礼拝のスンナを行うことをニーヤします。キブラに向かいました」と心から念じた後、「アッラーフ　アクバル」といい、へその下で右手を左手の上に重ねます。
サジュダを行う場所から目を離さずに、
A) スブハーナカを読みます。
B) アウズ・バスマラ　の後、ファーティハ章を読みます。
C) ファーティハ章の後、バスマラは読まずに、他の章句（例えば、アラム　タラカーイファ）を読みます。
短い章句を読んだ後、「アッラーフ　アクバル」と唱えながらルクウを行います。手を膝頭におき、腰をまっすぐにし、目は足から離さずに 3 回「スブハーナ　ラッビヤル　アズィーム」と言います。5 回もしくは 7 回言うこともできます。
「セミ　アッラーフ　リマン　ハミダ」といいながら体を起こす際には、ズボンを挽いたり、目をサジュダの場所から離したりしないようにします。まっすぐ起き上がり、「ラッバナー　ラカルハムド」と言います。この直立をカウマと呼びます。
あまり時間をおかずに、「アッラーフ　アクバル」といいながらサジュダを行います。サジュダを行う際には順に、
A) 右膝、左膝、右手、左手、鼻、そして額を床につけます。
B) 足の指をキブラの方向に折り曲げます。
C) 頭は両手の間に入っています。
D) 手の指は閉じます。
E) 手のひらはつけます。肘は床につけません。
F) この状態で少なくとも 3 回「スブハーナ　ラッビヤル　アラー」と言います。
それから、「アッラーフ　アクバル」といいながら左足を床に広げ、右足の指をキブラの方向に曲げ、正座します。手のひらは膝

の上に置き、指は自然な状態にしておきます。
長い間正座していることなく、「アッラーフ　アクバル」といい、再びサジュダを行います。2 回のサジュダの間の座位をジャルサと言います。
サジュダでは少なくとも 3 回、「スブハーナ　ラッビヤル　アラー」といった後、「アッラーフ　アクバル」といいながら立ち上がります。立ち上がる時には手を床から勢いよく跳ね上げたり、足を動かしたりはしません。サジュダから起き上がる前に、額、それから鼻、それから左手、右手、そして左膝、右膝という順で地面から起こします。
立っている間に、バスマラについでファーティハ章を、その後他の章句を読み、「アッラーフ　アクバル」といいながらルクウを行います。
2 つめのラカートは、一つめのラカートと同様に行います。ただ2回目のサジュダの後、「アッラーフ　アクバル」と言ってから立ち上がることはせず、正座し、
A)「アッタヒヤートゥ」「アッラーフンマ　サッリ」「アッラーフンマ　バーリク」、そして「ラッバナー　アーティナ」のドゥアーを読んだ後、「アッサラーム　アライクム　ワ　ラフマトゥッラー」と挨拶をします。
B) 挨拶をした後、「アッラーフンマ　アンタッサラーム　ワ　ミンカッサラーム　タバーラクタ　ヤー　ザルジャラーリ　ワルイクラム」と言い、他のことは何も話さず、ファジュルの礼拝のファルドを行います。なぜなら、スンナとファルドの間に話すことは、礼拝を無効にはしませんが、サワーブを減らします。
　礼拝の後、それぞれ完全に、アスタグフィルッラーと 3 回唱えます。その後、「アーヤトゥル　クルシー」、30回「スブハーナッラー」、30 回「アルハムドゥリッラー」、30 回「アッラーフ　アクバル」を唱え、そして一度タフリール、すなわち「ラー　イラーハ　イッラッラー　ワフデフ　ラー　シャリーカラフ、ラフムルク　ワ　ワフル　ハムドゥ　ワ　フワ　アラー　クッリ　シャイン　カディール」と、声を潜めて唱えます。大声で読みあげるのはビドゥアです。それからドゥアーを行います。ドゥアーでは、男性は腕を胸の高さに編んであげます。腕を肘のところで曲

げることはしません。手を開き、手のひらを天に向けます。なぜなら、礼拝のキブラがカーバであるように、ドゥアーのキブラは天であるからです。ドゥアーの後、それぞれにバスマラを唱えつつ、イフラース章を 11 回、「クル　アウーズ」を 2 回、そして「アスタグフィルッラー」を67回唱えることはムスタハブです。「スブハーナラッビカ」の章句を読み、手で顔を撫でます。
　4 ラカートのスンナとファルドの 2 回目のラカートの後、「タヒヤート」を読み、立ち上がります。スンナの 3 回目と 4 回目のラカートでは、ファーティハ章の後に別の章句を呼びます。ファルドでは、3 回目と 4 回目のラカートでただファーティハ章を読み、別の章句は読みません。ウィトルの 3 ラカートでは、ファーティハ章の後、別の章句を呼びます。それからタクビールを行い、手を耳のところまで上げます。それからクヌートのドゥアーを唱えます。ムアッカダではないアスルとイシャーの最初のスンナも、他の 4 ラカートのスンナと同様です。しかし 2 回目のラカートの後の座位では、「アッタヒヤート」の後「アッラーフンマサッリ」と「アッラーフンマ　バーリク」も唱えます。

個人で行う女性の礼拝
　例えば、ファジュルの礼拝は次のように行われます。
体の形がわからない様な形で全身を覆います。外に出して良い部位は手と顔のみです。礼拝で読まれる章句やドゥアーは、先述の「個人で行う男性の礼拝」と同様です。異なる点は以下の通りです。
 手は男性のように耳のところに持って行かず、手は肩の高さにし、ニーヤを行い、タクビールをします。手を胸のところで組み合わせ、礼拝を始めます。
B) ルクウでは完全に背をまっすぐにはしません。
C) サジュダでは肘を地面に寝かせます。
D) タシャッフドでは正座をします。すなわち、左右の足は右側に置き、左の太ももの上に座ります。
　礼拝において、女性が十分に身を覆う為の最も容易な服装は、手をも覆えるほどの大きなスカーフや、足をも覆えるほどに幅広で長いスカートです。

礼拝のワージブ

　礼拝のワージブは以下の通りです。
ファーティハ章を唱えること。
ファーティハ章の後、一つの章もしくは少なくとも3つの短い節を唱えること。
ファーティハ章を、他の章句よりも先に唱えること。
ファーティハ章とその後に読まれる章を、ファルドの礼拝の1回目と2回目のラカートで、ワージブやスンナのそれぞれのラカートで読むこと。
サジュダを続けて行うこと。
3もしくは4ラカートの礼拝における2回目のラカートで、タシャッフドの間は座っていること。最後の座位はファルドです。
2回目のラカートではタシャッフドであまり座らないこと。
サジュダで、鼻を額と共に床につけること。
最後のラカートで座っている時に「アッタヒヤートゥ」のドゥアーを唱えること。
礼拝ではルクン（構成要素）を正しく行うことに重きを置くこと。
礼拝の後、「アッサラーム　アライクム　ワ　ラフマトゥッラー」と言うこと。
ウィトルの礼拝の3回目のラカートの後、クヌートのドゥアーを読むこと。
イードの礼拝でタクビールを行うこと。
イマームが、朝、金曜日、イード、タラーウィー、ウィトルの礼拝、そしてマグリブとイシャーの最初の2ラカートを、声を出して読み上げること。
イマームと個人で礼拝を行う人が、ズフルとアスルのファルドで、そしてマグリブの3回目、イシャーの3回目と4回目のラカートで、小さな声で唱えることはワージブです。イマームが大声で読むことがワージブである箇所では、個人で礼拝を行う人の場合、大きな声で読むことも小さな声で読むことも認められています。

イードの礼拝の前日のファジュルの礼拝から、4 日目のアスルの礼拝まで、23回のファルドの礼拝の後で「タシュリークのタクビール」を唱えることはワージブです。

過失のサジュダ（サハーイーのサジュダ）: 礼拝を行う人が、礼拝でファルドである事項を、わざと、あるいは失念して放棄すれば、礼拝は無効になります。もしワージブであるものを失念して放棄しても、礼拝は無効にはなりません。しかし、過失のサジュダを行うことが必要になります。

過失のサジュダをわざと行わない人、あるいは礼拝のワージブのどれかをわざと放棄した人は、その礼拝をもう一度行うことがワージブとなります。行わなければ罪となります。スンナの放棄の場合は過失のサジュダは不要です。過失のサジュダは、ファルドを遅らせた時、もしくはワージブを放棄した時、そして遅らせた時になされます。

礼拝中、何度か過失のサジュダを必要とする状況になったのであれば、一度それを行うことで十分です。イマームがミスをすることは、彼に警告を与えた人にも過失のサジュダを必要とさせます。イマームに従っている人がミスをした場合は、イマームとは別に過失のサジュダをすることはありません。

過失のサジュダを行う為には、アッタヒヤートゥを唱え、一方に挨拶を送った後、2 回サジュダを行い、座位を取ります。それから「アッタヒヤートゥ」「サッリ」「バーリク」「ラッバナー」のドゥアーを唱え、礼拝を完了させます。一方もしくは両方に挨拶を行いながら、あるいはまったく挨拶を行わずに過失のサジュダを行うこともできます。

過失のサジュダを必要とする事柄:

座るべきところで立ち上がること。立ち上がるべきところで座ること。声を出すべきところで声を出さないこと。声を出さないところで声を出すこと。ドゥアーを唱えるべきところでクルアーンを読むこと。クルアーンを読むべきところでドゥアーを読むこと。例えば、ファーティハ章を読むべきところで「アッタヒヤートゥ」のドゥアーを読むこと。「アッタヒヤートゥ」を読むべき

ところでファーティハ章を読むこと。ここではファーティハ章が放棄されたことになります。礼拝を完了させずに挨拶を行うこと。ファルドの礼拝の 1 回目、2 回目のラカートで他の章を読まず、3 回目、4 回目のラカートで読むこと。最初の 2 ラカートでファーティハ章の後で他の章を読まないこと。イードの礼拝のタクビールを行わないこと。ウィトルの礼拝でクヌートのドゥアーを読まないこと。

ティラーワのサジュダ：クルアーンでは 14 か所で、サジュダという言葉を含む節があります。これらのうちどれかを読んだ人、あるいは聞いた人は、その意味を理解しなくても、一度サジュダを行うことはワージブです。サジュダの節を書いた人、スペルをつづった人はサジュダはしません。

山々、砂漠、その他の場所から流れてきたり、こだましてきたりした声を聴いた人、鳥から聞いた人はサジュダすることがワージブとはなりません。人の声であることが必要です。ラジオ、スピーカーから聞こえる声は人の声ではなく、ハーフズの声に似た無機質な機械の声であることは先にも述べた通りです。従って、ラジオやテープで読まれているサジュダの節を聞いた人がティラーワのサジュダを行うことは、ワージブではありません。

ティラーワのサジュダを行う為には、ウドゥーがあること、キブラへ向かって立ち、手を耳のところに上げずに「アッラーフ　アクバル」といい、サジュダを行います。3 度、「スブハーナ　ラッビヤル　アラー」と言います。それから「アッラーフ　アクバル」といいながらサジュダから体を起こすと完了です。まずニーヤを行うことが必要で、ニーヤがなければ受け入れられません。

礼拝中に読まれた時には、すぐに別のルクウもしくはサジュダを行い、立ち上がります。読み続けます。サジュダの節を読んだ後、2，3 の節の後で礼拝のルクウを行い、ティラーワのサジュダをニーヤすれば、礼拝のルクウもしくはサジュダがティラーワのサジュダと見なされます。集団で礼拝している人は、イマームがサジュダの節を読んだのを聞かなかったとしても、イマームと共にさらに 1 回のルクウと 2 回のサジュダを行います。集団の人々もルクウでニーヤを行うことが必要です。礼拝の後で行うこともできます。

感謝のサジュダ：ティラーワのサジュダと同様です。恵みを与えられた人、悩みから救われた人がアッラーに感謝のサジュダを行うことはムスタハブです。サジュダではまず、「アルハムドゥリラー」と言います。それからサジュダのタスビーフを預言者さまなえます。礼拝の後でサジュダを行うことはマクルーフです。
　礼拝を正しく行うことを尊重しない人は、全ての被造物に害を与えることとなります。なぜならその人の罪によって雨が降らず、地上に穀物が実らず、そして予想外の時期に雨が降り、効用の代わりに害がもたらされる、とされているからです。

礼拝のスンナ

礼拝で手を耳のところまで上げること。
手のひらをキブラに向けること。
タクビールを行った後、手を組み合わせること。
右手を左手の上に載せること。
男性は手を臍の下に置くこと、女性は胸に置くこと。
イフティタフ・タクビールの後、「スブハーナカ」を唱えること。
イマームと、個人で礼拝を行う人が「アウーズ」を唱えること。
バスマラを唱えること。
ルクウで 3 度「スブハーナ　ラッビヤル　アズィーム」と言うこと。
サジュダで 3 度「スブハーナ　ラッビヤル　アラー」と言うこと。
最後の座位で「サラワート」のドゥアーを読むこと。
挨拶をしながら左右を向くこと。
イマームは金曜礼拝やイードの礼拝の他、全ての礼拝で 1 回目のラカートでは 2 回目のラカートで読むものよりも 2 倍の長さのものを読むこと。
ルクウから起き上がる際、イマームと、個人で礼拝する人が「サミ　アッラーフ　リマン　ハミダ」と言うこと。
ルクウから起き上がったら「ラッバナー　ラカル　ハムド」と言うこと。

サジュダでは足の指を曲げ、先をキブラへと向けること。
ルクウとサジュダを行う際とサジュダから起きあがる際には、「アッラーフ　アクバル」と言うこと。
手と膝を床に置くこと。
かかとを、キヤームでは互いに指 4 本分離し、ルクウとカウマ、サジュダではくっつけること。
ファーティハ章の後、「アーミーン」と言うこと。ルクウより前にタクビールを行うこと。ルクウで、指を開いた手を膝頭に置くこと、サジュダの為にタクビールを行うこと。座位の際に左足を床に寝かせ、右足をたてて座ること。2 回のサジュダの間で座位を取ること。
　マグリブの礼拝では短い章句が読まれます。ファジュルの礼拝の最初のラカートは、2 回目のラカートよりも長くされます。イマームに従う人は、ファーティハ章と他の章を読みません。スブハーナカは読みます。タクビールを言うこと。アッタヒヤートゥとサラワートを行うこと。

礼拝のムスタハブ
礼拝を行う時にはサジュダする場所を見ること。
ルクウを行う際には足を見ていること。
サジュダでは鼻を置いた場所を見ていること。
タヒヤートゥの為に座っている時は、膝の上を見ていること。
ファーティハ章の後で唱えられる章句は、ファジュル、ズフルでは長く、マグリブの礼拝では短くすること。
イマームに従うことは、タクビールを見えないように行うこと。
ルクウでは指を開いて膝の上に置くこと。
頭を、首と共にルクウでは真っ直ぐ保つこと。
サジュダを行う際にはまず右、それから左の膝を床につけること。
サジュダを、両手の間で行うこと。
サジュダで、鼻の後で額をつけること。
礼拝の最中にあくびをする時は、手の甲で口を隠すこと。
男性がサジュダで肘を挙げ、高く保つこと。女性は腕を床につけること。

男性はサジュダで腕と足をおなかから離すこと。
ルクウとサジュダで 3 回ずつタスビーフを行えるだけの間、とどまっていること。
サジュダから頭を上げた後で手を床から上げること。
両手を床から離した後で、膝を上げること。
タヒヤートゥで手を太ももの上に置き、指をキブラに対してまっすぐ向けること、曲げないこと、どの指も動かさないこと。
左右に挨拶を行う時には頭を向けること。
挨拶を行う時には肩を見ること。

礼拝のマクルーフ
服を着ずに、肩に掛けた状態で行うこと。
サジュダを行う際にスカートやズボンの裾をあげること。
スカートやズボンの裾、腕をたくし上げた状態で礼拝を行うこと。
意味のない動きを取ること。
作業着、もしくは年長者の前で着られない様な服で礼拝を行うこと。
口の中に、クルアーンを唱えるのに妨げとなるものを入れていること。妨げとなれば礼拝は無効となります。
頭を覆わない形で礼拝を行うこと。
便意や尿意を我慢しながら、あるいは屁が出そうな状態で礼拝を行うこと。
礼拝中、サジュダの場所にある石や土を手で払うこと。
礼拝中に指を鳴らすこと。
礼拝中に手を脇腹に置くこと。
頭や顔を周囲に向けること、目で周囲を見ていること。胸を他に向けた人は礼拝が無効となります。
タシャッフドで犬のように座ること。
サジュダで、男性が腕を床につけること。
人の顔に対し、あるいは大声で話している人の背中に対して礼拝を行うこと。
誰かの挨拶に、手や頭で応えること。
礼拝、礼拝外であくびをすること。

礼拝中に目をつぶること。
イマームがミフラーブの中にいること。
イマームが単独で、集団から半メートル高いところにいることはハラールに近いマクルーフです。
イマームが単独で下にいることもハラールに近いマクルーフです。
前の列に空いているところがあるのに、後ろの列に並ぶこと、列に場所がない時に列の後ろに一人でいること。
生き物の絵が描かれた服で礼拝を行うこと。
生き物の絵が、礼拝をする人の上、前、右、左の壁に描かれ、あるいは布や紙に描かれて架けられ、あるいは置かれているのは、マクルーフです。巡礼の写真も生き物の写真と同様です。
炎を伴う火に対し礼拝を行うこと。
礼拝の節をタスビーフで数えること。
頭から足まで、一枚の布で包んで礼拝を行うこと。
露出した頭に布を撒いて、上部が露出した状態で礼拝を行うこと。
口や鼻を覆いながら礼拝を行うこと。
やむを得ない場合ではないのに、喉から痰を出すこと。
手を 1、2 度動かすこと。
礼拝のスンナのどれかを放棄すること。
やむを得ない場合ではないのに、子供を胸に抱いて礼拝を行うこと。
心を惑わせ、集中力を失わせるものの近く、例えば装飾品、ゲーム、楽器のそば、食べたいと思っている食事の前などで礼拝を行うこと。
ファルドを行う際、支障がないのに、壁や柱にもたれること。
ルクウを行う際、起きあがる際、手を耳のところまで挙げること。
クルアーンの章句を読むのを、ルクウをしながら終えること。
サジュダとルクウで、イマームより先に頭を置くこと、頭を上げること。
汚れている可能性のある場所で礼拝を行うこと。
墓に向かって礼拝を行うこと。

タシャッフドで、スンナに従って座らないこと。
2 回目のラカートで、1 回目のラカートよりも 3 つの節以上余分に唱えること。

礼拝以外でマクルーフである事柄
トイレや、その他の場所でウドゥーを無効とする際、イスティンジャーを行う際に、キブラを前にすること、背を向けること。
太陽と月に対しウドゥーを無効とすること。
小さな子供をキブラの方向に向けさせてウドゥーを無効にさせることは、それをさせた大人にとってマクルーフとなります。その為、大人に取ってハラームであることを子供にやらせることは、それをさせた人にとってハラームとなります。
キブラに対し、やむを得ない理由なく両足もしくは片足を伸ばすこと。
クルアーンやイスラームの書物に対し足を延ばすこと。それが高いところにあれば、マクルーフとはなりません。

礼拝を無効とする事柄
やむを得ない理由なく咳をすること、のどから痰を出すこと。
礼拝をしている人が、他者がくしゃみをした時に「ヤルハムカッラーフ」と言うこと。
礼拝を個人で行っている人が、別のところで集団礼拝をしている人々へイマームがクルアーンの言葉を唱えている時、間違えたのを聞き、彼に警告すれば、その人の礼拝は無効となります。もしイマームがこの人の警告に従って唱えれば、イマームの礼拝も無効となります。
礼拝中に「ラー　イラーハ　イッラッラー」と言った時、もしその目的が誰かに返事することであれば、礼拝は無効となります。もし目的が何かを告げることであれば、礼拝は無効になりません。
アウラの場所を露出すること。
痛み、もしくは別の悲しみの為に泣くこと。（天国や地獄について言及され、それらを考えて泣いたのであれば無効にはなりません）

手や言葉で挨拶を受けること。
カダーとなった礼拝の量が 5 を超えておらず、礼拝中にそれを思い出すこと。
礼拝中、彼を見た人が礼拝をしていないと思うほどに余計な動きをしていれば、礼拝は無効となります。
礼拝中に何かを食べること、飲むこと。
礼拝中に話すこと。
イマーム以外の人の過ちを指摘すること。
礼拝中に笑うこと。
礼拝中にすすり泣くこと、嘆くこと。

礼拝を中断することをムバーフ　とする事柄
ヘビを殺す為。
逃げる家畜を捕まえる為。
家畜の群れをオオカミから救う為。
沸き立つ鍋から逃れるため。
時間がなくなったり、人々がいなくなったりする心配がない場合、他の学派で礼拝を無効とするものから救われる為、例えばディルハムよりも少ない汚れを清める為に、あるいは他人である女性に接触したことを思い出してウドゥーを行う為に礼拝を中断することは認められます。
排泄や屁が我慢できなくなりそうな時にも、礼拝を中断することができます。

礼拝を中断することをファルドとする事柄
「助けて」と叫ぶ誰かを助ける為、井戸に落ちそうな盲人を助ける為、やけどしたり溺れたりしそうな人を助ける為、火事を消す為。
母、父、祖父、祖母が呼んでいる為にファルドの礼拝を中断することは認められません。認められたとしても、どうしても必要がなければ中断してはいけません。ナーフィラの礼拝では中断することができます。彼らが助けを求めていれば、ファルドをも中断することが必要です。

集団礼拝

礼拝では、少なくとも 2 人がいてその 1 人がイマームとなることで、集団ができます。5 回の礼拝のファルドを集団で行うことは男性にとってスンナです。金曜礼拝やイードの礼拝では集団で行うことはファルドです。集団で行う礼拝にはより多くのサワーブが与えられることがハディースで知らされています。預言者ムハンマドは次のように言われました。「集団で行われる礼拝には、一人で行われる礼拝よりも 27 倍のサワーブがある」、また別のハディースでは、「正しくウドゥーを行い、礼拝所に集団礼拝の為に行く人に、アッラーは一歩ごとにサワーブを記され、行いが記録さえたノートから歩みごとに一つずつ罪が消される。そして天国で彼の位階を一つ上げられる。」

集団で行われる礼拝は、ムスリムの間に一体化や統一をもたらします。愛情や結びつきを深めます。人々は集まり、互いに話し合います。悩みや苦しみがある人、病気である人がそれによって容易に理解されます。集団礼拝は、ムスリムが唯一の心、唯一の体であることの最良のしるしなのです。

病人、麻痺がある人、足が切断された人、歩けない老人、盲人は、集団礼拝に加わることは必須条件ではありません。

集団で行われる礼拝で、人々が従う存在を、イマームと呼びます。イマームとなることや、彼に従って集団を形成する為にはいくつかの条件があります。

イマームとなる為の条件

イマームとなる為には 6 つの条件があります。この条件の一つでも伴わないことがわかっている人の背後でなされた礼拝は、認められません。

ムスリムであること。アブー・バクル・スッドゥークやウマル・ファールクがカリフであることを信じない人、ミーラージュ　や墓場での場所を信じない人はイマームにはなれません。

思春期に達していること。

知性を伴っていること。酔っ払い、老衰した人はイマームにはなれません。

男性であること。女性は男性たちに対しイマームにはなれませ

ん。
少なくとも、ファーティハ章と一つの節を正しく唱えることができる人。一つの節も覚えていない人、覚えていたとしてもタジュウィードで読むことができない人、なまる人はイマームにはなれません。
障害がないこと。障害のある人は、障害のない人々へのイマームにはなれません。

イマームは、クルアーンをタジュウィードで読むことが必要です。読み方がきれいであるとは、タジュウィードで読むということです。礼拝の条件に重きを置かないイマームの背後で礼拝を行うことはできません。「誠実で公正な人の背後で礼拝を行いなさい」というハディースは、モスクのイマームについての言及ではなく、金曜礼拝を先導する統治者や総督の為のものです。
イマームに最も適した人はスンナ（すなわちイスラームの知識）を最も良く知っている人です。この点で同等である人々がいれば、クルアーンを最も良く読む人がイマームとなります。この点でも同等であれば、篤信がある方がイマームとなります。それでも同等であれば、年長であるほうが選ばれます。
奴隷、遊牧民、罪人、盲人、父親のわからない子供がイマームとなることはマクルーフです。イマームは集団をうんざりさせ、彼らを苦しめる形で礼拝を長々と行いません。
女性たちが自分たちだけで集団礼拝を行うことはマクルーフです。
一人の人とだけ一緒に礼拝を行うイマームは、その人を右側に立たせます。2 人の人へのイマームとなるのであれば、前に出ます。男性が女性や子供に従うことは認められません。
イマームの後ろでは男性が列を作り、その後ろで子供たちが、その後ろで女性たちが並びます。
イマームが女性たちの礼拝をも導くことをニーヤしたとき、同じ礼拝に参加している女性たちが男性と同じ列で礼拝を行えば、男性の礼拝が無効となります。もしイマームがこの女性のイマームとなることをニーヤしていなければ、並んでいる男性に害はありません。しかしこの女性の礼拝が認められません。立って礼拝

を行う人が、座ったまま礼拝を行う人に従うことは認められています。定住者は、旅行者であるイマームに従うことができます。ファルドの礼拝をする人は、ナーフィラの礼拝をする人に従うことはできません。イマームに従って礼拝を行った後でイマームのウドゥーがなかったことを知った人は、礼拝をやり直します。

ラガーイブ、ベラート、カディルの礼拝を集団で行うことはマクルーフです。

集団の人々が求めたとしても、イマームがファルドの礼拝を導く際、クルアーンの章句やタスビーフをスンナのよりも長く読むことはハラームに近いマクルーフです。

イマームがルクウをするまでに礼拝に間に合えなかった人は、そのラカートをイマームと行ったことにはなりません。イマームがルクウをしている時に礼拝に来た人は、ニーヤを行い、立ったままタクビールを行い、礼拝に加わります。すぐにルクウを行い、イマームに従います。ルクウを行う前にイマームがルクウから体を起こせば、その人はルクウには間に合えなかったことになります。

イマームよりも先にルクウを行うこと、サジュダを行うこと、あるいは先に身を起こすことはハラームに近いマクルーフです。ファルドの礼拝をした後、列を乱すことはムスタハブです。

ムスリムが日に 5 回の礼拝を毎日集団で行えば、全ての預言者たちと共に行ったほどのサワーブを得ます。

集団で行う礼拝がこれほど徳のあるものとなる為には、イマームの礼拝が有効なものであることが前提です。

誰であれ、集団礼拝を何の理由もなく放棄すれば、その人は天国の香りをかぐことができません。集団礼拝を何の理由もなく放棄する人は、4 つの学派それぞれで「憎まれるべき人」と定義されています。

日に 5 回の礼拝を集団で行うべく努力するべきです。最後の審判の日、アッラーが七層の地上、七層の天、玉座と全ての被造物を天秤の一方に、条件を守って集団で行われた一回の礼拝のサワーブをもう一方に置かれ、集団で行われる礼拝のサワーブの方がより重くなるのです。

イマームに従う礼拝が正しく行われる為に 10 の条件があります。
礼拝を行う際、タクビールの前にイマームに従うことをニーヤすること。「イマームに従います」と心から念じることが必要です。
イマームが女性たちにもイマームとなることをニーヤすることが必要です。男性へのイマームとなることをニーヤする必要はありません。しかしもしニーヤを行えば、彼は集団礼拝に参加している人々のサワーブをも得ることになります。
集団の人々のかかとは、イマームのかかとよりも後ろにあるべきです。
イマームと集団の人々は、同じファルドの礼拝を行うことが必要です。
イマームと集団との間に、女性の列があってはいけません。
イマームと集団との間に、ボートが通れるほどの川や車が通れるほどの道があってはいけません。
イマームもしくは集団の人々のうちの誰かを見たり、声を聞いたりすることができないような壁の間にいてはいけません。
イマームが動物に乗っている時に集団の人々が地面に至り、またその逆であったりしてはいけません。
イマームと集団は、くっついていない 2 つの船にいることはできません。
他の学派のイマームに従う集団の礼拝が真正となる為に、2 つの伝承があります。一つめによるなら、集団礼拝に参加している人々が、自分たちの学派で礼拝を無効とする事柄がイマームに存在しないことを知っていることが必要です。2 つめによるなら、彼自身の学派によって礼拝が真正とされるイマームに、他の学派の人々も従うことができます。この見解によるなら、歯の詰め物やかぶせ物があるイマームに従うことは認められません。

集団にあたる人が一人だけなのであれば、イマームの右側で同じ列に並びます。左側に並ぶことはマクルーフです。背後にいることもマクルーフです。足のかかとがイマームのかかとより前にでなければ、礼拝は真正となります。2 人もしくはそれ以上の場合は、イマームの背後に並びます。

イマームと一緒に、個人で礼拝を行う時のように礼拝します。

ただ、立っている時にイマームが心の中で唱えても、大きな声で唱えても、集団礼拝に参加している人々は何も唱えません。（シャーフィー派では、イマームと共に人々も小声でファーティハ章を読みます）ただ、1 回目のラカートで「スブハーナカ」を唱えます。イマームが大きな声でファーティハ章を唱え終えると、集団の人々は小声で「アーミーン」と言います。これを大声で言ってはいけません。ルクウから起き上がる時、イマームが「セミアッラーフ　リマン　ハミダ」と言うと、集団の人々はただ「ラッバナー　ラカル　ハムド」と言います。それから体を前に折る時に「アッラーフ　アクバル」といいながら、イマームと共に集団の人々もサジュダを行います。ルクウやサジュダ、そして座位においては、一人で礼拝する時と同様に集団の人々もドゥアー等を唱えます。
　ウィトルの礼拝は、ラマダーン月は集団で行われます。それ以外は個人個人で行われます。

遅れてきた人の礼拝
　イマームに従う人には 4 種類があります。これは「ムドゥリク」「ムクタディ」「マスブーク」そして「ラーフク」です。
ムドゥリク：イフティタフ・タクビールをイマームと一緒に行った人を意味します。
ムクタディ：イフティタフ・タクビールに間に合えなかった人を意味します。
マスブーク：イマームの 1 回目のラカートに間に合えなかった人を意味します。
ラーフク：イフティタフ・タクビールをイマームと共に行い、しかしその後ウドゥーを無効とする状態が生じた為、ウドゥーを行いなおし、再びイマームに従った人です。この人は、それまでと同様にキラートをせず、ルクウやサジュダのタスビーフを唱えつつ、礼拝を行います。この人は、もし世俗的な会話をしなければ、イマームの背後にいるような状態です。しかしモスクから出た後、近くでウドゥーを行わなければなりません。もし遠くにいけば礼拝が無効になるともされているからです。
　マスブーク、すなわち 1 回目のラカートに間に合えなかった人

は、イマームが左右に挨拶を行った後、立ち上がり、間に合わなかったラカートの礼拝を行います。
　キラートは、まず 1 回目、それから 2 回目、そして 3 回目のラカートを行っている形で実行します。座位は、まず 4 回目、それから 3 回目、そして 2 回目と、すなわち逆から始めます。例えば、イシャーの最後のラカートに間に合った人は、イマームが挨拶を行った後、立ち上がり、1 回目、2 回目のラカートでファーティハ章と他の章句を読みます。1 回目のラカートでは座り、2 回目では座りません。

イマームが行わなかった場合、集団礼拝に参加している人々も行わない 5 つの事柄

イマームがクヌートのドゥアーを唱えなければ、人々も唱えません。
イマームがイードの礼拝のタクビールを行わなければ、人々も行いません。
イマームが 4 ラカートの礼拝の 2 ラカート目で座らなければ、人々も座りません。
イマームがサジュダの章句を読み、サジュダを行わなければ、人々も行いません。
イマームが過失のサジュダを行わなければ、人々も行いません。

イマームが行った場合でも、集団礼拝に参加している人々は行わない 4 つの事柄

イマームが 2 回よりも多くサジュダを行った場合、人々は行いません。
イマームがイードのタクビールを 1 回のラカートで 3 回よりも多く行った場合、人々は行いません。
イマームが葬儀の礼拝で 4 回よりも多くのタクビールを行った場合、人々は行いません。
イマームが 5 回目のラカートを行おうとした場合、人々は行いません。イマームを待ち、共に挨拶を行います。

イマームが行わなかった場合でも、集団礼拝に参加している人々は行う 10 の事柄

イフティタフ・タクビールで手を上げること。
スブハーナカを唱えること。
ルクウを行う際タクビールを行うこと。
ルクウでタスビーフを読むこと。
サジュダを行う時、起き上がる時、タクビールを行うこと。
サジュダでタスビーフを唱えること。
「サミ　アッラーフ」を唱えなくても「ラッバナー　ラカル　ハムド」と唱えること。
「アッタヒヤートゥ」の最後まで座ること。
礼拝の最後に挨拶を行うこと。
イード・ル・アドゥハー（犠牲祭）で 23 回のファルドの後、挨拶を行わったすぐ後でタクビールをすること。この 23 回のタクビールをタシュリークのタクビールと呼びます。

イフティタフ・タクビールの徳

誰かが、イフティタフ・タクビールをイマームと共に行えば、秋、木から葉や風が吹くたびに落とされるように、その人の罪も同じように落とされます。

ある日、預言者ムハンマドは礼拝をされている時、ファジュルの礼拝のイフティタフ・タクビールに間に合わなかった人がいました。彼は奴隷を一人解放し、それから預言者ムハンマドを訪ね、質問しました。「アッラーの使徒よ。私は今日、イフティタフ・タクビールに間に合いませんでした。奴隷を一人解放しました。私はイフティタフ・タクビールのサワーブを得ることができるでしょうか。」預言者ムハンマドはアブー・バクル・スッドゥークに、「このイフティタフ・タクビールについてあなたはどう思うか」と尋ねられました。アブー・バクル・スッドゥークは、「アッラーの使徒よ！仮に私が 40 頭のラクダを持ち、その荷が宝石であり、その全てを貧者へのサダカとしても、やはりイマームと共に行うイフティタフ・タクビールのサワーブを得ることはできません」

それからアッラーの使徒は「ウマルよ、あなたはこのイフティ

タフ・タクビールについてどう思うか」と尋ねられました。ウマルは、「アッラーの使徒よ！仮にマッカとマディーナに間をいっぱいにするだけのラクダを私が持っていて、その荷が宝石であり、その全てを貧者へのサダカとしても、やはりイマームと共に行うイフティタフ・タクビールのサワーブを得ることができません」と答えました。

それから預言者ムハンマドは「オスマーンよ！あなたはこのイフティタフ・タクビールについてどう思うか」と尋ねられました。オスマーンは、「アッラーの使徒よ！私が夜、2ラカートの礼拝を行い、それぞれのラカートで荘厳なるクルアーンを全て読んだとしても、やはりイマームと共に行うイフティタフ・タクビールのサワーブを得ることはできません」といいました。

それから預言者ムハンマドは、「アリーよ！あなたはこのイフティタフ・タクビールについてどう思うか」と尋ねられました。アリーは、「アッラーの使徒よ！マグリブ（西方）からマシュリク（東方）まで不信仰者で満ちており、アッラーが私に力を与えられて全てを倒したとしても、やはりイマームと共に行うイフティタフ・タクビールのサワーブを得ることはできません」といいました。

それから預言者ムハンマドは、「わがウンマよ、わが友たちよ！七層の地と七層の天が紙となり、大洋がインクとなり、全ての木がペンとなり、全ての天使が書記となり、最後の審判の日まで書き続けたとしても、やはりイマームと共に行うイフティタフ・タクビールのサワーブについて書くことはできない」といわれました。

物語：宮殿に作られた礼拝所

イマーム・アザーム・アブー・ハニーファの弟子であるイマーム・アブー・ユースフ（アッラーがお慶びくださいますように）は、ハールン・ラシドの時代に地方検事でした。ある日、ハールン・ラシドのそばにいる時、ある人が他の人について訴訟を起こしました。ハールン・ラシドの宰相も、「私が証人だ」といいました。イマーム・アブー・ユースフは、宰相が証人となることを認めませんでした。カリフはなぜ宰相を証人として認めないのか訊

ねました。イマームは、「ある時あなたは彼に仕事を命じられた。彼もあなたに、私はあなたのしもべですといいました。もし事実を話したのであれば、奴隷の証言は認められません。もし嘘を話したのであれば、嘘つきの証言も聞き入れられません」と答えました。カリフは、「私が証言すれば認めるか」と尋ねました。「いいえ、認められません」とイマーム・アブー・ユースフは答えました。「なぜか」と尋ねられました。「あなたは集団礼拝をしておられません」と答えました。「私はムスリムたちの為の仕事で忙しいのだ」とカリフはいいました。イマームは、「創造者に服従すべきところで、被造物へは服従するべきではありません」と答えました。カリフは「もっともだ」といい、宮殿に礼拝所を作るよう命じました。ムアッズィンとイマームも任命されました。そしてそれからはいつも、礼拝を集団と共に行ったのでした。

金曜礼拝

アッラーは金曜日を、ムスリムの特別のものとされました。金曜日のズフルの時間に集団礼拝を行うことは、アッラーのご命令です。

アッラーは、合同礼拝章の 9－10 節で次のようにいわれました。「あなたがた信仰する者よ、合同礼拝の日の礼拝の呼びかけが唱えられたならば、アッラーを念じることに急ぎ、商売から離れなさい。もしあなたがたが時刻を分っているならば、それがあなたがたのために最も善い。礼拝が終ったならば、あなたがたは方々に散り、アッラーの恩恵を求めて、アッラーを讃えて多く唱念しなさい。必ずあなたがたは栄えるであろう」

礼拝後、望む人は仕事に行き、働き、望む人はモスクに留まり、礼拝をしたりクルアーンを読んだりドゥアーをしたりします。金曜礼拝の時間に入ると、商売を行うことは罪となります。

預言者ムハンマドは、様々なハディースで仰せられています。
「ムスリムが金曜日にグスルの礼拝をして金曜礼拝に行くなら。一週間分の罪が許され、一歩ずつの為にサワーブが与えられる」
「アッラーは、金曜礼拝を行わない人の心を封印される。彼らはガーフィルとなる。」
「日々のうち最も尊いのは金曜日である。金曜日はイードの日よ

りも、そしてアシューラの日よりもより尊い。金曜日は現世と天国における信者たちのイード（祝日）である。」
「誰かが、妨げとなるようなものもないのに 3 回にわたり金曜礼拝を行わなければ、アッラーは心を封印される。すなわち、良いことを行わなくなる。」
「金曜礼拝の後、ある一瞬がある。その瞬間に信者が行ったドゥアーは拒まれない。」
「金曜礼拝の後で 7 回イフラース章、7 回黎明章、7 回人々章を読む人を、アッラーは一週間、事故や災難、悪事から守られる。」
「土曜日がユダヤ教徒たちに、日曜日がキリスト教徒たちに与えられたように、金曜日はムスリムに与えられた。この日は、ムスリムたちに福、恵み、善がある。」
金曜日に行われるイバーダには、他の日に行われるものの少なくとも 2 倍のサワーブが与えられます。金曜日に行われた罪についても 2 倍として記されます。
金曜日に魂は集まり、互いと知り合います。その後墓地が訪問されます。この日には墓場での罰が止められます。一部の学者によれば、信者に対する罰はそのまま終わります。不信仰者の罰は、金曜日とラマダーン月に赦されず、審判の日まで続きます。この日、そしてこの夜に死んだムスリムは、墓場での罰を受けません。地獄は金曜日にはあまり暑くなりません。預言者アーダムは金曜日に創造されました。金曜日に天国から出されました。天国に行く人々は、アッラーを金曜日に目にすることができます。

金曜礼拝のファルド

金曜日には 16 ラカートの礼拝がされます。このうち 2 ラカートを行うことはファルドで、これはズフルの礼拝よりもより強いファルドです。金曜礼拝がファルドとなる為には 2 種類の条件があります。
エダーの条件
ウジューブの条件
エダーの条件の一つが不足すれば、礼拝は認められません。ウジューブの条件が不足しても、礼拝は認められます。

エダー、すなわち金曜礼拝が真正となる為の条件は 7 つ
礼拝を町で行うこと。（ここでいう町とは、人々が最大のモスクに入りきらない場所を意味します）
国家の長や知事の許可を得て行うこと。彼らが任命した説話者は、自分の代わりに他者を代理にすることができます。
ズフルの礼拝の時間に行うこと。
時間内にフトバ（説話）を行うこと。（学者たちは金曜日のフトバを読むことは、礼拝時に「アッラーフ　アクバル」と唱えることのようである、と話しています。つまり 2 つのフトバはアラビア語で読むべきです。説話者は心の中で「アウーズ」を唱え、それから大きな声で「ハムドゥ」「セナー」「カリーマ・シャハーダ」「サラートゥ　サラーム」を唱えます。それから、サワーブと罰をもたらすものを思い起こさせ、クルアーンの節を読みます。座り、それから立ち上がります。2 回目のフトバを行い、説話の代わりに信者たちにドゥアーします。4 大カリフの名を唱えることはムスタハブです。フトバに世俗的な言葉を混入させることはハラームです。フトバを、スピーチや講演会のような形にしてはいけません。フトバを短くすることはスンナです。長くすることはマクルーフです）
フトバを礼拝よりも先に行うこと。
金曜礼拝を集団と共に行うこと。
モスクのドアを皆に対して開いておくこと。

金曜礼拝のウジューブの条件は 9 つ
町、小さな町に住んでいること。旅行者にはファルドではありません。
健康であること。病人や病人を放っておけない看護人、そして老人にはファルドではありません。
自由（奴隷ではない）であること。
男性であること。女性にはファルドではありません。
知性を持ち、思春期に達していること。つまりムカッラフであること。
盲人ではないこと。モスクに連れて行ってくれる人がいたとしても、目が見えない人にはファルドではありません。

歩けること。運ぶことができるとしても、麻痺のある人、足がない人にはファルドではありません。
刑務所にいないこと、敵の恐れ、統治者や迫害者への恐れがないこと。
過度の雨、雪、嵐、泥、寒さなどがないこと。

金曜礼拝はどのように行われるか

金曜日、ズフルのアザーンが読み上げられると、16 ラカートの金曜礼拝が行われます。これらの手順は次の通りです。
まず、金曜礼拝の 4 ラカートの最初のスンナを行います。このスンナはズフルの礼拝の最初のスンナのように行います。これを、「アッラーのご満悦の為に金曜礼拝の最初のスンナを行うことをニーヤしました。キブラに向かいました」とニーヤします。
それから、モスクの中で 2 回目のアザーンとフトバが読まれます。
フトバを読んだ後にイカーマがなされ、集団と共に金曜礼拝の 2 ラカートのファルドが行われます。
金曜礼拝のファルドを行った後、4 ラカートの終わりのスンナを行います。これはズフルの礼拝の最初のスンナのように行います。
その後、「ファルドであり、行っていなかった最後のズフルの礼拝のファルドを行います」とニーヤし、「アーヒル・ズフル」の礼拝を行います。4 ラカートのこの礼拝の行い方は、ズフルの礼拝のファルドの行い方のようにします。
それから、2 ラカートの「時間のスンナ」を行います。行い方はファジュルの礼拝のスンナの行い方のようにします。
その後、アーヤトゥル・クルシーとタスビーフを唱え、ドゥアーを行います。

金曜礼拝のスンナと徳

金曜礼拝に、木曜日から備えること。
金曜日にグスルを行うこと。
頭の髪を整え、髭の長すぎる部分や爪を切ること。清潔な服を着ること。
金曜礼拝に可能な限り早めに行くこと。

前の列に並ぼうと人々を抜かさないないこと。
モスクでは、礼拝している人の前を通らないこと。
説話者が説教台に上がった後は何も話さないこと、話す人に、しぐさであっても答えないこと、アザーンを繰り返さないこと。
金曜礼拝の後、ファーティハ章、不信者たち章、イフラース章、黎明章、人々章を 7 回読むこと。
アスルの時間までモスクに留まり、イバーダを行うこと。
学者たち（スンナの道をいく学者たちの書物を用いる）の授業や説話に参加すること。
金曜日を 1 日イバーダを行って過ごすこと。
金曜日にサラワート・シャリファを行うこと。
クルアーンを読むこと。洞窟章を読むべきです。
サダカを支払うこと。
両親もしくは墓地を訪問すること。
家の食事を十分に、おいしく作ること。
多くの礼拝を行うこと。カダーに残した礼拝がある人は、カダーの礼拝を行わなければなりません。

イードの礼拝

シャッワール月の一日目はフィトル、つまりラマダーンあけの大祭の、ズルヒッジャ月の十日目は犠牲祭のそれぞれ初日です。この 2 つの日、日が昇り、礼拝をさけるべき時間が過ぎた後、2 ラカートのイードの礼拝を行うことは、男性にとってワージブです。

イードの礼拝の条件は、金曜礼拝の条件と同じです。しかしここではフトバはスンナであり、礼拝の後に行われます。

ラマダーンあけの大祭では、礼拝の前に甘いもの（ナツメヤシもしくは砂糖）を食べること、グスルを行うこと、ミスワークを使うこと、最も良い服を身に着けること、フィトル・サダカを礼拝の前に支払うこと、道中も小声でタクビールを行うことがムスタハブです。

犠牲祭では、イードの礼拝の前に何も食べないこと、礼拝の後で犠牲として屠った動物の肉を食べること、礼拝に行く時には大きな声で、差し障りがある人は小声でタクビールを行うことがムスタハブです。

イードの礼拝は 2 ラカートです。集団で行われ、個人で行われることはありません。

イードの礼拝はどのように行われるか

まず、「ワージブであるイードの礼拝を行うことをニーヤしました。イマームに従います」とニーヤし、礼拝を始めます。それから「スブハーナカ」を唱えます。
「スブハーナカ」の後、手を耳のところまで上げつつ 3 回タクビールを行い、1 回目と 2 回目では両手を体のわきに下ろします。3 回目では、臍の下で手を組みます。イマーム派まずファーティハ章を、それからもう一つの章を読み、共にルクウを行います。2 回目のラカートで、イマームはまずファーティハ章ともう一つの章を読みます。それから両手を 3 回、タクビールをしつつ上げます。3 回目も体の脇に下ろします。4 回目のタクビールで手を耳のところにあげず、ルクウを行います。簡単に「2 回上げて 1 回組む、3 回上げて 1 回体を折る」と暗記することができるでしょう。

タシュリークのタクビール：

犠牲祭の前日のファジュルの礼拝から 4 日目のアスルの礼拝まで、巡礼者及び巡礼に行かなかった男女全ては、集団礼拝であろうと個人で礼拝していようと、ファルドの礼拝の後で挨拶を行ったすぐ後に、一度タシュリークのタクビールを行うことはワージブです。
葬儀の礼拝の後は読みません。モスクから出た後、あるいは話した後で唱える必要はありません。
イマームがタクビールを忘れても、集団礼拝をしている人々はそれを放棄しません。男性は大きな声で、女性は小さな声で読みます。

タシュリークのタクビール
「アッラーフ　アクバル、アッラーフ　アクバル
ラー　イラーハ　イッラッラーフ
ワッラーフアクバル　アッラーフアクバル
ワ　リッラーヒルハムドゥ」

死への備え

死を思い起こすことは、最大の警告です。信仰を持つ全ての人がしばしば死を思い起こすことはスンナです。死を多く思い起こすことは、命令に従い、罪を避ける要因となる上にハラームを行う勇気を失わせます。預言者ムハンマドは次のように仰せられました。「味わいを損なわせ、楽しさに終わりを与える死を、しばしば思い起こしなさい。」

イスラームの偉人の一部は、毎日一度は死を思い起こすことを習慣としていました。偉大なワリーの一人、ムハンマド・バハーアッディニ・ブハーリーは毎日 20 回、自らが死んで墓に埋められた場面を想像していました。

不死の願望とは、長く生きることを望むことです。イバーダを行い、イスラームに奉仕する為に長生きすることを望むことは、不死の願望ではありません。この願望を持つ人はイバーダを時間通りに行いません。悔悟を行うことも放棄します。心は頑なになっています。死を思い起こすこともなくなります。説話や忠言から教訓を得ることもありません。

不死の願望を持つ人は、いつでも現世での富や地位を得る為に生涯を送ります。来世を忘れます。ただ快楽と喜びを得ることのみを考えています。

ハディースでは次のように仰せられています。

「死ぬ前に、死になさい。審判を受ける前にあなた自身を裁きなさい。」

「もし動物たちが死の後に起こることをあなた方が知っているように知っていれば、食用として脂ののった動物を見つけることはできなかっただろう」

「日夜死を考える人は、審判の日に殉教者のそばにいるだろう」

不死への願望への要因：現世での快楽に夢中になること、死を忘れること、健康や若さに欺かれることです。不死への願望という病から救われる為には、この要因をなくす必要があります。死があらゆる瞬間に訪れることを考えるべきです。不死願望を持つことの弊害と、死を思い起こすことの効用を学ぶべきです。

ハディースでは次のように説かれています。

「死を、多く思い起こしなさい。それを思い起こすことは、罪を犯すことから人を守り、来世で害を及ぼすことを避ける要因となる。」

死とは何か

死をなくすことは不可能です。死とは、魂と肉体の結びつきが終わることです。魂が肉体から離れることです。死は、人がある状態からもう一つの状態へと変わることで、まるで一つの家から別の家に移ることのようです。ウマル・ビン・アブドゥルアジズ師は、「あなた方はただ、永遠の為に創造された。しかし、一つの家から別の家へ移るのだ」と話しています。死は、信者への贈り物ですが、罪を犯した人にとっては災いです。人は死を求めません。しかし死は、災いというよりもむしろ良い　　ことです。人は生きることを好みます。しかし死は、人にとって良い　　ことなのです。誠実な信者であれば、死によって現世の苦労や疲労から救われます。それが迫害者の死であれば、国々や奴隷たちが安全を得ます。ある迫害者の死について語られた古い2行詩があります。

自分自身も楽になることはなかったように、世界にも安らぎを与えなかった
この世界から倒れて去った　死者たちが忍耐するように

信者の魂が肉体から離れることは、捕虜が監獄から救われることのようです。信者は、死んだ後にこの世界に戻ることを求めません。ただ殉死者たちは、この世界に戻ってもう一度殉死することを求めます。死は、全てのムスリムにとっての贈り物です。人の教えを、ただその墓が守ります。墓での生活は、天国の庭にいること、もしくは地獄の穴にいることのように例えることができます。

死は真実である

死から救われることは可能でしょうか。もちろん不可能です。1秒であっても余分に生きることは誰にもできません。死が訪れた人は、死にます。この瞬間は、目を開けて閉じる間に過ぎる一瞬です。クルアーンでは、「死が訪れた時には、それを一時でも

遅らせたり早めたりすることはできない」という意味のことが説かれています。
　アッラーが人の死をどこに定められたのであれ、その人は財産、資産、子供を残し、そこで死にます。
　アッラーは私たちが日に何回呼吸したかをご存じです。アッラーがご存じでないことは何もありません。信仰し、人生がイバーダと共に過ぎたのであれば、その終わりは幸福です。アッラーはアズラーイールに、「わが親友の命を容易に取りなさい、敵の命を困難な形で取りなさい」と仰いました。信仰を持つ人々にとって、これは大きな吉報です。しかし、信仰を持たない人々にとっては大きな災いなのです。

葬儀の礼拝

　信者が亡くなった時、その知らせを受けた男性、男性がいなければ女性に、葬儀の礼拝はキファーヤのファルドとなります。葬儀の礼拝はアッラーの為の礼拝であり、死者の為のドゥアーです。それを大切にしない人は信仰が失われます。

葬儀の礼拝の条件

死者がムスリムであること。
洗浄がなされていること。洗浄されずに埋葬された人は、まだ土がかけられていなければそこから出して洗い、礼拝を行います。
遺体と、イマームのいる場所は、清潔であることが必要です。
遺体の、もしくは胴体の半分と、頭もしくは頭がなければ半分より多い胴体がイマームの前にある必要があります。
遺体は地面もしくは地面に近いところで、手によって支えられているか、石の上に載せられているべきです。遺体の頭はイマームの右側、足は左側に来ます。逆に置くことは罪となります。
遺体はイマームの前にあるべきです。
遺体とイマームのアウラの場所は覆われているべきです。

葬儀の礼拝のファルド

1．4回タクビールを行うこと。
立ったまま行うこと。

葬儀の礼拝のスンナ

「スブハーナカ」を唱えること。
「サラワート」を唱えること。
本人、死者、そして全てのムスリムへ許しを求める為に教えられているドゥアーのうち、知っているものを唱えること。

葬儀の礼拝はモスクの中では行われません。

生きた状態で生まれてそのまま死んだ子供には、名前が付けられ、洗われ、白布で包まれ、礼拝が行われます。

遺体が運ばれる時には、棺の四方から支えます。まず遺体の頭の側が右肩に、それから足の側が右肩に、それから頭の側が左肩に、足の側が左肩に載せられ、それぞれによって 10 歩ずつ運ばれます。墓に着く際、遺体を肩から地面に下ろすまでは座りません。埋葬が行われる際、作業がない人は座ります。

葬儀の礼拝はどのように行われるか

葬儀の礼拝の 4 つのタクビールのそれぞれは、一つのラカートのように行われます。4 つのタクビールの 1 回目のみで、手を耳のところに上げます。後の 3 つのタクビールでは手を上げません。

最初のタクビールを行い、両手を組み合わせ、「スブハーナカ」を唱えます。それが唱えられる時には、「ワジャッラ　サナーウカ」も唱えられます。ファーティハ章は読まれません。

2 回目のタクビールの後、タシャッフドで座る時に読まれる「サラワート」、すなわち「アッラーフンマ　サッリ」と「アッラーフンマ　バーリク」が唱えられます。

3 回目のタクビールの後、葬儀のドゥアーが行われます。(葬儀のドゥアーの代わりに「ラッバナー　アーティナー」もしくはただ「アッラーフンマウフィルラフ」と唱えること、あるいはドゥアーとしての意思を持ってファーティハ章を唱えることもできます)

4 回目のタクビールの後、すぐに左右に挨拶を行います。挨拶を行う際、死者や集団礼拝に参加している人々へという形でニーヤします。

イマームは、ただ 4 つのタクビールと両肩への挨拶を声に出し

て行います。それ以外は心の中で唱えます。
　葬儀の礼拝を行った後、棺のそばでドゥアーを行うことは認められません。マクルーフとなります。

タラーウィーの礼拝

　タラーウィーの礼拝は、男女にとってスンナです。ラマダーン月に毎晩行われます。集団で行うことがキファーヤのスンナです。時間は、イシャーの礼拝の後、そしてウィトルの礼拝の前です。ウィトルの後に行うこともできます。例えば、タラーウィーの一部に間に合って、イマームと共にウィトルの礼拝を行った人は、タラーウィーの礼拝のうちで間に合わなかった分のラカートを、ウィトルの後で行います。
　行われなかったタラーウィーの礼拝は、カダーされません。カダーされた場合はナーフィラの礼拝となります。タラーウィーの礼拝とはならないのです。
　タラーウィーの礼拝は 20 ラカートです。

タラーウィーの礼拝はどのように行われるか

　ウィトルの礼拝は、ラマダーン月のみ集団で行われます。タラーウィーの礼拝を 2 ラカートずつ、10 回の挨拶で行うこと、4 ラカートごとにタスビーフを行いながら実行することがムスタハブです。カダーに残した礼拝がある人は、空いた時間に 5 回の礼拝のスンナとタラーウィーの代わりにカダーの礼拝を行い、少しでも早くカダーの礼拝を終え、それからこの礼拝を始めるようにします。
　タラーウィーの礼拝をモスクにて集団で行えば、他の人々は家で行うことができます。罪にはなりません。しかし、モスクでの集団礼拝のサワーブを得ることはできません。家で、一人もしくは複数の人と集団で行えば、個人で行うよりも 27 倍のサワーブを得ます。イフティタフ・タクビールごとにニーヤを行うことがより良い　とされます。イシャーの礼拝を集団で行わない人は、タラーウィーの礼拝も集団ではできません。イシャーの礼拝を個人で行った人は、ファルドを個人で行い、それからタラーウィーの礼拝を集団で行うことができます。

第5部
旅行中の礼拝

ハナフィー派に属する人は、15日よりも少なく滞在する意思を持ち、104 キロかそれよりも遠い場所に行くことで、旅行者となります。

旅行者は、4 ラカートの礼拝を 2 ラカートとして行います。定住者のイマームに従う時は、やはり 4 ラカート行います。旅行者がイマームになれば、2 回目のラカートの後で挨拶を行います。それから、彼に従って集団礼拝をしていた人々は礼拝を完了させる為に 2 ラカートをさらに行います。

旅行者である人は、メストの上から 3 日 3 晩、マスフを行うことができます。断食を中止することができますが、旅行者の調子がよければ、中止しないことがより良い　とされます。犠牲を屠ることはワージブではありません。金曜礼拝も旅行者としてファルドではありません。

礼拝の時間の最後の方で出発した人は、この礼拝をまだ行っていなければ 2 ラカートで行います。しかし時間の最後に祖国に戻った人がまだその礼拝を行っていなければ、4 ラカートで行います。

「イスラームの恵み」という本では次のように書かれています。ナーフィラの礼拝は、立って行う力があっても、座って行うことはいつでもどこでも認められています。座って行う際には、ルクウの為に体を曲げます。サジュダの為には頭を地面につけます。しかし、理由なくナーフィラの礼拝を座って行う人には、立って行う人の半分ほどしかサワーブが与えられません。日に 5 回の礼拝のスンナも、タラーウィーの礼拝も、ナーフィラの礼拝となります。旅行中、つまり町や村以外で、ナーフィラの礼拝を動物の上で行うことは認められています。キブラに向かうこと、ルクウとサジュダを行うことは不要です。象徴的な動きで行います。つまり、ルクウの為に体を少し曲げます。サジュダの為にもう少し体を曲げます。動物の上にたくさんの汚れがあることは、礼拝の妨げにはなりません。床でナーフィラの礼拝を行う際、疲れた人は、杖、人、壁にもたれて行うことが認められています。自分の

足で歩いている時に礼拝をすることは、真正にはなりません。
　ファルドやワージブの礼拝は、やむを得ない理由がない限りは、動物の上で行うことは認められません。ただし差し障りがあれば行えます。やむを得ない理由がある、差し障りのある人とは、財産や生命、家畜が危険であること、家畜から下りた場合、動物もしくは動物の上、もしくは動物の近くにある財産が盗まれること、獰猛な動物、敵、地面に泥があること、雨が降っていること、病人であるために乗り下りする際に回復が遅れること、あるいは病気が重くなること、友が待ってくれず、危険な状態であること、一度下りると援助なしではその家畜に乗れないような人を指します。
　可能であれば、動物をキブラの方角に向けて止まらせて行います。不可能であれば、動いている状態でも礼拝を行います。家畜の上にあるマフミールと呼ばれるはこの中で礼拝を行うことも同様です。動物を止まらせ、マフミールの下に棒を置けば、サリール、すなわちテーブルと同じであり、地面で礼拝を行うことを意味します。この場合はキブラに向かって立って行うことが必要です。動物から下りることができる人は、ファルドの礼拝をマフミールで行うことはできません。
　船で礼拝を行う時は、ジャファール・タイヤールがエチオピアに向かう時、預言者ムハンマドが教えられたように、次のような形をとります。動いている船で、差し障りがなくても、ファルドやワージブを行うことができます。船で、集団礼拝を行うこともできます。動いている船で象徴的な動きで礼拝をすることは認められません。ルクウとサジュダを行います。キブラに向かうことも必要です。礼拝を始める時、キブラに向かいます。船が動くにつれて、その人もキブラに向きを変えます。船ではナジャーサからの清めも必要です。イマーム・アーザム・アブー・ハニーファによると、進む船ではファルドも、差し障りのない状態で座って行うことが認められています。
　海の真ん中にいかりを下ろした船は、大きく揺れているようであれば、進む船と同様です。少ししか揺れていなければ、海岸に停まっている船の場合と同様に行います。海岸に停まっている船では、ファルドを座って行うことはできません。海岸に上がるこ

とが可能であれば、立って礼拝することも真正とはならず、陸に上がって礼拝を行うことが必要となります。財産、生命、そして船が出発する危険があれば、船で、立って礼拝することが認められています。

イブン・アービディンは次のように語っています。「2つの車輪があり、動物につながれなければ地面でまっすぐ立つことのできない乗り物で礼拝を行うことは、止まっている時も動いている時も、動物の上で礼拝を行うことと同様です。4つの車輪がある乗り物は、止まっている時はセリル、つまり机と同様です。動いている時は、動物に関して先述の差し障りがあれば、そこでファルドをおこなうことができ、乗り物を止めてキブラに向かって礼拝します。止めることができなければ、進んでいる船に乗っている時のように礼拝します。」

動いている際にキブラに向かうことができない人は、シャーフィー派を模倣し、2つの礼拝をまとめて行います。これも不可能であれば、キブラに向かうことは条件ではなくなります。椅子、ソファーに座って象徴的な動きで礼拝をすることは、誰にも認められません。バスや飛行機で礼拝することは、乗り物で行うことと同様です。

旅行中のファルドやワージブは、やむを得ない理由なく動物の上で行うべきではありません。乗り物を止め、キブラに向かって立って行うべきです。この為に、乗り物に乗る前に必要となるものの用意をあらかじめしておくべきなのです。

旅行者は、ボートや電車でファルドの礼拝を行う時、キブラに向かい、サジュダの場所のそばにコンパスを置くべきです。ボートや電車が向きを変えるたびに、彼自身もキブラに向きを変えます。胸がキブラの方向から離れた場合、礼拝は無効になります。バス、電車、波のある海で、キブラに向かうことができない人のファルドの礼拝は認められません。その為、こういった人々は旅行中にシャーフィー派を模倣し、ズフルとアスルの礼拝、そしてマグリブとイシャーの礼拝を一緒に行うことができます。つまり、旅行中にこの2つの礼拝を続けて行うのです。なぜならシャーフィー派では、80キロ以上続く旅行の間は、アスルをズフルの時間に、そしてイシャーをマグリブの時間に早めて行うこと、も

しくはズフルをアスルの時間に、マグリブをイシャーの礼拝に遅らせて、この 2 つの礼拝を共に行うことができるからです。この為、ハナフィー派である人が、旅行中キブラに向くことができずに、日中どこかで止まった際にズフルの礼拝を行ったら、すぐ後にアスルの礼拝も行うべきです。夜、止まった時には、イシャーの礼拝の時間にまずマグリブを、それからイシャーを同時に行うべきです。そしてこれらの礼拝をニーヤする時は、「シャーフィー派を模倣し実行します」とニーヤするべきです。出発前、もしくは旅行が終わってから、2 つの時間の礼拝を同時に行うことはできません。

病気の際の礼拝

ウドゥーを無効とするものが体から出ることが続いているのであれば、「差し障り」があるといわれます。尿、膿、屁、鼻血、傷口から血や膿が流れること、痛みや腫れの為に涙が出ること等が一つの礼拝の時間内に続いていれば、もしくは月経ではない出血がある女性は、「差し障り」があるといわれます。詰め物をしたり、薬を処方したり、もしくは礼拝を、座って、もしくは象徴的な動きで行ったりすることで、これらを止めることが必要です。尿が漏れる男性は、尿道にオオムギほどの綿を詰めます。この綿は、少量の尿を吸収し、外に流れることを防ぎます。これによってウドゥーが無効とはなりません。綿は排尿時に自然に外れます。尿が大量に漏れるのであれば、綿を浸透した尿が外にも漏れ、ウドゥーが無効となります。溢れた尿が下着を汚さないようにすべきです。女性は、前部にいつでもパッドを当てておくべきです。おりものがとまらなければ、礼拝の時間ごとにウドゥーをし、その状態で礼拝を行います。差し障りのある人は、一回のウドゥーを行うことで、その時間が終わるまで、ファルド、カザー、そしてナーフィラの礼拝を行うことができます。クルアーンを持つこともできます。礼拝の時間が過ぎれば、ウドゥーは無効になります。時間が過ぎる以前にも、差し障り以外の理由でウドゥーが無効になることもあります。例えば、鼻の穴の一つから血が出ている時にウドゥーを行い、その後もう一つの穴からも血が出てきた場合、ウドゥーは無効となります。ウドゥーを行い、そ

の時間のファルドを行うだけの時間に流れないようであれば、差し障りがあることにはなりません。マーリキー派の一つの見解によれば、一滴でも流れれば差し障りがあることになります。

誰かが差し障りのある状態となり、次の礼拝の時間に、一度でも、一滴でも流れれば、差し障りのある状態はその時間にも続きます。一つの礼拝の時間に全く流れなければ、差し障りのある状態は終わります。差し障りのある人の汚れが、その服にディルハムの量以上についたとき、再び汚れることを防ぐのが可能であれば、汚れた場所を洗うことが必要です。

グスルを行うことで病気になること、もしくは病気が重くなること、あるいは回復が遅れることを恐れる人は、タヤンムムを行います。この恐れは、自分の経験、もしくはムスリムで公正な医師の指摘によるものです。罪を犯したことが言及されていない医師の言葉も認められます。寒さのために住む家や水を温める手段、町のハマムに行くお金がない場合、病気の原因となり得ます。ハナフィー派では一回のタヤンムムで望むだけのファルドを行うことができます。シャーフィー派とマーリキー派では、ファルドの礼拝それぞれの為に新たにタヤンムムを行います。

ウドゥーで洗う場所の半分に傷がある人は、タヤンムムを行います。傷が半分より少なければ、健康な部分を洗い、傷をマスフします。グスルでは全身が一つの器官と見なされる為、全身の半分が傷である場合にタヤンムムを行います。傷にマスフを行うことで害があれば、包帯の上からマスフをします。それでも害があれば、マスフを放棄します。ウドゥーやグスルで、頭へのマスフが害を及ぼすのであれば、頭にマスフを行いません。手に湿疹や傷などの問題があるために水を使えない人は、タヤンムムを行います。顔、腕を地面（レンガ、土、石の壁）につけます。手や足が切断されている人の顔にも傷がある場合は、ウドゥーなしで礼拝を行います。ウドゥーをさせてくれる人を見つけられない人は、タヤンムムを行います。子供、奴隷、対価を払って雇っている人は、彼を助ける義務があります。他の人からも援助を求めることはできますが、彼らには援助を行う義務はありません。夫婦も、互いにウドゥーを行うのを助ける義務はありません。

採血をしたり、ヒルに吸われたり、傷やできものがあったり、

骨が折れたり、痛んだりしたために包帯（綿、ガーゼの上にの版倉庫、軟膏）を巻いている人は、その場所を冷水、温水で洗うこと、もしくはマスフすることができなければ、ウドゥーやグスルでそれらの半分以上を一度マスフします。包帯を解くことが害を及ぼすのであれば、その下の健康な場所も洗いません。包帯の間に見える健康な皮膚の部分にマスフをします。包帯は、ウドゥーのある状態で巻く必要はありません。マスフの後に包帯を変える場合、もしくはその上に別の包帯がまかれる場合、新しい包帯へのマスフは必要とはなりません。

立てない人、もしくは立った場合に病気が長引くことが強く懸念される病人は、礼拝を座ったままで行います。ルクウの為に体を少し曲げ、それから体をまっすぐにし、床に 2 度のサジュダを行います。座りやすい形で座ることが認められ、例えば膝を曲げること、しゃがむこと、あぐらをかくことも認められます。頭、膝、目の痛みは病気と見なされます。敵に姿を見られるという恐れは、「差し障り」です。立った場合に断食やウドゥーが無効になってしまう人も座って礼拝します。何かにもたれることで立っていられる人は、もたれて礼拝します。長い時間立っていられない人は、イフティタフ・タクビールを立って行い、座って礼拝を続けます。

地面にサジュダを行うことができない人は、立ったまま唱え、ルクウやサジュダの為に座って象徴的な動きで行います。座って、ルクウの為に少し、サジュダの為にはもう少し深く、体を曲げます。体を曲げることができない人は頭を下げます。何かの上にサジュダを行うことは必要ではありません。何かの上にサジュダを行った場合、サジュダでルクウよりも深く体を曲げれば礼拝は真正とはなりますが、マクルーフです。もたれながら座ることが可能である場合、横たわって象徴的な動きで行うことは認められません。預言者ムハンマドはある時、病人を訪問されました。彼が、手で枕を持ち上げ、そこでサジュダを行っているのを見て、枕を取られました。病人は薪を持ち上げ、そこでサジュダを行いました。預言者ムハンマドはそれも取られました。そして「もしできるなら、床でサジュダを行いなさい。床に体を傾けることができないのであれば、何かを持ち上げてそこにサジュダを

行うことはやめなさい。象徴的な動きで行いなさい。ルクウよりもサジュダでより深く体を曲げなさい」と命じられました。「バフル・ウル・ラーイク」で記されているように、イムラーン家章191節では、「または立ち、または座り、または横たわって（不断に）アッラーを唱念し、天と地の創造について考える者は言う」とされています。イムラーン・ビン・フサインが病気になった時、預言者ムハンマドは彼に「立って礼拝を行いなさい。それができなければ座って行いなさい。それもできなければ、横向きもしくは仰向けに寝て行いなさい」と命じられました。このように、立てない病人は座って礼拝します。座れない病人は寝て礼拝します。椅子やソファに座って礼拝することは認められていません。病人、もしくはバスや飛行機に乗っている人が椅子やソファに座って礼拝を行うことは、イスラームでは適切ではないのです。集団礼拝となると立って礼拝できない人は、家で立って礼拝します。20の事柄のうち一つでも当てはまれば、集団礼拝に参加しない為の正当な差し障りとなります。雨、激しい暑さ、寒さ、生命や財産を襲う敵への恐れがあること、友人が行ってしまったために一人で出かけることへの恐れがあること、周囲があまりにも真っ暗であること、金を借りている相手につかまって投獄されることを恐れる貧者であること、盲目であること、歩けない程にマヒしていること、片足が切断されていること、病気であること、体が不自由であること、歩けないこと、歩けない老人であること、貴重なイスラーム法学の授業を逃すこと、好きな食事を逃す恐れ、旅に出るところであること、代わりに病人を見る人が見つからない看護人であること、強風の夜、トイレに行く為に我慢を強いられていること。病気の悪化や回復の遅れを恐れる病人や、代わりに病人を見る人がいない看護人、老衰により歩くのが困難であることは、金曜礼拝についての差し障りです。集団礼拝に歩いて行き来することは、乗り物に乗って行き来することよりもより徳があります。モスクで、椅子やソファーに座って象徴的な動きで礼拝を行うことは認められません。イスラームが教えていない形でイバーダを行うことはビドゥアとなります。イスラーム法学の本には、ビドゥアを行うことは大きな罪であると書かれています。

何かにもたれて座ることができない病人は、あおむけに寝で、あおむけに寝ることができなければ右向きに寝て、頭で象徴的な動きをして礼拝します。キブラに向かうことができなければ、彼にとってやりやすい方向に向かって行います。膝を折ることは良い　とされます。頭で象徴的な動きをすることができない人は、礼拝をカダーに残すことが認められます。礼拝中に病気になった人は、できる形で続けます。座って礼拝をしていた病人が礼拝中に回復すれば、立って礼拝を続けます。知性や意識を失った人は、礼拝を行いません。5 回分の礼拝が過ぎる前に回復すれば、5 回の礼拝をカダーします。6 回の礼拝が過ぎれば、カダーは行いません。

象徴的な動きによってではあっても、できなかった礼拝は急いでカダーを行うことがファルドです。カダーする前に死ねば、できなかった礼拝の代償として彼が遺した財産からフィディヤを払うことを遺言することがワージブです。遺言しなければ、家族、さらには他人がその財産から補償を行うことが認められるとされています。

カダーの礼拝

礼拝は肉体によって行われるイバーダである為、他人が代わりに行うことはできません。全て自分で行うことが必要です。礼拝を時間通りに行うことを「エダー」と言います。何らかの時間に再び行うことを「イアーダ」と言います。例えば、マクルーフとして行われた礼拝の時間が過ぎる前、それが不可能であれば他の時でも、それをもう一度行うことはワージブです。ファルドやワージブである礼拝を、その時間が過ぎてから行うことをカダーと言います。

一日の、5 回の礼拝のファルドとウィトルの礼拝を行う際、そしてカダーを行う際には、順序を守って行うことがファルドです。つまり礼拝を行う際にはその順序に注意を払うことが必要です。5 回以上のカダーがない人を「正しく守る人」と呼びます。金曜日のファルドは、その日のズフルの時間に行うことが必要です。ファジュルの礼拝に起きられなかった人は、フトバの最中であれそれを思い出したのであれば、すぐにそのカダーを行うべき

です。一つの礼拝を行わずに、その後の礼拝を行うことは認められません。ハディースでは「一回の礼拝に寝過ごしてしまった人、もしくは失念した人は、その後の礼拝を集団で行っている時にそれを思い出したのであれば、イマームと行っていた礼拝を終わらせ、それから前の礼拝のカダーを行う。その後、イマームと行った礼拝を再度行いなさい」とされています。

ファルドをカダーすることはファルドです。ワージブをカダーすることはワージブです。スンナをカダーすることは命じられていません。ハナフィー派の学者は次の点で意見を一致させています。「スンナの礼拝は、ただ時間内に行うことが命じられている。時間内に行われなかったスンナの礼拝は、人の上で負債とはらない。従って時間外でカダーすることは命じられていない。ファジュルのスンナはワージブに近いものであるため、その日のズフルの前にファルドと共にカダーされる。ファジュルのスンナをズフルの後に、他のスンナはどの時間においてもカダーだれない。カダーを行えば、スンナのサワーブが生じない。ナーフィラの礼拝を行ったことになる」イブニ・アービディーンも、「タルギーブッサラート」の 162 ページで次のように述べています。「スンナを、差し障りがなくても座って行うことは認められる。全く行わないことは罪である。ファルドは、差し障りがある時に座って行うことが認められる」

ファルドの礼拝をわざと、差し障りがないのに放棄することは大きな罪です。時間通りに行われなかったこの礼拝は、カダーを行う必要があります。ファルドとワージブである礼拝を、わざとカダーに残すことに関し、2 つの認められる差し障りがあります。1つは敵を前にしていることです。もう1つは旅行中である人、すなわち 3 日以上の旅行をニーヤしていなかったとしても、旅行中の人が盗賊や獰猛な動物、洪水、嵐等を恐れた場合です。こういった人々は、座って、どちらかの方向に向いて、あるいは動物の上で、象徴的な動きで礼拝ができない時、カダーに残すことができます。この 2 つの理由でファルドをカダーに残すこと、それから寝過ごしたり失念したりして礼拝を逃すことは罪にはなりません。アシュバフはその解説で、「溺れかけている人、あるいは同様の状態にある人を助ける為に礼拝を時間が過ぎてから行

うことは、真正となる」としています。しかし、差し障りのある状態が終了すると、すぐにカダーを行うことがファルドです。ハラームである3つの時間以外の空いている時間で行うことを条件に、子供たちの為の糧を稼ぐまで遅らせることは認められています。それ以上に遅らせると、罪となります。預言者ムハンマドは、ハンダクの戦いでの激しさゆえに4回の礼拝を行えなかったことがありました。その夜、教友たちが傷つき、激しく疲労している中で、すぐに集団礼拝で行われました。預言者ムハンマドは、「2つのファルドの礼拝を1つにまとめることは大きな罪である」といわれています。つまり、礼拝を時間通りに行わず、時間が過ぎて行うことは最も大きな罪なのです。あるハディースでは、「アッラーは、一つの礼拝を時間が過ぎてから行う人を、80フクバの間にわたり地獄に入れられる」とされています。1フクバは来世での80年であり、来世での1日はこの世界での千年ほどになります。一回の礼拝が時間を過ぎてから行われることの罰がこれなのであれば、全く行わないことの罰がいかほどか、考えてみるべきでしょう。

預言者ムハンマドは次のように言われています。「礼拝はイスラームの柱である。礼拝を行う人は、その教えをまっすぐに伸ばす。礼拝を行わない人は、その教えを崩壊させる。」あるハディースでは、「審判の日、信仰の後、最初の問いは礼拝についてのことである」とされています。またアッラーは仰せられた。「しもべよ。礼拝についての裁きを通過することができれば、救いはあなたのものである。私はそれ以外の審判を容易なものとしよう。」また蜘蛛章第45節では、「本当に礼拝は、(人を)醜行と悪事から遠ざける」とされています。預言者ムハンマドは「人がアッラーと最も近い時とは、礼拝を行っている時間である」と言われています。

ムスリムが何らかの礼拝を時間通りに行わないことには、2つの種類があります。1.正当な理由があって行わないこと、2.礼拝を自らの務めであり、重要であると思っているにもかかわらず、怠惰である為に放棄すること。

ファルドの礼拝を正当な理由なく、時間が過ぎてから行うこと、つまりカダーに残すことはハラームであり、大きな罪です。

この罪はカダーを行っても許されません。カダーを行うと、ただ、礼拝を行わなかった罪が許されます。礼拝をカダーしない限りは、ただ悔悟によって許されることはありません。カダーを行った後で悔悟すれば、許されることが望まれます。悔悟する時には、しなかった礼拝をカダーすることが必要です。カダーする力があるのにカダーをしなければ、さらに大きな罪を犯したことになります。この大きな罪は、それぞれの礼拝を行えるだけの時間（6 分）が無駄に過ぎるごとに、それより前の罰の時間程に増えます。なぜなら礼拝は、空いた時間にすぐにカダーすることがファルドだからです。カダーを行うことを重要視しない人は永遠に焼かれます。「ウムダトゥ- ル　イスラーム」と「ジャーミ- ウルファタワ」では、次のように記されています。「敵を前にして、1 回のファルドの礼拝を行うことが可能である時にそれを放棄することは、700 の大きな罪を犯したかのような罪である」

カダーを遅らせることの罪は、時間内に礼拝しなかった罪よりもより大きなものとなります。一つの礼拝の最初のカダーを行うことをニーヤしてカダーの礼拝を一度行えば、この罪は全て許されます。

詳細の解説：スンナの代わりにカダーの礼拝はできるか

アブドゥルカディル・ガイラーニ師は、「フトゥーフル・ガイブ」という書物で次のように語っています。信者はまず、ファルドを行う必要があります。ファルドを終えてから、スンナを行います。それからナーフィラに取り組みます。できていないファルドがある時、スンナを行うことは愚かなことです。できていないファルドがある人のスンナは認められません。アリー・イブニー・アブー・ターリブ（アッラーがお慶びくださいますように）は語っています。「できていないファルドがある人がそのカダーを行わずにナーフィラを行えば、無駄に苦労したことになる。この人がカダーを行わない限り、アッラーは彼のナーフィラの礼拝を認められない。」

アブドゥルカディル・ガイラーニ師が記しているこのハディースから、ハナフィー派の学者アブドゥルハック・ダフラウィー師は以下のように語っています。「この知らせは、できていないフ

ァルドがある人のスンナとナーフィラが認められないことを示す。スンナが、ファルドを完成させることを我々は知っている。この意味は、ファルドを行う際、それらが完全なものとなる為の要因である何かを逃した場合、スンナは、行われたファルドが完全なものとなる為の要因となる。ファルドの礼拝を行っていない人の、認められないスンナは何の役にも立たない」

エルサレムの判事ムハンマド・サードゥク氏は、時間内に行われなかった礼拝をカダーすることについて語る際、次のように示されています。「偉大な学者イブニ・ヌジャイム師に質問がなされた。『誰かに、カダーに残された礼拝があるなら、ファジュル、ズフル、アスル、マグリブ、イシャーのスンナをこの礼拝のカダーとしてニーヤして行えば、この人はスンナを放棄したことになるでしょうか』答えとして『スンナを放棄したことにはならない。なぜなら日に５回の礼拝のスンナを行うことの意図は、その時間の中でファルド以外のさらなる礼拝を行うことである。シャイターンは礼拝を全く行わないことを望む。ファルド以外にもう一つ礼拝を行うことで、シャイターンに対抗し苦しめたことになる。スンナの代わりにカダーを行うことで、スンナをも実行したことになる。できていないファルドの礼拝がある人が、礼拝の時間ごとにその時間のファルドに加えて他の礼拝をも行い、スンナを実行する為に、カダーを行うことが必要でである。なぜなら多くの人が、カダーを行わずにスンナの礼拝を行っているのだ。この人々は地獄に行くことになる。しかしスンナの代わりにカダーを行う人は、地獄から救われる』といわれた」

カダーの礼拝はどのように行われるか

カダーの礼拝を少しでも早く行い、さらに悔悟をも行って、大きな罰から救われるべきです。その為、スンナもカダーのニーヤで行うべきです。怠惰で礼拝しない人々、何年分もできていない礼拝がある人は、礼拝を始める時、スンナを行う際にその時間で最初にカダーに残した礼拝のカダーを行うことをニーヤしながら礼拝するべきです。こういった人がスンナをカダーの礼拝の為にニーヤしつつ行うことは、4 つの学派全てで必要とされています。ハナフィー派では、正当な理由なく礼拝をカダーに残すこと

は大きな罪です。この大きな罪は、礼拝ができるだけの空いた時間が経過するごとに倍に増えていきます。なぜなら礼拝を空いた時間にすぐにカダーすることはファルドだからです。勘定や数に入りきらないこの大きな罪とその罰から救われる為に、ズフルの礼拝の最初の４ラカートのスンナを行う際に、最初にカダーに残したズフルのファルドをニーヤして、カダーの礼拝を行うべきです。ズフルの終わりのスンナを行う際には、最初にカダーに残したファジュルの礼拝のファルドをニーヤし、カダーの礼拝を行います。アスルのスンナを行う際には、アスルのファルドをニーヤし、カダーの礼拝を行います。マグリブのスンナを行う際には、３ラカートのマグリブのファルドをニーヤし、カダーの礼拝を行います。イシャーの最初のスンナを行う際にはイシャーのファルド、終わりのスンナを行う際には、最初にカダーに残したウィトルをニーヤして３ラカートのカダーの礼拝を行います。このようにして毎日、一日分のカダーを行います。タラーウィーの礼拝を行う際も、カダーをニーヤしつつ、カダーの礼拝を行います。何年分のカダーの礼拝があるにしろ、これをそれだけの年月続けます。カダーが終われば、スンナの礼拝を始めます。時間があれば、あらゆる機会にカダーの礼拝を行い、少しでも早くカダーの負債を終えるべきです。行われなかったカダーの礼拝の罪は、毎日倍になって増えていくのです。

第6部
礼拝を行わない人

アブー・バクル・スッドゥーク（アッラーが慶ばれますように）は、次のように言われています。「日に 5 回の礼拝の時間が来ると、天使たちは『人間たちよ、起きなさい。人を焼く為に用意された日を、礼拝によって消しなさい』と言う。」

あるハディースでは、「信者と不信仰者を分ける違いは、礼拝である」とされています。つまり、信者は礼拝を行い、不信仰者は礼拝をしません。偽信者のうち、一部の人々は礼拝を行い、一部の人々は行いません。偽信者は地獄でひどい罰を受けることになります。解釈学者たちの長であるアブドゥッラー　・イブン・アッバースは次のように語っています。「私はアッラーの使徒から聞いた。彼は『礼拝を行わない者は、審判の日、アッラーを立腹さえた状態で見るだろう』といわれた」

ハディースに関わるイマームたちが一致して告げていることは、「一回の礼拝をあえて時間内に行わない、つまり時間が過ぎてしまう時に、礼拝をしていないことを苦にもしない人は不信仰者となる』という点です。あるいは、信仰を持たない者として死ぬとされます。

礼拝を思い起こしもしない人、礼拝を義務と認識していない人はどうなるのでしょうか。スンナの道に従う学者たちは、意見を一致させて「イバーダは信仰の一部ではない」としています。ただし、礼拝についての意見は一致していません。法学に関わるイマームのうち、イマーム・アフマド・イブニ・ハンバル、イスハーク・イブニ・ラーハワイフ、アブドゥッラー　・イブニ・ムバーラク、イブラヒーム・ナハイー、ハカム・ビン・ウタイバ、アイユーブ・サフティヤーニー、ダーウド・ターイー、アブー・バクル・イブニ・シャイバ、ズバイル・ビン・ハルブやその他多くの偉大な学者たちは、一つの礼拝を意図的に、つまりあえて行わない人は不信仰者となる、としています。だから、一度の礼拝も逃さず、また適当に行わないでください。喜んで礼拝を行ってください。審判の日、アッラーが学者たちのこの一致した意見に応じた罰を与えられるなら、どうするべきでしょうか。

ハンバリー派では、一つの礼拝を正当な理由なく行わない人

は、ムルタドのように殺されます。洗浄されず、白布で包まれず、礼拝もなされません。ムスリムの墓地には埋葬されず、また墓地は明らかにされません。山の中の穴に埋められます。
　礼拝を行わない人について、シャーフィー派ではムルタドにはなりませんが、その罰は死刑です。礼拝をしない人に対するマーリキー派の見解は、シャーフィー派と同じです。
　ハナフィー派では、礼拝を行わない人は礼拝を始めるまで投獄されるか、血が流れるまで打たれるとされます。

5つの事柄を行わない人は、5つのことが叶いません。
財産からザカートを払わない人は、その財産から幸福を得ることができません。
収穫物からザカートが支払われない畑では、その利益に豊かさが見られません。
サダカを支払わない体には、健康は残りません。
ドゥアーをしない人は、その願いに到達できません。
礼拝の時間になって、礼拝をすることを望まない人は、最期の瞬間にカリマ・シャハーダを唱えることができません。

　あるハディースでは次のように語られています。「正当な理由なく礼拝を行わない人には、アッラーは 15 の苦しみを与えられる。6つは現世で、3つは死の瞬間に、3つは墓場で、3つは墓から起き上がる時に与えられる。」

現世で与えられる6つの罰：
礼拝を行わない人の生涯には豊かさがありません。
その顔には、アッラーが愛される人々の美しさ、愛らしさがありません。
どのような善を施してもサワーブが与えられません。
ドゥアーが受け入れられません。
その人を誰も愛しません。
ムスリムたちの良いドゥアーも、この人には効果がありません。

死の際に受ける罰：
ひどく、悪く、醜い形で命を落とします。
空腹で死にます。
たくさん水を飲んだとしても、渇きの苦しみの中で死にます。

墓場で受ける罰：
墓がその人を苦しめます。骨が互いに刺さります。
墓が火で満たされます。日夜その人を焼きます。
アッラーはその墓にとても大きなヘビを送られます。現世でのヘビには似ても似つかないものです。毎日、礼拝の時間ごとにその人にかみつきます。

審判の日に受ける罰：
地獄へと引きずっていく罰の天使たちが、その人のそばから離れません。
アッラーはその人を、立腹された状態で迎えられます。
審判はその人にとって非常に厳しいものとなり、地獄に入れられます。

礼拝を行う人の徳
　礼拝を行うことの徳と、礼拝を行う人に与えられるサワーブを教えるハディースはたくさんあります。アブドゥルハック・ビン・サイフッディーン・ダフレウィーの「アシアトゥル・ラマートゥ」という本によると、礼拝の重要性を告げるハディースでは次のように言われています。
アブーフライラ（アッラーがお慶びくださいますように）は語っています。「アッラーの使徒は言われた。『日に 5 回の礼拝と金曜礼拝は次の金曜礼拝まで、そしてラマダーン月の断食は次のラマダーン月までに行われる罪の償いである。大きな罪を犯すことを避ける人の、小さな罪の許しの要因となる。』」
　小さな罪のうち、他の人の権利がそこに入っていないものについては消されます。小さな罪が許され、なくなった人は、大きな罪への罰が軽減される要因となります。大きな罪が許される為に悔悟を行うことが必要です。大きな罪がなければ、位階が高めら

れる要因となります。このハディースは『ムスリム』で書かれています。日に5回の礼拝に不足がある人が許される為には、金曜礼拝が必要となります。金曜礼拝にも不足があれば、ラマダーン月の断食がその罪が許される要因となります。
アブドゥッラー・イブニ・マスード（アッラーがお慶びくださいますように）は語っています。「アッラーがどの行為を最も愛されるかを、アッラーの使徒に尋ねた。すると使徒は、『時間通りに行われる礼拝』と仰せられた。（いくつかのハディースでは、早い時間に行われる礼拝をとても愛される、とされています）その次に、どの行為を愛されるかを訊ねた。『アッラーの道において聖戦を行うこと』と答えられた。」
　このハディースは、2つの真正なハディースの本、ブハーリーとムスリムに書かれています。別のハディースでは、「行為のうち最も良い　　ものは、食事を与えることである」とされています。また別のものでは、「こころよく皆に挨拶をすることである」とされています。また別のハディースでは「夜、皆が寝ている時に礼拝を行うことである」とされています。また異なるハディースでは、「最も尊い行為は、手によっても舌によっても誰も傷つけないことである」とされています。あるハディースでは「最も尊い行為は聖戦である」とされています。またあるハディースでは「最も尊い行為は、一切の罪を犯さず実行されたハッジである」とされています。「アッラーを念じることである」そして「継続的な行為である」というハディースもあります。質問をした人の状態にふさわしい、様々な答えが与えられているのです。あるいは、その時にふさわしい返事がされています。例えばイスラームの初期には、行為のうち最も徳があり尊いものは聖戦でした。（今私たちが生きる時代において最も徳がある行為は、信仰しない人々や宗派に属さない人々に、文章や出版物をもって答えることです。スンナに従う人々の信条を広めることです。このような形での聖戦を行う人に対して、お金、財産、体によって援助を行う人も、サワーブを共に受けます。クルアーンの言葉やハディースは、礼拝がザカートやサダカよりもより尊いものであることを示しています。しかし、死んでいる人に何かを与え、死から救うことは、礼拝を行うことよりもより尊いものです。つま

り、異なる状態、条件の中では、異なるものがより尊くなるのです）
ウバーダ・ビン・サーミト（アッラーがお慶びくださいますように）は語っています。「アッラーの使徒は言われました。『アッラーは、日に 5 回の礼拝を行うことを命じられた。誰かが立派にウドゥーを行い、これらを時間通りに行えば、そしてルクウなどを完全に実行すれば、アッラーは彼を許されることを約束された。これらを行わない人には約束されなかった。お望みにより許され、お望みにより罰せられる。』」
　このハディースを、イマーム・アフマド、アブー・ダーウード、そしてナサーイーが伝えています。ここからわかるように、礼拝の条件、ルクウやサジュダに注意を払うことが必要です。アッラーは約束を違えられることはありません。正しく礼拝をした人を、必ず許されるのです。
教友たちのうち有名な人々の一人、ブライダ・アスラム（アッラーがお慶びくださいますように）は語っています。「アッラーの使徒は言われた。『あなた方との間にある契約は、礼拝である。礼拝を放棄する者は不信仰者となる。』」
　このように、礼拝を行う人はムスリムと見なされます。礼拝に重きを置かない人、礼拝を第一の務めと認めない為にそれを行わない人は、不信仰者となります。このハディースはイマーム・アフマド、ティルミズィー、ナサーイー、そしてイブニ・マジャが伝えています。
アブー・ザル- イ- グファーリーが伝えています。「秋のある日、アッラーの使徒と共に通りに出た。葉が落ちてきていた。使徒は、一本の木から枝を 2 本折られた。これらの葉はすぐに落ちてしまった。『アブー・ザルよ、一人のムスリムがアッラーの為に礼拝を行えば、この枝から葉が落ちるように、その人の罪が落ちるのだ』と言われた。」
　このハディースはイマーム・アフマドが伝えています。
ザイド・ビン・ハーリド・ジュハーニーが伝えています。「アッラーの使徒は言われた。『一人のムスリムが、正しく集中して 2 ラカートの礼拝を行えば、過去の罪は許される。』」
　つまり、アッラーは彼の小さな罪を全て許されます。このハデ

ィースはイマーム・アフマドが伝えています。
アブドゥッラー　　・ビン・アムル・イブニ・アスが伝えています。「アッラーの使徒は言われた。『誰かが礼拝を行えば、この礼拝は審判の日に光としるしとなり、地獄から救われる要因となる。礼拝を維持しなければ、光としるしがなく、救いがない。カールーンやフィルアウーン、ハーマーン、そしてウバイ・ビン・ハラフと共にいる。』」
　このように、人が礼拝を、ファルド、ワージブ、スンナ、そして徳に適った形で行えば、この礼拝は審判の日にその人が光の中にいることの要因となります。このような礼拝を継続して行わなければ、審判の日、ここで名が挙げられた不信仰者と共にいることになります。つまり、地獄で厳しい罰を受けるのです。ウバイ・ビン・ハラフは、マッカの不信仰者の中でも凶暴な一人でした。ウフドの戦いで、預言者ムハンマドはその神聖な手で、彼を地獄へと送られたのでした。このハディースはイマーム・アフマドとダーリーミーが伝えています。バイハキーも、「シュアーブル・イーマーン」という書物に記しています。タビーイン（サハーバたちの次の世代の人々）の偉大な人物の一人であるアブドゥッラー　　・ビン・サキークは語っています。「教友たちはイバーダの中で、ただ礼拝を放棄することが不信仰であることを語った。」
　これを、ティルミズィーが伝えています。アブドゥッラー　　・ビン・サキークは、ウマルから、アリーから、オスマーンから、そしてアーイシャからこのハディースを伝承しています。ヒジュラ歴 180 年に亡くなっています。
アブッダルダ（アッラーがお慶びくださいますように）は語っています。「とても愛している人が私に言った。『バラバラにちぎられ、火で焼かれたとしても、アッラーに何ものをも配してはいけない。ファルドの礼拝を放棄してはいけない。ファルドの礼拝を故意に放棄する人は、ムスリムであることから外れる。酒を飲んではいけない。酒は全ての悪事の鍵である。』」
　このハディースはイブニ・マジャが伝えています。このように、ファルドの礼拝を重視せずに放棄する人は、不信仰者となります。怠惰であることから放棄する人は、不信仰者にはならなか

ったとしても、大きな罪となります。イスラームが教えている 5 つの差し障りのうちの一つによって死ぬことは、罪ではありません。ワインやアルコール飲料の全ては、理性を取り去るものです。理性がない人は、あらゆる悪事を行います。
アブドゥッラー　・イブニ・ウマル（アッラーがお慶びくださいますように）は伝えています。「アッラーの使徒は言われた。『時間になるとすぐに礼拝を行う人に、アッラーは満足される。時間の終わりの方で行う人を、アッラーは許される。」』このハディースはティルミズィーが伝えています。
ウンム-イ-ファルワが伝えています。「アッラーの使徒に、どの行為が徳のあるものかを人々が尋ねた。『行為のうち徳のあるものは、時間の初めに行われる礼拝である』と答えられた。」
　このハディースはイマーム・アフマド、ティルミズィー、そしてアブー・ダーウードが伝えています。礼拝はイバーダのうち最も崇高なものです。時間に入ってすぐに行えば、より崇高なものとなります。アーイシャ（アッラーがお慶びくださいますように）は語っています。「アッラーの使徒が礼拝を時間の後の方でなされたのを、私は 2 回と見ていない。」すなわち、その生涯で一度だけ、時間の終わりの方で礼拝をされたのです。
アーイシャ（アッラーがお慶びくださいますように）は語っています。「アッラーの使徒が最も多く続けられたナーフィラのイバーダは、ファジュルの礼拝のスンナでした。」この知らせは、ブハーリーでも、ムスリムでも記されています。このようにアーイシャは、日に 5 回の礼拝のファルドと共に行われるスンナの礼拝を、ナーフィラの礼拝と呼んでいます。
　偉大なイスラーム学者であり、アッラーのしもべたちの先導者であり、逸脱した人、無宗派である人々に対するスンナに従う人々の最も強い庇護者であり、アッラーが選ばれ、深く愛されたイスラームを広め、ビドゥアを倒した偉大な戦士である、イマーム・ラッバーニ・ムジャッディード・エルフ-イ-サーニー・アフマド・ビン・アブドゥル・アハド・ファールキー・サルハンディー（アッラーがお慶びくださいますように）は、イスラーム世界における比類のない書物である「書簡集」の第 1 巻、第 29 の書簡で次のように説いています。

「アッラーが満足される行いとは、ファルドとナーフィラの礼拝です。ファルドと並べると、ナーフィラの礼拝には全く価値がありません。一つのファルドを時間内に行うことは、千年休まずにナーフィラのイバーダを行うことよりもより尊いです。各種のナーフィラ、例えば礼拝、ザカート、断食、ズィクル、熟考は皆同様です。さらに、ファルドを行う際、そのスンナのうち一つ、徳であるもののうち一つを行うことが、他のナーフィラを行うことよりも何倍も尊いものです。信者たちの長ウマル・ファールクは、ある日ファジュルの礼拝をした時に、礼拝を行う人々の中にある人の姿が見えなかった為、その理由を聞きました。「彼は毎晩ナーフィラの礼拝をしています。おそらくは寝過ごしたのでしょう」と答えが返ってきました。「一晩中眠って、ファジュルの礼拝を集団で行っていればよりよかっただろう」と彼は言ったのでした。このように、一つのファルドを行う際に、徳であるもののうちのどれかを行うこと、マクルーフであるものを避けることは、ズィクルや熟考、内省よりも何倍も尊いのです。そう、これらは、徳であることの実行と、マクルーフを避ける際に共に行われば、とても効果的なものです。しかし、それらなしに行うのであれば、何の役にも立たないのです。だから、1 リラのザカートを支払うことは、何千リラものナーフィラのサダカを行うことよりもより良い　のです。この 1 リラを支払う際には、その徳についても注意を払うことが大切です。例えば近い親戚に与えることは、ナーフィラのサダカよりも何倍も良い　　ことなります。（夜の礼拝を行うことを望む人が、カダーの礼拝を行うべきであるということは、ここから理解されます）」

「書簡集」の本は、ペルシア語で書かれています。イマーム・ラッバーニ師は 1034 年（西暦 1624 年）にインドのサルハンドの町で亡くなりました。その翻訳は、「真実の言葉の書」「永遠の幸福」、そして「サハーバたち」そしてペルシア語の「バラーカートゥ」という本に長く記されています。

礼拝の真実

偉大なイスラーム学者のアブドゥッラー　　・ダフラウィーは「マカーティブ・シャリーファ」という書物の 85 番目の書簡で

次のように述べています。

「礼拝を集団で行うこと、そして「トゥマーニーナトゥ」（スブハーナッラーといえるだけの時間動かずにいること）をしながら行うこと、ルクウの後に「カウマ」（ルクウの後の直立姿勢）を行うこと、2 回のサジュダの間にジャルサ（正座）を行うことは、アッラーの預言者を通し我々に教えられました。カウマとジャルサがファルドであると見なす学者たちがいます。ハナフィー派のムフティの一人カーディハーンは、この 2 つがワージブであること、2 つのうちの一つが失念された場合は過失のサジュダを行うことがワージブであること、意図的にそれを行わなかった人は礼拝をやり直すべきであることを教えています。ムアッカダのスンナであると見なす人々も、ワージブに近いスンナであるとしています。スンナを軽視し、重きを置かずに放棄することはイスラームの否定です。礼拝のキヤームで、ルクウで、カウマで、ジャルサで、サジュダで、そして座った時には、それぞれ異なる状態、形が生じます。全てのイバーダが礼拝の中に集約されているのです。クルアーンを読むこと、タスビーフを唱えること（つまりスブハーナッラーと言うこと）、アッラーの使徒にサラワート（祝福祈願）を行うこと、罪を悔悟すること、必要とするものをただアッラーに求め、ドゥアーすることが、礼拝に集約されているのです。木々、草は礼拝を行っているかのようにまっすぐ立っています。動物たちはルクウの状態で、生命を持たない存在も、礼拝で「カアダ」で座っているように地に広げられています。礼拝を行う人は、これらの存在のイバーダの全てを行っているのです。礼拝を行うことは、ミーラージュ　の夜にファルドとなりました。この夜、ミーラージュ　を行うことで、アッラーの愛される預言者は誉れを与えられました。彼に従うことを考えつつ礼拝を行うムスリムは、この崇高な預言者ムハンマドのように、アッラーに近しい位階へと高められるのです。アッラーやその使徒に対し徳を持ち、安らぎのうちに礼拝を行う人は、この位階に高められたことを理解します。アッラーとその使徒は、このウンマに慈悲をかけられ、大きな恵みを与えられ、礼拝を行うことをファルドとされました。このことをアッラーに感謝いたします。その愛される預言者に、私たちは祝福祈願、賞賛、ドゥアーを行いま

す。礼拝を行う際に生じる喜び、安らぎは驚くべきものです。マズハル・ジャーニ・ジャーナーン師は「礼拝を行う際、アッラーを拝見することは可能ではなくても、拝見しているかのような状態が生じる」といわれています。このような状態が生じることは、神秘主義の偉人たち揃って教えています。イスラームの最初期には、礼拝はエルサレムに向かって行われていました。エルサレムの「至高の館」への礼拝が放棄され、預言者イブラーヒームのキブラに向かうことが命じられた時、マディーナのユダヤ教徒たちは立腹しました。「至高の館に向かって行っていた礼拝はどうなるのか」と言ったのでした。雌牛章第 143 節が下され、「だがアッラーは、あなたがたの信仰を決して虚しくなされない」と仰せられました。礼拝が褒賞なく放っておかれることはないことが告げられたのです。礼拝は、信仰の言葉と共に教えられました。ここから理解されるように、礼拝をスンナに従って行わないことは、信仰を損なうことになるのです。預言者ムハンマドは、「あなた方の目の光、そして喜びは礼拝にある」といわれました。このハディースは、「アッラーは礼拝に姿をお見せになられ、それによって目にやすらぎがもたらされる」ということを意味します。あるハディースは、「ビラールよ、私を楽にしてほしい」「ビラールよ、アザーンを唱え、礼拝のイカーマを読み上げて私を楽にしてほしい」といわれました。礼拝以外の何かに快楽を求める人は、認められないのです。礼拝を損なう人、逃す人は、それ以外の宗教的な事柄をさらに逃します。

礼拝における崇高さ

イマーム・ラッバーニ（アッラーの慈悲がありますように）は「書簡集」という本の第 1 巻、261 番目の書簡で次のように語っています。

「次のことは確実に認識されるべきです。礼拝は、イスラームの 5 つの条件の 2 番目であるということです。全てのイバーダがそこに集約されています。イスラームの 5 分の 1 の部分であるとはいえ、その包括性により、それ自体がイスラームであるともいえるのです。人をアッラーの愛情に至らせる行いの、第一のものとなったのです。諸世界の王、そして預言者たちのうちの最も崇高

なお方に、ミーラージュ　の夜、天国で与えられるアッラーとの誉れある面会がこの世界に下されました。その後、この世界の状態にふさわしいものとして、ただ礼拝が与えられたのです。だからこそ、「礼拝は信者のミーラージュ　である」とされているのです。あるハディースでは、「人がアッラーに最も近くなるのは礼拝においてである」とされています。その道の跡をたどる偉大な人々にも、アッラーにまみえるという誉れから、この世界における大きな取り分がただ礼拝においてあるのです。そう、この世界でアッラーを目にすることは不可能です。この世界にはそれができる場所は存在しないのです。しかしそれに従う偉大な人々には、礼拝を行う際、このアッラーにまみえるという誉れから、何らかのものが与えられるのです。礼拝を行うことが命じられていなければ、その目的、意図の美しい側面から、誰が覆いを取り除くことができたでしょう。深い愛を抱く人々は、その愛される対象をどのように見出すことができたでしょう。礼拝は、悲しんでいる魂に喜びを与えるものです。礼拝は心の癒しです。「ビラールよ、私を楽にしてほしい」とアザーンを唱えることを命じられているハディースが、これを示しています。「礼拝は私の心の喜びであり、目の光である」というハディースは、この願いを示しています。

喜び、興奮、知恵、アッラーについての知識、地位、光、色、心の移り変わり、安定、理解される・そして理解されない顕示、姿のある・そして姿のない顕現のうち、どれであれ礼拝以外のところで生じているのであれば、そして礼拝の真実を何も理解していないのであれば、それらは全て影、反射そして現象によってできたものなのです。むしろ妄想や空想以外の何ものでもないでしょう。礼拝の真実を理解した完成された人は、礼拝に立った時にはあたかもこの世界から離れて来世での生に入ったように、来世に特有の恵みからいくつかのものを授かるのです。そこに反射や想像を混入させることなく、その本来のところから喜びと取り分を得ます。なぜなら、この世界における全ての奇蹟や恵みは、影、反射、そして現象から生じているものです。影や現象が介入せず、直接本質から生じる奇跡や恵みというものは、来世に特有のものなのです。この世界で本質から恵みを得る為には、ミーラ

ージュ　　が必要です。このミーラージュ　　が、信者にとっての礼拝なのです。この恵みは、このウンマに特有のものです。預言者たちに従うことによってこれを受けることができるのです。なぜならこのウンマの預言者（アッラーの祝福と平安がありますように）は、ミーラージュ　の夜にこの世界から離れ、来世へと行かれたのです。天国に行かれ、アッラーにまみえるという幸福、恵みによって誉れを与えられました。アッラーよ！あなたはこの偉大な預言者（アッラーの祝福と平安がありますように）へ、その偉大さにふさわしい善をお与えください。全ての預言者たちにも、幸福と善をお与えください。彼らは人々を、そしてアッラーを知り、アッラーのご満悦を得るようにと呼び掛けられ、アッラーが好まれる道を示したのです。

イスラーム神秘主義の道にいる人々の多くは、彼らに礼拝の真実が教えられず、またその特有の完全性が示されていない為、その苦しみへの薬を別のところで探してきました。その目的に達する為に、他の事柄に道を見出してきたのです。さらにこういった人々の一部は、礼拝がその道の外にあり、その目的とも関係はないと見なしていました。断食が礼拝よりもより崇高だと見なしていました。礼拝の真実を理解できない人々の多くは、その苦しみを軽減して魂を楽にすることを、舞踏や音楽に酔いしれて我を忘れることに求めてきたのです。その目的である愛すべきお方、即ちアッラーが、音楽の覆いの後ろに存在すると考えたのです。この為に舞踏に夢中になったのです。しかし彼らは、「ハラームであるものに、癒しへの効果あるものは創造されない」というハディースを聞きました。そう、それは溺れかけている泳ぎの初心者が、あたり構わず草をもつかもうとするのに似ています。何かへの強い愛情は、その愛情を持つ人の目を閉ざし、また耳をも聞こえなくします。彼らがもし、礼拝の完全性をわずかでも味わっていれば、舞踏や音楽について言及することさえなく、それらに酔いしれることなど思いつきもしなかったでしょう。

兄弟たちよ！礼拝と音楽の間にどれほどの距離があるのであれ、礼拝で生じる完全性と音楽で生じる影響も、互いに同じくらい遠いものです。理性を持つ人であれば、これだけの示唆で多くを理解するでしょう。

イバーダに喜びを感じること、これらを行うことが困難に感じられないということは、アッラーの最大の恵みの一つです。特に礼拝の喜びは、完全に成熟していない人には味わうことができません。ファルドの礼拝の喜びを味わうことは、そういった人々に固有のものです。なぜなら完全さに近づいた人には、ナーフィラの礼拝の喜びが感じられますが、完全さに至った人には、ただファルドの礼拝の喜びが感じられるためです。ナーフィラの礼拝に喜びを感じず、ファルドを行うことは大きな益とされます。
（ナーフィラの礼拝とは、ファルドやワージブ以外の礼拝という意味です。日に 5 回の礼拝のスンナや、その他のワージブではない礼拝は、全てワージブです。ムアッカダであるもの、ムアッカダではないもの、全てのスンナはナーフィラです）

礼拝で生じる喜びには、我欲の取り分はありません。人がこれを味わう際、我欲はすすり泣いたり泣き叫んだりしています。アッラーよ、これはどれほどに偉大な位階でしょうか。私たちのように魂が病んでいる人々がこの言葉を聞くことも大きな恵みであり、真の幸福です。

十分に知りなさい。この世界での礼拝の位階、段階は、来世においてアッラーにまみえることのように崇高なものです。この世界で人がアッラーに最も近しくなるのは、礼拝をしている時です。来世においてアッラーに最も近しくなるのは、アッラーにお目にかかる時です。この世界での全てのイバーダは、人を礼拝ができる状態にする為のものです。真の意図は、礼拝を行うことです。永遠の幸福、無限の恵みを得ることは、礼拝を行うことによってのみ可能となります。

礼拝は全てのイバーダよりも、そして断食よりも尊いものです。礼拝があるからこそ、心が喜びで満たされます。礼拝があるからこそ、罪が消されます。人を悪事から守ります。ハディースでは、「礼拝は心の楽しみであり、喜びの源である」とされています。礼拝は悲しんでいる魂に喜びを与えます。礼拝は魂の糧です。礼拝は心の癒しです。

礼拝の神秘

イマーム・ラッバーニは「書簡集」という本の第 1 巻、304 番

目の書簡で次のように語っています。
「アッラーに感謝し、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）に祝福祈願を行ってから、永遠の幸福を得ることができるようドゥアーをします。アッラーはクルアーンの多くの章句で、善行をする信者たちが天国に入ることを教えられています。この善行とは何でしょうか。良い　行いの全てでしょうか。それともその一部でしょうか。もし全ての良い　行いであるなら、それを実行することは誰にもできません。その一部であるなら、どのような良い　行いが求められているのでしょうか。アッラーはその恵みにより次のように仰せられています。ここでの善行とは、イスラームの 5 つの構成要素であり、柱です。地獄から救われることは強く願われます。なぜならこれらは誠実な行いであり、人々を罪や醜い行いから守ります。事実クルアーンの蜘蛛章第 45 節では、「本当に礼拝は、（人を）醜行と悪事から遠ざける」とされているのです。一人の人が、イスラームの 5 つの条件を実行することができれば、その恵みに感謝したことになります。なぜならアッラーは、婦人章第 146 節で「もしあなたがたが感謝して信仰するならば、アッラーはどうしてあなたがたを処罰されようか」と仰せられているためです。だからイスラームの 5 つの条件を実践する為に、心からの努力をするべきなのです。

この 5 つの条件のうちで最も重要なものが礼拝であり、これはイスラームの柱です。礼拝の徳のうちのどれも損なうことなく行うよう、努力しなければなりません。礼拝を完全に行うことができれば、イスラームの根本の大きな基盤が形成されたことになります。地獄から救われる為のしっかりとした糸を手にしたことになるのです。アッラーが私たち全員に正しい礼拝を行わせてくださいますように。

礼拝に立つ時に「アッラーフ　アクバル」と言うことは、アッラーは被造物のイバーダを全く必要とされていないこと、どの観点からも全く必要性を持たれていないこと、人の礼拝はアッラーに何の効用もないことを宣言することです。礼拝中のタクビールが、アッラーにふさわしいイバーダを行うに適した優れた点も力もないことを示しています。ルクウでのタスビーフにもこの意味があり、その為ルクウの後にはタクビールが命じられていませ

ん。しかしサジュダでのタスビーフの後では命じられています。なぜならサジュダは、謙虚さ、謙遜の最たるものであり、屈辱や卑小さを示す最たる段階である為、これを行うことで真に、完全なイバーダをしていると思い込むことがあります。この思い込みから身を守る為、サジュダに身を付して起き上がる際にタクビールを行うことはスンナです。またサジュダのタスビーフで、「アラー（崇高である）」と言うことが命じられているのです。礼拝は信者たちのミーラージュ　であり、礼拝の最後に預言者ムハンマドがミーラージュ　の夜におっしゃったことで誉れを得られた言葉、すなわち「アッタヒヤートゥ」を唱えることが命じられています。だから礼拝を行う人は、礼拝を自分にとってのミーラージュ　とするべきです。アッラーへの近しさの最高の状態を礼拝に求めるべきなのです。

預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は仰せられています。「人がアッラーに最も近づく時とは、礼拝を行っている時である。」礼拝を行う人は、アッラーと会話し、アッラーに懇願し、その偉大さや、アッラー以外の何ものも無であるということを目にするのです。従って、礼拝では恐れ、畏怖、怯みが生じ得る為、そこからの慰めを得て楽になるように、礼拝の最後に 2 度挨拶を行うことが命じられています。

預言者ムハンマドはあるハディースで、「ファルドの礼拝の後、33 回タスビーフ、33 回タフミード、33 回タクビール、そして 1 回、タフリールを行いなさい」と命じられています。この理由は、礼拝での過ちをタスビーフで覆う為です。アッラーにふさわしい、完全なイバーダができなかったことを告げるものです。タフミードによって、礼拝で誉れを得たことがアッラーの援助と鍛錬によるものであることを認識し、この大きな恵みに感謝するのです。タクビールを行うことで、アッラー以外にイバーダにふさわしい存在は何もないことを宣言します。

礼拝を条件やその徳に従って行い、そこでの不足をこのように覆い、礼拝を行えたことを感謝し、イバーダには他の誰も権利を持たないということを、心から、純粋に、カリマ・タウヒードによって確認すれば、この礼拝は受け入れられ得るのです。この人は、礼拝を行った人、救われる人となるのです。アッラーよ、預

言者たちのうち最も崇高なお方への敬意の為に、私たちを、礼拝を行う幸福なしもべとなさってください。アーミーン。

礼拝の後のドゥアー

「アルハムドゥリッラーヒ　ラッビル　アーラミーン。アッサラートゥ　ワッサラーム　アラー　ラスーリナー　ムハンマディン　ワ　アーリヒ＿　ワ　サフビヒー　アジュマーイン」

主よ、行った礼拝を認めてください。私の来世、先行きを良いものとなさってください。最期の息でカリマ・タウヒードを唱えることができますように。亡くなった、私に関わる人々をお許しください。

「アッラーフンマグフィル　ワルハム　ワ　アンタ　ハイルッラーヒミーン、タワッファニー　ムスリマン　ワ　アルフクニ＿ビッサーリヒーン、アッラーフンマグフィル　リ　ワーリダーヤワ　リ　ウスターズィヤ　ワ　リムッミニーナ　ワル　ムッミナートゥ　ヤウマ　ヤクームル　ヒサーブ」

主よ、私をシャイターンの災いから、敵の災いから、悪を命じる我欲の災いから守ってください。私たちの家に、良い　もの、合法で尊い糧をお恵みください。イスラームに従う人々に祝福をお与えください。ムスリムの敵たちを滅ぼしてください。不信仰者と聖遷を行うムスリムたちを、神の援助によってお助け下さい。

「アッラーフンマ　インナカ　アフーウン　カリームン　トゥヒッブル　アフワ　ファーフ　アンニ」

アッラーよ、病人に健康を、苦しんでいる人々に癒しをお与えください。

「アッラーフンマ　インニー　アッサルカッスハータ　ワル　アーフィヤタ　ワル　アマーナタ　ワ　フスナルフルク　ワッルダー　ビルカダリ　ビラフマティカ　ヤー　アルハマルラーヒミーン」

わが母、わが父、子供たち、親戚、友、そして全てのイスラームの兄弟たちに、尊い生涯と良い　徳、正しい知性と健康、正しい方向への導き、正しい道をお恵みください、主よ！アーミーン。

「ワルハムドゥリッラーヒ　ラッビル　アーラミーン、アッラーフンマ　サッリ　アラー、アッラフンマ　バーリク　アラー、アッラーフンマ　ラッバナー　アーティナ_、ワルハムドゥ　リッラーヒ　ラッビルアーラミーン。アスタグフルッラー、アスタグフルッラー、アスタグフルッラハル　アズィーム　アルカリームアッラズィー　ラーイラーハ　イッラー　フワるハイヤルカユーマ　ワ　アトゥーブ　イライフ」

詳細の解説（ドゥアーが受けいられる為の条件）
ムスリムであること。
スンナに従う信仰を持っていること。この為、4 つの学派のどれかに従うことが必要です。
ファルドを行うこと。カダーに残った礼拝を、夜、そしてスンナの代わりにカダーを行い、少しでも早く済ませるべきです。
　ファルドの礼拝がカダーに残されている人の、スンナとナーフィラの礼拝、そしてドゥアーは受け入れられません。つまり、それ自体が真正なものであったとしても、そのサワーブは与えられません。シャイターンはムスリムを欺く為にファルドを無価値なものと示し、スンナやナーフィラを行わせようとします。礼拝は、時間が来たことを認識し、早いうちに行うべきなのです。
ハラームを避けるべきです。受け入れられるのは、ハラールであるものを口にする人のドゥアーです。
ワリーの誰かを媒介にしてドゥアーを行うべきです。
　インドの学者の一人ムハンマド・ビン・アフマド・ザーヒドは、その書物の 54 章で、ペルシア語で次のように語っています。「ドゥアーが認められる為には、2 つのことが必要である。一つは、ドゥアーをイフラースで行うことである。2 つめは食べたもの、着ている者がハラールであることである。信者の部屋に、糸たばほどであれハラームであるものがあれば、この部屋でなされたドゥアーは受け入れられない。」イフラースとは、アッラー以外の何ものについても考えず、ただアッラーから求めることです。この為、スンナに従う学者たちが教えた形で信仰を持ち、イスラームの道徳に従うこと、特に他の人の権利を侵害しないこと、日に 5 回の礼拝を行うことが必要なのです。

信仰を新たにするドゥアー

アッラーよ！思春期に達して以来、この時まで、イスラームの敵やビドゥアに逸脱した人々の欺瞞を信じて持ってしまった誤った信仰と、ビドゥアであり罪である私の発言、私が聞いたもの、見たもの、行ってきたことについて、私は深く悔やんでいます。2 度とあのように誤った形で信仰しないことを願い、ニーヤし、意図します。預言者たちの始まりであるのは預言者アーダムであり、最後の預言者は言者ムハンマドでした。私は、この 2 人の預言者、そして 2 人の間にやってきた諸預言者を信じました。全て正しく、誠実です。彼らが知らせていることは正しいのです。

アーマントゥ　ビッラーヒ　ワ　ビマー　ジャー　ミン　インディッラー、アラー　ムラーディッラフ、ワ　アーマントゥ　ビラスーリッラーフ　ワ　ビマー　ジャー　ミン　インディ　ラスーリッラー　アラー　ムラーディ　ラスーリッラーフ、アーマントゥ　ビッラーヒ　ワ　マラーイカティヒ　ワ　クトゥビヒ　ワルスリヒ　ワルラウミル　アーヒリ　ワ　ビルカダリ　ハイリヒー　ワ　シャッリヒー　ミナッラーヒ　タアーラー　ワル　バスバダルマウティ　ハックン　アシュハドゥ　アン　ラー　イラーハ　イッラッラーフ　ワ　アシュハドゥ　アンナ　ムハンマダンアブドゥフ　ワ　ラスールフ。

礼拝の英知（礼拝と健康）

ムスリムは礼拝を、アッラーの命令である為に行います。アッラーの命令には多くの英知、効用があります。禁じられていることにも、多くの害があることは確実です。この効用や害の一部は、今日医学の研究者たちによって確認されています。イスラームほどに健康を重要視する宗教や思想は他にありません。イスラームは、イバーダの最も崇高なものである礼拝を、生涯の最後まで行うことを命じています。礼拝を行う人は、当然健康の為の効用をも得るのです。礼拝がもたらす健康面での効用のうち、一部は次の通りです。

礼拝で行われているゆっくりとした動作は、心臓に負担をかけません。礼拝は一日の様々な時間に行われる為に、人を常に力強く保ちます。

1日に頭を地面に80回つける人の脳には、律動的に多くの血が運ばれます。この為、脳細胞が十分に育成され、礼拝を行う人が記憶や人格を損なうことはあまりありません。こうした人々は、より健康的な生涯を送ります。今日の医学で認知症と呼ばれる状態にはなりにくいのです。
礼拝を行う人は、定期的に体を折ったり伸ばしたりしているので、より良い状態で血行を維持しています。この為、眼球の内部の圧力が上がることがなく、目の前部にある液体が常に入れ替わることができます。白内障や緑内障といった病気から守られるのです。
礼拝を行う際の動きは、胃にある食物が十分に混ざり、胆汁が流れやすくなり、それによって胆嚢にたまりにくくなり、すい臓で酵素が容易に分泌されることを助け、また同様に便秘を防ぐ上でも役割を果たします。腎臓や尿道が十分に濯がれることとなり、尿道結石の予防や膀胱を空にするといった点でも助けとなります。
日に5回行われる礼拝のリズミカルな動きは、日常生活で動かされることのない筋や関節を動かし、関節症や石灰化のような関節の病気、そして筋肉がつることをも防ぎます。
体の健康の為には、清潔さは当然不可欠です。ウドゥーとグスルは、肉体的かつ精神的な清浄です。礼拝とは、清浄さそのものなのです。体と魂の清めのない礼拝はありません。ウドゥーやグスルは体の健康を維持します。イバーダの務めを果たした人は、精神的にも休息し、清められたことになります。
予防医学においては、一定の時間行われる体の動きはとても重要です。礼拝の時間は、血行を新たにし、呼吸を活性化する為に最も適した時間です。
睡眠を促す重要な要素が礼拝です。さらに、体に蓄積した静電気は、サジュダを行うだけで地面に逃すことができます。これによって体が再び活力を取り戻します。
　礼拝のこれらの効用を得る為には、礼拝を時間通りに行うと同時に、清潔さを維持すること、食べ過ぎないこと、清潔でハラールであるものを食べること等にも注意を払うことが必要です。

誰にも永遠ではない、この世界での富、金や銀
荒れ果てた心を、神を知ることが修復する

第７部
礼拝のイスカートゥ（死後、金銭で償いを行うこと）
死者の為のイスカートゥと循環
「ヌール　ウル- イザーフ」、「タフターウィー」の注釈、そして「ハラビー」と「ドゥル　ウル- ムンタカー」、及び「ウィカーヤ」、「ドゥラル」、そして「ジャウハラ」、そしてその他の貴重な書物で、断食の項の最後に、遺言を残した死者の為にイスカートゥと循環を行う必要があることが書かれています。例えば、「タフターウィー」の注釈では、「行われなかった断食の代償金を支払い、イスカートゥを行うことがはっきりと定められている。礼拝は断食よりも重要であり、認められている差し障りによって行えなかった礼拝、そしてカダーを行うことを望んでいたのに死に至る病にかかった人たちの実行できなかったカダーについて、断食と同様にイスカートゥを行うことについては、学者たちの意見の一致がある。イスカートゥができないと言う人は無知なのである。なぜなら各学派の一致した意見に対抗しているからである。ハディースでは、『誰も、他人の代わりに断食をすることはできず、礼拝をすることもできない。しかし、彼の断食や礼拝の代わりに貧者に食事をさせることはできる』とされている。」
　スンナに従う学者たちの崇高さを理解せず、それぞれの学派のイマームたちが、自分と同じように想像で話していると思い込んでいる一部の人々が、「イスラームには代償金や循環はない。それはキリスト教徒が罪を告白するやり方に似ている」と主張するのを耳にすることがあります。こうした言葉は、彼ら自身を危険に陥れます。なぜなら預言者ムハンマドは、「わがウンマは逸脱した事柄において意見を一致させることはない」といわれているのです。このハディースは、ムジュタヒド（イジュティハド＝法的解釈を行う人）が意見を一致させて承認している事柄は、当然真実であることを示しています。これらを信じない人は、このハディースを信じないことになります。イブニ・アービディーンはウィトルの礼拝について語る際、「イスラームにおいて必須とされていること、すなわち無知な人々も知っているイジュマー（ムジュタヒドたちが意見を一致させて承認していること）である知識を信じない人は、不信仰者となる」と語っています。イジュマーとは、学者たちの意見の一

致を意味します。イスカートゥを罪の告白と似せることがどうしてできるでしょうか。神父たちは、告白をさせているとして、人々に質問を行います。しかしイスラームでは、宗教者はイスカートゥを行えません。イスカートゥを行えるのは死者の後見人のみであり、そのお金は宗教者ではなく貧者に与えられるのです。

イスカートゥと循環は、現在ではほとんどすべての場所で、イスラームに適した形で行われていません。イスラームにイスカートゥはないと言う人々は、そのように主張する代わりに「現在行われているイスカートゥと循環はイスラームに適した形ではない」と言えば、より良かったでしょうし、私たちも彼らを支持していたでしょう。こう言っていれば、彼ら自身が恐ろしい危険に陥らずに済み、さらにイスラームに奉仕を行ったことになっていたでしょう。イスカートゥと循環がイスラームに従ってどのように行われるべきかを下記で説明しています。イブニ・アービディーンは、カダーの礼拝の項の最後で次のように語っています。

「差し障りがあり、カダーに残した礼拝がある人が、それらを象徴的な動きで行うだけの力があるのに行わなかったならば、亡くなった時にその償いを代償金で支払う（イスカートゥ）為に遺言をすることはワージブです。カダーするだけの力もなかったのであれば、遺言は必要ありません。ラマダーン月に断食を行えなかった旅行者や病人も、カダーを行う時間がないうちに亡くなったのであれば、遺言は必要ありません。アッラーは彼らの差し障りを認められるのです。病人の償いのイスカートゥは、死後にその後見人によって行われます。生前には行われません。生きている人が、自分の為にイスカートゥを行わせることは認められないのです」

「ジラーウル・クルビー」では次のように記されています。

「アッラーの権利、そして他者の権利が自分に残っている人が、2 人の証人のそばで遺言を行うこと、もしくは書いたものを彼らに読ませることは、ワージブである。このような権利が残っていない人が遺言を行うことは、ムスタハブである」

償いのイスカートゥの為に遺言を行った死者の後見人、すなわち遺産をそれぞれの箇所に費やす為に遺言を行った人、もしくは相続人がいる人は、遺産の 3 分の 1 を、それぞれの定時の礼拝の為、そしてウィトルの礼拝の為、加えてカダーを行うべきである

一日分の断食の為に、フィトラの量、つまり半サア（520 ディルハムもしくは 1750 グラム）の麦を貧者に代償金として支払います。

ハナフィー派では、償いのイスカートゥの為に遺言を行っていなかったのであれば、後見人が償いのイスカートゥを行うことは必要ありません。シャーフィー派では、遺言を行わなかったのであれば、後見人が行う必要があります。ハナフィー派では、他人に支払うべきものがあり、遺言がない場合、死者が遺した財産から後見人が支払うことが必要です。さらに、債権者は、遺産が相続された時には、裁判を起こさずに受け取るべきものを受け取ることができます。カダーに残された断食の代償金を払うこと、すなわち財産によってそれを払うことを遺言したのであれば、それを実行することはワージブです。なぜならイスラームが命じているからです。遺言をしていないのであれば、礼拝の代償金を払うことはワージブではなく、ジャーイズ（許されること）となります。この最後の 2 つは、もし認められなくても、少なくともサダカのサワーブが生じ、罪を清める助けとなります。イマーム・ムハンマドはこのように語っています。

「マジュマーウル- アンフル」では次のように記されています。
「我欲とシャイターンに従って礼拝を行わず、生涯の最後が近づいて初めてそれを後悔し、礼拝を行い、カダーをし始めた人が、カダーすることができなかった礼拝のイスカートゥの為に遺言を遺すことは認められないといわれるが、それが許されることは『ムスタスファ—』で記されている」

ジラーウル・クルビーでは次のように記されています。「他者に払うべきものとは、返すべき借金、信託、強奪したもの、盗んだもの、対価等の理由で支払うべきもの、そして喧嘩、傷害、不正な利用といった肉体の権利、それから侮辱、からかい、陰口、中傷といった心の権利である。」

イスカートゥを行う為に遺言を行った死者の財産の 3 分の 1 を充てるのであれば、後見人はこの財産で代償金を払うことが必要です。それに充てようとしないのであれば、財産の 3 分の 1 以上を遺産相続人が寄付することが許されると、「ファトゥフ　ウル-カディール」では記されています。同様に、ファルドであるハッジを行う為に遺言を遺せば、遺産相続人もしくは他の人がハッジ

の代金を贈ることは認められません。死ぬ前に遺言をせず、遺産相続人が彼自身のお金でイスカートゥを行い、ハッジに行けば、死者の借りは返されたことになります。相続人以外の人のお金では、これらは認められないと言う人々もいますが、「ドゥル- ウル- ムフタル」や「マラーキル- ファラーフ」、「ジラーウル・クルビー」といった本の著者たちは、認められるとしています。

償いのイスカートゥは、麦の代わりに小麦粉、あるいは 1 サアのオオムギ、ナツメヤシ、ブドウを計算して、それらで払うこともできます。（なぜなら、これらは小麦よりもなお貴重であり、貧者にとってより効果的だからです。）全ての代わりに、価値のある金や銀で支払うこともできます。（紙幣ではイスカートゥはできません。）ティラーワのサジュダの為に代償金を払う必要はありません。

イスカートゥや循環はどのように行われるか

代償金が遺産の 3 分の 1 を超えるなら、遺産相続人たちが許可を与えない限り、3 分の 1 以上の部分を支払いに費やすことはできません。「クニヤ」という書物では、次のように記されています。「全生涯の礼拝の為に財産の 3 分の 1 を支払うことを遺言した死者に、借金があった場合、債権者が遺言の執行を許したとしても、この遺言の執行は認められない。なぜならイスラームは、まず借金を返すことを命じているからである。借金を返すことは、債権者が認めることによって先延ばしにはされない。」

全ての礼拝のイスカートゥを行うよう遺言をした人が何歳で亡くなったのか不明であれば、遺した財産の 3 分の 1 が礼拝のイスカートゥに足りない場合、この遺言が認められます。遺産の 3 分の 1 がイスカートゥに十分であるか、余る場合は、この遺言は認められず、逸脱とされます。なぜなら、財産の 3 分の 1 がイスカートゥに足りない場合、3 分の 1 によってイスカートゥを行う礼拝の数が一定であることから、遺言はこの礼拝の為に適用されます。残りの礼拝の為の遺言は無意味なものとなります。3 分の 1 の方が多い場合、生涯、すなわち礼拝の数が一定ではない為、遺言は無効となります。

礼拝のイスカートゥの為に遺言を行う死者に全く財産がない場

合、あるいは3分の1が遺言に足りない場合、あるいは全く遺言をしておらず、後見人が彼自身の財産でイスカートゥを行うことを望んでいれば、「循環」が行われます。しかし後見人はこの循環を行う義務はありません。循環を行う為に後見人は、一か月もしくは一年のイスカートゥの為に必要な金、腕輪、指輪、銀を借ります。死者が男性であれば年齢から12年、女性であれば9年をマイナスし、できていない礼拝が何年分あるかを計算します。一日分である6回の礼拝の為に10キロ、1年の為に3660キロの麦を支払うことが必要です。例えば、1 キロの麦が 180 クルシュであるなら、1 年分の礼拝のイスカートゥは 6588 リラ、もしくは切り上げて6600リラとなります。1アルトゥン・リラ（7.2グラム）が120リラである時には、1年分の礼拝のイスカートゥの為に55、もしくは念の為として 60 アルトゥン・リラが必要となります。死者の後見人が5個の金貨を借り、世俗的なことに夢中になっておらず、イスラームを知り、愛している数人の（例えば 4 人の）貧者を見つけ、（彼らがフィトラを払うことのできない、すなわちサダカを受け取る貧者であることが必須条件となります。もし貧者でなければイスカートゥは認められません。）死者の後見人、すなわち遺言を受けた人、もしくは遺産相続人の一人、もしくは彼らのうちの一人の代理人は、「亡くなった何某氏の礼拝のイスカートゥの為、対価としてこの5アルトゥンをあなたに与えます」といい、5アルトゥンを最初の貧者にサダカのニーヤで与えます。それから貧者は、「受け取りました。私は承認しました。これをあなたに贈ります」といい、これを遺産相続人もしくはその代理人に贈り、相続人もそれを受け取ります。それからまた彼、もしくは次の貧者にそれを与え、贈り物として受け取ります。このようにして同じ貧者に4回、もしくは4人の貧者に一回ずつ与え、受け取ることで循環がなされます。この循環で、20 アルトゥンの礼拝の償いをイスカートゥしたことになります。死者が男性で 60 歳である場合、48年分の礼拝の為に 48×60＝2880 アルトゥンを払うことが必要です。この為には、2880÷20 で、144 回の循環を行います。金が 10枚あれば72回、金が20枚であれば36回行います。貧者の数が10人で金の数も10枚であれば、48年分の礼拝の償いのイスカートゥの為に29回の循環を行います。

なぜなら、
礼拝を行わなかった年×1 年分の金の数＝貧者の数×循環する金の数×循環の数だからです。この例では、
48×60＝4×5×144＝4×10×72＝4×20×36＝10×10×29
となります。

このように、礼拝のイスカートゥでは循環の数を見出す為に、1 年分の金の数と、死者が礼拝をしていなかった数をかけます。さらに、循環される金の数と貧者の数をかけます。一つめの積の答えを 2 つめの積の答えで割ります。これが循環の数となります。小麦や金の紙幣的な価値は常に同じ割合で変化します。つまり、金の価値と麦の価値は常に同時に減るか、同時に増えます。この観点から、イスカートゥの為に 1 年分の麦の量は変わらないように、1 年分の金の数、つまりここで計算した 60 アルトゥンもほぼ同じです。この為、イスカートゥの計算は常に、慎重なものとして、
1 か月の礼拝のイスカートゥは 5 アルトゥン
1 か月のラマダンの断食のイスカートゥは 1 アルトゥン
と認められています。循環される金の量と循環の数はここから計算されます。

礼拝のイスカートゥを終えた後で、実行できず、カダーすべきであった断食のイスカートゥの為に、5 アルトゥンを 4 人の貧者に 3 回循環させます。すなわち、1 年分つまり 30 日分の断食内のイスカートゥは、52.5 キロの麦もしくは 5.25 グラムの金、すなわち 0.73 個のアルトゥン・リラだからです。このようにハナフィー派では 1 個の金が 1 年分の断食の償いのイスカートゥとなり、48 年の為には 48 個の金を払うことが必要となります。5 個の金を 4 人の貧者に循環させれば、20 アルトゥンを払ったことになります。カダーされるべき断食のイスカートゥを行った後は、ザカートの為、それから犠牲の為に何回か循環を行います。

一回の誓いの為の償いに毎日 10 人の貧者が、そして正当な差し障りなく中断されて償いを必要とする一日分の断食の償いの為にも、1 日 60 人の貧者が必要です。そして一人の貧者には、1 日半サアの小麦以上のものを与えることはできません。だから誓いや断食の償いの為に、一日で循環を行うことはできません。誓いの償いがあるなら、一回の誓いの為に 1 日に 10 人の貧者に 2 キロずつ

の小麦、もしくは小麦粉、あるいは同等の価値を持つその他の財産、金銀を与えます。これは一人の貧者に 10 日間続けて払う形でも行うことができます。あるいは一人の貧者に紙幣を渡し、「あなたを代理人にします。このお金で毎日、朝晩 2 回、10 日間食事をしてください」と言います。10 日間食事をする代わりに、コーヒー代や新聞代として費やせば、それは認められません。最も良いことは、料理人と取引し、10 日分のお金を料理人に渡し、貧者が 10 日間この料理人の元で朝晩食事をするようにします。ニーヤを行ってから中断した断食やズハールの償いも同様であり、この 2 つとも、1 日分の償いの為に 60 人の貧者に 1 日、もしくは 1 人の貧者に 60 日、半サアの小麦もしくは同等の価値のあるその他の財産を与えること、もしくは毎日 2 回食事をさせることが必要です。

遺言がされていないザカートのイスカートゥを行う必要はありません。遺産相続人はザカートのイスカートゥの為にも、自ら循環を行うことができるというファトゥワが出されています。

循環を行う際に後見人は、金を貧者にあたえるごとに、礼拝もしくは断食の為のイスカートゥであるとニーヤしなければいけません。貧者も、それを返す際に贈りましたと言う必要があります。そして後見人は、受け取りましたと言います。後見人はイスカートゥを行えない状態であれば、誰かを代理人とし、この代理人がイスカートゥや循環を行います。

イマーム・ビルギヴィーの「ワシーヤトゥナーメ」という書物と、そのカーディザーデ・アフマド氏の解説では、貧者は 2 サーブの量の財産を持っていないことが条件となります。死者の親戚であっても認められます。貧者に与える際には、「何某氏のこれこれの量の礼拝のイスカートゥの為にこれをあなたにさしあげます」と言う必要があります。貧者も「承知しました」といい、金を受け取った時にはそれが自分のものであることを認識する必要があります。認識していないのであれば前もって教えるべきです。この貧者も慈悲深くふるまい、自らの意志で「誰々の礼拝のイスカートゥの為に、対価としてこれをあなたに差し上げます」といい、他の貧者に与えます。その貧者もそれを手に取って「承知しました」と言わなければいけません。それを受け取り、自分のものであることを認識します。この 2 番目の貧者も「受け取り

ました。認めました」といった後、「これをあなたに差し上げます」と 3 番目の貧者に与えます。これによって、礼拝、断食、ザカート、犠牲、フィトルのサダカ、願掛け、他者に返すべき権利、動物の権利について循環を行うべきです。誤った、道を外れたやりとりも、他者に返すべき権利に含まれます。誓いや断食の償いの為に循環を行うことは認められません。

それから、金がどの貧者の手に残ったとしても、慈悲深く、それを自らの願いと承認によって後見人に贈ります。後見人は受け取り、認めましたと言います。もし贈り物としなければ、それはその貧者の財産であり、無理やり奪うことはできません。後見人は一定の額の金もしくは紙幣、あるいは死者の持ち物をこの貧者に与え、このサダカのサワーブも死者の魂に贈ります。借金がある貧者と、思春期に達していない子供は、この循環を行うことはできません。なぜなら、手にした金で借金を返すことがファルドとなるからです。このファルドを行わず、死者の償いの為に金を別の貧者に与えることは認められません。循環が認められたとしても、彼自身は全くサワーブを得られず、さらには罪を犯したことになります。

財産がない死者が、循環を行うことを遺言に遺していた場合、後見人が循環を行うことはワージブにはなりません。死者の償いをイスカートゥできるだけの額の合計が、遺産の 3 分の 1 を越えないという条件で遺言を行うことがワージブとなります。これにより、循環を必要とすることなく、イスカートゥが行われます。3 分の 1 がイスカートゥに足りる場合、3 分の 1 よりも少ない財産を循環することを遺言すれば、罪を犯したことになります。

イブニ・アービディーンは 5 巻の 273 ページで次のように語っています。「小さな子供たちがいる、あるいは貧しく遺産を必要とする思春期に達した誠実な子供たちがいる病人は、ナーフィラである慈善や善行を遺言するのではなく、財産を誠実な子供たちに遺すことがより良い。　」

「「バッザーリヤ」で贈り物に関する項目では、次のように説かれています。「財産を慈善の為に費やし、罪人である子供には遺産を遺してはいけない。なぜなら罪を助けることになるからである。罪を犯す子供には、日常的な生計に必要なもの以上の金、

財産を与えてはいけない。」

実行できていない礼拝、断食、ザカート、犠牲、誓いが多くあり、これらの為に遺産の 3 分の 1 よりも少ない財産の循環を行い、残ったお金でクルアーンを全章読み、マウリードを読むよう遺言することは認められません。これらを読む為にお金を払う人、受け取る人は罪を犯したことになります。クルアーンを教える為にお金を受け取ること、払うことは認められます。読む為にお金をやりとりすることは認められません。

死者が実行しなかった礼拝、断食を、遺産相続人やその他の人がカダーすることは認められません。しかしナーフィラの礼拝を行い、断食をし、そのサワーブを死者の魂に贈ることは認められ、また良い　ことです。

死者が実行しなかった巡礼を、遺言に遺した誰かがカダーを行うことは認められます。つまり、死者はその負債から救われます。なぜなら巡礼は、体と財産の両方によってなされるイバーダだからです。ナーフィラの巡礼は他者の代わりにいつでも行うことができます。ファルドである巡礼は、ただ死ぬまで巡礼に行くことのできない人の代わりに、代理人によって行われます。

「マジュマ　ウル-アンフル」と「ドゥッル　ウル-ムンタカー」では、「死者のイスカートゥは埋葬の前に行われなければならない」とされています。埋葬後にも認められることが「クヒスターニ」では書かれています。

死者の為の礼拝、断食、ザカート、犠牲の償いのイスカートゥでは、一人の貧者に 2 サーブの量以上を与えることができます。さらには、金の全てを一人の貧者に与えることもできます。

死の床にある病人が、行わなかった礼拝の代償金を払うことは認められません。断食ができない程に老衰している人が、できなかった礼拝の代償金を払うことは認められます。病人は礼拝を、頭で象徴的な動きをしながらであっても行うべきなのです。このような動きであっても 1 日以上礼拝ができない病人の、できなかった礼拝は許されます。回復しても、これらをカダーする必要はありません。できなかった断食については、回復すればそれを行うことが必要です。回復することなく亡くなれば、これらの断食は許されます。

第8部
32、そして54のファルド

一人の子供が思春期に達した時、そして不信仰者がカリマ・タウヒードを唱えた時、つまり「ラー　イラーハ　イッラッラームハンマドゥン　ラスールッラ」といい、その意味を知り、信じた時には、彼はムスリムとなります。不信仰者の全ての罪がすぐに許されます。しかし彼らは、全てのムスリムと同様、できる限り、信仰の6つの条件、すなわち「アーマントゥ」を暗記し、その意味を学び、信じ、「イスラームの全て、つまり預言者ムハンマドが伝えられた命令や禁止事項の全てを、アッラーが教えられたことを信じる」と言うべきです。後に、できる限り、全ての生活や直面する出来事のうち、ファルドであるもの、すなわち命令されたこと、そしてハラームであるもの、すなわち禁じられたことを学ぶことも、ファルドです。これらを学び、ファルドを行い、ハラームを避けることがファルドであることを否定すれば、つまり認めなければ、信仰は失われます。これらの学んだことのどれか一つでも気に入らないのであれば、ムルタドとなってしまいます。ムルタドは、「ラー　イラーハ　イッラッラー」と言うこと、イスラームのいくつかの命令を実行すること、例えば礼拝すること、断食すること、巡礼に行くこと、慈善や善行を行うことなどによって、ムスリムとなることはありません。これらの良い　　行いは、来世で何の効用ももたらしません。否定していること、つまり信じていないことを悔悟し、悔やむことが必要なのです。

イスラーム学者は、全てのムスリムが学び、信じ、従うことが必要であるファルドから32個、さらには54個を選んでいます。

32のファルド

信仰の条件：6
イスラームの条件：5
礼拝のファルド：12
ウドゥーのファルド：4
グスルのファルド：3
タヤンムムのファルド： 2
タヤンムムのファルドが 3 つであると言う人々もいます。その場

合、前部で 33 のファルドとなります。

信仰の条件（6 つ）
アッラーの存在と唯一性を信じること
天使たちを信じること
アッラーが下された啓典を信じること
アッラーの預言者たちを信じること
来世を信じること
運命、すなわち良い　ことも悪いこともアッラーからであること
を信じること

イスラームの条件（5 つ）
カリマ・シャハーダを唱えること
毎日 5 回、時間が来たら礼拝を行うこと
財産のザカートを支払うこと
ラマダーン月に毎日断食を行うこと
それができる人は生涯に一度巡礼を行うこと

礼拝のファルド（12 個）
A.礼拝の前のファルドは 7 つです。これらを条件とも呼びます。
汚れからの清め
大汚からの清め
アウラの場所を覆うこと
キブラに向かうこと
時間
ニーヤ
イフティタフもしくはタフリーマのタクビール

B.礼拝中のファルドは 5 つです。これらをルクンと呼びます。
キヤーム
キラート
ルクウ
サジュダ
座位

ウドゥーのファルド（4 個）
ウドゥーを行う際に顔を洗うこと
手を、肘と共に洗うこと
頭の 4 分の 1 をマスフすること
足を踵と共に洗うこと

グスルのファルド（3 個）
口を洗うこと（マズマラ）
鼻を洗うこと（イスティンシャーク）
全身を洗うこと

タヤンムムのファルド（2 個）
ジュヌーブの状態、もしくはウドゥーのない状態から清められる為にニーヤを行うこと
両手を土につけ、顔をマスフすること、再び両手を土につけ、両腕を肘から手のひらまで撫でること

52 のファルド
アッラーが唯一であることを信じること
ハラールであるものを食べること、飲むこと
ウドゥーを行うこと
日に 5 回の礼拝を行うこと
ジュヌーブの状態からグスルを行うこと
糧がアッラーからのものであることを信じること
合法であり、清潔な衣類を身に着けること
アッラーを信頼すること
満足すること
恵みに対し、アッラーに感謝すること
運命を甘受すること
災難に忍耐すること
罪を悔悟すること
アッラーのご満悦の為にイバーダを行うこと
シャイターンが敵であることを知ること

クルアーンの規定を受け入れること
死が真実であると知ること
アッラーの親友の友となり、アッラーの敵の敵となること
父や母に善行を施すこと
善を命じ、悪を避けることを教えること
親戚を訪問すること
信託を裏切らないこと
常にアッラーを恐れ、つけあがったり堕落したりしないこと
アッラーとその使徒に従うこと
罪を避け、イバーダを多く行うこと
ムスリムの統治者に従うこと
世界を、警告という観点から見ること
アッラーの存在を熟考すること
舌を、姦淫に関連する言葉から守ること
心を清らかに保つこと
決して誰かを笑いものにしないこと
ハラームであるものを目にしないこと
信者はどのような状態であれ、約束に忠実であること
耳を、邪悪なものを聞くことから守ること
知識を学ぶこと
計りや計測器を正しく用いること
アッラーの懲罰について自分は心配ないと思わず、常に恐れること
ムスリムの貧者にザカートを支払うこと、助けること
アッラーの慈悲に絶望しないこと
自我の欲望に従わないこと
アッラーのご満悦を得る為に食事を提供すること
足りるだけの量の糧を得る為に働くこと
財産のザカート、収穫物のウシュルを支払うこと
月経中、産褥期である人と同衾しないこと
心を罪から清めること
うぬぼれを避けること
思春期に達していない孤児の財産を保護すること
若い少年に近く接しないこと

5 回の礼拝を時間通りに行い、カダーに残さないこと
迫害によって他者の財産を奪わないこと
アッラーに何ものも配さないこと
姦淫を避けること
ワインやアルコール飲料を飲まないこと
実行する気がないのに誓約しないこと

不信仰について

悪事のうち最も悪いことは、アッラーを信じないこと、無神論者であることです。信じるべきことを信じない場合、不信仰者となります。預言者ムハンマドを信じないことは不信仰です。アッラーの位階からもたらされ、私たちに教えられたこと全てを心から信じ、言葉でも繰り返し語ることを「イーマーン（信仰)｝と言います。それを口に出すことが妨害される状況で口に出さないことは許されます。信仰が生じる為には、イスラームが不信仰のしるしであるとしていることを語ったり、用いたりすることを避ける必要もあります。イスラームの徳、すなわちイスラームの命令や禁止事項のどれか一つを軽視すること、クルアーン、天使たち、預言者たちのいずれかを侮辱することは、不信仰のしるしです。否定することとは、つまりそれらを知った後であえて信じないこと、認めないことを意味します。疑うことも、否定することとなります。

不信仰には 3 種類あります。無知によるもの、強い否定、判断による不信仰です。
聞いたことがなく、考えたこともない為に信仰しない人の不信仰を、「無知による不信仰」と呼びます。無知にも 2 種類があります。1 つめは単純な無知です。この人々は、自分が無知であることを知っています。彼らには誤った信条はありません。動物のような状態です。なぜなら人を動物と区別するものは、知識と理解であるからです。こういった人々は動物以下となります。なぜなら動物は創造された事柄においてより優れているからです。無知の 2 つめは「形成された無知」です。誤った、逸脱した信条です。ギリシア哲学を信奉する人々や、ムスリムのうち 72 のビド

ゥアの派であるような人々がこれに当たります。この無知は、1つめの無知よりもなお悪いものです。薬のない病気のようなものです。
「強い否定」とは、「頑迷な否定」とも呼ばれます。知っていてあえて信仰しないことです。うぬぼれ、地位を得ることへの愛着、非難されることへの恐れから生じます。フィルアウーンとその同行者、ビザンツ皇帝ヘラクリオスの不信仰はこのようなものでした。
信仰の 3 種類目は、判断による不信仰です。イスラームが不信仰の印と見なしている言葉を口に出したり、行動を取ったりした人は、例え心で受け入れていたり、信じていると語っていたとしても、不信仰者となります。イスラームが蔑視を命じているものを尊敬すること、イスラームが尊敬することを命じているものを蔑視することも、不信仰なことです。

アッラーが天、もしくは空から私たちを見ておられる、と言うことは不信仰です。
あなたが私をひどい目にあわせたように、アッラーもあなたをひどい目にあわせる、と言うことは不信仰です。
何某のムスリムは私の目にはユダヤ教徒に見える、と言うことは不信仰です。
偽りである言葉について、アッラーはご存じであると言うことは不信仰です。
天使を侮辱する言葉を語ることは不信仰です。
クルアーン、さらにはその一文字についても、それを侮辱する言葉を語ること、その一文字を信じないことは不信仰です。
楽器を鳴らしながらクルアーンを読むことは不信仰です。
真正である律法や新約聖書を信じないこと、これらを悪く言うことは不信仰です。（現代では真正である律法や新約聖書は存在しません。）
クルアーンの例外的な文字を読み、クルアーンとはこれであると言うことは不信仰です。
預言者たちを侮辱する言葉を語ることは不信仰です。
クルアーンで名が告げられている 25 人の預言者たち（アッラー

の祝福と平安がありますように）の誰か一人でも信じないことは不信仰です。
とても良い　　ことを行った人について、預言者よりもなお良い　、と言うことは不信仰です。
預言者たちは助けを必要としていた、と言うことは不信仰です。なぜなら、彼らの貧しさは彼ら自身の願いによるものだったからです。
誰かが、自分が預言者であるといい出したとき、それを信じる人も不信仰者となります。
来世で起こる出来事をからかうことは不信仰です。
墓場や最後の審判の日の罰について、（知識や科学にそぐわないといって）信じないことは不信仰です。
天国でアッラーにお目にかかることを信じないこと、私は天国は望めない、アッラーを求める、と言うことは不信仰です。
イスラームを信じないことを示す言葉、例えば「科学知識はイスラームの知識よりもずっと価値がある」などと言うことは不信仰です。
礼拝をしてもしなくても同じであると言うことは不信仰です。
私はザカートを払わないと言うことは不信仰です。
利子が合法であればよかったのに、と言うことは不信仰です。
迫害が合法であればよかったのに、と言うことは不信仰です。
ハラームである品を貧者に与えてサワーブを期待することや、貧者がこの与えられたお金がハラームであることを知りながら、与えた人の為に善を願うドゥアーをすることは不信仰です。
イマーム・アーザム・アブー・ハナフィーの類推（キヤース）は正しくないと言うことは不信仰です。ワッハーブ派はこの為に不信仰者となります。
知られているスンナのどれかを気に入らないことは不信仰です。
「私の墓と、私の説教台との間は、天国の庭園の中の庭園である」というハディースを聞いて、「私には説教台、壁掛け、墓の他に何も見えない」と言うことは不信仰です。
イスラームの知識を信じないこと、それら、そしてイスラーム学者を軽視することは不信仰です。
不信仰者となることを望む人は、それをニーヤした瞬間に不信仰

者となります。
他者が不信仰者となることを望む人は、不信仰を好んでいる為にそう望んでいるのであれば、不信仰者となります。
不信仰の原因となることを知りつつ、自らの意思によって不信仰の言葉を語る人は不信仰者となります。知らずに語った場合も、学者たちの多くによれば、やはり不信仰者となります。
不信仰の要因となる仕事を公に行う人ことは不信仰です。知らずに行ったとしても不信仰となる、とする学者も多いです。
腰に、ズナールと呼ばれる神父の帯を撒くこと、不信仰者に特有の何かを身に着けることは不信仰です。商人がダール・アル・ハラブ（戦争の世界＝異教徒が主権を持つ世界）で用いることは不信仰です。これらをユーモアとして、他者を笑わせる為、冗談を言う為に用いることも、不信仰の要因となります。
不信仰者の祝日に、その日に特有のものを彼らのように用いること、それらを不信仰者に贈ることは不信仰です。
知性を持ち、知識を備え、文学者であることを示す為に、もしくは周囲の人々を驚かす為、笑わせる為、喜ばせる為、あるいはからかう為に語った言葉について、判断による不信仰の恐れが持たれます。激怒、立腹、欲望によって語られた言葉も同様です。
陰口をたたいていた人が、私は陰口などたたいていない、彼が持つものについて語っただけだと言うことは不信仰です。
子供の頃に婚姻した少女が、思春期に達し知性を持った時に、信仰、イスラームについて知らず、質問された時に答えられないのであれば、夫と離婚し、本人は背教者となります。男性も同様です。
一人の信者を（正当な理由なく）殺害した人、もしくは殺害を命じた人に「よくやった」と言うことは不信仰です。
殺害がワージブではない人について、殺害されるべきであると語ることは不信仰です。
誰かを正当な理由なく殴る、もしくは殺害する迫害者に、「よくやった、彼はこんなことをされて当然だ」と言うことは不信仰です。
事実ではないのに、「アッラーはご存じだ、あなたを子供の時からとても愛していた」と言うことは不信仰です。

地位のあるムスリムがくしゃみをした時、彼に「ヤルハムハッラー」といったひとに、「目上の人にはそんなことはいってはいけない」と言うことは不信仰です。
務めであることを信じず、軽視し、礼拝を行わないこと、断食をしないこと、ザカートを支払わないことは不信仰です。
アッラーの慈悲に望みを絶つことは不信仰です。
それ自体はハラームではなく、後で生じた理由の為にハラームとなった財産やお金を「ハラーム　リ　ガイリヒ」と呼びます。盗まれた、あるいはハラームである手段で得られた財産がこれに当たります。これらがハラールであると言うことは不信仰です。死肉、豚肉、ワインなど、それ自体がハラームであるものを「ハラーム　リ　アイニヒ」と呼びます。これらがハラールであると言うことは不信仰です。
確実にハラームであると知られている全ての罪について、ハラールと呼ぶことは不信仰です。
アザーン、モスク、法学書など、イスラームが価値を置いているものを軽視することは不信仰です。
ウドゥーがないことを知っていながら礼拝を行うことは不信仰です。
知っているのに、キブラ以外の方向に向かって礼拝を行うことは不信仰です。礼拝をキブラに向かって行う必要はないと言う人は、不信仰者となります。
一人のムスリムをののしる為に不信仰者と言うことは、不信仰にはなりません。不信仰者となることを望んで言うのであれば、不信仰です。
罪であることを重要視せずに罪を犯すことは、不信仰です。
イバーダを行うことが必要であること、罪を避けることが必要であることを信じないことは不信仰です。
集められた税が統治者の財産となることを信じることは不信仰です。
不信仰者たちの宗教的儀式を気に入ること、必要に迫られていないのにズナール（神父の帯）を撒くこと、不信仰の象徴を用いること、この人々と親愛な関係になり握手することは不信仰です。
自ら認めて、「何々のものは、誰々が持っている、もしそこにな

ければ私は不信仰者にもユダヤ教徒にもなろう」と誓約したのであれば、そのものをその人が持っていてもいなくても、この人は自ら認めて不信仰に至ったことになります。
姦淫、同性愛、利子、嘘のような確実にハラームであるものについて「ハラールであればよかったのに、そうであれば私もしたのに」と望むことは不信仰です。
預言者たち（アッラーの祝福と平安がありますように）を信じているが、しかし預言者アーダムは預言者かどうかわからない、と言うことは不信仰です。
預言者ムハンマドが終末の時代の預言者であることを知らない人は、不信仰者となります。
誰かが、「預言者たちの語っていることが正しければ、私たちも救われていただろう」といえば、不信仰者となります。（この言葉を疑いのうちに語ったのであれば不信仰者となります。）
誰かに人々が「来なさい、礼拝をしなさい」といった時、その人が「私は礼拝しない」といえば、不信仰者となります。ただその意図が、「あなたの言葉によって礼拝を行うことはしない。アッラーの命令によって礼拝するのだ」というものであれば、不信仰者にはなりません。
誰かに、「ひげを一定以上に短くするな、あるいは一定以上の部分を切りなさい、爪をも切りなさい。預言者ムハンマドのスンナなのだから」と人々がいい、その人が「私は切らない」といえば、不信仰者となります。他のスンナも同様です。（あなたの言葉ではやらない、ただアッラーの使徒のスンナである為に行うのだ、と言うことは不信仰にはなりません。否定する意図で言えば不信仰となります。）
誰かが口髭を短くした時、そばにいる人が「無駄なことをした」といえば、それを言った人が不信仰者となることが懸念されます。（口ひげを短くすることはスンナです。スンナを軽視したことになります）
誰かが頭から足まで絹の衣装を着ていた時に、他の人がその様子を見て「素晴らしい」といえば、その人の不信仰が懸念されます。
誰かがキブラに対して足を伸ばして座ったり、あるいはキブラに

対してつばを吐いたり、キブラの方向に尿をしたりというマクルーフであることを行い、その人に「この行為はマクルーフだ、やってはいけない」と人々がたしなめた場合、彼が「全ての罪がこれくらいであれば大したことはない」と言ったなら、不信仰が懸念されます。つまり、マクルーフを重要ではないものと見なしたためです。
誰かの召使がドアから中に入り、その主人に「アッサラームアライクム」と言った時、その主人のそばにいた人が「黙れ、主人に挨拶を送るとは何てことだ」と言うなら、その人は不信仰者となります。しかしその意図が礼儀作法を教えることであり、挨拶は心で行うべきだ、と言うためものであれば、不信仰にはなりません。
信仰が増える、減ると言うことは不信仰です。しかし、成熟さやアッラーとの近しさによる、と言うのであれば不信仰にはなりません。
キブラは 2 つある、一つはカーバでもう一つはエルサレムである、と言うことは不信仰です。現在も 2 つである、と言うことは不信仰です。ただし、エルサレムの至高の館はキブラだった、その後カーバがキブラとなった、と言うのであれば不信仰にはなりません。
誰かがイスラーム学者を根拠もなく嫌っていれば、その人の不信仰が懸念されます。
誰かが食事をする際に話さないことはソロアスター教の良い　伝統からのものである、と言えば、あるいは月経中、産褥中の夫人と同衾しないことはゾロアスター教の良い　行いからのものであると言えば、不信仰者となるとされています。
誰かに「あなたは信者なのか」と尋ねたとき、相手が「インシャラー」と答え、それ以上の説明をしなければ不信仰者となります。
誰かが、子供を亡くした人に「アッラーにはあなたの息子が必要だったのだ」といえば、不信仰者となるとされています。
女性が腰に黒い糸を巻き、それが何であるか尋ねられた時に「ズナール（神父の帯）です」と答えるのであれば、不信仰者となります。

誰かがハラームであるものを食べる際に「ビスミッラー」といえば、不信仰者となります。これは、ハラーム・リ・アイニヒ、すなわち死肉やワインといったハラームについて適用されます。それ自体がハラームではない、ハラーム・リ・ガイリヒについてはこのようではありません。強要されたものを食べる際にビスミッラーと言うことは不信仰とはなりません。それ自体はハラームではなく、強要されたことがハラームなのです。
誰かが、不信仰を認めることは不信仰です。誰かを呪いながら、「アッラーがあなたの命を不信仰のうちに取られるように」といえば不信仰者となる、という点で学者たちは論争を行ってきました。不信仰を受け入れることは不信仰です。しかし迫害や罪の為に、「その罪が永遠で厳しいものとなるように」と認めることは不信仰にはなりません。
誰かが、「アッラーがご存じだが、私はこれこれをしていない」と言い、しかし実際にはそれをしたことを認識しているなら、不信仰者となります。それは、アッラーに無知という中傷を行ったことになります。
誰かが女性と証人なしで結婚し、その人や妻が「アッラーと預言者が我々の証人だ」といえば、2 人とも不信仰者となります。なぜなら預言者ムハンマドは生前に幽玄界のことをご存じではありませんでした。預言者が幽玄界のことをご存じだと言うことは不信仰です。（幽玄界はアッラーがご存じであり、アッラーが教えられた人のみがそれを知ることができます。）
「私は盗まれたもの、目に見えないものを知っている」と言えば、それを言った人も、聞いて信じた人も不信仰者となります。
「私にはジンが教えてくれる」と言えば、やはり不信仰者となります。預言者たちやジンですら、幽玄界のことは知りません。（幽玄界はアッラーがご存じであり、アッラーが教えられた人のみがそれを知ることができます。）
誰かがアッラーに誓うことを望んだ時、他の誰かが「私はあなたがアッラーに誓うことを望まない。離婚や名誉、誉れをかけて誓うことを求める」と言えば、不信仰者となると言われています。
誰かが、好まない人に対し「あなたの顔は私にとって命取りだ」といえば、不信仰者となります。なぜなら、命を取るのは偉大な

天使アズラーイールだからです。
誰かが、礼拝を行わないのは素敵なことだといえば、不信仰者となります。誰かが誰かに礼拝をしようと呼びかけ、その人が「礼拝をするのは私には難しい」と言えば、不信仰者となるといわれています。
誰かが「アッラーは天における私の証人だ」といえば、不信仰者となります。なぜなら、アッラーにどこかにいる、という中傷を行ったことにるためです。アッラーは、居場所が制限されることからかけ離れた存在です。
「父なるアッラー」と言う人は不信仰者となります。
誰かが「預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は食事の後、指を舐められた」と言った時、他の誰かが「それは不作法だ」といえば、不信仰者となります。
誰かが「預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は黒かった」といえば不信仰者となります。（黒い色をアラブ人、アラブ人とよぶことごきぶりを黒いファトゥマと呼ぶことが広くみられます。これらは避けられるべきです。）
「糧はアッラーが与えられる。しかししもべも行動すべきだ」といえば、この言葉はシルクにあたります。なぜならしもべの行動もアッラーによるものであるからです。
誰かが「キリスト教徒であることは、ユダヤ教徒であることよりも良い　。アメリカの不信仰者であることは、共産主義者であることよりも良い　」と言えば、不信仰者となります。ユダヤ教徒はキリスト教徒よりも、共産主義者はキリスト教徒よりもより災いであると言うべきなのです。
「不信心者であることは裏切り者であることよりも良い　」と言う人は、不信仰者となります。
「知識の評議会が何の役に立つのか」、もしくは「学者たちの言うことを誰が実行できるのか」、もしくはファトワーを無視して「学者の言葉が何の役に立つのか」と言えば、不信仰者となります。
誰かがイスラームに対する不信仰を言葉にし、それに誰かが笑ったのであれば、笑った人も不信仰者となります。笑うことが強制されていたなら、不信仰とはなりません。

誰かが「シャイフの魂はいつでもここにある、彼らは知っている」といえば、不信仰者となります。「ここにある」といえば、不信仰にはなりません。（ワリーの魂は、アッラーのようにどこにも存在されるというわけではありません。思い起こされた場所に存在します。思い起こされる前にはそこにはいないのです。）
「イスラームは知らない、望まない」といえば、不信仰者となります。
誰かが「預言者アーダムが麦を食べなければ、私たちは罪を犯す存在とはならなかった」と言えば、不信仰者となります。しかし、「預言者アーダムが木の実を食べなければ、私たちは世界に存在しなかった」と言うことが不信仰となるかどうかについては論議がなされています。
「預言者アーダムが布を織っていた」といった時、誰かが「それなら私たちは布屋の子孫だということだ」と言えば、不信仰者となります。
誰かが小さな罪を犯し、他の人が彼に悔悟するように言った時、その人が「私が何をしたというのか。なぜ悔悟をするのだ」と言えば、不信仰者となります。
誰かが他の人に「来なさい、イスラーム学者を訪ねよう」、もしくは「法学、イルミハルの本を読んで学ぼう」と言った時、その人が「そんなもの学んでどうするのだ」と言えば、不信仰者となります。なぜなら、これは知識を軽視することだからです。
クルアーンの解釈本、法学の本を侮辱する人、これらを好まない人、悪く言う人は不信仰者となります。
誰かに「あなたは誰の子孫なのか。どの民族なのか。信仰におけるあなたの派のイマームは誰か、行動におけるあなたの派のイマームは誰か」と聞かれた時、答えられないのであれば、不信仰者となります。
絶対的にハラームであるものをハラールであると言う人は、不信仰者となります。（タバコをハラームであると言うことは、危険です。）
全ての宗教でハラームであり、ハラールとされることが叡智にそぐわないような事柄について、ハラールであればよかったと願うことは不信仰です。姦通、同性愛、満腹しているのに更に食べる

こと、利子を受け取ること、払うことなどです。ワインがハラールであることを望むことは、不信仰ではありません。なぜなら全ての宗教でハラームではないからです。
崇高なるクルアーンを、会話の中で用いることは不信仰です。
ヤフヤーという名の人に、「ヤヒヤーよ、啓典をしっかりと守れ」（マルヤム章第 12 節から）といえば、不信仰者となります。クルアーンをからかったことになるのです。楽器、ゲーム、歌の間にクルアーンを読むことも同様です。
「今来た、ビスミッラー」と言うことは災いです。何かをたくさん見た時に「マーハラカッラー（アッラーが何と多くのものを創造されたのか）」と言った場合、意味を知らなければ不信仰者となります。
誰かが「今はあなたを責めない、人々は責めることを罪と呼ぶらしい」と言うことは、災いです。
誰かが「ジブラーイールの子牛のように真っ裸だ」と言うことは災いです。天使をからかうことになります。
「息子の頭」もしくは「私の頭」という言葉に誓いの意味を持たせれば、つまり「アッラーに誓って、息子の頭の為に」と言えば、不信仰となることが懸念されます。
クルアーン、マウリード、そして賛美の歌を、楽器を鳴らしながら歌うこと、演奏器具と共に読むことは不信仰です。
クルアーン、マウリード、賛美の歌、祝福祈願を、罪が行われる場で尊敬の意を持って唱えることはハラームです。楽しみ、娯楽の為に唱えることは不信仰です。
スンナに従って唱えられるムハンマドのアザーンを聞かず、大切にしないのであれば、すぐに不信仰者となります。
クルアーンに自分の頭で意味付けをする人は不信仰者となります。
クルアーンやハディースで明白に告げられ、法解釈の見解を出すイマームたちが意見を一致させて教えている事柄、そしてムスリムの間でも広く知られている信仰上の知識に適った形で信仰しない人は、不信仰者となります。不信仰のこの種の形を「イルハド」、信じる人を「ムルヒド」と呼びます。
不信仰者に敬意を持って挨拶をする人は、不信仰者となります。

不信仰者に敬意を表す言葉を語ること、例えば「わが師よ」と言うことは不信仰です。
他者の不信仰を喜ぶ人は不信仰者となります。
クルアーンが録音されたテープやレコードは、クルアーンの崇高な正本と同様に尊いものです。これらに不遜な態度を取ることは不信仰です。
ジンと交わっている占い師や占星術師、まじない師を訪ね、彼らが語ることや行っていることを信じることは、不信仰です。時には当たったとしても、アッラー以外の他の誰かが全てを知り、望むことを何でも行うと信じる行為であるためです。（科学の知識を信じることはこの通りではありません。）
スンナを軽視することや、大切にせず放棄することは不信仰です。
ズナールと呼ばれる神父の帯を巻くこと、偶像、すなわち十字架、クロスと呼ばれるまっすぐに切られた 2 つの棒、像、そしてそれらの絵を崇拝すること、崇めること、イスラームの徳を教える宗教書のどれかを侮辱すること、イスラーム学者の誰かを侮辱すること、からかうこと、不信仰の要因となる言葉を語ること、書くことは不信仰です。また、崇めることが命じられている何かを侮辱し、侮辱することが命じられている何かを崇めることもまた不信仰です。
「まじない師はまじないによって望むことを当然行う、まじないには必ず効果がある」と言い、信じる人は不信仰者となります。
ムスリムが、自らを不信心者と呼ぶ人に対し、「はい」といったような承認を示す返事をすれば、彼も不信仰者となります。
ハラームであることが知られている一定の財産で、モスクを造らせること、サダカを支払うこと、その他の慈善を行わせること、これに対してサワーブを期待することは、不信仰です。
誰かに絶対にハラームである財産からサダカを与えてサワーブを期待すること、受け取った貧者がハラームのお金であることを知っていながら「アッラーが慶んでくださいますように」と言うことで、与えた人も、「アーミーン」といった人がいればその人も、皆が不信仰者となります。
結婚がハラームである女性と結婚することについて、それをハラ

ールと言う人は、不信仰者となります。
酒場、遊技場、罪が犯されている場において、ラジオやスピーカーでクルアーンやマウリードを聞いて楽しむことは不信仰です。
クルアーンを、楽器を演奏しながら読むことは不信仰です。
ラジオやスピーカーで読まれているクルアーンに対して失礼な態度をとることは不信仰です。
アッラー以外のどのような存在に対しても、どのような目的があったとしても、「創造者」と言うことは不信仰です。
「アブドゥルカディル」と言う代わりに、「アブドゥルコイドゥル」と言うことは、もし意図的であれば不信仰です。「アブドゥルアジズ」と言う代わりに「アブドゥルゼイズ」、「ムハンマド」と言う代わりに「メモ」、「ハサン」と言う代わりに「ハッソ」、「イブラーヒーム」と言う代わりに「イボ」と言うことも同様です。これらの名前を靴やサンダルに書く人、それを踏む人の信仰が失われることが懸念されます。
ウドゥーがないことを認識しながら礼拝を行うこと、スンナである何かの事柄を好まないことは不信仰です。スンナに重きを置かないことは不信仰です。
無知な人々がワリーを創造主と思い込むことを懸念して、その墓を破壊する、という言葉は不信仰です。
他者、特に自分の子供が不信仰者となる要因となった人は、不信仰者となります。
姦通、同性愛が認められると言うことは、不信仰です。
クルアーンの言葉や、ハディース、そして意見の一致によって宣告されているハラームに重きを置かないことは、不信仰です。
大きな罪を繰り返すこと、頑なに繰り返すことは不信仰に引きずり込まれる要因となります。礼拝に重きを置かないことは不信仰です。
文章、文字が書かれた紙、覆い、礼拝用の絨毯を床に敷くこと（侮辱の為に敷くこと、利用すること）は不信仰です。
アブー・バクル・スッドゥークとウマル・ウル・ファールーク（アッラーがお慶びくださいますように）にカリフになる権利はなかった、と言うことは不信仰です。
アッラーとは別に、死者から何かを求めることは不信仰です。

「テズヴェレン・デデ」（その人に願えば子供が授かるとされる）というようなことはとても醜いものであり、不信仰の要因となります。
死者を土に埋めることはファルドであり、このファルドに重きをおかずにその奉仕から逃げる人、知識や科学を主張して「死者を埋めることは時代遅れだ、偶像崇拝者や共産主義者、不信仰者のように死者を焼くことがより良い　」と言う人の信仰は失われ、ムルタドとなります。
アッラーの友であるワリーたちのうち、亡くなった、もしくは生きている誰かについて、言葉もしくは心で否定することは不信仰です。
ワリーたちや知識人、税の徴収係である人々への敵対は不信仰です。
「ワリーたちに一切の罪がないという特性がある」と言うことは不信仰です。一切の罪がないという特性はただ預言者たちにのみあります。
知識から何も得ることがない人は、信仰がない状態で去ることが懸念されます。そこから何かを得る為の最低限のことは、この知識を信じることです。
クルアーンを、イスラーム学者たちの誰もが読んだことのない形で読むことは、その意味や言葉を壊さなかったとしても、不信仰です。
神父たちのイバーダに特有のものを用いることは不信仰です。
何らかの出来事が勝手に生じたものであると信じること、そして動物が、単細胞から高等なものへと進化し、ついに人間となったと言うことは不信仰です。
礼拝をわざと行わず、カダーを行うことも考えない、その為に罰を受けることを恐れない人は、ハナフィー派でも不信仰者となります。
不信仰者のイバーダをイバーダとして行うこと、例えば、教会で鳴らしているオルガン等の楽器や鐘をモスクで鳴らすこと、イスラームが不信仰のしるしと見なしていることを、必要に迫られたり強制されたりしていないのに用いることは不信仰です。
教友を嫌う人はムルヒドと呼ばれます。ムルヒドは不信仰者とな

ります。
不信仰者の絵画を高いところに飾り、崇めることは不信仰です。
絵画や像、モデル、十字架、あるいは星、太陽、牛といったものに神性があることを信じること、例えば望むものを創造し、望むことを行い、病人を癒す、として崇めることは不信仰です。
アーイシャが不貞であるといい、その父が教友であることを信じない人は不信仰者となります。
預言者イーサーが天から下りてくることが、必ず起こることとして知られています。これを信じない人は不信仰者となります。
クルアーンで、そしてハディースで、天国が吉報として伝えられた人について、不信仰者であると言うことは不信仰です。
科学の経験の範疇に含まれない、科学とかかわりのないクルアーンの章句を、科学の知識に結び付けようとすること、サハーバやその次とその次の世代の人々の解釈を変えることは大きな罪となります。このような解釈や翻訳を行う人は不信仰者となります。
ムスリムである少女が、思春期に達した時にイスラームについて何も知らなければ、不信仰者となります。男性も同様です。
ムスリム女性が頭、腕、足を露出した状態で外に出ること、男性がそれを見ることはハラームであり、罪です。これに重きを置かず、気に留めないのであれば、信仰は失われ、不信仰者となります。
預言者ムハンマドが教えられたファルドとハラームも、クルアーンで明白に告げられているファルドやハラームと同様に尊いものです。これらを信じない人、認めない人はイスラームから離れ、不信仰者となります。
ルクウのタスビーフで「ズ」の音で「アズィーム」と言うこと。アッラーは偉大であるという意味です。もし「ザ」の音でアズィームといえば、「アッラーは私の敵である」という意味になり、礼拝は無効となります。意味が変わってしまう為、不信仰の要因ともなります。
クルアーンに節をつけて読むハーフィズに、何と美しく読んだのでしょうと言う人の信仰は消え、不信仰者となります。4 つの学派とも、ハラームであるものを美しいと言う人は不信仰者となると見なしています。ただ、声、音色、クルアーンを読むこと自体

が素晴らしいということを意図していった人は、不信仰にはなりません。
天使やジンの存在を信じない人は、不信仰にはなりません。
クルアーンの章句では、それぞれの言葉には明白でよく知られる意味が与えられます。この意味を変化させ、バーティン派（イスマーイール派）に従う人は不信仰者となります。
魔術を行う際、不信仰の要因となる言葉や行いがあれば、不信仰です。
ムスリムに「不信仰者よ」と言う人、あるいはムスリムにフリーメーソンと言う人、共産主義者と言う人は、彼を不信仰者であると信じるのであれば、発言者自身が不信仰者となります。
イバーダを行う人が、信仰が損なわれたことに不安を抱き、「私には罪が多い、イバーダは私を救わない」と考えれば、その信仰は強いと言えます。信仰が続くかどうかを疑う人は不信仰者となります。
預言者たちの数を明言することは、預言者でない人を預言者であると言うこと、あるいは預言者を預言者と認めないこととなり得ます。これは不信仰です。なぜなら、預言者たちのうち一人でも認めないことは、誰一人として認めないことを意味するのです。

　男性もしくは女性のムスリムは、学者たちが意見を一致させて不信仰の要因となり得ると告げている一つの言葉、もしくは行いが、不信仰の要因となることを認識し、自発的に（脅迫を受けることなく、自らの希望で)、真剣に、もしくは冗談で、笑わせる為に語ったり行ったりすれば、その意味を考えてはいなかったとしても信仰が失われてムルタドとなります。これは「頑迷な不信仰」といわれます。頑迷な不信仰によってムルタドとなる人は、以前のイバーダのサワーブが失われます。悔悟をしても取り戻すことはできません。裕福であれば再び巡礼に行くことが必要となります。ムルタドである時に行った礼拝、断食、ザカートのカダーは行いません。棄教以前にできなかったものについてカダーをします。悔悟をする為には、カリマ・シャハーダを唱えるだけでは十分ではありません。不信仰の要因となったそのものについても悔悟を行うことが必要です。（イスラームから、どの扉を通っ

て出たのであれ、そこから入ることが必要です。）もし不信仰の要因となることを知らずに語ったり、行ったりしたのであれば、あるいは不信仰の要因となるかどうか学者たちの間で意見が統一されていない言葉を意図的に語ったのであれば、信仰が失われ、婚姻が無効となるかどうかは疑問です。用心として、信仰を新たにし、婚姻を行うことが良い　　とされます。知らずに語ることを、「無知による不信仰」と言います。知らないことは正当な理由ではなく、大きな罪です。なぜなら全てのムスリムにとって、知っておくべきことを学ぶのはファルドであるからです。不信仰の要因となる言葉を、誤って、間違って、あるいは言葉に複数の意味があることから口に出したこととなってしまった人の信仰や婚姻は、無効となりません。ただ悔悟と懺悔、すなわち信仰を新たにすることは良い　　とされます。

不信心者は、カリマ・タウヒードを唱えることで信者となるように、信者も、一つの言葉を口にすることで不信仰者となるのです。

一人のムスリムのある言葉、あるいはある行いに 100 の意味がある場合、つまり 100 通りの見解ができる場合、そのうちの 1 つがその人が信仰を持つことを示し、残りの 99 が不信仰者であることを示しているなら、この人はムスリムであると見なされるべきです。つまり不信仰を示す 99 の意味は目にせず、信仰を示す 1 つの意味を見るのです。この言葉を誤解してはいけません。この為には 2 つの点に注意すべきです。一つ目は、この言葉、行いの主がムスリムであることです。一人のフランス人がクルアーンを褒め、イギリス人がアッラーは唯一であるといったとしても、彼らがムスリムであると言うことはできません。二つ目として、一つの言葉もしくは行いに 100 の意味があった場合、と言われたことです。逆に、100 の言葉もしくは 100 の行いのうち、1 つが信仰を示し、99 が不信仰を示しているのであれば、この人をムスリムと呼ぶことができるとは言われていないのです。

全てのムスリムは朝晩、この信仰の為のドゥアーを唱えるべきです。

「アッラーフンマ　インニー　アウズビカ　ミン　アン　ウシュリカ　ビカ　サイアン　ワ　アナー　アラム　ワ　アスタグフィルーカ　リマー　ラー　アラム　インナカ　アンタ　アッラームル　グユーブ」
「アッラーフンマ　インニー　ユリードゥー　アン　ウジャッディダル　イーマーナ　ワンニカーハ　タジュディーダン　ビ　カウリ　ラー　イラーハ　イッラッラー　ムハンマドゥン　ラスルーラー」
とドゥアーし、悔悟し、信仰を新たにし、婚姻を行います。

信仰が私たちにおいて維持され、失われない為に：
目に見えないことを信じること
目に見えないことを、ただアッラーが、そしてアッラーが教えられた人々がご存じであることを信じること
ハラームをハラームと認識し、信じること
ハラールをハラールと認識し、信じること
アッラーの罰に対して自分は大丈夫と思わず、常に恐れていること
アッラーに希望を絶たずにいること

　ムルタドとなる事柄を否定することも、悔悟です。ムルタドが悔悟を行わずに死ねば、地獄の炎で永遠に罰を受けます。この為、不信仰を強く恐れ、話し過ぎないようにするべきです。ハディースでは、「いつでも意義のある、効果のあることを話なさい。あるいは黙っていなさい」とされています。真剣であるべきであり、冗談をいったりふざけ過ぎたりしてはいけないのです。理性や人間性にふさわしくないことを行ってはいけません。自分自身を不信仰から守るべく、アッラーに多くドゥアーを行わなければなりません。

現在信仰があっても、将来的に信仰が失われる要因となる事柄：
ビドゥアを行うこと。つまり壊れた信条を持つこと。(スンナの学者たちが教えている信仰からわずかであれ離れた人は、逸脱者もしくは不信仰者となります)
行動を伴わない信仰。

体の９つの器官を正しい道から逸脱させること。
大きな罪を犯し続けること。
イスラームの恵みへの感謝をやめること。
来世に、信仰のない状態で行くことを恐れないこと。
迫害を行うこと。
スンナに従って唱えられるムハンマドのアザーンを聞かないこと。
母や父に反抗的であること。
正しかったとしても、誓いを多く行い過ぎること。
礼拝で、礼拝の構成要素となるものを正しく行うことを放棄すること。
礼拝を重要ではないと思い、学ぶことや子供に教えることを重要視せず、礼拝を行う人の妨げとなること。
アルコール飲料を摂取すること。
ムスリムを苦しめること。
ワリーであると偽り、イスラームの知識を売ること。
罪を忘れること、軽視すること。
うぬぼれること、つまり思い上がること。
自慢、すなわち私の知識や宗教的な行いは多いと言うこと。
偽信者であること、偽善者であること。
妬むこと、イスラームの兄弟について嫉妬すること。
政府、指導者の、イスラームに反するものではない指示に従わないこと。
誰かについて、経験を通さずに「良い」　と言うこと。
嘘を頑固に主張し続けること。
ウラマー（知識人たち）から逃げること。
口髭を、スンナの量以上に伸ばすこと。
男性が絹の衣装を身に着けること。
陰口をしつこく行うこと。
不信仰者であったとしても、隣人を苦しめること。
世俗的な事柄の為に激怒すること、いらいらすること。
利子を受け取ること、支払うこと。
褒められようと服の腕や裾を過度に長くすること。
魔術や魔法を行うこと。

ムスリムであり、誠実であるマフラムの親戚（結婚することが永遠に禁じられる男女の親戚）の訪問を放棄すること。
アッラーが愛される人を愛さないこと、イスラームを損なおうとする人を愛すること。（アッラー故に愛すること、アッラーゆえに憎むことは信仰の条件です。）
信者の兄弟を3日以上憎み続けること。
姦淫を続けること。
同性愛を行い、悔悟をしないこと。
アザーンを、法学の本が教えている時間に、スンナに従って唱えないこと、スンナに従って唱えられているアザーンを聞いた時に敬意を持って聞かないこと。
禁じられていることを行っている人を見て、それができる力があるにもかかわらず、穏やかな言葉でそれをやめさせないこと。
妻、娘、そして忠告を行う権利を持っている女性たちが、頭や腕、足を露出させ、飾り立て、芳香をつけて外に出ること、悪い人たちと会うことを認めること。

多くの大罪（72の大罪は以下の通りです）
正当な理由なく人を殺すこと。
姦通を行うこと。
同性愛を行うこと。
ワインや、アルコールを含んだ飲み物を飲むこと。（ビールを飲むことはハラームです。）
窃盗を行うこと。
快楽の為に覚せい剤を摂取すること。
他者の財産を無理やり奪うこと。
偽りの証言を行うこと。
ラマダーン月の断食を、正当な理由なく、ムスリムの前で放棄すること。
利子を受け取ること、支払うこと。
誓いを多く行いすぎること。
母や父に反抗的であること、対立すること。
マフラムであり、善良な親戚への訪問を放棄すること。
戦いにおいて、戦うことを放棄して敵前逃亡すること。

不正に、孤児の財産を着服すること。
秤、重りを正しく用いること。
礼拝を、時間よりも前、もしくは後に行うこと。
ムスリムの兄弟の心を傷つけること。（カーバを倒すことよりもより大きな罪となります。アッラーを最も傷つける不信仰の他には、心を傷つけることほどの大罪はありません）
預言者ムハンマド（彼の上にアッラーの祝福と平安がありますように）が語られた言葉を語ること、それを預言者ムハンマドが語ったとして中傷すること。
わいろを受け取ること。
正しい証言から逃げること。
財産のザカートとウシュルを支払わないこと。
十分な力を持つ人が、罪を犯している人を見て、それをやめさせようとしないこと。
生きた動物を火で焼くこと。
崇高なるクルアーンを学んだ後、読み方を忘れること。
至高なるアッラーの慈悲から、望みを絶つこと。
ムスリムであろうと、不信仰者であろうと、人々を裏切ること。
豚肉を食べること。
預言者ムハンマドの教友たちの誰か一人でも愛さないこと、嫌うこと。
満腹であるのに食べ続けること。
妻が、夫の寝床から逃げること。
妻が、夫の許可なく訪問に出かけること。
純潔を守っている女性に売春婦と言うこと。
ムスリムの間で、人の陰口を他の人に言いつけること。
秘められるべき場所（アウラ）を他人に見せること。（男性は臍と膝の間、女性は髪や腕や足がアウラです）他者のアウラを見ることもハラームです。
死肉を食べること、他者に食べさせること。
信託を裏切ること。
ムスリムの陰口を言うこと。
妬むこと。
至高なるアッラーに何ものかを配すること。

嘘をつくこと。
うぬぼれること、自分を過大評価すること。
死の床にある病人の遺産相続人から財産を盗むこと。
非常にけちであること。
現世を深く愛すること。
アッラーの懲罰を恐れないこと。
ハラームであるものをハラームと信じないこと。
ハラールであるものをハラールと信じないこと。
占い師の占いや、占い師が幽玄界から知らせをもたらしていると信じること。
棄教すること、ムルタドとなること。
正当な理由なく、他人の女性や娘を見ること。
女性が男性の服を着ること。
男性が女性の服を着ること。
カーバ神殿で罪を犯すこと。
時間になっていないのにアザーンを唱えること、礼拝を行うこと。
政治家の命令や法律に逆らうこと、反抗すること。
他者の秘められた場所を母の秘められた場所に似せること。
他者の母を侮辱すること。
互いに狙いをつけること。
犬の食べ残しを食べること、飲むこと。
施した善について恩着せがましい態度を取ること。
絹の衣装を身に着けること。(男性)
無知であることに固執すること。(スンナの信条、ファルド、ハラーム、そして必要な知識を学ばないこと)
アッラー、そしてイスラームが教えている名前以外を口にして誓約を行うこと。
知識から逃げること。
無知であることは災いであると理解しないこと。
小さな罪を繰り返すことに固執すること。
必要がないのに、高笑いをすること。
礼拝の時間が過ぎるだけの時間、ジュヌーブ（大汚）の状態で出歩くこと。

月経もしくは産褥中の妻に近づくこと。
歌を歌うこと、不道徳な歌を歌うこと、楽器、演奏装置を使うこと。
自殺すること。

ムトアの婚姻（一時的で、対価を払っての婚姻）やムワッカートゥの婚姻（期間限定の婚姻）はハラームです。女性や少女たちは頭、髪、腕、足を露出させて外に出ることがハラームであると同様、薄く、飾り立てた、体を締め付けている、もしくは良い香りをつけた服を着て外に出ることもハラームです。

アウラの場所を体にぴったりする服で覆っている女性を見ることは、性欲を伴わなくともハラームです。他人の女性の下着を、性欲を伴って見ることはハラームです。きつく体にぴったりした服で覆われた体を、性欲を伴って見ることはハラームです。性欲やハラームの要因となるような絵をかくこと、印刷すること、描くことはハラームです。（ハラームであるものに、「どうなるというのか」と言うことは不信仰です。）

ウドゥーやグスルに必要以上の水を用いることは浪費であり、ハラームです。

過去のワリーについて悪口を言うこと、彼らについて無知であると言うこと、彼らの言葉からイスラームの徳にふさわしくない意味を取り出そうとすること、死後も奇蹟を起こしていたことを信じないこと、死ぬことでワリー（聖人）ではなくなると考えること、彼らの墓によって恵みを得る人々を妨害することは、ムスリムに対し邪推すること、迫害すること、財産を無理やり奪うこと、妬み、中傷、嘘をつくこと、陰口を言うことと同様にハラームです。

信仰を失ったまま死ぬことの要因となる10の事柄：
アッラーのご命令と禁止されたことを学ばないこと。
その信仰を、スンナに従う人々の信条に適う形でたださないこと。
現世の財産、地位、名誉に執着すること。
人々、動物、自分自身を迫害し、苦しめること。

アッラーに、そして良い　ものがもたらされる要因となる存在に感謝しないこと。
信仰を失うことを恐れないこと。
日に5回の礼拝を時間通りに行わないこと。
利子を受け取ること、支払うこと。
イスラームに従っているムスリムを軽視すること。彼らに、後進的であるといったようなことを言うこと。
売買春に関わる言葉、文章、絵を、話すこと、書くこと、描くこと。

スンナの道に従う人々の信条を持っている為に、下記の点に注意すべきです
アッラーには固有の特性があります。これはザートの特質（アッラーに帰される特質）とは異なります。
信仰は増えることはなく、また減ることもありません。
大きな罪を犯すことで信仰は失われません。
幽玄界を信じることは原則です。
信仰に関する項目では類推は行われません。
アッラーは天国でその姿を示されます。
タワックル（まず努力をし、結果をアッラーに委ねること、信頼すること）は信仰の条件です。
行為（イバーダ）は信仰の一部ではありません。
運命を信じることは、信仰の条件です。
行動において、4つの学派のどれかに従うことは条件です。
教友たち、そして預言者ムハンマドの家族、そして妻たちの全てを愛することが条件です。
4大カリフの崇高さは、カリフとなった順序どおりです。
礼拝、断食、サダカといったナーフィラのイバーダのサワーブを他者に贈ることは、認められています。
ミーラージュ　は、魂と肉体によって行われたものです。
ワリー（聖人）たちの奇蹟は真実です。
とりなしは真実です。
メストの上からマスフと行うことは認められています。
墓場では尋問が行われます。

墓場での罰は魂と肉体に与えられます。
人間と、その行いをもアッラーが創造されます。人にはわずかな選択を行う意志があるのです。
糧には、ハラールのものも、ハラームのものもあります。
ワリー（聖人）の魂を媒介とし、彼らに鑑みる、という形でドゥアーを行います。

ムアッズィンが声を張り上げ、それからイカーマを行った
その顔はカーバに向けられ、そしてニーヤを行った
信仰を持つ人々がそれを耳にし、敬意のうちに聞いていた
それから礼拝に立ち、アッラーにしもべとして仕えた

悪い性質
不信仰。
無知。
非難されるという恐れ。（人々が非難したり、けなしたり、責めたりすることを悲しんで、真実を受け入れないこと）
称賛を愛すること。（うぬぼれ、人に褒められることを好むこと）
損なわれた信仰。（ビドゥアの信仰）
ナフスに従うこと。（自我の欲望、快楽、性欲に従うこと）
模倣による信仰。（よく知らない人々を模倣すること）
偽善。（見せかけ、来世的な行為を行うことで現世での欲望をかなえようとすること）
長生きへの願望。（快楽や心地よさが続くよう、長く生きたいと望むこと）
現世での快楽をハラームである手段で得ようとすること。
うぬぼれ。自らを優れていると見なすこと。
へりくだり。（過剰な謙虚さ）
自らの行った良い　こと、イバーダに満足していること。
妬み。焼きもちを焼くこと、嫉妬すること。恵みが相手から失われることを望むこと。アブルライシー・サマルカンディーは、「3種類の人のドゥアーは認められない。ハラームであるものを食べ

る人、陰口を行う人、妬む人」と語っています。
他者を低く見ること。
他者の身に生じた災い、被害を喜ぶこと。
友情を放棄すること、腹を立てること。
臆病であること、勇気がないこと。
怒りや厳しさが過剰であり、有害であること。
誓約や約束を守らないこと。
背信。偽信者のしるしであり、信頼を損なう言葉や行い。
約束を破ること。ハディースでは、「偽信者のしるしは 3 つある。嘘をつくこと、約束を守らないこと、信託を裏切ること」とされています。
邪推。邪推はハラームです。罪が許されないと思うことは、アッラーに対する邪推となります。信者についてハラームを犯している、つまり罪を犯す人であると見なすことは邪推となります。
財産への執着。財産に夢中になること。
後回しにすること。善行を施すことを後回しにすること。ハディースでは、「5 つのものが訪れる前に 5 つのものの価値を知りなさい。死ぬ前に命の価値を、病気になる前に健康の価値を、現世で、来世を獲得することの価値を、年を取る前に若さの価値を、貧しくなる前に豊かさの価値を」とされています。
罪を犯している人々を愛すること。罪の最大のものは、迫害です。ハラームであることを行っている人を、ファースク（罪を犯している人）と言います。
学者たちを敵視すること。イスラームの知識と学者たちを侮辱することは不信仰です。
フィトナ（人々を苦難や災いに陥れることです。ハディースでは、「フィトナは眠っている、それを起こす人々に呪いを」とされています）
それができる力があるのに、ハラームを犯している人を止めようとしないこと。現世の為に教えを差し出すこと（ムダーハナ）。教えの為に現世を差し出すことはムダーラと言います。
意地を張ること、自分の過ちや相手の正しさを認めないこと。真実、事実を聞いた時に認めないこと。
二面性。信者のように見せかけつつ、実際は信仰を持っていない

こと。内面と外面の不一致。
熟考しないこと。罪について、被造物について、そして自らについて考えないこと。
ムスリムへの呪い。
ムスリムに悪いあだ名をつけること。
差し障りを認めないこと。
クルアーンを誤って解釈すること。
ハラームであることを行うことに固執すること。
陰口。
悔悟をしないこと。
財産や地位への欲望。

悪い性質を避け、良い　性質を備えるよう努力するべきです。ハディースでは、次のように仰せられています。
「イバーダが少ないしもべは、良い　性質によって審判の日に高い位階を得る」
「イバーダの中で最も容易であり、最も効果的なものは、少ししか話さないことと、良い　性質を持つことである」
「自分から遠ざかった人に近づくこと、迫害する人を許すこと、彼自身を苦しめた人に慈悲を施すことは、良い　性質を持つことである」とされています。

第９部
礼拝の為の章とドゥアー

クルアーンの章句やドゥアーはローマ字で書くことができるか

私たちはクルアーンの章句やドゥアーをローマ字で表記しようとしましたが、それはできることではありませんでした。ローマ字にどのような印をつけたとしても、章句やドゥアーを正しく読むことは不可能です。これらをクルアーンのアラビア文字のように読む為には、知っている人が読ませ、何度も繰り返し慣れさせることが必要です。この習得は必ず必要となる為、知っている人に直接クルアーンの文字を紹介し、教える可能性と恵みを獲得させます。この恵みの大きさ、現世と来世での効用というものについて、ハディースや法学書では詳しく説いており、そのサワーブの多さを教えています。

従って全てのムスリムは、その子供をモスクやクルアーン教室に通わせ、クルアーンの文字とその読み方を十分に教え、この大きなサワーブを獲得させる努力をするべきなのです。あるハディースでは、「子供たちにクルアーンを教える人、あるいはクルアーンの先生に通わせる人には、教えられた全ての文字について、10回カーバを訪問しただけのサワーブが与えられる。そして審判の日に、その頭に王冠が与えられる。全ての人はそれを見て羨むだろう」とされています。他のハディースでは、「子供たちにイスラームを教えない人は地獄に行く」とされています。

礼拝の為の章の意味

ファーティハ章（開端章）

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。
万有の主、アッラーにこそ凡ての称讃あれ、
慈悲あまねく慈愛深き御方、
最後の審きの日の主宰者に。
わたしたちはあなたにのみ崇め仕え、あなたにのみ御助けを請い願う。
わたしたちを正しい道に導きたまえ、

あなたが御恵みを下された人々の道に、あなたの怒りを受けし者、また踏み迷える人々の道ではなく。

象章

あなたの主が、象の仲間に、どう対処なされたか、知らなかったのか。
かれは、かれらの計略を壊滅させられたではないか。
かれらの上に群れなす数多の鳥を遣わされ、
焼き土の礫を投げ付けさせて、
食い荒らされた藁屑のようになされた。

象の事件

エチオピア皇帝のナジャーシーには、イエメン総督であったアブラハという名の部下がいました。アブラハは、人々がマッカのカーバを訪問することを断念させる為、サナアの町に、飾り立てられた巨大な教会を造らせました。しかしその目的はかなわず、カーバを訪問する人々はその教会には訪れませんでした。さらにフカイン族のヌファイルという名の若者が、夜、こっそり持ってきた汚物で、教会のあらゆる場所を汚しました。これを理由として、アブラハは大軍を用意してマッカへと進み始めました。軍の前には、ナジャーシーの連れてきた一頭の大きな象がいました。象を軍の前で歩かせることで、軍が勝利すると考えられていたのです。

このようにして軍はマッカへと進みました。町に入ろうとした時、象はある場所に倒れ込み、どうしても動こうとしませんでした。あらゆる努力に関わらず、象をマッカの方へ進ませることはできませんでした。他の方角へは走って進むのでした。まさにその時に、アッラーはアバービルといわれる鳥たちを送られました。鳥たちは、口や足で石を運び、それをアブラハの軍の上に落としました。象章で描かれているように、軍は「食い荒らされた藁屑のように」なったのでした。

この出来事が起こった年を、アラブ人たちは「象の年」と呼んでいました。この出来事から 50－55 日後に、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）がお生まれになり、

この世界に誉れを与えられたのです。

クライシュ族章
クライシュ族の保護のため、
冬と夏のかれらの隊商の保護のため[13]、(そのアッラーの御恵みのために)
かれらに、この聖殿の主に仕えさせよ。
飢えに際しては、かれらに食物を与え、また恐れに際しては、それを除いて心を安らかにして下さる御方に。

慈善章
あなたは、審判を嘘であるとする者を見たか。
かれは、孤児[14]に手荒くする者であり、
また貧者に食物を与えることを勧めない者[15]である。
災いなるかな、礼拝する者でありながら、
自分の礼拝を忽せにする者。
(人に)見られるための礼拝をし、
慈善[16]を断わる者に。

潤沢章
本当にわれは、あなた(ムハンマド)に潤沢[17]を授けた。
さあ、あなたの主に礼拝し、犠牲を捧げなさい。
本当にあなたを憎悪する者こそ、(将来の希望を)断たれるであろう。

解説:

13 全ての被造物がそのお方に戻り、庇護を求める唯一の存在です。またこの言葉は唯一という特性を示すものです。
14 伝承の一つによると、アブー・ジャフルの遺産相続人である奴隷。
15 アブージャフル。
16 「マーウン」とは、ザカート、サダカといった意味にもなるのと同様、人が他の人から借りたものをも意味します。
17 イスラーム学者たちによる。

この神聖な章は、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）が受けられた恵みと、そのお方の 2 つの神聖な使命を示すものです。この章での「潤沢」（カウサル）という語についてイスラーム学者たちは様々な意味を与えています。学者った冑の多くの見解によれば、
天国の川、もしくは貯水池であり、その水は蜜よりも甘く、乳よりも白く、雪よりもなお冷たいとされます。
崇高なるクルアーンとされます。これは現世的、来世的な尊さを集約した書物です。
預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）が与えられた、預言者としての誉れです。
天と地で預言者ムハンマドの為に行われる多くのズィクルと称賛です。
預言者ムハンマドの子供たちと彼に従う人々です。
預言者ムハンマドの教友たちとそのウンマの学者たちです。
　預言者ムハンマドの息子カースムが亡くなった時、アース・ビン・ワリーは「もはやムハンマドの血筋は絶たれた。彼を思い出させる息子は残っていない」と言いました。他の偽信者たちもこれを口に出していました。彼らは、ムスリムに困難な状況や苦痛が生じるとそれを喜び、気分良くなっていました。この荘厳な章がこの不信仰者たちの逸脱した考えを拒んだのでした。非常に短い章であるにもかかわらず、非常に多くの真実を示しています。

不信心者たち章

言ってやるがいい[18]。「おお不信者たちよ、
わたしは、あなたがたが崇めるものを崇めない。
あなたがたは、わたしが崇めるものを、崇める者たちではない。
わたしは、あなたがたが崇めてきたものの、崇拝者ではない。

18 マッカの偽信者アブー・ジャフル、アス・ビン・ワリー、アスヴァド・ビン・アブドゥルウッタリブ、ワリド、ウマイヤ・ビン・ハラフやその他の人々は、アッバースを通して預言者ムハンマドに知らせを送り、次のような提案を行いました。「一年間は彼が私たちの神を崇拝するように。また一年は私たちが彼のアッラーを崇拝しよう。」これに対してこの章が啓示されました。

あなたがたは、わたしが崇めてきたものの、崇拝者ではない。
あなたがたには、あなたがたの宗教があり、わたしには、わたしの宗教があるのである。」

援助章
アッラーの援助と勝利が来て、
人びとが群れをなしてアッラーの教え（イスラーム）に入るのを見たら、
あなたの主の栄光を誉め称え、また御赦しを請え。本当にかれは、度々赦される御方である[19]。

棕櫚章
アブー・ラハブの両手は滅び、かれも滅びてしまえ。
かれの富も儲けた金も、かれのために役立ちはしない。
やがてかれは、燃え盛る炎の業火の中で焼かれよう。
かれの妻はその薪を運ぶ、
首に棕櫚の荒縄かけて。

解説：この荘厳な章は、預言者ムハンマドを迫害し、苦しめたアブー・ラハブとその妻が滅びること、厳しい罰を受けることを伝えるものです。預言者ムハンマドは、「あなたの親戚に恐れを抱かせなさい」という神の命令を受け、サファーの丘に登り、近親者を呼び、彼らをイスラームへの教えへと導かれました。アブー・ラハブはここで預言者ムハンマドに語られたことに異議を唱え、彼を侮辱してその場を離れ、またそこにいる人々を妨害しました。アブー・ラハブの妻も、預言者ムハンマドが歩かれる道に、夜、とげのある木や草を運んではそこに巻いていました。さらに預言者ムハンマドの背後で中傷を行っていました。

[19] この章には預言者ムハンマドの死へのしるしがあります。この章を預言者ムハンマドが読まれた時、アッバースは泣いていました。アッラーの使徒がなぜ泣いているのかを訊ねると、アッバースは「この章にはあなたの死へのしるしがあります」と言いました。預言者ムハンマドは、「あなたのいう通りだ」と言われました。

アブー・ラハブは、ヒジュラ歴 2 年、バドゥルの戦いでイスラーム軍が勝利したことに耐えられず、七日後に死んでいます。体中に穴があき、子供たちすら近寄れない状態でした。3 日後にようやく埋葬されました。その後、その妻も死亡し、それにふさわしい罰を受けることとなったのでした。

純正章
言え、「かれはアッラー、唯一なる御方であられる。
アッラーは、自存され[20]、
御産みなさらないし、御産れになられたのではない、
かれに比べ得る、何ものもない。」

黎明章
言え、「黎明の主にご加護を乞い願う。
かれが創られるものの悪（災難）から、
深まる夜の闇の悪（危害）から、
結び目に息を吹きかける（妖術使いの）女たちの悪から、
また、嫉妬する者の嫉妬の悪（災厄）から。[21]」

人々章
言え、「ご加護を乞い願う、人間の主、
人間の王、
人間の神に。
こっそりと忍び込み、囁く者の悪から。
それが人間の胸に囁きかける、

[20] 全ての被造物がそのお方に戻り、庇護を求める唯一の存在です。またこの言葉は唯一という特性を示すものです。

[21] ラビド・ビン・アサムという名のユダヤ教徒が、預言者ムハンマドの髪のうち 11 本に結び目を作り、まじないをかけて井戸に投げ入れました。それによって預言者ムハンマドは病気になりました。後に、天使ジブリールがこのことを預言者ムハンマドに伝えました。髪はアリーによって井戸から出されました。これにより、預言者ムハンマドは元通り健康になりました。黎明章と人々章が 11 節であるのは、これを示唆するものです。

ジン（幽精）であろうと、人間であろうと。」[22]

アーヤトル・クルシー

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において
アッラー、かれの外に神はなく、永生に自存される御方。仮眠も熟睡も、かれをとらえることは出来ない。天にあり地にある凡てのものは、かれの有である。かれの許し無くして、誰がかれの御許で執り成すことが出来ようか。かれは（人びとの）、以前のことも以後のことをも知っておられる。かれの御意に適ったことの外、かれらはかれの御知識に就いて、何も会得するところはないのである。かれの玉座は、凡ての天と地を覆って広がり、この２つを守って、疲れも覚えられない。かれは至高にして至大であられる。

礼拝のドゥアーの意味

スブハーナカ

アッラーよ、あなたは一切の欠点もないお方です。完全性を示す特性の全てであなたを賛美いたします。あなたに感謝します。あなたの美名は崇高です。（あなたの誉れは全てのものをしのぎます。[23]）あなたの他に神は存在しません。

アッタヒヤートゥ

　尊崇、礼讃、神聖のきわみのアッラーをたたえ奉ります。おおみ使いよ、あなたに平安あれ、アッラーの恩恵と祝福あれ、 私た

[22] ルバブによるクルアーンの解釈所によれば、この章に存在する5回の「人間」という語は、5つの異なる階級の人を示唆するものです。これらは、
子供たち
若者たち
老人たち
誠実な人たち
人の姿をしたシャイターン
です。
[23] この部分は葬儀の礼拝を行う際に加えられます。

ち全て、アッラーの忠誠なしもべの上に平安あれ、 私はアッラーのほかに仕えるに値するものが存在しないことを証言します。また私は、ムハンマドがアッラーのしもべであり、み使いであることを証言します。

アッラーフンマ　サッリ
おおアッラーよ、ムハンマドとその後継者にあなたの恵みを与えたまえ。 あなたがイブラーヒーム（アブラハム）とその後継者に恵みを与えられたように。まことにあなたは讃美すべき荘厳なる方であられます。

アッラーフンマ　バーリク
おおアッラー、ムハンマドとその後継者を加護したまえ。 あなたがイブラーヒームとその後継者を加護したように。まことにあなたは讃美すべき荘厳なる方であられます。

ラッバナー　アーティナー
ああ主よ！この世界と来世で私たちに善をお与えください。私たちを炎の懲罰からお守りください。最も慈悲深いお方よ、あなたの慈悲によって。

クヌートのドゥアー
おおアッラーよ、私達はあなたのご加護を乞い、 あなたのお許しを願います。また、あなたを信じ、 あなたに帰依します。私達は最上の儀式であなたを讃えて、あなたに感謝し、あなたのご恩を忘れません。また、あなたに従わぬものと絶交して見捨てます。おおアッラーよ。あなたにのみ私達は仕え、あなたに祈りまた服従します。私たちは急いであなたのもとに参じ、精進します。私たちは、あなたのお恵みを歎願し、あなたの懲罰を恐れます。 まことにあなたの懲罰は不信者に対して下ります。